

45

105

縣知事 游間山 總君 題字

參事官法學士 灰次竹二郎君 校訂

法律學士 春日 肅君 序

法學士 嶺 八郎君 序

郡參事會員 梅 森 三郎 編纂

行政裁判決問答 前編

唯我書房出版

45
105

宮城縣知事 勝間田 稔君 題字
參事官法學士 床次竹二郎君 校訂
法律學士 春日 肅君 序
法學士 嶺 八郎君 序
郡參事會員 梅森 三郎 編纂

行政裁判判決問答

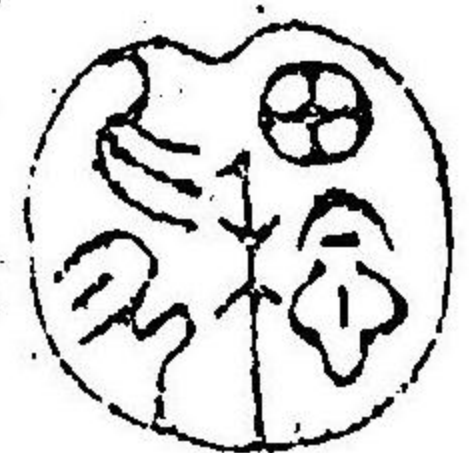
前編

唯我書房出版

三〇五

梅義家
田
域
西梅森
名

田
稔
題



序

徳川政府ノ其ノ民ヲ治ムルヤ地方分權ノ制度ニ則リ古來ノ慣例ニノミ是レ隨ヒ終ニ萎縮ノ現象ヲ來セシモ亦一定不變ノ基礎ヲ建テ秩序整然トシテ官、民統治ノ法ヲ設ケタリ即チ官ニ屬シテハ所司代ヲ置キ禁裏、近畿ノ政ヲ掌ラシメ勘定奉行アリ地方政務ヲ監督シ町奉行アリ土地人民ヲ支配シ郡代、代官、手附手代アリ以テ之ヲ治ム又民ニ屬シテハ莊屋、各主、組頭、百姓惣代、五人組長アリ以テ戶籍收稅其他ノ公務ヲ管理シナホ經濟教育山林土木等ニ關スル法規アリ政令簡易ニシテ百般ノ事業敢テ大ニ擧ラサルモ猶能ク人民悅服ノ美形ヲ存セリ然ルニ戊辰亂離ノ曉ニ至リ開明ヲ唱ヒ舊弊ト稱シ徳川政府ノ制度ハ終ニ瓦解滅裂ニ歸シ府藩縣ノ三治制トナリ府縣同治ノ制トナリ漸次方針ヲ中央集權ニ取レリ其ノ將ニ地方困弊ノ不祥ヲ招カントスルヤ茲ニ始メテ三大新法ヲ布キ以テ秩序整立ノ端ヲ啓キタリト雖トモ一時ハ牢乎不拔ノ根底ヲ缺キ最少數者ノ編製ニ係ル法規ヲ以テ繩準トナシタルヲ以テ遂ニ施行者モ之ヲ貴シトセス之レニ服ス

法律學士春日肅君序

二

ル人民モ亦隨テ之ヲ敬セス換言スレハ施行者ハ其準據スヘキヲ知ラス人民ハ其服従スル所ヲ知ラサルニ至レリ、然リト雖トモ明治改革ノ宏業ハ到底避クヘカラサルノ事業ナリキ

今ヤ施政ノ方針明ニ確立シ權、義ノ區分マタ甄別シ地方分權ノ基礎コ、ニ成リ
施法者人民共ニ慣例ノ作ルヘキ公共事業ニ從フヘキヲ知ルニ至レリ矣蓋シ梅森君ノ編纂ニ係ル行政裁判決問答ハ即チ今世人及ヒ今後人、施法者ト立法者ト人民トヲ擇マス其據ル所其取ル所ヲ知ラシムルノ良材良料タルコトヲ信シテ疑ハス剖劂既ニ成ルヲ告ク一言ヲ寄セテ以テ序言ニ換フ

明治乙未年二月五日

大坂ノ僑居ニ於テ

春日肅

行政裁判決問答叙

法ハ道路ノ如ク人ハ行旅ノ如シ人若シ道路ニ據リテ歩マサレハ或ハ溝ニ陥リ或ハ淵ニ溺ル、ノ虞ナシトセス人若シ法ニ據リテ世ニ處セサレハ或ハ法網ニ罹リ或ハ惡徒ノ奸計ニ陥ルノ虞ナシトセス是ヲ以テ苟モ國民トシテ社會ノ生活ヲナシ以テ人生ノ經過ヲ全フセントスルニハ法ニ據リテ遵フテ歩マサルヘカラス法ニ據リテ遵フニハ先ツ法ヲ知リテ明ニセサルヘカラス法簡ニ律少ナキ時ニシテ尙且然リ況ンヤ法繁ニ律多ク世ハ已ニ法律統治ノ時代ニ達シタルニ於テテヤ試ニ看ヨ公權ニ關シテハ既ニ府縣制郡制其他市町村制等ノ發布セルアリ、マタ私權ニ關シテハ商法等ノ發布アルノミナラス民法又將ニ實施セラレントスルニアラスヤ彼ノろしむ法ノ格言ニ人ハ法ニ生レ法ニ働キ而シテ法ニ死ストハ實ニ吾人今日ノ境遇ナリ故ニ法ハ學ハサルヘカラス律ハ究メサルサルヘカラス然レトモ普通國民ハ專門家ノ如ク總テノ法ヲ究メ總テノ律ヲ修ムル能ハス故ニ法ノ綱領ヲ知リ律ノ大要ヲ明ニスルノ方法ヲ求メサル可カラズ而シテ其ノ方法中判決例ニ據リ之ヲ知リ之ヲ明ラカニスルカ如キハ蓋シ最モ便ニシテ且最モ利アル方法ナルヤ疑ヲ容レサル所ナリ郷友梅森君ノ編纂シタル行政裁判決問答ノ如キ實ニ此ノ目的ニ出テタルヲ疑ハス

抑々社會ノ其ノ安寧ヲ保チ其ノ進歩ヲ致ス所以ハ百般ノ事物相調和シテ互ニ相背カサルニアリ故ニ事物ノ調和ナキハ紛乱茲ニ生シ爭鬪茲ニ萌シ殆ント其ノ底止スル處ナキニ至ラム彼ノ社會ハ琴瑟ノ如

法學士嶺八郎君序

三

法學士嶺八郎君序

四

シト云フモ此意ニ外ナラズ蓋シ至言ト謂ツヘシ琴瑟其調ヲ得サレハ管絃其ノ宜シキヲ得スシテ殆ント
琴瑟ノ琴瑟タル真相ヲ失フニ至ル況ンヤ吾人ノ社會ニ於テチヤ豈管ニ琴瑟ノ比ノミナランヤ然ラハ則
チ社會ノ調和ヲ維持スル所以ノ道ハ何ソヤ法ニ則リ律ニ準リ以テ之ヲ統理スルニ在ルノミ其ノ之ヲ統
理スルハ社會ノ機關其職ヲ致シ吾人臣民其分ヲ守ルニ在リ機關其職ヲ致シ臣民其分ヲ守ラント欲セハ
先ツ法律上其ノ權義ヲ明知セサル可ラス其ノ之ヲ明知スルノ法ハ行政裁判所ノ判決ヲ知ルカ如キ其
ノ一ナリ果シテ然ラハ此著管管ニ一人一個ノ爲メニ必要ナルノミナランヤ實ニ社會ノ機關タル自治体
等ノタメ必要ナルヤ明矣吾梅森君ノ此著アルハ蓋シ此目的ニ出テタルヲ疑ハス

熟々世上ノ現狀ヲ見ルニ漫ニ訴ヲ起シ濫ニ争ヲ生シ爲メニ骨肉相仇シ故舊相閱クノ患弊ナキニアラズ
是レ蓋シ法ノ何タルヲ知ラス律ノ如何ヲ詳ニセサルノ罪ニ出ツ想フニ争ノ事タルヤ猶疾病ノ如ク痛苦
猶未タ起ラサルニ之ヲ治スルノ法ナシトセス疾己ニ起リタル後ニ於テ又之ヲ癒スルノ道ナシトセス其
ノ之レヲ治シ其ノ之ヲ癒スルノ道ハ他ニ之アルモ裁判所ノ判決ヲ熟知スルノ一事ハ良藥中ノ一タラス
ンハアラズ何ントナレハ争ノ將ニ起ラントスルヤ之ヲ判例ニ照シ其曲直ヲ豫斷シ得ルノミナラス争ノ
既ニ起リタル場合ト雖判例ニ據リテ其結果ヲ判シ得レハナリ故ニ訴件ニ關シ判例ヲ明知スルハ猶病ニ
關シ豫防ノ道ヲ求メ又ハ治癒ノ藥石ヲ求ムルカ如シ而シテ行政訴訟ノ如キニ至リテハ一タヒ其判決ヲ
受クルトキハ直ニ確定シテ既ニ業ニ活術ヲ施スノ道ナキノミナラズ其結果ハ一人一個ニ止マラサルニ

於テチヤ吾梅森君ノ此著アル所以ハ蓋シ行政訴訟ノ良醫トナリ靈液タルノ目的ニ出テタルヲ疑ハス
蓋シ民事訴訟法ニ關シテハ既ニ裁判粹誌ノアルノミナラス大審院判決錄等ノ公刊アルニモ拘ハラズ獨
リ行政訴訟ノ判決ニ至リテハ未タ良著アルヲ見ス然ルニ吾梅森君ハ學理的ニ行政裁判所ノ判決ヲ編纂
シテ敘事甚タ正確實ニ其ノ要ヲ得テ剩ズ所ナシ思フニ行政訴訟ヲ起サントスルヤ此書ニ依リテ其ノ判
斷ヲ求メ既ニ起ルヤマダ此ノ書ニ據リテ其ノ結果ヲトセハソノ座右ノ良師タリ懷中ノ良藥タルヤ蓋シ
毫モ疑ヲ容レサル所ナリ是レ余カ殊ニ君ノ勞ヲ謝シ併セテ世上ニ紹介スル所以ナリ著者梅森君此著ノ
成ルヤ齋シ來リテ予ニ序ヲ求ム予不文ナリト雖トモ敢テ數言ヲ卷首ニ述ブルト云爾

明治二十八年二月皇軍威海衛ヲ占領セシ日

嶺 八 郎 識

緒言

國家の基礎を鞏固あらしめんとせば、須く自治團體の實力を涵養するより急なるは莫し。自治團體をして自動自活能く法律の規定に據り自ら公共事務を處理せしめんとせば、先づ市町村人民をして自主自營の精神を發揚し、權利を有ち義務を擔ひ一身を修め一家を整へ公共の事務に參與し地方の公事に慣練し以て國事に任するの實力を養成せざるべからず。若し市町村人民にして自營の精神に乏しく自治團體にして活動の實力あかりせば、事業何に由て興らん國家何に因て靖せん。

抑自治團體なるものは法律上一箇の人にして、主宰の權力を有し自ら財産を有し、處分し、契約し、權利を獲得し、義務を負擔し機關に因て意思を發表し機關に因て意思を實行する國家の一部に屬するものなり。故に國家は國權に因て自治團體の憑據すべき法律命令を發し且之を監督す、自治團體は自治體に因て條例規則を設定し情況を斟酌し特殊の需用に應じ以て箇人の幸福を督勵す。是に於て箇人は自治團體の主宰權に服従せざるべからず、自治團體は國權に隨從せざるべからず。故に自治團體の主腦とすべし。國家と個の中間に介立し兩者の軋轢を豫防し個人をして公益心を生じ愛國心を發せしめ公事に任するの實力を涵養し政治上の經驗を得せしめ以て社會の秩序を保持し國家の基礎を鞏固あらしむるにあり。若し國家と個人の中間に介立する自治團體たる機關をからんか、國家は國家あるを知りて個人あるを知らず個人は個人あるを知りて國家あるを知らず國民は常に乖離し易しきに終らんのみ。

仮令自治團體の機關活動すと雖とも公權上の爭議は固より避くへからざる業にして國家は公共の福利を増進せんとし個人は既得の權利を強守せんとし時として國家と個人の抵觸を來すは騎虎の勢ひ實に之を然らしむるふとあきを保せず凡そ訴願及訴訟の起るは必らず起るの日に起るにあらずして其の胚胎する所は幾多の遠因と幾多の近因と双々相疊積して各種議員の選舉場に發し公會議場は顯れ甲勝乙敗反目疾視遂に自治團體の機關をして運動を澁塞せしめ國家の基礎をして萎微衰頽の端を啓くに至るあり豈恐れて慎まざるへけんや苟も公權上の爭議を爲さんと欲せば先づ法理を究め成文に照し是非を察し曲直を斷し事實の如何を探討し既往の判例を咀嚼し豫め勝敗を未然に斷せざるへからず事、茲に出でずして之を爲さんか事實の同一あるものに對し猶ほ府縣郡市町村に在りてハ怪疑奇異の新事項とあり遂に止む能はざるの訴願とあり訴訟とあるもの行政裁判判決例に徴証して歴々昭かあり予多年町村名譽の職にあり居常好んで官報掲載の行政裁判判決を閲讀し隨て得れば隨て録し積んで四百有餘件の多きに至り得る處實に少しせず蓋し行政學理の研究にあらずして最高終決の判例は現行法令の改正増訂せざる限りは同く斯例に據るに若かされはあり今や之を劑剛に付し以て同好の士に頼たんとするも蓋し之か爲のみ編纂既に成る巻首に一言を辨して以て懷抱の意思を表示せると云爾

明治二十八年二月十三日

編纂者誌す

行政裁判判決問答

目録

第壹類	議會權限	○議決權限……………一頁	○職務權限……………一九頁
第二類	公民權有無	○住民公民……………二二頁	○一戸構成……………三六頁
		○選舉人名簿ノ正否并等級ノ當否	○租稅滯納……………四五頁
		○確定名簿……………五八頁	○會社法人……………七七頁
		○任期計算……………八五頁	○地所所有……………七九頁
第四類	當選者資格要件ノ有無	○資格有無……………九四頁	○納稅資格……………九七頁
		○諸宗教師……………一〇二頁	○父子兄弟……………九九頁

第五類 選舉ノ効力

- ◎選舉會成立……………一〇四頁
- ◎選舉會事務……………一三六頁
- ◎選舉會場……………一六一頁
- ◎投票時間……………一六五頁
- ◎代人投票……………一七八頁
- ◎無資格者入場……………一七四頁
- ◎他事記入……………一八五頁
- ◎誤記脫字……………二〇二頁
- ◎自選投票……………二〇五頁

第六類 任期退職

- ◎疾病事故……………二〇九頁
- ◎家事多忙……………二二二頁
- ◎其他理由……………二二六頁

第七類 懲戒處分

- ◎命令違背……………二二〇頁
- ◎事務滯滯……………二二七頁

凡例

- 一本書ハ明治二十三年十月行政裁判所開設以來昨二十七年十二月ニ至ル同廳ノ宣告中議權、民權、名簿、資格、効力、退職、懲戒ニ關スルモノヲ採録セシモノニシテ全部ヲ分テ七類トシ類中更ニ項ヲ設ケ以テ讀者ニ便ナラシム
- 一每件首メニ問答ヲ掲ケ件名ヲ附シ宣告ノ全文ヲ記載シ彼此參照ノ便ニ供ス
- 一問答ハ或ハ訴求判文ノ大綱ヲ示シ或ハ反問正答ヲ擧ケ或ハ詰問對答ヲ掲クル等体裁一ナラス是レ編者微意ノ存スレハナリ
- 一異種別類ノ事件ハ悉ク之ヲ網羅シ異文同体ノ事項ハ之ヲ消畧ス而シテ問答ノ末尾ニハ必ラズ其事實ヲ掲ク
- 一判文ノ理由ニ引證スル法令ハ讀者ノ詳知スル府縣制、郡制、市町村制ヲ除クノ外末尾ニ參照ヲ添付ス
- 一件名ハ主トシテ原判決ノ宣告件名ニ據ルト雖トモ其結果ノ符合セサルモノハ事實ニヨリテ新々ニ適當ノ件名ヲ附セリ

序

徳川政府ノ其ノ民ヲ治ムルヤ地方分權ノ制度ニ則リ古來ノ慣例ニノミ是レ隨ヒ終ニ萎縮ノ現象ヲ來セシモ亦一定不變ノ基礎ヲ建テ秩序整然トシテ官、民統治ノ法ヲ設ケタリ即チ官ニ屬シテハ所司代ヲ置キ禁裏、近畿ノ政ヲ掌ラシメ勘定奉行アリ地方政務ヲ監督シ町奉行アリ土地人民ヲ支配シ郡代、代官、手附手代アリ以テ之ヲ治ム又民ニ屬シテハ莊屋、各主、組頭、百姓惣代、五人組長アリ以テ戸籍收稅其他ノ公務ヲ管理シナホ經濟教育山林土木等ニ關スル法規アリ政令簡易ニシテ百般ノ事業敢テ大ニ擧ラサルモ猶能ク人民悅服ノ美形ヲ存セリ然ルニ戊辰亂離ノ嗟ニ至リ開明ヲ唱ヒ舊弊ト稱シ徳川政府ノ制度ハ終ニ瓦解滅裂ニ歸シ府藩縣ノ三治制トナリ府縣同治ノ制トナリ漸次方針ヲ中央集權ニ取レリ其ノ將ニ地方困弊ノ不祥ヲ招カントスルヤ茲ニ始メテ三大新法ヲ布キ以テ秩序整立ノ端ヲ啓キタリト雖トモ一時ハ牢乎不拔ノ根底ヲ缺キ最少數者ノ編製ニ係ル法規ヲ以テ繩準トナシタルヲ以テ遂ニ施行者モ之ヲ貴シトセス之レニ服ス

法律學士春日肅君序

二

ル人民モ亦隨テ之ヲ敬セス換言スレハ施行者ハ其準據スヘキヲ知ラス人民ハ其服従スル所ヲ知ラサルニ至レリ、然リト雖トモ明治改革ノ宏業ハ到底避クヘカラサルノ事業ナリキ

今ヤ施政ノ方針明ニ確立シ權、義ノ區分マタ甄別シ地方分權ノ基礎コ、ニ成リ施法者人民共ニ慣例ノ作ルヘキ公共事業ニ從フヘキヲ知ルニ至レリ矣蓋シ梅森君ノ編纂ニ係ル行政裁判判決問答ハ即チ今世人及ヒ今後人、施法者ト立法者ト人民トヲ擇マス其據ル所其取ル所ヲ知ラシムルノ良材良料タルコトヲ信シテ疑ハス割願既ニ成ルヲ告グ一言ヲ寄セテ以テ序言ニ換フ

明治乙未年二月五日

大坂ノ僑居ニ於テ

春日肅

行政裁判判決問答 叙

法ハ道路ノ如ク人ハ行旅ノ如シ人若シ道路ニ據リテ歩マサレハ或ハ溝ニ墮リ或ハ淵ニ溺ル、ノ虞ナシトセス人若シ法ニ據リテ世ニ處セサレハ或ハ法網ニ罹リ或ハ惡徒ノ奸計ニ陷ルノ虞ナシトセス是ヲ以テ苟モ國民トシテ社會ノ生活ヲナシ以テ人生ノ經過ヲ全フセントスルニハ法ニ據リテ歩マサルヘカラス法ニ據リテ遵フニハ先ツ法ヲ知り律ヲ明ニセサルヘカラス法簡ニ律少ナキ時ニシテ尙且然リ況ンヤ法繁ニ律多ク世ハ己ニ法律統治ノ時代ニ達シタルニ於テチヤ試ニ看ヨ公權ニ關シテハ既ニ府縣制郡制其他市町村制等ノ發布セルアリ、マダ私權ニ關シテハ商法等ノ發布アルノミナラス民法又將ニ實施セラレントスルニアラスヤ彼ノろしき法ノ格言ニ人ハ法ニ生レ法ニ働キ而シテ法ニ死ストハ實ニ吾人今日ノ境遇ナリ故ニ法ハ學ハサルヘカラス律ハ究メサルサルヘカラス然レトモ普通國民ハ專門家ノ如ク總テノ法ヲ究メ總テノ律ヲ修ムル能ハス故ニ法ノ綱領ヲ知り律ノ大要ヲ明ニスルノ方法ヲ求メサル可カラズ而シテ其ノ方法中判決例ニ據リ之ヲ知り之ヲ明ラカニスルカ如キハ蓋シ最モ便ニシテ且最モ利アル方法ナルヤ疑ヲ容レサル所ナリ郷友梅森君ノ編纂シタル行政裁判判決問答ノ如キ實ニ此ノ目的ニ出テタルヲ疑ハス

抑々社會ノ其ノ安寧ヲ保チ其ノ進歩ヲ致ス所以ハ百般ノ事物相調和シテ互ニ相背カサルニアリ故ニ事物ノ調和ナキハ紛亂茲ニ生シ爭鬪茲ニ萌シ殆ント其ノ底止スル處ナキニ至ラム彼ノ社會ハ琴瑟ノ如

法學士嶺八郎君序

三

シト云フモ此意ニ外ナラズ蓋シ至言ト謂ツヘシ琴瑟其調ヲ得サレハ管絃其ノ宜シキヲ得スシテ殆ント琴瑟ノ琴瑟タル真相ヲ失フニ至ル況ンヤ吾人ノ社會ニ於テチヤ豈啻ニ琴瑟ノ比ノミナランヤ然ラハ則チ社會ノ調和ヲ維持スル所以ノ道ハ何ソヤ法ニ則リ律ニ準リ以テ之ヲ統理スルニ在ルノミ其ノ之ヲ統理スルハ社會ノ機關其職ヲ致シ吾人臣民其分ヲ守ルニ在リ機關其職ヲ致シ臣民其分ヲ守ラント欲セハ先ツ法律上其ノ權義ヲ明知セサル可カラズ其ノ之ヲ明知スルノ法ハ行政裁判所ノ判決ヲ知ルカ如キ其ノ一ナリ果シテ然ラハ此著豈啻ニ一人一個ノ爲メニ必要ナルノミナランヤ實ニ社會ノ機關タル自治體等ノタメ必要ナルヤ明矣吾梅森君ノ此著アルハ蓋シ此目的ニ出テタルヲ疑ハス

熟々世上ノ現狀ヲ見ルニ漫ニ訴ヲ起シ濫ニ爭ヲ生シ爲メニ骨肉相仇シ故舊相鬪クノ患弊ナキニアラズ是レ蓋シ法ノ何タルヲ知ラス律ノ如何ヲ詳ニセサルノ罪ニ出ツ想フニ爭ノ事タルヤ猶疾病ノ如ク痛苦猶未タ起ラサルニ之ヲ治スルノ法ヲシトセス疾己ニ起リタル後ニ於テ又之ヲ癒スルノ道ヲシトセス其ノ之レヲ治シ其ノ之ヲ癒スルノ道ハ他ニ之アルモ裁判所ノ判決ヲ熟知スルノ一事ハ良藥中ノ一タラスンハアラズ何ントナレハ爭ノ將ニ起ラントスルヤ之ヲ判例ニ照シ其曲直ヲ豫斷シ得ルノミナラス爭ノ既ニ起リタル場合ト雖判例ニ據リテ其結果ヲ判シ得レハナリ故ニ訴件ニ關シ判例ヲ明知スルハ猶病ニ關シ豫防ノ道ヲ求メ又ハ治癒ノ藥石ヲ求ムルカ如シ而シテ行政訴訟ノ如キニ至リテハ一タヒ其判決ヲ受クルトキハ直ニ確定シテ既ニ業ニ活術ヲ施スノ道ナキノミナラズ其結果ハ一人一個ニ止マラサルニ

於テチヤ吾梅森君ノ此著アル所以ハ蓋シ行政訴訟ノ良醫トナリ靈液タルノ目的ニ出テタルヲ疑ハス蓋シ民事訴訟法ニ關シテハ既ニ裁判粹誌ノアルノミナラス大審院判決錄等ノ公刊アルニモ拘ハラズ獨リ行政訴訟ノ判決ニ至リテハ未タ良著アルヲ見ス然ルニ吾梅森君ハ學理的ニ行政裁判所ノ判決ヲ編纂シテ敘事甚タ正確實ニ其ノ要ヲ得テ剩ス所ナシ思フニ行政訴訟ヲ起サントスルヤ此書ニ依リテ其ノ判斷ヲ求メ既ニ起ルヤマダ此ノ書ニ據リテ其ノ結果ヲトセハリノ座右ノ良師タリ懷中ノ良藥タルヤ蓋シ毫モ疑ヲ容レサル所ナリ是レ余カ殊ニ君ノ勞ヲ謝シ併セテ世上ニ紹介スル所以ナリ著者梅森君此著ノ成ルヤ齎シ來リテ予ニ序ヲ求ム予不文ナリト雖トモ敢テ數言ヲ卷首ニ述ブルト云爾

明治二十八年二月皇軍威海衛ヲ占領セシ日

嶺 八 郎 識

緒言

國家の基礎を鞏固せらしめんとせば、須く自治團體の實力を涵養するより急なるは莫し。自治團體をして自動自活能く法律の規定に據り自ら公共事務を處理せしめんとせば、先づ市町村人民をして自主自營の精神を發揚し、權利を有ち義務を擔ひ一身を修め一家を整へ公共の事務に參與し地方の公事に慣練し以て國事に任ずるの實力を養成せざるべからず。若し市町村人民にして自營の精神に乏しく自治團體にして活動の實力をかりせば、事業何に由て興らん國家何に因て靖せん。

抑自治團體なるものは法律上一箇の人にして主宰の權力を有し自ら財産を有し、處分し、契約し、權利を得し、義務を負擔し機關に因て意思を發表し機關に因て意思を實行する國家の一部に屬するものなり。故に國家は國權に因て自治團體の憑據すべき法律命令を發し且之を監督す、自治團體は自治體に因り條例規則を制定し情況を斟酌し特殊の需用に應じ以て箇人の幸福を督勵す是に於て箇人は自治團體の主宰權に服従せざるべからず、自治團體は國權に隨從せざるべからず故に自治團體の主腦とす。

へきは國家と個の中間に介立し兩者の軋轢を豫防し個人をして公益心を生し愛國心を發せしめ公事に任するの實力を涵養し政治上の經驗を得せしめ以て社會の秩序を保持し國家の基礎を鞏固せらしむるにあり。若し國家と個人の中間に介立する自治團體たる機關をからんか國家は國家あるを知りて個人あるを知らず個人は個人あるを知りて國家あるを知らず國民は常に乖離し易しきに終らんのみ。

仮令自治團體の機關活動すと雖ども公權上の爭議は固より避くべからざる業にして國家は公共の福利を増進せんとし個人は既得の權利を強守せんとし時として國家と個人の抵觸を來すは騎虎の勢ひ實に之を然らしむるよとを恐るを保せず凡そ訴願及訴訟の起るは必らず起るの日に起るにあらすして其の胚胎する所は幾多の遠因と幾多の近因と双々相疊積して各種議員の選舉場面に發し公會議場に顯れ甲勝乙敗反目疾視遂に自治團體の機關をして運動を澁塞せしめ國家の基礎をして萎微衰頹の端を啓くに至るあり豈恐れて慎まざるへけんや苟も公權上の爭議を爲さんと欲せば先づ法理を究め成文に照し是非を察し曲直を斷し事實の如何を探討し既往の判例を咀嚼し豫め勝敗を未然に斷せざるべからず事、茲に出でずして之を爲さんか事實の同一あるものに對し猶ほ府縣郡市町村に在りてハ怪疑奇異の新事項とあり遂に止む能はざるの訴願とあり訴訟とあるもの行政裁判判決例に徵証して歴々昭かあり予多年町村名譽の職にあり居常好んで官報掲載の行政裁判判決を閱讀し隨て得れば隨て録し積んで四百有餘件の多きに至り得る處實に少しせず蓋し行政學理の研究にあらずして最高終決の判例は現行法令の改正増訂せざる限りは同く斯例に據るに若かされはあり今や之を剗削に付し以て同好の士に頒たんとするも蓋し之か爲のみ編纂既に成る卷首に一言を辨して以て懷抱の意思を表示せると云爾

明治二十八年二月十三日

編纂者誌す

行政裁判判決問答

目録

第壹類	議會權限	一頁	○議決權限	一頁	○職務權限	一九頁
第貳類	公民權有無	二二頁	○住民公民	二二頁	○一戸構成	三六頁
第參類	選舉人名簿ノ正否并等級ノ當否	五八頁	○確定名簿	五八頁	○會社法人	七七頁
			○任期計算	八五頁	○地所所有	七九頁
第肆類	當選者資格要件ノ有無	九四頁	○資格有無	九四頁	○納稅資格	九七頁
			○諸宗教師	一〇二頁	○父子兄弟	九九頁

第五類 選舉ノ効力

◎選舉會成立……………	一〇四頁	◎選舉掛選任……………	一一九頁
◎選舉會場……………	一六一頁	◎選舉會事務……………	一三六頁
◎代人投票……………	一七八頁	◎投票時間……………	一六五頁
◎自選投票……………	二〇五頁	◎無資格者入場……………	一七四頁
		◎他事記入……………	一八五頁
		◎誤記脱字……………	二〇二頁
第六類 任期退職			
◎疾病事故……………	二〇九頁	◎家事多忙……………	二二二頁
◎命令違背……………	二二〇頁	◎事務滯滯……………	二二七頁
◎其他理由……………	二二六頁		
第七類 懲戒處分			

凡例

- 一 本書ハ明治二十三年十月行政裁判所開設以來昨二十七年十二月ニ至ル同廳ノ宣告中議權、民權、名簿、資格、効力、退職、懲戒ニ關スルモノヲ採録セシモノニシテ全部ヲ分テ七類トシ類中更ニ項ヲ設ケ以テ讀者ニ便ナラシム
- 一 每件首メニ問答ヲ掲ケ件名ヲ附シ宣告ノ全文ヲ記載シ彼此參照ノ便ニ供ス
- 一 問答ハ或ハ訴求判文ノ大綱ヲ示シ或ハ反問正答ヲ擧ケ或ハ詰問對答ヲ掲クル等体裁一ナラス是レ編者微意ノ存スレハナリ
- 一 異種別類ノ事件ハ悉ク之ヲ網羅シ異文同体ノ事項ハ之ヲ消畧ス而シテ問答ノ末尾ニハ必ラズ其事實ヲ掲ク
- 一 判文ノ理由ニ引證スル法令ハ讀者ノ詳知スル府縣制、郡制、市町村制ヲ除クノ外末尾ニ參照ヲ添付ス
- 一 件名ハ主トシテ原判決ノ宣告件名ニ據ルト雖トモ其結果ノ符合セサルモノハ事實ニヨリテ新タニ適當ノ件名ヲ附セリ

行政裁判判決問答

法學士 床次竹二郎 校訂

梅森三郎 編纂

第壹類 議會權限

◎決議權限

○知事解任ノ建議取消ニ關スル件 (壹)

府縣會は知事解任の建議をなすを得るや。

答 知事其人の適否を論じ其任免に付き建議するは議會の權限を超へたるものとす。

(判決例 明治廿六年第一號)
廿六年三月廿二日宣告

原告 石川縣會議長 南谷 與三郎
被告 石川縣知事 鈴木 大亮

右原告石川縣會議長南谷與三郎ヨリ被告石川縣知事鈴木大亮ニ對スル不當命令取消ノ訴遂審理處原告訴求ノ要旨ハ明治二十五年七月二十二日能美郡山口村人民不穩ノ際警官人民ヲ殺傷シ次テ同年四五月ノ交吏黨同志會組織ノ爲メ官吏良民ヲ警察ニ引致シ威赫ヲ恣ニシタルモ知事之ヲ制止セス又同年二月衆議院議員總選舉ノ際官吏職權ヲ濫用シ人民ヲ強迫シタルハ被告赴任前ニアリト雖石川縣會ハ此等非行ノ官吏罷免ノ處分ヲ求メタルニ被告ハ恬トシテ顧ミス又同年二月十九日本縣下珠洲郡選出縣會議員藻寄鐵五郎辭職セシニ知事カ六箇月以内ニ其補缺選舉ヲ執行セス又同年一月十一日金

決議權限

澤市ニ於テ執行セシ縣會議員補缺選舉會ハ府縣制第三條ニ背反スルモ知事之カ取消ヲ命セス要スルニ知事カ不親切自カテ縣下ノ信任ヲ失フヘキ非行失政アルニ依リ石川縣會ハ同年十二月十六日ヲ以テ府縣制第十七條ニ依リ知事解任ノ建議ヲ爲スコトヲ議決セリ而シテ其未ダ建議案ヲ議決セサル前ニ被告ハ議第二十九號ヲ以テ建議取消ノ達ヲ發シタルハ原告ノ服セサル所ナリ抑モ府縣制第十七條ニ於テ府縣會ニ建議ノ權ヲ許シアルハ其事件ノ何タルヲ問ハス苟クモ府縣ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ハ總テ其意見ヲ建議シ得ルコト敢テ喋々ヲ要セス而シテ知事ノ施政如何ハ縣下ノ公益ニ關スルコト勿論ナルカ故ニ我石川縣會ニ於テ被告ノ解任ヲ內務大臣ニ建議スルノ議決ヲ爲シタルハ正當ニ其權利ヲ使用セントシタルモノニシテ決シテ權限ヲ超ヘタルモノニアラス然ルニ被告ハ府縣制第八十四條第二項ニ依リ其建議ヲ取消シタルハ果シテ何ノ心ソヤ府縣制第八十四條第二項ハ府縣會ノ議決ニ對シ其處分法ヲ規定シタルモノニシテ同制第十五條等ノ執行スヘキ義務アル事柄ニ適用シ得ヘキモ建議ニ向テハ本條ヲ適用スルヲ得サルナリ何トナレハ建議ナルモノハ請願的ノモノニシテ其採否ハ受建議者ノ意志ニ依テ決スルモノナレハ受建議者以外ノ者ハ何物ト雖之ヲ左右シ得ヘキモノニ非サレハナリ要スルニ石川縣會カ知事解任ノ建議ヲ爲サント議決シタルハ最モ至當ノ事ニシテ知事カ之ヲ取消シタルハ不法失當ヲ免カレス況ンヤ其未ダ建議案ヲ議セサル前ニ建議ヲ取消シタルニ於テ依明治二十五年十二月十六日付議第二十九號取消ノ裁判アラント云フニ被告答辯ノ要旨ハ明治二十五年十二月十六日石川縣會ハ縣下壯年者ノ申出ニ因ミ縣會ヨリ知事解任ノ儀ヲ內務大臣ニ建議セントノ議決ヲ爲セシヨリ知事ハ即日議第二十九號ヲ以テ其議決取消ヲ達セシニ縣會ハ其翌十七日右達ハ不當ナリトシ本訴ヲ提起スルニ決シ續テ知事解任ノ建議案ヲ議決シタルモ被告ハ既ニ其根本タル建議セントスルノ議決ヲ取消タルヲ以テ其枝葉タル建議案ハ之ヲ取消スノ要ヲ認メサリシモノナリ抑モ被告カ石川縣會ノ議決ヲ取消シタルハ右議決ハ縣會ノ權限ヲ超

決議權限

ユル者ト認メタルニ由ルナリ府縣會ノ議決スヘキ事件ハ府縣制第十五條ニ列記セラル、事件ニ限ラレハ勿論ニシテ其他同制第十七條ニ據リ府縣ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付キ府縣知事若クハ內務大臣ニ建議スルヲ得ルモ右府縣ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件トス直接又ハ間接ニ府縣制第十五條ニ列記セラル、事項ニ關聯セル其府縣ニ施設セラルヘキ諸種ノ事業ヲ云フモノニシテ本件ノ如キ他ノ法律勅令ニ從ヒ任免セラルヘキ縣知事ノ進退ヲ包含スルモノニアラス故ニ石川縣會カ縣知事解任ノ件ヲ議決セシニ由リ知事カ府縣制第八十四條第二項ニ依リ之ヲ取消シタルハ毫モ違法ノ處置ニアラサルモノトス又府縣制第八十四條第二項ハ府縣會ノ議決其權限ヲ超ヘ若クハ法律命令ニ反スル場合ノ處分法ナルヲ以テ府縣會ノ議決ナル以上ハ其事件カ建議ナルト何ナルト問フヘキ理由ナキモノトス依テ原告ノ請求相立ヌストノ裁判ヲ請フト云フニ在リ

依テ原告ノ辯論ヲ聽キ被告ノ答書ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ

原告ハ府縣制第十七條ニ於テ府縣會ニ建議ノ權ヲ許シアルハ其事件ノ何タルヲ問ハス苟クモ府縣ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ハ總テ其意見ヲ建議シ得ルノ規定ニシテ知事ノ施政如何ハ縣下ノ公益ニ關スルカ故ニ石川縣會ニ於テ被告ノ解任ヲ內務大臣ニ建議スルノ議決ヲ爲シタルハ其權限ヲ超ヘタルモノニアラスト云フト雖府縣制第十七條第二項ハ府縣ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關シ施行スヘキ事件ニ付意見ヲ建議スルヲ云フモノニシテ本件ノ如キ縣知事其人ノ適否ヲ論シ其任免ニ付キ建議スルヲ包含スルニアラス又原告ハ府縣制第八十四條第二項ハ府縣會ノ議決ニ對シ其處分法ヲ規定シタルモノニシテ同制第十五條ノ執行スヘキ義務アル事柄ニ適用シ得ヘキモ同制第十七條ニ所謂建議ニ向テハ之ヲ適用スヘカラスト云フト雖府縣制第八十四條第二項ノ規定ハ同制第十五條ニ列記ノ場合ト同制第十七條建議ノ場合ト問ハス苟クモ府縣會ノ議決其權限ヲ超ヘ又ハ法律命令ニ背クニ於テハ同シク之ヲ適用スヘク隨テ知事カ

決議権限

四

縣會ノ議決ヲ取消シタルハ不當ノ處分ナリト云フヲ得ス其他雙方ノ論スル所アルモ本裁判ニ必要ナラサルヲ以テ之ヲ説明セス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スル左ノ如シ原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

○郡會議決執行停止不當ノ件（貳）

問 郡會は縣會の議決を取消の請願を議決するを得るや。
郡會の議決は郡制に規定せる範圍内に於てせざるを得ざれば請願の議決は越權ありとす。

〔判決例二十五年第四號〕

原告 福井縣丹生郡會議長 佐藤正克
被告 福井縣丹生郡長 佐藤正克

右原告丹生郡會議長佐藤正克ヨリ被告丹生郡長佐藤正克ニ對スル郡會議決執行停止不當ノ訴文書ニ就キ審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ明治二十四年十二月十八日丹生郡通常郡會ニ於テ曩ニ福井縣會カ可決シタル土木費五万五千餘圓ノ取消ヲ内務大臣ヘ請願セントテ議決スルヤ被告郡長ハ之ヲ越權ナリトシ郡制第七十五條ニ依リ議決執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ附シ尙本縣知事ニ之カ裁決ヲ請ヒタルニ知事ハ郡會ノ議決ハ郡制第二十八條第二項ノ規定外ニ涉リ其權限ヲ越ヘタルモノナルヲ以テ之ヲ無効トスト裁決ヲ下セルハ不當ノ裁決ト云ハサルヲ得ス何トナレハ之ヲ郡制全體ニ考フルニ郡ハ町村人民ノ集合體タリ一箇ノ法人タルコト明カナリ故ニ公法及ヒ民法上ニ於テ一箇人民ト同様ニ權利ヲ有シ義務ヲ盡スヘキモノナリ今ヤ立憲政體茲ニ興リ憲法既ニ定リ日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規定ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得トハ憲法第三十條ニ明記スル處ニシテ郡會カ行政廳ニ請願スルコトヲ得ルハ決シテ奪フヘカラサルノ權利ナリ縣知事ハ本請願ヲ以テ郡制第二十八條第二項ノ規定外ニ涉

行政裁判判決問答

行政裁判判決問答

決議権限

五

リ越權ノ議決ナリト裁決スレトモ原告ノ意見ハ決シテ郡制第二十八條ニ依據スルニアラス郡制中他ノ明文ニ照ラシ法律上一個人タル郡會カ帝國憲法ニ依リ獲得シタル權利ヲ擴充セントスルニ在リテ原告ノ議決執行相成ル裁決ヲ請フト云フニ在リ
被告答辯ノ要旨ハ原告ハ郡ハ町村人民ノ集合體タリ一箇ノ法人タル以上ハ郡制第二十八條ノ規定ニ依ラスシテ帝國憲法ニ於テ獲得セシ請願ノ權利アルヲ以テ福井縣會ノ議決ニ係ル臨時土木費ヲ削除セラレンコトヲ内務大臣ニ請願スルノ權利アリト云フト雖郡會ハ郡制ニ依リ成立スルモノナレハ郡制ニ規定セル範圍内ニ於テ運動スヘキハ當然ノ義務ナリ然ルニ原告ハ郡ノ行政ニアラサル事件ヲ議決シ内務大臣ニ請願セントスルハ違法越權ノ議決ト謂フヘシ其故ハ原告カ論スル處郡制全體ニ考フレハ郡ハ町村人民ノ集合體ナリ法人ナリ公法及ヒ民法上ニ於テ一箇人民同様ニ權利ヲ有スト主張スルモ本訴議決ノ如キハ毫モ法人ト認ムル關係ヲ有セサルモノトス何トナレハ郡カ自己ニ關スル權利義務ヲ行フ場合ニ於テ法人ナリト論シ得ヘキモ縣下人民ノ利害ニ關スル關係ヲ代表スル爲メ郡カ集合體法人ト唱フル如キハ法律ノ許ササル所ナリ又原告ハ郡制第二十八條ニ依據スルニアラス郡制中他ノ明文ニ依リ法律上一個人タルヲ確知スト云ヘトモ其郡制中適當ノ條項ヲ示ササルハ論旨根據ナキ申立ト言ハサルヲ得ス依テ被告カ郡制第七十五條ヲ適用シ郡會議決ノ執行ヲ停止シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタルモノニアラスト云フニ在リ
依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ

原告ハ丹生郡郡會ニ於テ曩ニ福井縣會カ可決シタル臨時土木費ノ取消ヲ内務大臣ニ請願セントテ議決シタルハ法律上一個人タル郡會カ帝國憲法ニ依リ獲得シタル權利ヲ執行スルモノナリト云フト雖郡會ノ議決ハ郡制ニ規定セル範圍内ニ於テセサルヲ得ス故ニ郡會ノ議決若シ其權限ヲ越ユルトキハ郡長之カ執行ヲ停止シ得ヘキコトハ郡制第七十二條ニ明示セル處ナリ然ルニ本件丹生郡會

カ土木費ノ取消ヲ内務大臣ニ請願セント議決シタルハ郡制規定ノ範圍外ニ涉ルモノナレハ被告郡長
之ヲ執行ヲ停止シタルハ違法ノ處分ナリト云フヲ得ス
右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

○郡會議員選舉ノ効力ニ關スル郡會ノ議決權限ノ件 (三)

問 郡會ハ議員資格ノ要件を議する爲め選舉ノ手續に洩り効力の有無を議定するの權を有するや。
答 郡會ハ郡會議員選舉ノ効力に關シ議決するの權限なし。

〔判決例二十四年第七十號
同年十二月十二日宣告〕

原告 石川縣珠洲郡會議長 國枝逸 鱒
被告 石川縣珠洲郡長 國枝逸 鱒

右原告石川縣珠洲郡會議長ヨリ被告石川縣珠洲郡長ニ對スル不當處分取消ノ訴文書ニ就キ遂審理處
原告訴求ノ要旨ハ被告石川縣珠洲郡長國枝逸鱒ハ明治二十四年八月十二日珠洲郡會カ議決シタル郡
會議員米谷作右衛門ハ無資格ナリトノ通知ニ對シ同月三十一日再議ヲ爲サシメシニ郡會ハ前議決ヲ
變セサルニヨリ被告ハ郡制第七十五條ニ依リ縣知事ノ裁決ヲ請ヒ其裁決ヲ受ケタルニ郡會ハ之ニ服
スル能ハス爲メ本訴ヲ提起スルモノニシテ其實ハ珠洲郡嶮島村々會ニ於テ郡會議員ヲ選舉セシ
ニ米谷作右衛門酒尾庸三ノ兩名高點者トナリ何レモ過半數ヲ得サルヲ以テ其兩名ニ付決選投票ヲ爲
スニ當リ米谷作右衛門ハ同村長及議員ノ職ニアリナガラ自己一身ノ關係ヲ顧ミス及議員酒尾庸三
ヲモ退席セシメスシテ共ニ抽籤ニ與リシハ町村制第四十五條ノ規定ニ違背シタル選舉ナルヲ以テ村
會ニ於テハ郡制第二十四條ヲ適用シ前記米谷作右衛門ハ議員ノ資格ナキ者ト決議ヲ爲シタルモノニ
シテ抑第二十四條議員ノ資格トハ第一被選資格第二當選手續ノ正當第三有効投票多數ノ三要件ヲ指
スモノニテ當選手續ノ正否モ含有セルモノト言ハサルヲ得ス若シ然ラズトセンカ村長兼議員米谷作

右衛門ハ決選投票ニ際シ自己一身ニ關係アルニモ拘ハラヌ尙議席ニ列リ投票ヲ行ヒ違法ヲ以テ選舉
セラレ而シテ之カ不正ヲ匡サント欲スル者不幸ニシテ故障ヲ被リ空シク訴願期日ヲ經過セシニ依リ
米谷作右衛門ノ如キ者ヲモ尙議會ニ參列セシメサルヲ得ス法豈如此ノ不完備アラシク故ニ郡會ノ議決
ハ法律ノ範圍外ニ出テタルモノニアラスト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ニ於テ郡會カ郡制第二十四條ヲ適用シ米谷作右衛門ヲ議員ノ無資格者ト決議
シタルハ法律ノ範圍外ニ涉ルモノナラスト云フト雖郡制第二十四條ハ同制第九條第十條第十一條ノ
議員トナルヲ得ヘキ資格ノ要件ニ缺クル所アルヲ發見シタル場合ニ於テ適用スヘキモノニシテ選舉
ノ當否ニ關シ之ヲ適用スヘキモノニアラス其選舉ニ關シテハ郡制第二十二條ノ規定アリテ選舉ノ當
否ハ議員資格ノ要件ニアラサルハ明カナリ況ンヤ郡制第十七條ニハ特ニ町村制第四十六條ノ規定ニ
從フヘシトアリテ其他ノ手續ハ議會ノ自由ニ任シタルモノナリ米谷作右衛門ノ選舉ハ該條ヲ適用シ
タルモノニテ違法ノ選舉ニ成立タルモノニアラス要スルニ郡會ハ議員ノ資格ト選舉ノ手續トヲ混シ
法律ノ解釋ヲ誤リタルモノナリト云フニ在リ

依テ雙方ノ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
郡制第二十四條郡會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハトアルハ單
ニ同制第九條乃至第十一條ニ規定シタル郡會議員タルノ要件ヲ具有セサルモノヲ發見シタル場合ヲ
謂フモノニシテ郡會議員ノ選舉ノ效力ニ關シ異議アルモノ、如キハ右第二十四條ノ範圍ニ入ラサル
モノトス故ニ本件石川縣珠洲郡會カ爲シタル議決ニ對シ被告カ郡制第七十五條ヲ適用シタルハ不當
ナリト謂フヲ得サルモノトス

右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

決議権限

問 ○區會議員ノ退職及資格調査ニ關スル件 (四)
市會ハ市制第八條及第廿九條に依リ區會議員ノ退職及其就職後資格の有無に關シ議決するの
權限あるや。

答 區會議員ハ名譽職にあらずれば市會に於て市制第八條及第二十九條に依リ議決するを得ず。

〔判決例 二十六年十一月十八日宣告〕

原告 東京市參事會東京府知事 三浦 安
被告 東京府知事 三浦 安

右原告東京市參事會東京府知事三浦安ヨリ被告東京府知事三浦安ニ對スル不法裁決取消ノ訴審理ヲ
遂グル處

原告陳述ノ要旨ハ明治二十六年七月八日東京市長ハ東京市區會議員退職及資格ノ要件有無ニ關シテ
ハ東京市會ニ於テ議決スヘキモノナルニ東京市會カ議定權ナシト議決セシハ即チ議決スヘキ事件ヲ
議決セサルモノナルヲ以テ市制第九十九條ニ依リ府參事會ニ於テ代議スヘキモノナルニ付之カ處分
ヲ求メ又未タ市會ノ議ニ付セサル區會議員ノ退職届ヲ市會ニ報告スルノ手續ヲ爲サントスルノ議案
ヲ東京市參事會ニ提出シタリ東京市參事會ハ同月十日ヲ以テ區會議員ノ進退ハ區會ニ於テ認定スヘ
キモノナルヲ以テ區會ニ提出スヘシトノ決議ヲ爲シタリ然ルニ東京市長ノ職務ヲ行フ東京府知事ハ
該議決ハ法律ニ背クモノナリトシ同月十一日市制六十五條ニ依リ其執行ヲ停止シ又同月十九日東京
府參事會ハ該東京市參事會ノ議決ハ違法ナリト裁決シタリ其裁決ノ理由ハ區會議員ハ市ノ名譽職ス
ルニ外ナラサルヲ以テ其退職ニ就テハ市制第八條ニ依リ其就職後資格ノ有無ニ關シテハ市制第二十
九條ニ依リ市會ニ於テ議決スヘキモノナルニ東京市會ハ其職權ナシトシタルハ議決スヘキ事件ヲ議
決セサルモノナルニ付市制第九十九條ニ依リ府參事會市會ニ代リ決議スヘキモノナルヲ以テ之カ處

決議権限

分ヲ求メ又未タ市會ノ議ニ付セサルモノハ市會ヘ報告スヘキハ當然ナリト云フモ區會議員ヲ以テ名
譽職ナリトナスコトハ法令中絶テ見ル所ナシ元來市ハ自治ムルノ權利ヲ重ニスルト共ニ他ノ自治
權ヲモ亦尊重セサルヘカラス若シ市會ニシテ區會議員ノ退職及資格ノ要件ニ關スル事項ヲ議決スル
モノトセハ市會ハ法律ノ命セサル行爲ヲ以テ區有財産及營造物ニ關スル區ノ自治權ヲ侵スモノニシ
テ東京市會ハ之ヲ議決スヘキ職權ヲ有セサルモノナレハ東京市會ハ其議決スヘキ事件ヲ議決セサル
モノト謂フヲ得サレハ市制第九十九條ニ依リ府參事會ニ處分ヲ求ムヘキモノニ非スシテ又未タ市會
ノ議ニ付セサルモノヲ市會ヘ報告スヘキモノニアラスト信ス市制第八條及第二十九條ニ依テ市會ノ
議決ニ委シタル件ハ要スルニ市會ハ市ナル法人ノ思想ヲ發露スヘキ代議機關ナルカ爲メニシテ即チ
自治ノ精神ニ基クモノナリ區會ノ區ニ於ケルモ之レト同一ナレハ區會ヲ組織スル區會議員ノ進退資
格ニ關スル事件ハ其代議機關タル區會ニ於テ議決スヘキハ固ヨリ當然ニシテ區會議員ノ選舉ヨリ職
務ニ至ルマテ一ニ市制ニ準據スルモノナルニ此事項ノミ特ニ爲スヘキモノニ非スト謂フヲ得スシテ
所謂市會ノ例ヲ適用ストアルニ包含スルコト多言ヲ要セス又事實ニ徴スルモ明治二十二年區會開設
以來明治二十五年十月ニ至ル間區會議員ノ退職資格ニ關スル事件ハ皆悉ク區會ノ議決ニ付セリ區會
モ亦其決議權ニ疑ヒテ挾ミタルコトナク市會モ自己ノ權利ヲ侵サレタリトナシタルコトナクシテ實
ニ我東京市ノ慣例ヲ成シテ動かカスヘカラサルナリ如之東京府知事ハ東京市會ニ於テ區會議員ノ進退
ニ就キ議權ナシトノ議決ヲナシタル際即チ明治二十五年十二月ニ於テ試問第三號ヲ以テ區會條例ノ
改正ヲ試問ニ付サレタリ而シテ其條項ノ主要ハ區會議員ノ進退ヲ市會ノ議決ニ付スルノ一點ニ在ル
モノ、如シ以上ノ理由ナルヲ以テ區會議員ノ退職及就職後資格ノ要件有無ニ關スル事件ニ對シ區會
ノ認定ニ付スヘキモノナルニ付區會ニ提出スヘシトノ東京市參事會ノ議決ハ違法ニアラスト云フニ
在リ

決議權限

被告答辯ノ要旨ハ市制ニ於テハ行政及代議ノ機關ヲ組織セル職員ヲ分テ名譽職及有給職ノ二種トス故ニ名譽職ニアラサレハ有給職タリ區會議員ハ市民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉シ而シテ其職務ハ給料ヲ受ケスシテ特別財産ヲ有スル市區ノ行政ニ參與スルニアルヲ以テ性質上ノ名譽職タルニ外ナラス故ニ區會議員ハ市制第八條ニ掲グル市ノ名譽職中ニ包含スヘキモノナルハ多辯ヲ要セズ現ニ原告カ主張スル所ノ區會議員退職ノ當否等區會ニ於テ之ヲ議決スヘキモノナリトノ趣旨ニ就キ之ヲ觀察スルモ區會議員ヲ以テ市ノ名譽職ナルヲ是認シタルモノト論定セサルヘカラス何トナレハ區會議員ヲ以テ名譽職ニアラストセハ市民ハ之ヲ擔任スルノ義務ナリ隨テ之ニ制裁ヲ附スルノ理由ヲ生セサルモノナレハナリ若シ原告カ論スル如ク市會議員ノ資格ニ關スル要件ハ市會ニ於テ之ヲ議決シ區會議員資格ニ關スルモノハ區會ニ於テ議決スヘキモノナリトセンカ區會議員モ市會議員ト等シキ市ノ公民タラサルヘカラスシテ區會議員ハ市會議員ト殆ト其被選權ヲ同フスルカ故ニ市會議員ノ資格ハ概テ區會議員ノ資格ト同一ナルコト論テ埃ヌス且一人ニシテ市會議員ト區會議員ト兼ヌルコトアルヘキハ明カナリ此場合ニ於テ市會ニ於テハ市會議員ノ資格アリトシ區會ニ於テハ區會議員ノ資格ナシトスルトキハ區會ハ市會議員ノ資格ヲ審查議決スルノ結果ヲ生スベシ又原告ハ區ハ市ト均ク一ノ法人トシテ自治權ヲ有スルモノナレハ此自治權ノ作用ニ就キ區ナル法人ノ思想ヲ代表スヘキ區會ヲ組織スル區會議員ノ進退資格ニ關スル件ハ區會ニ於テ之ヲ議決スヘキハ當然ナリト云フモ市内ノ區ハ行政上處務便宜ノ爲メニ畫シタルニ過キスシテ固ヨリ市ノ如ク公法上ノ人格ヲ有シ法人タルノ資格ヲ有スルモノニアラス又區ハ財產ヲ所有スルノ點ニ於テハ法人ノ性質アリト云フヲ得ヘキモ原告ノ云フカ如ク自治權ヲ享有スルモノニアラス又區ハ特別ノ財產若クハ營造物ヲ有シ之カ爲メ區會ヲ設ケタル場合ト雖其行政事務ハ市參事會ノ管理スル所ニシテ市參事會ノ選任セル區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルヲ以テ區ニ於テ自ラ選舉シタル職員ヲ以テ處理セシムルモノト自ラ

云フコトヲ得ス故ニ特別財産若クハ營造物ニ關シ區會ヲ設ケル場合ト雖區ハ一ノ自治體ニ非ルコト明カニシテ原告カ區ヲ以テ自治體ナリト云フハ空漠トシテ據ル所ナキモノトス隨テ區會ハ自治權ヲ享有スル區ノ代議機關ト云フヲ得サルナリ抑モ區會ハ市制第十三條ニ依リ之ヲ設ケルモノニシテ其權限ハ特別事件ニ限ルヲ原則トス東京市區會條例第二條ニ區會ハ其區所有ノ財產及營造物ニ關スル事件ヲ議決スルモノトストアルハ則チ此原則ニ基キ規定シタルモノニシテ區會ハ實ニ同條規定以外ノ權限ヲ有セサルヤ明カナリ故ニ市ノ名譽職タル區會議員ニ對シ區會ノ議決ヲ以テ市ノ公民權ヲ停止シ且市費ヲ増課スル等ハ越權ナル論ヲ埃ヌス又原告ハ從來區會議員ノ退職屆等ヲ區會ノ議決ニ付シタルハ東京市ノ慣例アリト云フモ這ハ一時ノ誤謬ニ出テタルモノニシテ本案抗辯ノ理由ト爲スニ足ラス其他原告ハ東京府知事カ變ニ市會ヘ諮問ニ付シタルコトヲ舉グルモ畢竟區會議員ハ前述ノ如ク市ノ名譽職タル性質ヲ有スルモノナルヲ明確ニセンカ爲メニ外ナラスシテ條例ノ規定ヲ待テ然ル後ニ市會ノ職權ニ屬セシムルカ如キ主旨ニ出テタルニアラス要スルニ本件市參事會ノ議決ハ法律ニ背キタルモノナリト云フニ在リ

依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 本件ノ要點ハ區會議員ハ市ノ名譽職ナリヤ否ニ在リ而シテ市制ノ所謂名譽職ナルモノハ同制ノ規定ニ據ルヘキモノニシテ規定以外ニ於ケル區會議員ノ如キハ市ノ公民中選舉權ヲ有スルモノヨリ選舉スルト無給ニシテ其職務ヲ行フモノタルト又區ハ市内ノ一部ナルトニ拘ハラヌ法律上ノ名譽職ナリト謂フヲ得ス己ニ名譽職ニアラストスルトキハ區會議員ノ退職及其就職後資格ノ要件有無ニ關シ市制第八條及第二十九條ニ依リ市會ノ議決ニ付スルヲ得ス隨テ市會カ之ヲ議決セサル場合ニ於テ市制第一百九條ニ依リ府縣參事會代テ之ヲ議決スルヲ得ス而シテ原告ハ區會議員ノ進退資格ニ關スル件ハ區會ノ認定ニ付スヘキモノナリト云フモ市制中ニハ是等ノ規定ナキモノナレハ區會ノ職權權限ニ

決議權限

決議権限

屬スルモノト謂フヲ得ス
右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ
本件區會議員ノ退職及其就職後資格ノ有無ニ關スル議決ハ市會ノ權限ニ屬スルモノニアラス本件訴訟費用ハ原被告各自ノ負擔トス

○訴願權爭論ノ件 (五)

問 町村會ハ郡會議員配當ノ不當を訴願するの議決を爲すことを得るや。
答 否、町村會に於ては郡會議員配當の當否を論及するの權限なし。

(判決例二十四年第四十五號
同年十一月二十日宣告)

原告 愛知縣額田郡岡崎町會議長 玉置 政治
被告 愛知縣額田郡岡崎町長 玉置 政治

右原告岡崎町會議長ヨリ被告岡崎町長ニ對スル訴願權爭論ノ訴文書ニ就キ遂審理處
原告申立ノ要旨ハ明治二十四年四月七日愛知縣額田郡長針谷重懋ハ第一號證ノ通り告示第十二號ヲ以テ郡會議員配當ヲ定メテ依テ岡崎町長ハ郡會議員選舉ノ爲メ町會議員ヲ召集シタルニ明治二十四年四月十八日右選舉開會ニ際シ町會ハ額田郡長ノ議員配當告示及町長カ報告シタル議員ノ員數ニ付熟考スルニ岡崎町ハ人口一萬五千有餘ニシテ議員ノ數僅ニ一人他ノ村々ハ人口三千ニ滿タサルニ議員一人又二村ヲ併セ人口五千弱ニシテ議員二人トスルアリ此配當ハ明治二十三年法律第三十六號郡制第五條第二項ノ明文ニ違背シタル配當方法ト認メタルヲ以テ其更正ヲ求ムルノ訴願ヲ上級官廳ニ爲サントノ議決ヲ爲シタリ然ルニ岡崎町長ハ町會ノ決議ハ權限ヲ越ヘタリト爲シ明治二十四年四月二十五日ヲ以テ町村制第六十八條ニ依リ再議ニ付シタルモ町會ハ毫モ越權ニ非ストシ前議ヲ更メサリシヲ以テ町長ハ町會カ議決シタル訴願ノ執行ヲ停止シ尙町村制第六十八條ニ依リ額田郡長ノ裁

決議権限

決ヲ求メタルニ額田郡長ハ權限ヲ越ヘタルモノトノ裁決ヲ與ヘタルニ依リ愛知縣知事ノ裁決ヲ請ヒタルニ知事ハ郡會議員配當ノ當否ニ對シテハ法律勅令ニ於テ訴願ノ方法ナキニ依リ之カ訴願ハ權限ヲ越ヘタルモノナリトノ裁決ヲ爲シタルヲ以テ本訴ヲ提起シタルモノニシテ元來町會ハ郡會議員ノ配當ヲ議定シタルニアラス違法ノ配當ヲ受ケタルニ依リ權利伸張ノ爲メ之カ更正ヲ訴願セント議決シタルニ過キス何故ニ自治體ノ權利得喪ニ係ル事件ヲ議決シタル事柄カ越權ナリトスルヤ假リニ議員配當ノ當否ニ就テハ訴願ノ手續方法令ニ規定ナキヲ以テ其事柄カ無効ニ屬スルトスルモ之ヲ越權ナリト謂フヲ得ス之ヲ越權ナリトセハ無効ハ越權ナリト云フモノニシテ二者ノ性質ヲ混同スルモノト云フヘシ按スルニ町村制第二百一十條一項ハ上級官廳ノ處分若クハ裁決ニ對スル普通ノ概則ニシテ何等ノ事柄モ之ニ背馳セサル以上ハ訴願ノ權利ヲ有スル規定ニシテ町村制ニハ彼ノ列舉訴願ト此普通訴願トアルハ昭然ナリ而シテ同條中町村ノ行政トハ如何ナル事柄ヲ意味スルヤト云ハ、即チ町村ニ對スル法律命令ノ執行ハ其町村ノ行政ナリト云ハスシテ何トカ云ハ左レハ郡會議員配當ノ一事モ亦町村ニ對スル行政ニ外ナラストス若シ夫レ本訴ノ訴願カ議決シタルハ越權ナリトセンカ町村制中訴願禁止ノ規定ナケレハ其越權ナリヤ否ハ被告ノ職權ニアラスシテ監督官廳ノ職權ニ屬スト云ハサルヲ得サルナリ是ヲ之レ思ハスシテ妄リニ議權ヲ妨止シタルハ不法ナリト云フニ在リ
被告答辯ノ要旨ハ明治二十四年四月十八日郡會議員選舉ノ際ニ於テ町會ハ額田郡長ノ告示シタル郡會議員配當ハ郡制第五條第二項ニ違背シタルモノナルヲ以テ該選舉ヲ中止シ更ニ適法ノ配當ニ更正セラレシコトヲ訴願セント議決セリ然ルニ該訴願ハ法律勅令ニ於テ之ヲ許シタルモノナケレハ町會ニ於テ議決スルヲ得サル所以ヲ辯明スト雖町會ハ之ニ服セスシテ議決シ了レリ依テ被告ハ町村制第六十八條二項ノ一ニ依リ自己ノ意見ヲ以テ議決ノ執行ヲ停止シ更ニ理由ヲ示シテ再議セシメシニ町會ハ其前議ヲ更メサリシカハ己ムヲ得ス郡長ニ訴願シテ其裁決ヲ受ケタルニ町會ハ之ニ服セス縣

決議權限

十四

知事ニ訴願シ更ニ裁決ヲ受ケタルニ仍ホ之ニ服セスシテ本訴ヲ提起シタルニ至リシナリ抑訴願ハ法令ニ規定シタルモノナラサルヘカラス然ルニ原告ハ斯ル場合ニ於テ訴願ヲ禁スルノ法令ナキヲ以テ見レハ一般ノ法理ニ依リ救正ノ訴願ヲ爲シ得ヘシト云フト雖是原告カ法律上有スル權理ニ非スシテ寧ロ立法部ニ對スル企望ニ外ナラス又其企望ヲ達スルニハ必其方法ニ依ラサルヘカラス而シテ法文上之カ方法ナキナ何セシヤ又原告ハ郡長カ爲シタル郡會議員配當ハ町村ニ對スル行政事務ノ一部ナレハ即チ郡長ノ爲シタル處分ナリ而シテ郡長ノ處分ニ對シテハ町村制第百二十條ニ依リ訴願スルコトヲ得ト云ヘリ是頗ル同條ヲ誤解セルモノナリ何ントナレハ制第百二十條ニハ郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ裁決トアリ郡會議員ノ配當ハ郡會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經ヘキモノニアラスヤ當時未タ郡會成立セサレハ郡制第八十六條ニ依リ郡長之ヲ攝行スト雖其資格ニ至リテハ行政機關タル郡長ノ處分ト代議機關タル郡會ノ議決トハ割然區別アルモノトス故ニ町村制第百二十條ニハ據ルヲ得サルモノトス又原告ニ於テハ越權ト無効トヲ混同スルモノナリト云フハ知事ノ裁決ヲ誤認セシモノニ外ナラス即チ町會カ法令ニ規定セサル訴願ヲ爲サント議決シタルハ越權ニシテ而シテ法令ノ規定セサル訴願ヲ爲サント議決スルモノ之ヲ提出スル方法ナク之ヲ受理スル官廳ナシ果シテ然ラハ議決ノ無効ヲササルヲ欲スルモ得シヤ之ヲ要スルニ郡會議員配當ニ關スル郡會ノ議決若クハ法律ノ解釋ヲ異ニスルヨリ生スル訴願ハ法律勅令中之ヲ許シタルモノアラズ其之ヲ許シタルモノナクシテ之カ訴願ヲ提起センコトヲ議決スル則權限ヲ越ヘタルモノト謂ハサルヲ得スト云フニ在リ

依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 本件爭點ノ歸スル所ハ愛知縣額田郡長カ郡制第五條第八十六條ニ依リ縣知事ノ認可ヲ經テ告示ヲ爲シタル郡會議員配當法ニ對シ岡崎町會カ之ヲ不當トシテ訴願セントノ議決ヲ爲シタルハ越權ナリヤ否ニ在リトス抑郡會議員ノ數ハ郡制第五條ニ依リ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受ケテ定ムル

決議權限

モノナシ之カ改正ヲ求ムルノ方法ヲ議決シタルハ法律上町會ニ與ヘタル權限外ニ涉ルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ被告岡崎町長カ其執行ヲ停止シタルハ不合法ノ處置ニアラス
 右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ原告ノ請求相立タヌ訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

○學校組合長選舉法變更ノ件 (六)

組合會は組合長の選舉法を訂正又は改正の議決を爲すを得るや。
 選舉法の訂正又は改正の如きは組合組織を變更するものにあらず。

〔凡決例 明治廿七年第四十六號〕
 原告 岡山縣窪屋郡山手村長 神崎 吾外三名
 被告 同 縣知事 河野 忠三

右原告山手村長神崎就吾外三名ヨリ被告縣知事河野忠三ニ對スル違法裁決取消ノ訴被告ノ辯論ヲ聽キ原告等ノ文書ニ就キ審査ヲ遂クル處
 原告等訴求ノ要旨ハ本訴ノ基因タル高等充知小學校組合設置ノ舉ハ明治二十三年法律第八十九號ニ準據シ本郡山手村、三須村、常盤村、清音村ノ四箇村合併一ノ組合ヲ設ケ高等充知小學校ヲ設置スルニ當リテヤ法條ノ示ス所ニ隨ヒ町村制第百十六條第百十七條ヲ適用シ組合會議員ヲ組織シ組合規約ノ議會ヲ開キタルハ實ニ明治二十七年三月二十二日ナリトス然ルニ其開會ノ起原前任組合村長ハ組合各村長ト協議議案ヲ編製シテ當時本郡長松山晴心ニ諮リ其贊成ヲ經テ議會ニ提出シタリシモ該規約第十條ニ學校組合長ハ組合會ニ於テ組合内各村長ノ中ヨリ之ヲ選舉スルモノトストアルヲ議會ノ輿論ニ依リ學校組合村長ハ組合會議ニ於テ組合内公民中被選權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉スト訂正議決ノ上許可稟申ニ及ヒタル處郡長ハ原案ヲ固執シ再議開會ヲ達セラレタルモ議會ハ前議ノ如ク之ヲ議定シタリ於是ヤ議會ト郡長ノ意見全ク反對ノ結果ヲ生シ組合規約成立セサルカ故ニ原告等ハ町村

制第六十八條ニ依リ郡參事會ノ裁決ヲ求メタル處第一號證ノ如ク裁決ヲ下サレタルモ之ニ服スルコト能ハス尙進ンテ縣知事ニ之カ裁決ヲ仰キタルニ第二號證ノ如ク法律ノ認見事實相違ノ點アル頗ル疎洩ノ裁決ヲ下シタリ抑制第百十六條ノ精神ハ始審再審裁決ノ如ク狹隘ナル法條ト解釋スルハ其見解ノ誤謬ト云ハサルヲ得ス蓋町村ニハ貧富強弱ノ別アリテ必スヤ町村各自完全ナル獨立團體ヲ組織セラレザルアリ原告等ノ各村ハ幸ニシテ法律ノ正條ニ其キ獨立自治ノ團體アリト雖モ高等小學校設置ノ如キ到底各村獨立ノ設置ニ資力乏シキ故ニ四箇村合併一校ヲ設置スルノ止ヲ得サルニ出ツ果シテ此規約ヲ議定スルノ權限ハ自治體ノ選舉ニ依リタル議員ノ權限ニ屬スルモノトス然リト雖モ法律違背ノ議決ヲ實行セシメサルノ權利ハ獨立監督ノ職權ニ屬スルモ其意旨ニ反セシ議決ヲ爲シタリトテ之ヲ遮斷シ之ヲ實行セシメサルノ權利ハ決シテ法律ノ與ヘタル職權ニアラス又制第百六十條第百十七條中組合村長ハ各村長ノ職務ニシテ特別村長ヲ置クヘカラストノ制裁アルヲ見ス獨其之アルヲ見サルノミナラス事務處辭ノ爲別ニ管理村長ヲ設クルハ頗ル便法ト云フヘシ且ヤ始審再審ノ裁決ハ制中ノ理由書ヲ偏見シテ一部事務ヲ共同處辦スル爲別段ノ村長ヲ設クルハ法律ノ許サ、ル所トシテ本訴ヲ排棄シタレトモ組合會議ノ組織事務ノ管理並費用ノ支辨方法等ハ專ラ町村組合ノ自由議決ニ在ルコトハ亦制第百十七條ニ於テ明カニ規定セラレタル所ナリ然ラハ則高等小學校ノ管理者ハ組合内ノ村長ヨリ選舉スルカ又ハ組合内ノ公民中ヨリ選舉スルカノコトハ專ラ組合會議ノ議權ニ屬シタルモノナレハ公民中ヨリ管理者ヲ選舉スルトノ議決ヲ爲シタルモ法律ニ違背スルノ理由ナシ以上論スル所ノ旨趣ハ獨制第百十六條第百十七條ノ成文上ニテ明瞭ナルノミナラス亦其理由書ニ依ルモ明カニ立法上ノ精神ヲ說明セラレ原告等ノ論旨ヲシテ益鞏固ナラシムルニ足ルモノアリ其文ニ曰ク組合會議ノ組織事務管理費用支辨ノ方法殊ニ分擔ノ割合ハ本制ニ於テ豫メ之ヲ規定セス實際ノ場合ニ於

テ便宜其方法ヲ制スヘシ云々又町村長ノ如キモ組合ニ一ノ町村長ヲ置キ且之ヲ永久獨立トシ或ハ各町村長ノ交番ト爲スヲ得ヘシ云々夫レ此ノ如キ理由ナルヲ以テ組合會議ノ議決ハ法律違背ノ跡ナキヲミナラス最適法ノ議決ナリト確信セリ故ニ裁決ノ全部ヲ取消シ更ニ至公至明ノ裁判ヲ仰クト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告等ハ本郡山手村外三箇村ニ於テ高等小學校設置ニ關スル事務ヲ處辨スル爲小學校令第三十六條地方學事通則第一條第二項及町村制第百十七條等ニ依リ組合ヲ組織シ乙第一號證ノ如ク該組合ノ規約ヲ設ケ明治二十七年三月十七日郡長ノ許可ヲ受ケタリ而シテ同月二十二日三至九原告等ハ組合會ヲ開キ該規約ヲ會議ニ付シタリシニ其第九條ニ學校組合長ハ組合會議ニ於テ組合内各村長ノ中ヨリ之ヲ選舉スルモノトストアリタルヲ該組合會ハ乙第二號證ノ如ク同第九條ヲ學校組合村長ハ組合會議ニ於テ組合村公民中被選權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉スト改正シ其他本條ニ關聯スル事項ヲ修正議決シ其議決ヲ郡長ニ報告セシニ郡長ハ其議決權限ヲ越ヘタルモノト認定シ町村制第六十八條第二項ノ一ニ依リ原告等ニ對シ其理由ヲ示シテ再議ニ付セシメタルニ組合會ハ前議決ヲ固執シ之ヲ更メサルニ依リ原告等ハ同條同項ニ依リ郡參事會ノ裁決ヲ請フニ至レリ茲ニ於テ郡長ハ郡參事會ノ資格ヲ以テ組合村長ナルモノヲ置クノ議決ヲ爲シタルハ權限ヲ超ヘタルモノト認メ該組合ノ規約ハ最前許可ヲ與ヘタル申請書ニ添付シタル規約ノ通訂正スヘシト裁決シタルニ服セズ被告ニ訴願ヲ提起シタリ依テ被告ハ縣參事會ノ資格ヲ以テ之カ審理ヲ遂クルニ始審ノ裁決ハ不當ト爲スヘキ理由ヲ認メサルニ依リ該裁決ハ取消スヘキ理由ナキモノト裁決シタリ抑本訴ニ關スル組合ノ規約タル組合成立以前ニ在リテ關係村ノ協議ヲ以テ之ヲ規定シ郡長ノ許可ヲ得タルモノナレハ之カ改正ニ關シ其組合規約中特別ノ規定ナキ以上ハ之ヲ改正セントスルニハ當初組合規約ヲ規定シタル手續ニ依ラサルヘカヲサルコト論ヲ竣タサルナリ而シテ本組合規約ニ於テ組合規約ノ改正ニ關シ本組

決議権限

合會ニ如何ナル權限ヲ與ヘタルヤヲ審査スルニ當リ初郡長ノ許可ヲ得タル乙第一號證規約第二條但書ニ將來組合會議決ノ上訂正又ハ改正スルコトヲ得ルモ組合組織ニ關スルモノハ此限ニアラストアリ此明文ニ依ルトキハ組合會ハ其規約中組合組織ニ關セサル事項ニ付テハ改正ノ議權ヲ有スルモ其組織ニ關スル事項ニ付テハ全ク議權ヲ有セサルナリ然ルニ本組合會ニ於テ規約第九條ヲ改正シタルカ如キハ其規約中ニ規定ナキコトヲ議決シタルモノナレハ其權限ヲ超ヘタルコト勿論其權限ナキ事項ニ關シ之カ議決ヲ爲シタルハ組合規約ニ背キタルモノニシテ其規約ニ背キタルハ即チ法律ニ背キタルモノト云ハサルヘカラス況ンヤ小學校令ニハ組合長トアル如ク總テ一部ノ事務ヲ處辨スルハ組合長ニシテ組合村長ニアラス若シ一部ノ事務處辨ノ爲ニ村長ヲ置クモノトセハ學校土木衛生ノ爲各村落ヲ置クノ不都合ヲ生シ爲メニ無用ノ費用ヲ組合村ニ負擔セシムルニ至リテハ亦組合ノ公益ヲ害スルノ議決ト云ハサルヘカラス故ニ議決取消ノ訴求ハ棄却アランコトヲ請求スト云フニ在リ

依テ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 本訴原告被告所爭ノ要點ハ組合會ニ於テ組合規約ヲ改正スルニ當リ學校組合長ハ組合内各村長ノ中ヨリ之ヲ選舉ストアルヲ學校組合村長ハ組合村公民中ノ被選舉ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉スト改正シタルハ違法ノ議決ナルヤ否ニアリ而シテ被告ハ郡長ノ許可ヲ得タル組合規約第二條但書ニ將來組合會議決ノ上訂正又ハ改正スルコトヲ得ルモ組合組織ニ關スルモノハ此限ニアラストアリテ組合長ノ選舉方法ヲ改正スル如キハ即チ組織ヲ變更スル違法ノ議決ナリト云フト雖モ町村制ニ於テハ組合長ノ被選資格ニ關スル規定ナキノミナラス組合規約第二條ノ組合組織トハ第一條ニ所謂數村ノ組合ヲ云フニ止リ組合長ノ選舉方法ヲ包含スト解釋スルヲ得ス隨テ組合長ノ被選資格ニ關シテモ組合會ハ組合規約ヲ以テ其議決權ノ範圍ヲ限定セラレタルモノニアラサルナリ故ニ組合會カ組合規約第九條

職務權限

○建議請願書調査委員設置ノ件 (七)

ニ於テ組合村公民中被選權ヲ有スル者ヨリ組合村長ヲ選舉ストノ改正ヲ爲シタルハ違法ノ議決ト云フヲ得ス其他原被告ニ於テ陳辯スル所アルモ必要ナキヲ以テ説明セズ
 右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ被告岡山縣知事カ岡山縣窪屋郡山手村外三箇村組合會ニ與ヘタル議決ハ之ヲ取消スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

問 市會は建議請願書を受理するため調査委員を設くることを得るや。
 答 建議請願書を受理は行政上の處分に屬す故に明文を以て限りは市會に於て之を受理調査の委員を設置するの權限なし。

(判決例二十六年第六十八號
 二十七年五月五日宣告)

原告 東京市會議長 楠 本 正 隆
 被告 東京市參事會東京府知事 三 浦 安

右原告東京市會議長楠本正隆ヨリ被告東京市參事會東京府知事三浦安ニ對スル建議請願書調査委員設置事件ニ付裁決不服ノ訴訟審理ヲ遂クル處
 原告請求ノ要旨ハ東京市會ニ於テ從來市民ヨリ提出スル建議請願書ヲ受取り決議シタルコトハ度々之アリシカ近來ニ至リ請願書ヲ提出スル者尙ホ多キヲ以テ其都度之ヲ會議ニ付スルハ頗ル繁雜ナル故之ヲ調査委員ヲ設ケ調査セハ議事手續大ニ簡便ナラント其設置ノ建議アリタルヲ可決シ明治廿六年二月一日之ヲ設置シタルニ東京市參事會ハ之ヲ越權ナリトシテ再議ニ付シ市會ハ越權ニアラサルヲ以テ再議ス可キモノニアラスト決定セシヨリ市參事會ハ東京府知事ノ裁決ヲ仰キ知事ハ市會ニ於

職務権限

二十

テ調査委員ヲ設ケタルハ越權ナリトノ裁決ヲ爲シタレトモ市制第三十條ニ依レハ市會ハ市制ニ準據シテ市ニ關スル一切ノ議權ヲ有スルヲ以テ自己議權ノ範圍内ニ屬スル事件ニ付市民ノ建議請願ヲ受クル職權ヲ有スルハ論ヲ俟タヌ且之ヲ受理スルモ直チニ議決スルニアラスシテ只參考ノ爲メニスルモノナレハ之ヲ取捨シ其至當ナルモノハ議員中ヨリ之ヲ議題トシテ議スルニ止リ又調査委員ヲ設ケタルハ議事ノ全カランコトヲ期スルカ爲メニシテ決シテ不都合ニアラス即チ建議其モノカ議事ニ及ホスモノニアラスシテ只市會ノ權限内ニ屬スル事柄ノ建議ヲ受ケ之ヲ取捨スルニ止リ且之ヲ取捨スルハ市會ノ權内ナレハ之カ委員ヲ設置スルモ決シテ不都合ナク市參事會ノ權限ヲ侵スモノニアラサルノミナラス市參事會ハ之ニ對シ隊ヲ容ル、ノ權アラス又市會ハ市ノ財產ニ付テハ一ノ立法府ナリ故ニ人民カ之ニ注目シテ建議請願スルハ當然ニシテ其建議請願ハ市參事會ニモ之ヲ爲スコトアル可シ是レ人民ノ勝手ナレハ市參事會ニ建議ス可キモノナリ市會カ受理スルハ不都合ナリト云フカ如キ被告ノ申立ハ甚タ不當ナリ又被告ハ畢竟人民ノ建議ニ依リタルハ不都合ナリト申立レトモ其建議請願ヲ市會ノ議題トスレハ差支アルコトナシ即チ甲第七八號證ノ事例アリ又憲法第三十條ニ日本臣民ハ云々請願ヲ爲スコトヲ得トアリテ請願ハ人民ノ特權ナリ又被告ハ調査委員ヲ設ケタルハ越權ナリト申立レトモ市制第六十一條ニ依ルモ市ハ市會ノ決議ニ依リ云々委員ヲ置クコトヲ得トアリテ當然委員ヲ設置スルコトヲ得ルモノナレハ甲第七八號證ノ如ク市會ノ議題トシテ之ヲ決議シ其他甲第十十一號證ノ如ク人民ノ建議請願トシテ之ヲ決議シ市參事會ハ悉ク之ヲ認メ居レリ然ラハ法律上並證據上モ於テモ不都合ノ點ナキヲ以テ市參事會カ之ニ對シ隊ヲ容ル、ハ不當ナレハ東京市會カ市民ヨリ提出スル建議請願書調査委員ヲ設置シタルハ市會ノ權限ヲ越ヘタルモノニアラストノ判決ヲ仰クト云フニ在リ

被告答辨ノ要旨ハ原告ハ人民ヨリ差出シタル建議ハ市會ノ參考マテニシテ之カ許否ノ詮議ヲ爲スニ

職務権限

二十一

アラス又市會ノ權限ヲ廣義ニ解釋シ一切市ノ事業ハ議シ得ル如ク申立レトモ本件ノ訴訟ハ乙第二號證ニ原因シ要スルニ市會ハ代議機關ニシテ一箇ノ法人トシテハ市ノ連帶ノ意思ヲ發表シ其意思ハ内部ニ對シ發表スルモノニシテ市制第三十條以下ノ如ク其範圍内ノ事柄ナレハ格別其範圍外ノコトニ付テハ議決シ能ハサルモノナリ同條以下ノ明文ニ照ラシ見ルモ市會カ人民ノ建議請願ヲ受理決議スルコト聊モ其明文ナケレハ法律上市會ハ其權限ヲ有セサルモノナリ又原告ハ憲法上ヨリ論スルモ建議請願ハ人民ノ特權ナリト申立レトモ大ナル誤解ナリ如何トナレハ人民ハ請願權アルコトハ勿論ナレトモ特別ノ法律ニ依リトアルヲ以テ其法律ニ依ラサル可カラス今試ニ例セハ議院法第六十二條ニハ建議請願ヲ受理シ許否スルノ權ヲ與ヘタリ若シ市會カ國會ノ如ク廣ク權限ヲ與ヘラレタルモノナレハ格別ナレトモ市制中悉クハ其明文ナカラシ又原告ハ市參事會ノ權限ヲ侵スニアラスト申立レトモ市會ハ代議機關ニシテ内部ニ於テ市ノ意思ヲ發表スルニ止リ市參事會ハ行政機關ニシテ外部ニ對シ市ヲ代表スルモノナレハ人民ハ之ニ對シ建議請願スルハ當然ナリ然ルニ市會カ此建議請願ヲ受理スルモノハ市參事會ノ權限ヲ侵奪シタルモノナリト謂ハサルヲ得ス依テ東京市會カ市民ヨリ提出スル建議請願書取調委員ヲ設置シタルハ市會ノ權限ヲ越エタルモノナリトノ判決アランコトヲ請フト云フニ在リ

依テ雙方ノ辨論ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ニ於テ市會カ建議請願書ヲ受理スルハ參考ノ爲メニスルモノニシテ直チニ之ヲ議決スルモノニアラサル故決シテ市參事會ノ權限ヲ侵スモノニアラス且甲第七號證並甲第八號證ノ一ノ如ク市會ノ議題トシテ之ヲ議決シ市參事會モ悉ク之ヲ認メ居レリ又調査委員ヲ設ケタルハ議事ノ全カランコトヲ期スルカ爲メニシテ市會ノ權限内ニ屬スル事柄ノ建議ヲ受ケ之ヲ取捨スルニ止リ只之ヲ取捨スルハ市會ノ權内ナレハ之カ委員ヲ設置スルモ不都合ナク又市制第六十一條ニ依ルモ市ハ市會ノ決議ニ

職務權限

依リ云々委員ヲ置クコトヲ得トアリテ當然委員ヲ設置スルコトヲ得ルモノナリ然ラハ法律上並證據上ニ於テモ不都合ノ點ナキヲ以テ市參事會カ之ニ啄ヲ容ル、ハ不當ナル旨主張トス雖凡ソ議會ナルモノハ適當ノ發案者ヨリ議題ノ提出アルニ方リ之ニ就テ審議決定スルコト當然ノ職務ニシテ市民ノ建議又ハ請願書ヲ受理シ以テ取捨スルハ行政上ノ處分ニ屬スルモノナリ故ニ法律ノ明許アルニアラサル限リハ其建議請願カ假令議會ノ議決ス可キ事項ニ關係アルモ議會ニ於テ之ヲ受理取捨スルハ行政ノ權利ヲ侵スモノト謂ハサルヲ得ス又市制第六十一條ハ當然市會ノ議決ヲ要スル事項ニシテ之ヲ調査スル爲メ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得ルノ規定ナレハ本件一私人ノ企望ニ出ツルモノヲ取捨セントスルカ如キ場合ニ適用ス可キモノニアラス依テ東京府知事ニ於テ東京市會カ市民ヨリ提出スル建議請願書ノ取調委員ヲ設置シタルハ市會ノ權限ヲ越ヘタルモノナリト爲シタル裁決ハ不當ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ原告ノ請求相立タヌ訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

○議案拒絕ノ件 (一八)

問

町村會は地方税戸數割及營業稅雜種稅等級課額議案を町村長より發せられたるとき府縣會より特に委任なきを理由とし該議案を拒絕するを得るや。

答

明治十四年第六號布告は府縣會は其議定しへる事件中細目に係る事項を町村會に議決せしむるの明文は制第三十二條に該當するものなるにより拒絕するを得ず。

〔判決例二十五年第八十五號〕
同年十月九日宣告

原告 静岡縣敷知郡濱松町會議長 竹田 右文
被告 静岡縣敷知郡濱松町助役 竹田 右文

職務權限

右原告濱松町會議長竹田右文ヨリ被告濱松町助役竹田右文ニ對スル議案拒絕ノ訴審理ヲ遂クル處原告訴訟代理人陳述ノ要旨ハ被告ニ於テ明治二十五年地方税戸數割及營業稅雜種稅等級課額議案ヲ原告町會ニ向テ發シタルモ町會ニ於テハ之ヲ議定スルノ義務ナシトシ其議案ヲ返付シタルニ依リ被告ハ更ニ之ヲ再議ニ付シタルモ町會ハ依然其議決ヲ更メサルニ付被告ハ郡參事會ノ裁決ヲ請ヒタルニ郡參事會ハ町會ニ於テ當然議定スヘキモノトスト裁決シタルニ服セス原告ハ縣參事會ニ訴願ヲ爲シタルニ縣參事會ニ於テ郡參事會ノ與ヘタル裁決ハ取消スヘキ限ニアラスト裁決シタルニ依リ本訴ヲ提起シタルモノニシテ原告ガ本件議案ヲ拒絕シタル理由ハ明治十二年ヨリ明治二十四年ニ至ル毎年度本縣地方税戸數割徵收規則中凡ソ三箇年程ハ町村會ヲシテ等級課額ヲ議定セシムトアリシモ其他ハ議定スルコトヲ得トアリテ等級課額ヲ設クルト否トハ町村ノ便宜ニ從フモノナレハ規則ノ明文如何ニ拘ハラズ當町ハ十二年來未タ一同モ町會ニ於テ等級課額ヲ議定セシコトアラス即チ該等級ニ關シ縣會ノ委任ヲ受タルノ事實ナシ明治十四年第六號布告ニ府縣會ハ云々町村會若クハ水利土功會ノ議決ニ付スルヲ得ヘシトアレトモ個ハ細目ニ係ル事項ヲ直ニ町村會ニ委任シタルモノニアラスシテ單ニ府縣會ヲシテ其委任スルコトヲ得セシメタルモノニ過キサルカ故ニ細目ニ係ル事項ハ縣會ニ於テ更ニ町村會ニ委任スルコトヲ要ス然ルニ前述ノ如ク是等細目ニ付縣會ノ委任ヲ受タルコトナキモノナレハ當町會ニ對シ本案戸數割等級課額議案ヲ以テ町村制第三十二條從前特ニ委任セラレタル事件ト爲スコトヲ得ス又本縣ニ於ケル營業稅雜種稅ニ付テハ當町會ハ明治十二年ヨリ毎年度等級課額ヲ議定シ來リタリト雖モ縣會ノ委任ニ依リテ然ルニアラス該稅ノ如キハ當町會ニ於テ之カ等級ヲ付スルノ必要ヲ認メタルニ由ルナリ何トナレハ明治十九年ヨリ明治二十四年ニ至ルマテノ徵收規則ハ四月三十日マテニ等級課額ヲ議定セサルトキハ總テ普通課額ヲ課ストアリテ敢テ等級課額ヲ議定スルヲ要セス即チ當町會ハ之ヲ議定スルノ義務ナキニモ拘ハラズ進ンテ之ガ議定ヲ爲シタルハナリ要ス

ルニ前項戸數割稅ト同シク從前ヨリ縣會ノ委任ヲ受ケタル事件ニアラス且亦町村制第三十二條ニ指
 定セラレタル議目ニアラサルニヨリ町會ニ於テ議定スルノ義務ナシト判決ヲ請フト云フニ在リ
 被告答辯ノ要旨ハ被告ハ明治二十五年二月九日附靜岡縣令第八號明治二十五年地方稅賦課規則ヲ
 遵奉シ明治二十五年地方稅戶數割及營業稅雜種稅等級課額議案ヲ作リ明治二十五年四月二十九日
 濱松町會ヘ提出シ議定ヲ求メタリ然ルニ町會ハ之ヲ議定スルノ義務ナシト議決シ返付シタルニヨリ
 更ニ之ヲ再議ニ付シタルモ町會ハ尙前決議ノ通ト決シテ返付シタルニ付明治二十五年六月十一日其
 裁定ヲ靜岡縣長上敷知濱名郡參事會ニ請求シ其裁決ヲ受ケタルモノナリ本訴ニ申立ル事實ハ被告ニ於
 テ認ムル處ニシテ被告ハ畢竟行政官衙ノ命ヲ奉シテ事務ヲ執行スルニ止マリ本訴ノ爭點ニ就テハ其
 當否ヲ辯論スルノ要ナシト云フニ在リ

依テ證據ヲ審閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告訴求ノ要點ハ原告町會ニ於テ明治二十五年地方稅戶數割及營業稅雜種稅等級課額議案ヲ拒絕
 シタルハ町村制實施前靜岡縣會ヨリ會テ委任ヲ受ケタルコトナキモノニシテ明治十二年ヨリ同廿四
 年ニ至ル毎年度靜岡縣地方稅戶數割徵收規則ヲ按ズルニ該等級ヲ付シテ徵收スルト否トハ町村ノ任
 意ニ付シタルモノナレハ原告町會ハ本年ニ至ルマテ縣會ノ議定シタル普通課額ヲ以テ徵收シ來リ未
 タ一回モ等級課額ヲ議定セシコトアラズ又營業稅雜種稅ニ付テハ從來等級課額ヲ議定シ來リシモ亦
 縣會ノ委任ニ依リタルニアラス町會ニ於テ等級ヲ付スルノ必要ヲ認メタルニ由ルナリ故ニ本訴等級
 課額議定ノ件ハ町村會第三十二條從前特ニ委任セラレタル事件ニアラス亦同條指定ノ議目アラサル
 ナリテ之ヲ議定スルノ義務ナシト云フニ在レトモ明治十四年第六號布告ニ府縣會ハ其ノ議定スヘキ
 事件中細目ニ係ル事項ヲ以テ區町村會若クハ水利土功會ノ議決ニ附スルヲ得ベシトアルハ府縣會ニ
 其權ヲ附與スルト同時ニ町村會ノ義務ヲモ指定シタルモノナレハ町村制第三十二條ニ該當スルモノ

問 町村公民に非らざる者にして収入役に選任せられたるときは公民とあり選舉權を有するや。
 答 然り、町村制第五十六條第二項に依り公民權を得。

〔判決例〕 二十四年第二十九號
 同年九月二十五日宣告

原告 長野縣北佐久郡岩村田町 秋山清作
 被告 長野縣北佐久郡岩村田町長 遠藤善九郎

右原告秋山清作ヨリ被告岩村田町長遠藤善九郎ニ對スル公民權ノ有無ニ附知事ノ裁決ヲ不當トスル
 訴訟審理ヲ遂クル處
 原告陳述ノ要旨ハ長野縣知事ハ町村制第六十二條第三項ノ規定ニ第五十六條第二項ヲ適用ストアリ
 第六十二條第三項中ニ第五十六條第二項中但書ヲハ適用セストノ法文ナキヲ以テ第五十六條第二項
 但書トモ收入役ニ適用シ町村會議員ノ選舉ニ參與スルノ權アルモノト云フト雖モ第五十六條第二項
 中但書ハ收入役ニ適用スヘキモノニアラス何トナレハ收入役ハ町村長ノ推薦ヨリ成立シ町村會カ之
 ナ選任スルモノニシテ收入役ニ對シテハ町村制中選任トノミ明記シアリ第五十六條第二項中但書ニ
 ハ當選トノミアリテ選任ノ文字ナシ若シ但書ヲモ適用スヘキナリトセハ當選及選任ニ應シ認可ヲ得
 形トモ其公民タルノ權利ヲ得トノ明文ナカルヘカラス故ニ假令ヒ第六十二條第三項ニ第五十六條

住民公民

第二項中但書ハ適用セスト明記セスト雖モ但書中選任ノ文字ナキヲ以テ之ヲ收入役ニ適用スヘカヲサルハ明カナリ又第五十六條第二項中但書ニ云ヘル公民ノ權利トハ有給町村長及ヒ有給助役ニノミ適用スヘキモノナリ而シテ此公民ノ權利ハ町村制第七條ノ所謂ル公民權ナルモノト異ナリ假令町村長助役ト雖モ第十二條ノ本文ニ云ヘル選舉權ヲ許與シタルモノニアラス町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任スルカ爲メ唯其地位ヲ重ク高カラシムルカ爲メ公民ト云フ權利ノ名義ノミヲ許與シタルモノニシテ第十二條ニ云ヘル選舉ニ參與スルノ權利ヲ得有シタルモノニアラス又助役ニ町村長ト同シキ權利ヲ許與セラレタル理由ハ町村長ノ故障アルトキハ其代理ヲ爲スカ故ナリ以上述ルカ如ク町村長助役スラ斯ノ如シ然ルニ町村制中年齡ニモ制限ナク幾歳ノ兒童タルトモ町村會カ選任サヘスレハ差支ヘモナキコトニ法律ハ之ヲ收入役ニ許シ置ケリ然ルニ貴重ナル公民權ヲ許與シタルモノト解釋テ下スハ適法ノ精神ニアラス故ニ長野縣知事ノ裁決ハ不當ノ裁決ナルヲ以テ本町收入役阿部龜助ヲ本町會議員選舉人名簿中ヨリ除名セラレンコトヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ被告ハ町村制第六十二條第三項ニ「收入役ハ町村長及助役ヲ兼ヌルコトヲ得ス其第五十六條第二項中略ヲ適用ス」其第五十六條第二項ニハ「有給町村及有給助役ハ其町村公民タル者ニ限ラス但當選ニ應シ認可ヲ得ルトキハ其公民タルノ權利ヲ得」トアリ依テ本町收入役阿部龜助ハ公民權ヲ得有シタルモノトシ選舉人名簿ニ登載シタルナリ然ルニ原告ニ於テハ收入役ハ選任トノミ明記アリテ當選トノ文字ナシ若シ但書ヲモ適用スヘキモノナレハ無論選任ノ文字ヲ用ユルノ要ナシ而シテ入役ニハ第六十二條第三項ニ依リ本條ヲ適用スルニ至レルモノナリ尤モ當選ト選任トハ自他ノ別アルノミ一ハ町村長ヲ推薦ニヨリ町村會之ヲ選任シ一ハ町村會ニ於テ公票ヲ以テ選任スルモノニシテ何レモ高點者トナリタルトキハ當選ト云ハスシテ何ソヤ若シ之カ但書ヲ適用セサルモノナレハ本項

問答

一旦公民權を得たる者にあらずれば郡制第十條二項に該當せざるや。

然り、乙村に移住前甲村に於て公民權を有したる者にあらずれば本條に該當せず。

住民公民

ハ本文ノミヲ適用ストアルヘキナリ又原告ハ町村長助役ト雖モ町村制第十二條ノ本文ニ云ヘル選舉權ヲ許與シタルモノニアラス雖其地位ヲ重ク高カラシムルカ爲メ公民ノ權利ノ名義ノミヲ許與シタル云々ト謂フト雖モ公民權ハ固ヨリ空位ニシテ行使スルコトヲ得サルモノニアラス以テ議員選舉ニ參與スルコトヲ得スト云フヲ得ス故ニ以上陳述ノ理由ニ依リ被告カ阿部龜助ヲ町會議員選舉人名簿ニ登載セシハ適法ナリト云フニ在リ

依テ雙方ノ陳述ヲ聽キ説明スル左ノ如シ

原告陳述ノ要點ハ町村制第五十六條第二項中但書ノ規定ハ之ヲ收入役ニ適用スヘキモノニアラス又假令ヒ有給町村長有給助役收入役等公民權ヲ有スルモノトナスモ町村制第十二條ノ選舉權ヲ有ズルモノニアラスト云フニ在リト雖モ町村制第六十二條第三項ノ規定中單ニ第五十六條第二項ヲ適用ストアリテ其但書ヲ適用セストノ明文ナキノミナラス當選ト云ヒ選任ト云フモ毫モ其意義ニ異ナルトコロナシ又原告ハ第五十六條第二項ノ所謂ル公民權ナルモノハ町村制第七條ノ要件ヲ具備シタル普通公民權ト異ナルモノナリト主張スルモ町村制中二種ノ公民權アルヘキノ理由ナク隨テ町村制第五十六條第二項ニ依リ公民權ヲ得ズル收入役ハ同法第十二條ニ規定シタル選舉權ヲ有スルモノト爲サハルヲ得ス故ニ被告ニ於テ收入役阿部龜助ヲ町會議員選舉人名簿ニ登載シタルハ之ヲ不當ナリト謂フヲ得ス

右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ原告ノ請求相立マス訴訟入費ハ原告ノ負擔トス

○郡會議員當選取消ノ件 (十)

判決例二十四年第五十號
二十五年二月一日宣告

原告 山形縣西置賜郡荒砥町 佐藤 兵次
被告 山形縣西置賜郡荒砥町町長 玉川 猪之松

右原告佐藤兵次ヨリ被告荒砥町町長玉川猪之松ニ對スル郡會議員當選取消ノ訴審理ヲ遂クル處
原告代理人陳述ノ要旨ハ明治二十四年五月十八日荒砥町會ニ於テ執行シタル西置賜郡々會議員選舉
會ニ於テ當選シタル西海枝政廣ハ明治二十一年春荒砥町ヨリ凡ソ四里許距リタル九野本村ノ戸長ヲ
拜命シ其居住ノ荒砥町ヲ去リ其所ナル九野本ニ寄留シ村役場ニ勤仕シ居リタリ其實ハ則チ甲第
一二號證ニ據テ明テナリ殊ニ政廣ハ甲第三四號證ニ於ケル如ク二箇年荒砥町ニ住居セサルヲ以テ荒
砥町ノ公民タルコトヲ得ストノ裁決ヲ受ケ其裁決已ニ確定シタルモノナリ而シテ政廣ハ其現住居地
タル九野本村ニ於テ町村ノ負擔ヲ分任シタルニ非ラス又該町村內ニ於テ地租若クハ直接國稅ヲ納メ
タルニ非ラス故ニ政廣ハ九野本村ニ於テモ亦猶ホ公民タルコトヲ得サルナリ之ヲ要スルニ政廣ハ
初メヨリ何レノ町村ニ於テモ公民タルノ資格ヲ有セサルモノナリ又郡制第六條ニ依ルニ議員ヲ選舉
スルハ町村會之奉行ヒトアル以上ハ町村會ハ一箇不可分ノ團體ニシテ其町村會中ニ包括セラレタル
モノハ悉皆之ヲ指示シタルモノトス然ルニ荒砥町會ハ選舉ヲ執行スルニ當リ町長タル議長カ投票ヲ
爲サバシハ不當ナリ又郡制第十七條及ヒ町制第四十六條ノ規定ニ依レハ議長自ラ抽籤スヘキナ
リ然ルニ議員ノ一人ヲシテ抽籤セシメタルハ違法ノ處置ナリ又荒砥町會ハ町制第四十六條及ヒ第
二十二條ノ規定ニ背キ投票ニ封緘ヲ施サス又掛長ニ投票ヲ差出サス議員自ラ直ニ投票函中ニ投入シ
ズリ是レ亦々違法ノ處置ナリ又町制第二十二條第二項ニ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ云々ト規定シ
タル然ルニ荒砥町會ニ於テ掛長ハ斯ル手續ヲ爲サバシハ亦々違法ノ處置ナリ依テ山形縣知事ノ與ヘ
タル裁決ハ不當ナルヲ以テ明治二十四年五月十八日荒砥町會ニ於テ執行シタル郡會議員選舉ハ之ヲ
取消シ且ツ其當選ハ無効トセラレシコトヲ請求スト云フニ在リ

行政裁判例問答

行政裁判例問答

被告答辯ノ要旨ハ荒砥町會カ西置賜郡會議員選舉會ヲ行ヒ其當選者タル西海枝政廣ヲ以テ被選舉權ヲ
有スル者ト爲シタルハ則チ郡制第十條第二項ニ住居ヲ移シタル爲町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居
同郡內ニ在リ且ツ他ノ要件ヲ失ハサルトキハ仍郡會ノ被選舉權ヲ有ストアルヲ以テ當選有効トセル者
ナリ然レトモ單ニ町制第七條ヲ以テ規定セル二年以來住居トナリ云々ノミヲ以テ見ルトキハ西海
枝政廣ハ所謂二年以來住居ノ一要件ヲ欠キタルモノ故ニ町村ノ公民權ヲ失ヒタルモノ、如シト雖モ
郡制第十條第二項後段ノ規定ニ依リ其住居ヲ移シタルモ他ノ要件ヲ失ハス且其住所ハ同郡內ナルヲ
以テ政廣ハ郡會議員ノ被選舉權ヲ有スルモノニシテ該選舉ハ取消スヘキ限ニ非ラス又町長ノ投票ヲ爲
サバシハ通常ノ町會ニ於テハ町長則チ議長トナルヲ以テ投票スルノ權義アルモノ、如シト雖モ町
長ヲシテ町會議員ヲ兼テシメサルト單ニ這回ノ如キ郡會議員ノ選舉會ノミナレハ町長ハ則チ掛長ト
爲ルヲ以テ投票ヲ爲スノ權義起テサルカ故ニ投票ヲ爲サバシハ違法ナリト云フヘカラス又抽籤ノ
手續ハ町制第四十六條ニ依リタルモノニシテ則チ同條ニ此再投票ニ於テモ猶過半数ヲ得ルモノナ
キトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ムトアリ又其上文ニハ議長自ラ抽籤シテトアリ又下文ニハ單ニ抽籤ト
ノミアルヲ以テ其上文ト下文トノ場合相同シカラサルヘシト論シ終ニ其議トナシタルハ固ト是レ同
條末項ニ前項ノ選舉ニハ町村會ノ議決ヲ以テ云々トアルニ依リ其議決云々トハ其手續上ニ便ナ與ヘ
タルモノナレハ則チ町會ノ議決ヲ採リ而シテ議員中年長者ノ一人ヲシテ抽籤セシメタルモノナリ且
ツ投票ニ封緘ヲ爲サス又投票函ニ選舉人自ラ投入シタルモノ豫メ町會ノ同意ヲ得テ而シテ後該投票函
ヲ掛長ノ面前ニ備ヘ置キ選舉人自ラ進ンテ自己ノ氏名ヲ申立直チニ投入シタルモノナリ是レ即チ同
條末項ノ範圍內ニ於テ町會カ議決ヲ爲シタルモノナリ又町制第二十二條第二項ニ規定シタル選舉
人名簿ニ照シテ云々ノ手續ヲ爲サバシハ所以ノモノハ單ニ十二名ノ町會議員ヲシテ選舉ヲ爲サシムル
モノナレハ別ニ名簿ノ必要アルヲ感セサルニ因リ豫メ町會ニ向テ其意ヲ陳シ以テ其同意ヲ得タルモ

住民公民

ノナレハ手續上違法ナリト言フヘカラス故ニ荒砥町會カ行ヒタル郡會議員ノ選舉會ハ無効ト爲スヘキ條理ナシト云フニ在リ

依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ
被告ハ西海枝政廣ハ郡制第十條第二項ノ規定ニ依リ被選舉權ヲ有スル者ナレハ其當選ハ有効ナリト
言フト雖モ郡制第十條第二項ノ規定ハ既ニ一旦公民權ヲ得タル者ニシテ單ニ其住居ヲ移シタル爲メ
町村ノ公民權ヲ失ヒタル場合ニ適用スヘキ規定ナリトス然ルニ西海枝政廣ハ九野本村戸長ヲ拜命シ
明治二十二年三月中則チ町村制施行前ニ九野本村ヘ寄留シタルコトハ甲第一號證ヲ以テ明瞭ナルヲ
見レハ同人ハ荒砥町ニ於テ二年以來住民ヨリシコトナク隨テ未タ公民權ヲ得タルモノト言フヲ得ス
又西海枝政廣ハ甲第二號證歸籍届ノ如ク明治二十二年七月中荒砥町ヘ歸籍シタルモノナレハ二年以
來九野本村ノ住民タル公民權ノ要件ヲ欠クヲ以テ同人ハ寄留地九野本村ニ於テモ亦タ公民權ヲ得
ルモノト言フヲ得ス之ヲ要スルニ西海枝政廣ハ荒砥町及九野本村何レノ地ニ於テモ公民タルノ資格
ヲ有セザル者ナレハ郡制第十條第二項ノ規定ニ依リ被選舉權ヲ有スルモノト言フヲ得ス其他原告
ノ爭フ所數點ニ涉ルト雖モ本案判決上必要ナキヲ以テ一々茲ニ之ヲ説明セス
右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ

被告ハ明治二十四年五月十八日荒砥町會ニ於テ執行シタル郡會議員選舉會ニ於テ選舉シタル西海枝
政廣ノ當選ヲ取消スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

○町會議員選舉人名簿更正請求ノ件 (十一)
○町村公費疑義ノ件

問 町村制第七條の其公費とは單に其町村の公費のみを云ふの義あるや。

答 其ある文字は町村公民を指したるものなれば其公費中には町村公費は勿論地方税備荒儲蓄金等を
を包含す。

〔判決例二十七年第十八號
同年四月二十日宣告〕

原告 群馬縣多胡郡吉井町 吉田 良策
被告 群馬縣多胡郡吉井町長 白田 東

右原告吉田良策外二十人ヨリ被告町長白田東ニ對スル町會議員選舉人名簿更正請求ノ訴願ニ付縣參
事會ノ裁決ニ不服ノ訴雙方ノ辯論ヲ聽キ遂審理處

原告等訴求ノ要旨ハ原告等ハ群馬縣多胡郡吉井町會議員補欠選舉ノ爲明治二十六年十二月九日ヨリ
町會議員選舉人名簿ヲ縱覽ニ供スルノ公告ヲ受ケタリ依テ該名簿ヲ閱覽スルニ勝島喜市外百五十六
人ノ氏名記入無之右ハ何レモ公民權アル者ナレハ選舉人名簿ニ登錄更正相成度旨一號證ノ通願願シ
タルニ當時吉井町ニ於テ代議機關無之ヲ以テ郡參事會ニ該訴願書ヲ提出セラレ候處二號證ノ通裁決
相成リタリ其裁決ニ服スル能ハスシテ三號證ノ通縣參事會ニ訴願書提出候處四號證ノ通裁決相成リ
タリ縣參事會裁決ノ要旨ハ町村制第七條第一項末段ニ其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル云々トアルハ該
町村ノ救助ヲ受ケタル者ハ勿論本件ノ如キ地方税又ハ備荒儲蓄金ヨリ食料其他ノ救助ヲ受タル者ヲ
モ包含スルノ規定ニシテ即勝島喜市外百五十六名ハ未公民權ナキ者トシ訴願人ノ申立相立タスト云
フニ在リ然ルニ町村制第七條一項末段其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル云々トアルハ該町村ノ救助ヲ受
タル者ノミヲ指稱スルモノニシテ其他ノ公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル者ヲ包含セス其理由ハ普通ノ文
體ニ於テ其ナル文義ハ常ニ特定ノ物體或ハ事項ヲ指示スルコト特ニ町村制第七條ニ於テ著明ナリト
ス即曰ク其町村ノ負擔ト云ヒ其町村内ニ於テ地租ヲ納メト云ヒ其町村ノ公民ト云ヒ同條ハ凡テ其ナ
ル文字ハ町村ヲ指示スル爲ニ用ヒタリ故ニ其公費ト指稱スルハ其町村公費タルコトヲ指示スルハ既

住民公民

住民公民

ニ文義上ニ於テ顯著明白ナリトス然ラハ則其ナル文字ニ指摘サレサル他ノ公費迄モ包含スト云フハ
 文法上既ニ誤レリ特ニ權利ノ得喪ニ關スル法律ハ之ヲ解釋スル頗ル嚴肅ニシテ附援スルヲ許サ、ル
 ナ通則トス然ニ町村制ノ法ヲ規定シタル法律ニ於テ其ナル文字ヲ以テ町村タルコトヲ指示シタルニ拘
 ラス公費ナル文字ニ拘泥シテ地方稅及備荒儲蓄金等ノ公費迄モ包含セシムルハ法律ヲ推援スルモノニ
 シテ行政者ノ分限ヲ越ヘ立法者ノ地位ヲ侵ス者ナリ然ラハ則テ町村公費以外迄モ包含スルノ規定ナ
 リト云フハ其當ヲ得サルモノナリ故ニ備荒儲蓄金市外百五十六名ノ受ケタル救助金ハ備荒儲蓄金又ハ地
 方稅教育費ナルニヨリ其公費トシテ本條ノ制裁ハ受クヘカラサル者ト確信スレハ縣參事會ノ與ヘタ
 ル裁決ヲ取消シ更ニ正當ノ判決ヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ吉井町會議員補選選舉ノ爲明治二十六年十二月九日ヨリ關係者ノ縱覽ニ供シタル
 吉井町會議員選舉人名簿ニ備荒儲蓄市外百四十四名ハ明治二十六年五月六日降霜ノ爲蠶桑ヲ害サレ收
 穫ヲ減シ自活シ能ハサルノ事故ヲ以テ救助ヲ出願シ備荒儲蓄金又ハ地方稅教育費ヨリ同年七月二十
 三日食料ヲ受ケシ者ナリ而シテ春山初五郎外十一名ハ同年七月四日旋風被害ノ爲家屋ヲ破壊セラレ
 タルノ事故ヲ以テ救助ヲ出願シ同年七月二十八日備荒儲蓄金ヨリ小屋掛料又ハ農具料ヲ受ケシ者ナ
 レハ町村制第七條末段其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラストノ法文ニ該
 當スルモノト認メ選舉人名簿ニ登錄セサルモノナリ町村制第七條ノ案スルニ本條ハ町村住民カ公民
 權ヲ享有スルニ付其要件ヲ指示シタルノ條章ナリ故ニ其町村ノ負擔ト云ヒ其町村ニ於テ地租ヲ納メ
 ト云ヒ其町村公民ト云ヒ其町村ニ於テ爲スヘキ事項ハ何レモ町村ノ二字ヲ冠シタリ然ルニ獨リ公費
 ノ頭字ニ限リ町村ノ二字ヲ除キ其ノ一字ノミヲ冠セシモノナリ然ラハ本條ニテ公費トスルモノニ就
 テノ明示ナキヲ以テ此公費ト稱スヘキモノハ普通公費ト解釋スルヲ當然ナリトス良シヤ一步ヲ讓リ
 原告等ノ云フ如ク其ナル文字ハ町村ヲ指示スル爲ニ用ヒタルモノトセハ本條中數ヶ所ヘ町村ノ二字

ヲ加ヘタルハ不要文字ヲ用ヒタルモノト云ハサルヲ得ス左ハナクシテ町村ノ二字ヲ用ヒタルハ町村
 三テ爲スヘキモノト否ラサルモノトノ分界ヲ明確ナラシム爲或ハ其町村トシ或ハ其ノ一字ノミヲ用
 ヒシハ立法者ノ注意ト云フヘキナリ原告等或ハ云ハン其公費云々ノ文字ヲシテ一切ノ公費ヲ云フモ
 ノナレハ其ノ一字ヲ冠スルノ要ナカラント這ハレ連續詞トシテ用フルニ何ノ妨ケカ之アラン原告
 等ハ又云フ權利ノ得喪ニ關スル法律ハ之ヲ解釋スル頗ル嚴肅ニシテ附援スルヲ許サスト云ヒナカラ
 其ノ一字ヲ以テ町村ノミニ限ルトノ解釋ヲ下セシハ之レ文字以外ニ意味ヲ附援スルモノニシテ想像
 ノ甚シキモノト云ハサルヲ得ス是ニ由テ之ヲ觀レハ本條中ノ公費ト稱スルハ普通公費ヲ指シタルモ
 ノニシテ町村稅中ヨリ支出シタル公費ハ勿論備荒儲蓄金又ハ地方稅救助費等一切ノ公費ヲ包含ス
 ルモノニシテ備荒儲蓄市外百五十六名ハ未ダ公民權ナキ者ナレハ縣參事會ノ裁決ハ正當ニ付本訴ハ直
 ニ排斥アランコトヲ請求スト云フニ在リ

依テ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

本訴於テ原告被告所爭ノ要點ハ町村制第七條第一項ノ公費中ニハ町村ノ經濟ニ屬スル公費ハ勿論
 備荒儲蓄金及地方稅教育費ヲモ包含スルヤ否ニ在リ而シテ原告ハ町村制第七條第一項末段其公費ヲ
 以テ救助ヲ受ケタル云々トアルハ該町村ノ救助ヲ受ケタル者ノミヲ指稱スルモノニシテ其他ノ公費
 ナリテ救助ヲ受ケタル者ヲ包含セス其理由ハ同條ニ其町村ノ負擔ト云ヒ其町村内ニ於テ地租ヲ納メ
 ト云ヒ其町村公民ト云ヒ凡テ其ナル文字ハ町村ヲ指示スル爲ニ用ヒタリ故ニ其公費ト指稱スルハ其
 町村公費タルコト既ニ文義ニ於テ顯著明白ナリト云フト雖同條後段ノ其ナル文字ハ町村公民ヲ指示
 スルモノナレハ其公費中ニハ町村公費及地方稅備荒儲蓄金等ヲ包含スル者ナリト謂ハサルヲ得ス故
 ニ縣參事會カ同條第一項末段ノ規定ハ町村ノ救助ヲ受ケタル者ハ勿論本訴ノ如キ地方稅又ハ備荒儲
 蓄金ヨリ食料其他ノ救助ヲ受ケタル者ヲモ包含スル者トシテ裁決ヲ爲シタルハ其當ヲ得タル者トス

住民公民

住 民 公 民

三十四

右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告等ノ負擔トス

○違法選舉取消請求ノ件 (十二)

問 制限特免議決の疑しきは單に議事録にのみ據り立證せされは特免の效を有せざるや。
答 議事録により確證するは勿論なるへしと雖ども他に正確なる事實に徴するも妨げあかるへし。

〔判決例 二十三年十二月二十六日宣告〕

原告 千葉縣印旛郡彌富村 押尾 忠治外三十一名
被告 同村村會議長 檜垣 榮三郎

右原告押尾忠治外三十一名ヨリ被告彌富村村會ニ對スル違法ノ選舉取消請求ノ件遂審理處。
原告陳述ノ要旨ハ町村委員及名譽職村長ハ町村制第六十五條第二項同制第五十三條第一項ニ從ヒ其
町村公民ニアラサレハ之ヲ選舉スルヲ得サルモノナルニ被告彌富村村會ハ公民權ナキ同村檜垣榮三郎
ヲ常設學務委員及村長ニ選舉セシハ違法ノ處分ニシテ榮三郎ハ明治二十二年六月檜垣家ヲ相續セシ
モ未ダ村費ノ負擔ヲ分任セサルト相續後ニケ年ヲ過キサルトテ以テ町村制第七條ノ公民タルニ必要
ナル條件ヲ具備セサルモノナリ彌富村村會ハ其ニケ年ノ制限ヲ村會ニ於テ特免ヲタリト云フモ當時之
ヲ證スヘキモノナキハ千葉縣印旛郡彌富村長武藤宗彬ノ裁決書説明中ニ明カニシテ不當ノ選
舉ナルニ依リ其選舉ノ取消ヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ニ於テ檜垣榮三郎ノ選舉ハ不當選舉ナルヲ以テ其取消ヲ請求スト云フハ取モ
直サス町村長及常設學務委員選舉ノ效力ヲ爭フモノニシテ其選舉ノ效力ニ關シテハ町村制中訴願ヲ
許シタル條項ナク隨テ出訴スルヲ得サレハ本件ハ棄却相成ルヘキモノナルヲ以テ其事實ニ立入り辯
難スルノ必要ナキカ如シト雖モ參考ノ爲メ之ヲ概陳センニ檜垣榮三郎ハ明治二十二年六月二十日檜
垣家相續以後檜垣家一切ノ動不動産ヲ承繼シタルモノニシテ被告村會ハ二十二年九月二十七日ノ議

住 民 公 民

三十五

決ニ於テ町村制第七條ニ設ケタルニケ年ノ制限ヲ特免シ同日直ニ常設學務委員ニ選舉シ尋テ本年一
月ニ至リ村長ニ選舉シタルニ原告ハ前村長カ昨年九月二十七日ノ村會議事録ヲ引カサルヲ奇貨ト
シニケ年ノ特免ヲ與ヘタルモノニ非ラスト主張スルモ本年一月村長選舉ノ場合ニ至ルマテ同村人民
ニ於テ榮三郎カ常設學務委員タル資格ニ就テ一モ異論ヲ唱ヘサリシヲ以テ事實ノ體カナルヲ證スル
ヲ得ヘシ況シヤ被告村會ガ本年四月ノ開議ニ於テ其特免シタル事實ヲ確認シタルヲヤ又檜垣榮三郎
ハ昨二十二年六月檜垣家相續ノ同時ニ於テ本村々費負擔分任ノ資格ヲ帶ヒ同年同月以後ノ村費ハ全
ク同人ノ負擔シタルニ拘ハラズ原告ハ右村費納付ノ時期カ昨年十一月ナリシヲ以テ同年九月村會カ
榮三郎ニ特免ヲ與ヘタリトズル當時ハ未ダ其村費ノ負擔ヲ分任セスト論難スルモ明治二十二年度ノ
豫算ハ同年十月村會ニ於テ議決シ同十一月ニ至リ檜垣家ノ負擔村費金額中十三田四十八錢七厘ノ内
同年六月本人父先代重右工門ヨリ假徴収ノ金額ヲ除キ殘金七田四拾貳錢八厘ヲ榮三郎ヨリ納税シタ
ルハ原告被雙方ノ認ムル所ニシテ榮三郎ハ其納付前既ニ之ヲ分任シ居ル者ナリ殊ニ榮三郎ハ未ダ戶主
トナラサル以前ヨリ若干ノ地所ヲ所有シ村稅負擔ノ資格ヲ有シ居ル者ナレハ昨年九月ニ於テ既ニ村
稅ヲ負擔分任セシモノタルハ疑フヘキニ非スト云フニアリ

依テ證據ヲ審閱シ雙方ノ辯論ヲ聽キ説明スル左ノ如シ
被告ハ町村長及委員ノ選舉ニ付テハ町村制中訴願訴訟ヲ爲シ得ヘキ明文ナシト云フモ本訴ノ起因ハ
檜垣榮三郎カ公民タル權利ノ有無ニ關スルヲ以テ同制第三十七條ニ依リ訴願訴訟ヲ爲シ得ヘキモノ
トス而シテ原告ノ申立ル所ハ檜垣榮三郎ハ常設學務委員選舉ノ當時公民タルノ要素ヲ缺クノミナラ
ズ町村制第七條ニケ年ノ制限ヲ特免シタルコトナシト云フニ在レトモ檜垣榮三郎ハ常設學務委員當
選前明治二十二年六月ニ於テ前戶主ノ動不動産全額ヲ相續シ且原告カ村會ニ於テ檜垣榮三郎ヲ村長
ニ選舉シタルヲ不當トシ本年四月訴願ヲシタル際村會カ明治二十二年九月二十七日日本村常置委員

一戸構成

三十六

選舉會ニ際シ前ノ議長村會ノ決議ヲ得テ特免シ以テ本村學務委員トナシタルハ確然タル公民ニシテ
彌富人民ガ一般ニ了知シ居ルハ論ヲ俟サル者ナリトノ裁決ヲ爲シタルニ據レハ彌富村會ニ於テ議決
ヲ以テ二ケ年ノ制限ヲ特免シタル者ト認定セザルヲ得ス故ニ公民權ナキ者ト認ムルヲ得サル者トス
右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ原告ノ請求相立ヌス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

○一戸構成

○公民權有無爭論 (十三)

問 父子同居し其父戸主あるときは子は一戸を構ゆるものと認めらるや。
答 戸主と非戸主とを問はず獨立の生計を営むの事實あれば一戸を構ふるものと認む。

〔判決例〕二十三年十一月廿一日宣告

原告 靜岡縣敷知郡濱松町元魚 澤田 寧
被告 同町長 内田 正

右原告澤田寧ヨリ被告内田正ニ對スル公民權ノ有無爭論ノ件遂審理處

原告人陳述ノ要旨ハ原告人ハ去ル明治十七年中濱松町元魚十一番地ニ於テ宅地ヲ購求シ自ラ家屋ヲ
建築シ戸主ノ資格ヲ以テ家事ヲ經營シ地租ハ勿論戸數割協識費等總テ上納シ來リ明治二十年三月ニ
至リ引佐郡三和村ヨリ本町ニ原籍ヲ移シタリ此際始メテ帳簿上ニ於テ實父和四郎カ戸主ニシテ原告
人ハ家族ノ地位ニ在ルコトヲ知リタリ然レトモ原告人ハ實際戸主ニ相違ナク當町役場ニ於テモ亦原
告人ヲ戸主ト認メ居レハコソ數年間原告人ヨリ諸般ノ租稅ヲ徵收シ原告人ヲシテ戸主ノ責任ヲ盡サ
シメタルコトハ甲第一號乃至第十五號證寫ノ如クナルニ明治二十二年四月町村會議員選舉ニ際シ戶
長ニ於テ公民名簿ニ原告人ノ名ヲ記載セサリシハ不當ナリト云フニ在リ

一戸構成

三十七

被告答辯ノ要旨ハ原告澤田寧ハ明治二十年二月二十四日本縣引佐郡三和村ヨリ本籍ヲ元魚町ニ移
シタリ其送籍第一號證寫ニ依リ主任吏員戶籍本簿ニ登錄セリ其際原告人ハ自己ノ名ヲ記シタル移轉
届書ヲ使テ以テ舊戶長ニ差出シタル處主任吏員該書面ヲ一覽シ澤田寧ハ戶主ニ非ス依テ本屆書ハ不
當ナレバ却下スル旨使ノ者ニ相違セリ其後同年三月二十三日原告人父和四郎ヨリ更ニ屆書ヲ差出シ
テ即チ第二號證寫ノ如シ又原告人ハ明治二十年前ヨリ本町紺屋及元魚町ニ別戶寄留シ居タルヲ以テ
原告人ノ名ヲ用ヒテ戶數割其他ヲ徵收シタルモノニシテ固ヨリ當然ノコトナリ同二十年以來父子同
居シテ戶主ハ和四郎ナルニ付改メテ和四郎ノ名ヲ以テ戶數割其他ヲ徵收スヘキ筈ナルニ前日同ク
原告人ノ名ヲ以テ徵收シタルハ當時吏員ノ不注意ニ出テタル者ナリト云フニアリ

依テ各證據書類ヲ閱シ説明スルコト左ノ如シ
本案ノ要點ハ戶主タルト否トニ依リ公民タル資格ノ有無爭フニ在リト雖抑町村制第七條ニ依レハ
滿二十五歳以上ニシテ一戸ヲ構ヘトアルハ戶主ト非戸主トヲ問ハス一戸ヲ構ヒ獨立ノ生計ヲ營ム者
ヲ云フモノニシテ本案原告人ニ於ケルヤ明治十七年中濱松町元魚十一番地ニ於テ自ラ宅地ヲ購求シ
家屋ヲ建築シ今日ニ至ルマテ諸般ノ義務ヲ負擔シ所謂一戸ヲ構ヘテ獨立ノ生計ヲ營ミタル事實アル
コトハ即チ甲第一號乃至第十五號證寫ヲ以テ之ヲ證明スルヲ得ヘシ殊ニ當時戶長ニ於テ一戸ヲ構ヘタ
ル者ト認メタルコトハ戶數割ヲ賦課シタルヲ以テ之ヲ觀ルモ明カナリトス又被告八八同二十年父子
同居シタル以來ノ納稅殊ニ所得稅ノ如キハ戶主即チ父和四郎ノ名ヲ以テ徵收スヘカリシニ非戸主即
チ原告人ノ名ヲ以テシタルハ當該吏員ノ不注意ニ出テタルモノナレハ原告人ノ納稅資格ニ算入スヘ
カラスト云フト雖所得稅法ハ徵稅上單ニ戶主ヲ以テ納稅者ト視ルニ過キヌシテ實際ノ納稅者タル資
格ヲ失フ者ニ非サルヲ以テ原告人ノ納稅ハ之ヲ納稅資格ニ算入シ得ヘキハ當然ノ事ナリトス故ニ被
告人ニ於テ原告人ヲ選舉人名簿ニ記入セサリシハ不當ノ處分ナリトス

一戸構成

右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ
原告澤田寧ハ町村制第七條ニ依リ公民タルノ資格ヲ有スル者トス但訴訟費用ハ被告人ノ負擔トス

○公民權ニ關スル件 (十四)

問 資産を有し公共事業に従事するの能力あれば一戸を構成するものと認むべきや。
答 獨立の實を表明せしめれば一戸を構成するものにあらず。

(判決例二十四年第四號)
同年六月四日宣告

原告 鹿島縣大隅國肝屬郡鹿屋村村長 永田 翁介
被告 同縣同國同村中名三番戶同居 吉原彌兵衛

右原告永田翁介ヨリ被告吉原彌兵衛ニ對スル公民權有無ニ關スル訴訟審理ヲ遂クル處
原告陳述ノ要旨ハ明治二十三年十一月二日日本村會議員補缺選舉會執行ニ付被告ニ於テ選舉人名簿
ヲ縱覽スルニ被告ノ氏名無之ヲ不當ナリトシ町村制第十八條ニ依リ原告ニ申立ヲ爲シタルヲ以テ同
制第三十七條ニ基キ村會ノ裁決ヲ經テ其裁決書ヲ被告ニ交付セリ然ルニ被告ハ之ニ服セス更ニ本郡
郡長ニ訴願ヲ爲シタルニ郡長ハ被告ヲ以テ公民權ヲ有スルモノト裁決セリ其理由トスル所ハ吉原彌
兵衛ハ鹿屋村ノ住民ニシテ地租十圓以上ヲ納メ本村ノ負擔ヲ分任シ吉原彌藏ト同居スルモ彌藏ニ嗣
子ナキヲ以テ該家ヲ補助スルヲ爲メ止テ得ヌ同居スルモノニシテ彌藏トハ經濟ヲ異ニシ獨立ノ生
計ヲナスハ本人ノ訴願書及吉原彌藏ノ申立ニ依リ明瞭ナリトアルモ被告ノ如キハ幼時父母ヲ失ヒ叔
父吉原彌藏ノ家ニ養育ヲ受ケ成長スルニ及ンテ今尙同居同炊數十年ノ久シキ未タ嘗テ獨立ノ家業ヲ
營ミタルノ證ナラズ且叔父彌藏ハ年齡五十強地租十一圓餘ヲ納メ家計亦貧ナラス何ゾ彌兵衛ノ補助ヲ
要センヤ又郡長カ吉原彌藏ノ申立ニ自分甥トハ常ニ生計ヲ異ニスル旨ヲ以テシタルヲ採用スルモ叔
甥ノ關係アルモノナレハ其申立ヲ以テ證據ト爲スニ足ラサルナリ故ニ原告ハ其裁決ニ服セスシテ客

一戸構成

年十一月二十一日付本縣知事ニ訴願ヲ爲シタルニ知事モ亦被告ノ叔父彌藏ト家計ヲ異ニスルヤ否ハ
關係人即チ家主吉原彌藏ノ證明ニ據リテ之ヲ定ムルニ足ルヲ以テ被告ハ公民權ヲ有スルモノトセリ
抑町村制第七條第二項ノ精神ハ戶主非戶主借家同居ノ別ヲ論セス自己獨立ノ業ヲ營ムモノハ公民權
ヲ有スルハ明ラカナルモ被告ハ獨立ノ業ヲ營ミタルトナク且地方稅ノ戶數割町村稅ノ戶別割等會
テ上納セシコトナキモノナルニ其納不納ヲ論セス又其骨肉ノ關係アル吉原彌藏ノ屆書ニ據リテ裁決
ヲ爲シタルハ不服ナルヲ以テ町村制第三十七條第三項ニ據リ出訴ヲ爲シタルト云フニ在リ
被告答辯ノ要旨ハ本訴ハ町村制第七條ヨリ原因シ來ルモノニシテ即チ同條ノ要件ヲ具備スルヤ否ノ
爭ニ外ナラス故ニ第一自己獨立ノ業ヲ營ムヤ否第二二戶ヲ構ヘ居ルヤ否ニ就テ之ヲ論辯セント
ス而シテ其第一ノ點ニ就テハ原告ハ戶主非戶主借家同居ノ別ヲ論セス自己獨立ノ業ヲ營ムモノハ公
民權ヲ有スル義ナルヤ明ナルモ被告ハ生來父母ヲ失ヒ叔父吉原彌藏ノ家ニ養育ヲ受ケ曾テ別家獨立
ノ業ヲ營ミタル證ナク隨テ地方稅ノ戶數割町村稅ノ戶別割ヲ分擔セサルカ爲メ公民權ヲ有セサルモノナ
リト云フモ彼地方稅ナルモノハ一縣ノ縣規ニ屬シ全國一般人民ノ遵守スヘキモノニアラス且毎年縣
會ノ議權内ニアルモノニテ一定不動堂堂タル法律ヲ左右スルノ効力ナキハ論ヲ待タズ之ニ隨從スル
村稅ニ於ケルモ尙且然リ原告カ該稅ヲ以テ公民權ノ有無ヲ判定スルハ町村制第七條其町村ノ負擔ヲ
分任シ云々トアルヲ以テ其分任ヲ缺ケリト云フニ在ルヘシト雖町村稅ナルモノハ戶別割ノミニ限ラ
ス營業割地價割等モアリテ其地價割ノ如キハ現ニ納メ居レリ且原告ハ被告カ戶數割稅ヲ負擔セシコ
トナシト云フモ被告ハ明治十三年以來十七年規則ノ改正マテ之ヲ負擔シタルモノニシテ十七年以來
負擔セサルハ自ラ負擔セサルニ非スシテ本縣ノ規則カ負擔セシメサルナリ然ルニ原告ハ尙ホ被告カ
同居者ナルヲ以テ自己獨立ノ業ヲ營ム能ハスト云フカ被告ハ明治十九年ニ於テハ本縣ノ茶業組合ヲ
組長ニ選舉サレ同二十三年ニハ茶業組合ノ幹事ニ當選シ村內一般ノ公益ヲサヘ計ルモノナリ殊ニ儼

二戸構成

四十

然タル一戸主ニシテ地租十圓以上ヲ納メ從來公務ヲ奉シタル履歴モ有之將タ妻子ヲモ養育シ居リテ其能力ニ缺クル所ナケレハ原告カ獨立ノ業ヲ營ム能ハスト云フハ無理ナル論點ト云ハサルヲ得ス第一ノ點ニ就テハ原告ハ町村制第七條末項ニ一戸ヲ構ヘ云々トアルヲ其文字ニ拘泥シ別居者ニアラサレハ獨立ノ實アルモノト雖悉ク公民權ヲ有セサルモノト云フカ是レ有形上ノ事實ト無形的獨立ノ事實アルモノトヲ混同スルモノナリ法律ニ一戸ヲ構ヘト示セルハ同居ト別居トヲ問ハス人ノ支配ヲ受クニ自由ニ生計ヲ營ミ得ルノ能力アルモノト云フノ意ニ外ナラサルヘシ殊更ニ別居タルヲ要スルノ個人主義ヲ採用シタルモノナレハ市町村ノ共同事業ニ參與スルコトヲ以テ以外ニ許サ、ル理ナキハ當然ナレハ苟モ一戸ヲ構ヘ獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ資産アル者ニハ公民權ヲ附與スルニ在リ而シテ一戸ヲ構ヘトハ必モ棟梁床壁ヲ異ニセル有形上ノ事實ヲ云フニ非スシテ別居同居ヲ論セス一家計ヲ立ツルニ足ルヘキ資産ヲ有スル即チ無形上一戸ヲ構成スルモノヲ云フナリ而シテ一家計ヲ立ツルニ足ルヘキ資産ノ標準ハ如何ト云フニ第七條ノ規定スル地稅ヲ納メ又ハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ皆此資産ヲ有スルモノト解セサルヘカラス蓋シ公民タルニ獨立男子タルコトヲ要ス所ナリ約言スレバ第七條第一項ノ財產ヲ(資産上ノ資格)獨立シテ經營(身體上ノ資格)スルモノハ國家ノ一要素ト認メ公民權ヲ附與シタルモノナリ被告ハ本家即チ叔父ノ宅ニ養育ヲ受ケタルモ前陳ノ如ク能力ヲ有スルヲ以テ別居スルハ何レノ時ト雖何ソ撰ハン然ルニ叔父彌藏夫婦ハ一ノ嗣子ナク且ツ叔母即チ彌藏ノ妻ハ病身ニシテ諸事ヲ端ヲ五十以上ノ老人ナル叔父一人ニ一任スルハ骨肉ノ間柄見ルニ忍ヒス故ニ彼等ヲ補助スル爲メ同居スルハ情誼上止チ得サル事實ニシテ被告ハ斷シテ町村制第七條ノ要件ハ具備シ居ルモノト確信スト云フニ在リ

依テ雙方ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ

本件原告被告所爭ノ要點ハ被告吉原彌兵衛ハ町村制第七條第二項一戸ヲ構ヘト云ヘル要件ヲ具フルモノナルヤ否ニアリトス而シテ被告ニ於テハ幼ニシテ父母ヲ失ヒタルヨリ其叔父吉原彌藏ノ家ニ在リテ養育ヲ受ケタリシモ成長ノ後其家ニ同居シアルハ叔父吉原彌藏カ一ノ嗣子ナク且彌藏カ妻ハ病身ナルヨリ叔父カ家事ヲ補助スルカ爲メニシテ自己獨立ノ業ヲ營ミ獨立ノ生計ヲ營ムヲ得ルノ能力アルハ被告カ明治十九年以來茶業組合ノ組長及蠶業組合幹事ニ當選シ其他公務ヲ奉シタルト一戸主ニシテ地租十圓以上ヲ納メ來ルヲ得ヘク其戸數割戸別割ヲ納メサルハ明治十七年以後本縣規則ノ然ラシムル所ナリト云フト雖被告ハ幼時叔父吉原彌藏ノ家ニ於テ養育ヲ受ケタル以來依然同居同業シ獨立ノ事實ヲ表明スルモノ無之ニ依リ町村制第七條第二項一戸ヲ構ヘタルモノト認ムルヲ得ス故ニ被告ハ公民權ヲ有セサルモノトス

○不當選舉取消ノ件 (十五)

土地家屋ヲ有スルも未タ戸數割ノ義務を負擔セシ加之選舉人名簿ニ登錄なきものは如何。
戸數割ノ負擔もさく且名簿ニ登錄せられざる事實に徴すれば一戸を構ひたるものと云を得ず。

〔判決例〕二十五年第十號
同年四月十九日宣告

原告 栃木縣那須郡金田村大字練貫 渡邊 六郎平
被告 栃木縣那須郡金田村々會議長 藤田 勇馬
代理金田村助役

右原告渡邊六郎平ヨリ被告藤田勇馬ニ係ル不當選舉取消ノ訴願栃木縣參事會裁決不服ノ訴遂審理處

一戸構成

四十二

原告訴訟代理人陳述ノ要旨ハ原告ハ公民權ヲ有セサルニ依リ名譽職村長ニ選舉セラルヘキ資格ナク又其職ニ就クノ義務ナキモノニシテ抑町村長ハ町村制第五十三條ニ依リ町村會ニ於テ其町村公民中年齡三十歳以上ニシテ選舉權ヲ有スルモノヨリ之ヲ選舉スルモノトシテ其所謂公民トハ制第七條ニ依リ必ス公權ヲ有スル獨立ノ男子タルヲ要シ獨立ノ男子トハ同條第二項ニ依リ必ス滿二十五歳以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサルモノタルヲ要ス然ルニ原告六郎平ハ明治二十一年三月十五日其家督ヲ養子六郎ニ譲リ現今同人ノ家ニ同居寄食シ居リテ村稅戸別割ヲ負擔セサルハ勿論其他ニモ更ニ一戸ヲ構ヘ居ルノ實ナキモノナリ故ニ其町村制第七條ノ要件ヲ具備セサルハ明ナリトス

栃木縣參事會ノ裁決ニ原告カ戸主六郎ノ代理トシテ家事ヲ經理スルコトアルヲ以テ獨立ノ事實ヲ具フルモノナリトアルモ代理トシテ家事ヲ理スルヲ以テ資格アリトセハ家僕食客モ皆公民權ヲ有スルニ至ラン世間豈如此ノ理アラシヤ又同參事會ハ原告カ山林二十町步畑六段步ヲ有スルヲ以テ獨立ノ男子ナリト云フモ財產ヲ有スルモノハ必シモ皆一戸ヲ構フル獨立ノ男子ナラサルカ故ニ之ヲ以テ直ニ制第七條ノ資格ヲ具有セリト推定スルヲ得ス況ンヤ原告名義トナリ居ル財產ハ其實戸主六郎ノ所有ニシテ家督相續ノ際事故アリテ其所有名義ヲ書換サリシモ其收益處分ノ實權ハ全ク六郎ノ握有スル所ナルヲ又況ンヤ其財產ヨリ生スル所得ハ年々僅ニ五六圓ニ過キスシテ之ヲ以テ一戸ヲ構フサルハ甲第七號證一乃至同證ノ三明治二十二年以來渡邊六郎ニ於テ戸別割ヲ納メタル領收書及甲第六號證明治二十二年四月以降確定選舉名簿ニ原告カ登錄ナキトノ證明書ニ依リテ明瞭ナレハ本件金田村會カ原告ヲ名譽職村長ニ選舉シタル不當ノ選舉ヲ取消サレンコトヲ請フト云フニ在リ

被告訴訟代理人陳述ノ要旨ハ原告ハ町村公民タルノ權利ナキヲ以テ名譽職村長ニ選舉セラルヘキ資格ナク又其職ニ就クノ義務ナシト云フモ法律ニ一戸ヲ構ヘトアルハ同居ト別居トヲ問ハス獨立ノ生

一戸構成

四十三

計ヲ營ムノ實アルモノヲ云フノ意義ニ外ナラサルヘシ同條項ノ定義ニ就テハ明治二十二年三月三十日茨城縣伺ニ對シ内務省指令ニ父子兄弟ノ別ナク獨立ノ生計ヲ營ムノ事實アルモノハ一戸ヲ構ヘタルモノトストアルヲ以テ其精神ノ在ル所ヲ知ルニ足ル抑町村制第七條ノ規定タル族制主義ニアラサルヤ明カニシテ戸主以外ノモノト雖同條ノ要件ヲ具備スルニ於テハ公民タル權利ヲ享有スルコト言フ待タズ原告ノ現ニ居住スル家屋ハ戸主ノ所有ニアラス原告自己ノ財產ニ屬スルヲ以テ假令戸主家屋スルトスルモ原告カ戸主ニ同居寄食スルニアラスシテ却テ戸主原告ノ家屋ニ寄寓スルモノナリ或ハ原告ハ養子六郎ヲ戸主トナスノ當時ニ於テ讓與セシモノナリト言ハンモ地所建物ノ權利移轉ニ就テハ明治二十年法律第一號第一條ニ依リ登記ヲ請ハサルヘカラス然ルニ乙第一號證ノ如ク原告ハ曾テ家屋ヲ戸主ニ讓與セシコトナキカ故ニ法律上原告ノ所有ニ非スト認定スルヲ得サルヲ以テ原告ハ儼然一戸ヲ營ミ居リ毫モ獨立タルノ事實ニ於テ關ケル所ナク況ンヤ戸主ノ家屋セサルニ於テオヤ又原告ハ栃木縣參事會ノ裁決ニ對シ原告名義ノ山林二十餘町步畑六段步ハ其實戸主六郎ノ所有ニシテ收益處分ノ權ハ戸主ニ在リト云フモ何ニ依リテ之ヲ明示シ得ルヤ又原告ハ財產ヲ保有スルモノハ必スシモ皆一戸ヲ構フル獨立ノ男子タルカト論難スルモ原告ハ尊族親ニシテ衣食悉ク戸主ノ供給ヲ受クルモノトセハ他ノ非戸主ト性質ヲ異ニスルヲ以テ何ゾ自ラ特別ニ財產ヲ所有スルノ必要アラシヤ然ルニ依然原告ノ名義トナシアルハ其收益ノ如何ヲ問ハス獨立ニ生計ヲ營ムノ實ヲ表明スルモノト謂ハサルヲ得ス且財產ヨリ生スル所得ハ年々五六圓ニ過キス云々ト云フト雖是不實ノ言ナリ原告所有ノ山林二十餘町步ヨリ生スル所得一段步最低二十錢ノ收益ト假算スルモ四十餘圓ニ上レリ之ニ陸田ノ收益ヲ合算スレハ其所得ノミナリテテスルモ敢テ低度ノ生計ヲ營ムニ難カラス單ニ村稅中戸別割ヲ負擔セサルノ理由ハ本訴ノ論據ト爲スニ足ラサルナリ町村制第七條ノ精神ヲ約言スレハ獨立シテ家事ヲ經理シ第一項ノ要件ヲ具フルモノ公民權アリト云フニ外ナラス以上論スルカ如ク原告ハ公民

一戸構成

四十四

マルノ資格アリテ年齢三十歳以上ナルヲ以テ本村會カ原告ヲ名譽職村長ニ選舉シタルハ町村制第五十三條ノ規定ニ違背セサルモノト確信スト云フニ在リ

依テ雙方ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ閱シ説明スル左ノ如シ

本件所争ノ主點ハ原告カ町村制第七條獨立ノ男子タル實ヲ具フルモノナリヤ否ニ歸セリ而シテ被告ハ原告カ獨立ノ男子タルヲ主張シテ原告ノ現ニ居住スル家屋ハ原告ノ所有ナリ原告所有ノ土地ヨリ生スル收益ハ低度ノ生計ヲ營ムニ難カラサルナリ故ニ原告ハ獨立ノ男子ナリト云フト雖町村制第七條第二項ニ此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歳以上ニシテ一戸ヲ構ヘ云々トアルニ依レハ原告カ家屋ヲ有シ若クハ土地ハ所得ヲ有スルモノ一戸ヲ構ヘタルノ實ヲ具備セサル以上ハ未タ以テ獨立ノ男子ト稱スルヲ得ス而シテ原告ノ舉證ニ依ルニ金田村ノ戶別割ハ明治廿二年以來戶主六郎ヨリ納メ來レリト云フヲ以テ之ヲ枿木縣内町村戶別割賦課法ニ照依スルニ戶別割ハ地方税ノ戶數割ニ附加スルモノニシテ其同縣戶數割賦課法第一條ニ戶數割ハ本籍寄留戶主非戶主自家借家ノ別ナク毎戶現住者ニ賦課ストアレハ金田村カ同村戶別割ヲ戶主六郎ニ課シタルハ六郎カ戶主タルノ故ヲ以テ之ヲ賦課シタルニアラス一戸ヲ構ヘタルモノト認メタルモノニシテ之ニ反シ原告ニ課セサルハ原告カ一戸ヲ構ヘサルモノナルコトヲ知ルニ足ルヘク且其同村確定選舉名簿中ニ原告ヲ加ヘサルヲ以テ之ヲ觀ルモ原告ヲ以テ獨立ノ男子タルニ關ケル所アル者ト認定スヘキニ依リ金田村會カ原告ヲ名譽職村長ニ選舉シタルハ其當ヲ得タルモノト謂フヘカラス

右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ

本件金田村會カ原告渡邊六郎平ヲ名譽職村長ニ選舉シタル選舉ハ之ヲ取消スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

租稅滯納

○租稅滯納處分中公民權停止ノ件 (十六)

問

町村制第九條租稅滯納處分中公民權停止は何れの時より始まるや。

滯納者カ財產差押の處分を受たる日より始まるものとす。

〔判決例〕二十六年第二十二號
同年七月十日宣告

原告 長野縣北安曇郡廣津村 原 三津吉
被告 長野縣北安曇郡廣津村 宮田今朝次

右原告原三津吉ヨリ廣津村長宮田今朝次ニ係ル村會議員當選取消ノ訴訟文書ニ就キ審理ヲ遂ケル處原告請求ノ要旨ハ明治二十五年四月十九日北安曇郡廣津村々會議員ニ級選舉會ヲ施行シ原告ト丸山源吉トハ得點同數ナリシモ源吉年長者タルノ故ヲ以テ當選者ト爲リタリ然ルニ該選舉人ノ内太田兼吉山崎寅十吉澤清八中山又衛ノ四名ハ二十四年度ノ縣稅ヲ怠納シ長野縣廳ハ之カ爲メ明治二十五年三月六日付ヲ以テ財產差押ノ命令ヲ發シ同人等ハ現ニ租稅怠納處分中即チ同月日ヨリ公民權停止中ニ在リテ選舉ノ投票ハ爲シ得可カラサルモノナルニ拘ラス之ヲ行ヒタルモノナレハ該投票ノ混入セラルモノニ由テ得タル丸山源吉ノ當選ハ取消ス可キモノナリ而シ源吉カ村會及郡參事會ノ裁決ニ服セズトシテ縣參事會ヘ爲シタル訴願ニ對シ縣參事會ハ收入官吏ノ財產差押ニ著手シタル四月二十四日ヲ以テ滯納處分ノ起算點ト爲ス可キハ當然ニシテ其前四月十九日ノ選舉ニ太田兼吉外三名カ爲シタル投票ハ有効ナリトシ郡參事會ノ裁決ハ之ヲ取消スト裁決シタルニ滯納者カ處分ヲ受ケタル時ヲ以テ始マル可キモノニアラス且縣知事ハ甲第六號證ノ如ク訓令第百一十一號第四項ヲ以テ該起算點ハ國稅滯納處分法第十二條ニ依リ財產差押命令書ヲ交付シタル日ヨリ公民權ヲ停止ス可キモノトスト解

租稅滯納

四十六

釋セリ是レ原告ノ服從スル所ナルノミナラス爾來此解釋ヲ以テ縣下一般ニ施行セラレツ、アルモノ、如シ又縣參事會ハ選舉ノ結果ニ異動アルトキハ其全體ヲ取消ス可キモノナルニ郡參事會カ無資格者ノ投票アリシ爲メ選舉ノ結果ニ異動アリトシ獨丸山源吉ノ當選ヲ取消シタルハ適法ニアラスト説明スレトモ他ノ當選者二名ハ該無効投票ヲ引去ルモ異動ヲ生セズ獨丸山源吉ハ原告ト得票同數ナルカユエニ何レカ當選者タルヤ測リ知ル可ラス換言スレハ投票無効ノ決定ハ丸山源吉ノ當選ヲ取消スニ十分ノ價アルモノナレハ之カ取消シテ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ本件ノ事實ハ原告陳述ノ通りニシテ太田兼吉外三名カ公民權ハ北安曇郡長ヨリ財產差押命令書ヲ發シタル明治二十五年三月六日ヲ以テ停止セラレタルモノナレハ村會議員選舉當日即チ同年四月十九日ハ公民權停止中ニ付同人等ハ選舉ニ參與スルヲ得ス而シテ差押命令書ハ國稅滯納處分法第二十三條ニ依ルニ滯納者ハ何時ヨリ該處分ニ著手セラレタルヤ知ルヲ得サルモノ、如シテ雖郡長ハ明治二十五年二月二十二日付ヲ以テ滯納者各自ニ對シ直接ニ督促令狀ヲ發シタルモノ、如シテ依リ滯納者ハ之ヲ受ケル日ヨリ五日ヲ經過スルトキハ財產差押ニ著手セラレタリト自認ス可キ事ニシテ被告ハ明治二十三年八月八日縣知事ノ訓令及內務書記官ノ通牒ト同趣意ナルヲ以テ該訓令ヲ遵守シ公民權停止ノ起算點ハ差押命令書ノ日付ニ在リテ差押ノ日ニ在ラサルモノナリト確信ス如何トナレハ滯納者多數ナルトキハ一日間ニ差押ヲ爲ス如キハ實際ニ爲シ能ハサルナリ若縣參事會說明ノ如ク差押ノ日ヨリ起算ス可キモノトスレハ同一ノ納稅義務ヲ怠ルモノニシテ收入官吏著手ノ順序ニ依リ權利ノ停止ニ遲速アリト云ハサル可カラズ是レ誤レルノ甚シキモノナリ又縣參事會ハ選舉ノ結果ニ異動アルトキハ選舉ノ全體ヲ取消ス可キモノナルニ無資格者ノ投票アリシ爲メ選舉ノ結果ニ異動アリトシ獨丸山源吉ノ當選ヲ取消シタルハ適法ニアラストシ郡參事會ノ裁決ヲ取消シタルレトモ町村制第二十九條ハ選舉全體ニ關スル規定ニ背ケル場合ニ限りタルモノニシテ選舉者ニ若干

ノ無資格者アリテ投票ヲ爲スカ如キハ其結果ニ異動ヲ生スルアルモ只其異動ヲ生スル者ノ選舉ヲ取消セハ可ナリ引テ選舉ノ結果ニ異動ナキ者ノ當選ヲ取消スニ及ハス若一人ノ當選ニ效果ノ異動アル爲メニ選舉ノ全部ヲ取消スモノトスレハ選舉人投票權ノ既得ノ權利ヲ害スルノミナラス實際之ヲ取消スノ必要アラサルニ其全體ヲ取消ス如キハ其道理ニ反スルモノトス依テ丸山源吉ノ選舉ニ付テハ長野縣參事會ノ裁決ヲ取消シ北安曇郡參事會裁決ノ通判決アリタシト云フニ在リ

依テ雙方ノ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ニ於テ町村制第九條ノ租稅滯納處分中トハ處分ノ權力ヲ有スル官廳カ處分ニ著手シタル時ヲ以テ起算ス可キモノニシテ決シテ滯納者カ處分ヲ受ケタル時ヲ以テ始マルモノニアラス依テ長野縣廳カ太田兼吉外三名ニ對シ發シタル財產差押命令ハ明治二十五年三月六日ナレハ其後選舉當日即チ四月十九日ハ四名共處分中ニ係ルモノナルユエ投票ノ權ヲ有セサルニ拘ラス之ヲ爲シタルニ由リ選舉ノ結果ニ異動ヲ生ス可キモノニシテ丸山源吉ノ當選者ト定メタルハ違法ナル旨ヲ主張スト雖租稅滯納ノ處分ニ關シ町村制第九條第二項公民權ノ停止ハ滯納者カ財產差押ノ處分ヲ受タルニ因テ始マルモノニシテ其前ニ於テ滯納處分ノ手續ニ著手シタルモ未ダ以テ滯納者ニ對シ其公民權ヲ停止シタルモノナリト言フヲ得ス依テ本件太田兼吉山崎寅十吉澤清八中山又衛カ財產差押ヲ受ケタル日ハ四月二十四日ナルヲ以テ選舉當日ハ公民權ヲ有スルモノナレハ同人等ノ投票ハ共ニ有效ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生ス可キ理由ナキモノトス故ニ明治二十五年四月十九日廣津村ニ於テ執行シタル村會議員二級選舉ハ取消ス可キモノニアラス

前項ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ原告ノ請求相立タズ訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

租稅滯納

四十七

訊問 拘留

○訊問 拘留

問 豫審中の訊問も裁判上の訊問と云ふべきや且有給村町該訊問を受ける時は解職すべきや
 答 豫審中の訊問と雖裁判上の訊問あり又有給村長にも制第九條末項を適用すべき者とす。

〔判決例二十六年第十八號〕
 同年五月一日宣告

原告 秋田縣山本郡鶴川村長代理助役 兒玉久左衛門
 被告 秋田縣山本郡長

御代 弦

右原告鶴川村長代理助役兒玉久左衛門ヨリ被告山本郡長御代弦ニ對スル村長解職ニ關シ秋田縣參事會ノ裁決不服ノ訴訟遂審理處
 原告訴求ノ要旨ハ原告ハ村會議員選舉罰則違犯被告事件嫌疑ノ爲明治二十五年九月二十日秋田地方裁判所豫審判事ノ訊問ヲ受ケタルモ固ヨリ無實ノ事ナルヲ以テ單一ノ審問ニシテ其儘免訴トナリタリ然ルニ同月二十四日ニ至リ山本郡書記高垣新悟ヨリ村長ノ職務ハ自然相解ケタル旨ヲ村長代理助役兒玉久左衛門ニ達セラレタルニ依リ同年十月二日ニ村長小田部家利ハ解職ノ届出ヲ爲シ同月五日ヲ以テ村會ヲ開キ村長解職ノ件ヲ議セシメタルニ村會ハ解職ノ理由ナキモノトシ解職届書却下ニ決シタリ依テ其旨ヲ郡長御代弦ニ報告シタルニ再議ニ附スヘキノ訓令ヲ受ケタルニ依リ再ヒ村會ヲ開キ村長解職ノ件ヲ議セシメタルニ前議決ノ通り決シタルヲ以テ郡參事會ノ裁決ヲ請ヒタルニ村會ノ議決ハ違法ナリトノ裁決ヲ受ケタルヲ以テ進ジテ縣參事會ニ訴願ヲ爲シタルニ同參事會ニ於テモ亦山本郡參事會カ與ヘタル裁決ハ取消スヘキモノニアラスト裁決シタリト雖抑豫審ハ證據ノ蒐集ヲ爲スモノニシテ未タ罪ノ有無判然セサル場合ニ之ヲ裁判ニ附スルノ價值アルヤ否ヲ決定スルニ過キサルヲ以テ專ラ秘密ヲ主トスルモノナリ故ニ豫審ノ言渡ハ之ヲ裁判若クハ決定ト稱スルコトナシ

訊問 拘留

換言スレハ豫審ハ裁判ノ準備ナリ其裁判内ニ設クルノ故ヲ以テ裁判ナリト云フハ實ニ皮想ノ見ナリト云ハサルヘスヲ豫審訊問ハ裁判所上ノ訊問ト云フハ可ナルモ未タ之ヲ裁判上ノ訊問ト云フヘカラス故ニ町村制第九條第二項ニ依リ裁判上ノ訊問ナリトシテ公民權ヲ停止スルニハ裁判ノ訊問ニ係リタルモノナラサルヘカラス又町村制第九條末項町村公民タル者ニ限リテ任スヘキ職務ニ在ル者トハ即チ制第七條ノ要件ヲ具備シ公民タルノ權利義務トシテ擔任スヘキ名譽職ニ在ル者ヲ指シタルモノナルコトハ同條第一項ニ町村公民タル者第七條ニ掲載スル云々トアルニ照ラシテ明カナリ制第五十六條ニ曰ク町村長及助役ハ名譽職トス但第五十六條ノ有給町村長及有給助役ハ此限ニ在ラスト而シテ其第五十六條第二項ニ曰ク有給町村長及有給助役ハ其町村公民タル者ニ限ラズト是明ラカニ名譽職町村長ハ公民ニ限リテ任スヘク有給助役ハ公民タルニ限ラサルコトヲ規定セルモノナレハ隨テ第九條末項ハ有給町村長ニ適用スヘキモノニアラサルコトハ瞭々トシテ火ヲ見ルカ如シ勿論制第五十六條第二項但書ニ依リ有給町村長助役ト雖當選ニ應シ認可ヲ得ルトキハ其公民タルノ權ヲ得ヘキモ是唯町村ノ高等吏員タルノ故ヲ以テ然ルニ過キサルノミ要スルニ一ハ公民タル權利ハ原因トナリ之ニ附著シテ職務ヲ負フモノニシテ一ハ職務ハ原因トナリ之ニ附隨シテ公民權ヲ得ルモノナリ二者其性質ニ於テ相異ナルコト此ノ如クナルヲ以テ制第九條末項ニ於テ殊ニ町村公民ニ限リテ任スヘキ云々ト明記シタルモノナリ然ルニ秋田縣參事會ニ於テ村會ノ議決ハ法律ニ違背シタルモノナリト裁決シタルハ不當ナリト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ被告ハ原告カ犯罪被告事件ニ付明治二十五年九月二十一日秋田地方裁判所豫審判事ノ通知ヲ受ケタルニ依リ同月二十五日ヲ以テ村長ノ職務ハ自然相解ケタル旨ヲ村長代理助役兒玉久左衛門ニ達シタルニ同年十月二日ニ至リ村長小田部家利ハ解職届ヲ村役場ヘ提出シタリ村長代理助役ハ該届書ヲ以テ同月七日開會ノ村會ニ付シ其認否ヲ求メタル處村會ハ有給村長ハ假令裁判上ノ

訊問拘留

訊問ヲ受クルモ解職スルノ理由ナキモノトシテ届書却下ノ議決ヲ爲シタル旨ヲ以テ助役ノ報告ニ接シタル後同月十五日ニ訓令ヲ發シ再議ニ附スヘキ旨ヲ命ジタリシニ同月十九日開會ノ村會ハ尙其議決ヲ改メサルニ依リ村長代理助役兒玉久左衛門ヨリ郡參事會ノ議決ヲ請ヒタルモノニシテ同村會ハ其議決ニ服セス更ニ縣參事會ニ訴願シ尙又其議決ニ服セスシテ今回ノ訴訟ヲ提起シタリ然ルニ町村制第九條ニ於テ裁判上云々トアルハ豫審ト公判トノ區分ヲ認メタルモノニ非サルハ法意ニ依テ自ラ明白ナリ何トナレハ豫審ト公判トハ裁判上手續ノ區別ニシテ其刑事裁判權ノ支配スヘキ範圍内ナルヤ論ヲ俟ヌス果シテ然ラハ豫審中ノ訊問拘留ハ勿論證據ノ蒐集等ニ至ルマテ總テ裁判ノ上即チ裁判ニ關シタルモノニアラサルハナシ故ニ況ク裁判上トシテ豫審中ノ訊問ト公判中ノ訊問トノ區別ヲ認メサル法意タルハ毫モ疑フヘキニアラサルナリ況ンヤ町村貴重ノ職務ニ在ル者ニシテ一旦裁判ニ關シタル法律ノ精神ナルヲ以テ固ヨリ豫審ト公判トヲ問ハス齊シク之ヲ以テ裁判上ノ訊問云々ト爲シタルコト明瞭ナリ又町村制第五十六條第二項但書ニ有給町村長及有給助役ハ當選ニ應シ認可ヲ得ルトキハ其公民タルノ權ヲ得トアルヲ以テ有給町村長タルトキハ公民權ヲ享有スルモノニシテ之ヲ換言スレハ公民權ナキ有給町村長ナキヲ以テ有給町村長ハ公民ニ限リ任スヘキ職務ノ一ナリト云ハサルヘカラス若シ原告論旨ノ如ク有給町村長ナレハ公權ヲ停止スヘキ重罪ノ被告トナリ訊問ヲ受クルモ依然公職ニ在ラムトセンカ同ク町村ヲ統治スル村長ノ重職ニ在ル者ノ公德威信ヲ失墜スル此ノ如キノ甚キニ至ルモノハ名譽職タルノ故ヲ以テ職ヲ解キ一ハ有給タルノ故ヲ以テ職ヲ執ラシムルノ不都合アルニ至ルヘシ名譽職村長ハ從來公民權ヲ享有シ有給職ハ當選認可ト同時ニ公民權ヲ享受スルモノナレハ時ニ前後遲速アルノニ公民タル分限ニ於テ差異アルヘカラス故ニ有給町村長ハ必ス公民權ヲ有セサルヘカラスアルハ法律ノ結果ニシテ乃チ公民ナラサレハ公職ニ就クヲ得サルノ理由ヲ生スヘキハ當

訊問拘留

然ナリ然ルニ有給町村長ヲ以テ公民ニ限リ任スヘキ職務ニアラスト云フハ法文ヲ誤解スルモノト爲ササルヘカラスト云フニ在リ依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ本訴原告カ法律ノ解釋ヲ異ニシ争フ所ノ要點ハ町村制第九條第二項裁判上ノ訊問ハ豫審中ノ訊問ヲ包含スルヤ有給町村長ニシテ同制第九條ノ場合ニ當ルトキハ其職務ヲ解クヘキモノナルヤノ二點ニ歸著ス而シテ原告ニ於テ豫審ハ裁判ノ準備ナリ其裁判内ニ設クルノ故ヲ以テ裁判ナリト云フハ實ニ皮想ノ見ナリト云ハサルヘカラス豫審訊問ヲ裁判所上ノ訊問ト云フハ可ナルモ未ダ之ヲ裁判上ノ訊問ト云フヘカラスト故ニ町村制第九條第二項ニ依リ裁判上ノ訊問ナリトシテ公民權ヲ停止スルニハ公判ノ訊問ニ係リタルモノナラサルヘカラスト云フト雖モ豫審判事カ重罪被告事件ニ付被告ヲ訊問スルハ即チ刑事訴訟ノ手續ニ於ケル裁判上ノ訊問ニシテ單ニ公判ニ付シタル場合ニ限リ裁判上ノ訊問ナリト云フコトヲ得ヌ又原告ハ町村制第五十五條ニ町村長及助役ハ名譽職トス但第五十六條ノ有給町村長及有給助役ハ此限ニアラストアリ其第五十六條第二項ニ有給町村長及有給助役ハ其公民タル者ニ限ララストアリ是明カニ名譽職町村長ハ公民ニ限リ任スヘク有給職町村長ハ公民タル者ニ限ラサルコトヲ規定セルモノナレハ隨テ第九條末項ハ有給町村長ニ適用スヘキモノニアラスト云フト雖町村制第五十六條第二項但書ニ有給町村長ハ當選ニ應シ認可ヲ得タルトキハ其公民タルノ權ヲ得トアルヲ以テ之ヲ見レハ有給町村長ハ其町村公民タル者ニ限ラス之ニ任セラル、ヲ得ヘク其公民權ヲ有セサル者ヲ選舉シ其當選ニ應シテ府縣知事ノ認可ヲ得タルトキハ同時ニ町村公民タルノ權ヲ得ルモノナレハ公民權得有ノ上ニ於テハ前後ノ別アルニ拘ラス町村公民タル者ニ限リ任スヘキ職務ニ在ルノ點ニ於テハ名譽職町村長ト異ナル所ナキヲ以テ町村制第九條末項ヲ有給町村長ニ適用スルハ正當ナル法律ノ解釋ナルニ鶴川村會ニ於テ原告ノ職務ハ解クヘキモノニアラスト議決シタルハ法律

訊問拘留

ニ違背シタルモノト謂ハサルヲ得ス
右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ原告ノ請求相立マス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

○町長解職ノ件 (十八)

豫審判事ノ訊問も裁判上ノ訊問なりや。
然り。

問 一旦訊問を受たるも即日歸宅し公務に従事中免訴となりたる場合にも解職すへきものありや。
答 訊問を受るときは直に公民権は停止せられたるものあるを以て假令免訴となるも解職すへきもの
のどす。

問 前問の如き場合に於て町村會は解職すへきものにあらずと云ふ如き議決を爲し得るや。
答 議決し得ず。

〔判決例 二十五年第九十九號
二十六年三月二十三日宣告〕

原告 佐賀縣小城市小城市長 吉 富 忠 墨
被告 知事 永 峯 彌 吉

不服ノ訴審理ヲ遂クル處
原告請求ノ要旨ハ原告カ明治二十五年二月十八日兇徒聚衆被告事件ニテ佐賀地方裁判所豫審判事ノ
召喚ヲ受ケ一應訊問ノ上同夜直ニ歸町ヲ命セラレ依然職務執行中五月十三日免訴トナリタリ然ルニ
數月ヲ經突然小城市長石井普一ヨリ解職ノ通知アリタルヲ以テ七月二十日原告ハ之ヲ町會ニ附シ町

訊問拘留

會ノ意見ヲ聞キタルニ町會ハ解職シ理由ナキモノト議決シ郡長ニ報告シタル處同月二十六日小城市長
役所ヨリ小城市長書記白井齊ヲ小城市長職務管掌ニ命シタル旨通知シ來リ而シテ白井齊ハ八月九日小
城市會議長ノ名ヲ以テ町村制第六十八條ニ依リ再議ニ付セシモ町會ハ前議決ヲ更メサルニ依リ之ヲ
不當トシテ郡參事會ノ議決ヲ請ヒシニ郡參事會ハ町會ノ議決ヲ越權ナリトシテ之ヲ取消シタルヲ以
テ更ニ縣參事會ノ議決ヲ請ヒシニ縣參事會ニ於テモ亦町會ノ議決ヲ越權ナリトシテ郡參事會ノ議決
ヲ有效ト爲シタリト雖抑モ町村制ハ町村ノ自治及ヒ自主權ヲ保護センカ爲ニ編製セラレタルモノニ
シテ其制中規定セザル所ハ一モ自治自主ヲ保護スルノ意ニアラサルハナシ故ニ條文中尙モ制裁ナキ町
村自動的ノ事項ハ其自主權ニ依據シテ措置スヘキ素ヨリ町村自治ノ原則タリ縣參事會ノ決裁中ニモ
町村制第九條末項ハ同第二項ニ該リタル者ハ町村會ニ於テ必ス解職セサルヘカラサルノ法文ナリト
云ヒシ如ク其職務ニ任シ若クハ辭職ノ許否權アル町村會ニ於テ必ス解職セサルヘカラサルヤ明瞭ニシテ
又爭フ所ナシ然ルニ縣參事會ハ町村會ニ於テ必ス解職セザルヘカラサルノ法文ト云ヒナカラ其解否
ヲ議決シ得ヘキノ法文ニアラスト云フハ我町會ノ解スル能ハサル所ニシテ且ツ町村制第九條ノ末項
ハ同條第一項第二項ト其文意ヲ異ニスルモノナレハ町村長ヲ選舉スルノ權能アル町村會カ其解職ヲ
議スルニ當リ果シテ解職スヘキモノナリヤ否ノ事實ヲ審査スルハ當然ノ事ニシテ其審査ノ結果若シ
解職スヘキモノニアラスト議決シタル上ハ郡參事會若クハ縣參事會ニ於テ之ニ喙ヲ容ルヘキノ理由
ナキナリ又町村制第九條第二項中公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪ノタメ裁判上ノ訊問若ク
ハ拘留中トハ豫審廷ノ訊問ヲ指シタルモノニアラストシテ豫審終結後檢事ノ告訴ヲ爲シタル時ヲ分界
ト爲ス正當トス何トナレハ豫審ハ豫備ノ訊問ニシテ未ダ罪ノ有無ノ定マラサルヲ以テナリ殊更ニ
公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪ノタメ裁判上ト明記セサルヲ以テ其豫審ヲ包含セサルヤ知
ルヘキノミ良シ豫審中ヲモ含蓄シタリトスルモ訊問若クハ拘留中トアリテ一旦訊問若クハ拘留ヲ受

訊問拘留

五十四

ケタルモノトノ意ニアラス免訴後既ニ復權シタルノ今日ニ遯ンテハ其職ヲ解クヘキノ點ヲ視出スコト能ハサルナリ何トナレハ第九條ノ末項ハ公民タルノ權ヲ停止セラレタル場合ニ適用スヘキモノニシテ公民タルノ權ヲ停止セラレ、ニハ乃チ訊問若クハ拘留中ニアラサレハ能ハス然ルチ免訴後ニ於テモ解職セサルヘカラスト云フニ至リテハ不當ノ見解ト云ハサルヲ得ヌ又原告ハ佐賀地方裁判所豫審判事ノ發シタル勾引狀ニ依リ勾引セラレタルモ勾引ト拘留トハ差違アルモノニシテ勾留ハ其實際公民權ヲ行フ能ハサルニ依リ町村制第九條第二項ニ於テ自ラ公民權ヲ停止スルノ結果ヲ生セシムト雖勾引ハ否ラス原告ノ如ク調濟上直ニ歸宅ヲ許サレタル者ハ召喚ヲ受ケタルモノト異ナルコトナク公民權ヲ停止セラレタルニアラサレハ從テ解職セラレヘキ理由ナキモノナリ又同條第二項ノ公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪云々トアルハ其結果ヨリ推シテ現ニ重輕罪アリタルカ爲メ訊問若クハ拘留ヲ受タル場合ニ適用スヘキモノニシテ原告ノ如ク免訴トナリタル場合ニ適用スヘキモノニアラス然ルニ縣參事會ハ小城町會カ在再町長ノ解職處分ヲ緩慢ニ附シ其本分ノ責ヲ盡ササリシハ法律上ノ正文ヲ無視シタル不當ノ措置ナリト云フト雖明治二十五年二月小城郡荊刈村長モ原告ト同シク佐賀地方裁判所豫審判事ノ召喚ヲ受ケタルニ小城郡役所ハ村會ノ意見ヲモ問ハス直ニ村長ヲ解職シタリ由是觀之今日ニ至リ監督官廳カ其當時法律ノ見解ヲ誤リタリト陳辯スルモ荊刈村長ヲ解職シタルヲ見レハ其當時ノ見解ト今日ノ見解ト同一ニテアリシコト瞭然タリ若シ荊刈村長ヲ解職スルノ道理アラハ同時ニ原告ヲモ解職スヘキニ監督官廳ハ當時原告ヲ解職セサルノミナラス原告ノ尋子ニ答ヘテ解職ニ及ハサル旨ヲ指示シタリ然ルニ今小城町會カ當時原告ヲ解職セサルノ過誤ノ如ク縷言スト雖其過誤ハ監督官廳自ラ之ヲ爲シ今日ニ遯ンテハ全ク其實實隱蔽シテ罪ヲ町會ニ歸セントスルハ一郡一縣ノ行政事務ヲ取扱フ官廳ノ爲スヘキ事ニアラス今日ニ至リテ無理ニ原告ヲ辭職セシメントスルハ町會ノ議權ヲ蹂躪シ町村ノ自治ヲ抑壓破壞セントスルモノニシテ我町會ノ服從ス

ル能ハサル所ナリ之ヲ要スルニ小城町會カ町長解職ノ理由ナキモノト議決シタルハ不當ニ付取消スヘキモノトスト裁決シタルハ不當ノ裁決ナルヲ以テ町會ノ議決ヲ有效ナラシメントチ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告カ明治二十五年二月衆議院議員總選舉ニ當リ兇徒聚衆ヲ爲シタル被告事件ニ付同月十八日佐賀地方裁判所ノ拘引ヲ受ケ訊問ノ末免訴言渡ヲ受ケタルニモ拘ハラヌ其當時ノ事實ニ付町會ハ解職ノ手續ヲ爲サ、リシヲ以テ遂ニ七月十五日小城郡役所ヨリ其手續ヲ了スヘキコトヲ通告シタリ然ルニ町會ニ附議シ其意見ヲ求メ解職ノ理由ナキモノト議決シ之ヲ郡長ニ報告シ依然トシテ原告ハ其職務ヲ執行スルニ依リ郡長ハ之ニ解職ヲ訓示シ而シテ小城郡書記白井齊ニ小城町長職務掌管ヲ命シタリ於是白井齊ハ其議決ヲ不當トシ監督官廳ノ指揮ニ依リ再議ニ附スト雖猶前議ヲ更メサルヲ以テ即チ町長職務掌管タル白井齊ヨリ郡參事會ノ裁決ヲ請ヒタルニ依リ之カ取消ヲ命シタリ然ルニ之ヲ不當トシ縣參事會ニ訴願スト雖縣參事會ハ其裁決ヲ至當ト認メ九月五日ヲ以テ町會ノ議決ハ取消スヘキモノトスト裁決ヲ與ヘタリ抑町村長カ町制第九條第二項ニ該リタルトキハ町村會ニ於テ必ス其職務ヲ解カサルヘカラスト云フハ法文ノ明示スル所ニシテ町村會ニ於テ其解否ヲ議決シ得ヘキニ非サルハ被告カ裁決書ニ於テ述フル所ノ如シ唯事實ノ眞偽ヲ審查スルハ町村會カ爲シ得ル所タリト雖町村制第九條末項ハ町村公民タル者ニ限リテ任スヘキ職務ニ在ル者本條ノ場合ニ當リタリト認ムルトキハ其職務ヲ解クヘキモノトスト云フニ非スシテ本條ノ場合ニ當ルトキハト云ヘリ故ニ第九條第二項ニ該當セルト否トハ町村會ノ認定ニ一任セラレタルモノニ非ザルヲ以テ假令町村會ニ於テ第九條第二項ニ該當セスト審查認定スト雖若シ其認定ニシテ事實ニ反スルトキハ其議決ハ正當ノ議決ト云フヲ得ヌ本件原告カ兇徒聚衆事件ニ付裁判所ノ訊問ヲ受ケタルハ蔽フヘカラストノ事實ナレハ即チ第九條末項ノ制裁ハ免カルヘカラスト同項ノ法文ハ法律上當然解職スヘシトノ意ニシテ

訊問拘留

五十五

訊問拘留

職務自ラ消滅スルモノナレハ町會ニ於テ之ニ反スル議決ヲ爲シタルハ不當ノ議決ナリ又町制第九條第二項ニ於テ裁判上ト明示シタルハ其字義廣クシテ原告カ云ヘル如ク豫審終結後ノミチ指スカ如キ狹隘ナル法文ニアラス豫審ト公判トヲ合セテ云フノ謂ナリ夫レ檢事ノ豫審ヲ請求スルヤ即チ起訴ナリ豫審判事ハ起訴ニ依リ被告人ノ訊問及證據物件ノ取調ヲ爲スモノナリ何ゾ之ヲ裁判上ノ訊問ニ非スト云フヲ得ンヤ又町制公民タル者ニ限リテ任スヘキ職務ニ在ル者カ苟モ斯ル重罪ノ嫌疑ヲ以テ裁判上ノ訊問ヲ受ケタル以上ハ公民タルノ權ヲ停止セラレタルモノナリ公民ノ權ハ町制第九條ニ以テ消滅ニ歸セサルヲ得ス故ニ町制第九條ノ明示スル所ニ從ヒ其職務ヲ解クノ手續ヲ盡スヘキハ當然ナリトス蓋シ町制長等ノ如キ町制公民タル者ニ限リテ任スヘキ職務ニ在ル者カ町制第九條ニ該當シ公民タルノ權ヲ停止セラレタルトキハ其職務モ亦同時ニ消滅ニ歸スヘキハ法理上當然ノ結果ニシテ他ヨリ其職務ヲ解クマテ依然繼續スヘキ理由アルコトナシ故ニ第九條末項ニ於テ云々シタルトキハ其職務ヲ解クヘキモノトスド云ヘルハ云々ノ場合ニ於テハ町制長等ノ職務消滅ニ歸スルヲ以テ町制第九條ニ與ヘ又ハ第九條ニ該當スルヤ否ノ認定ヲ町制長等ノ職務消滅ニ歸スルヲ以テ町制第九條ノ旨ニ於テ町制長等ノ職務ヲ盡サスト雖町制長ノ職務ハ訊問又ハ拘留ニ係ルト同時ニ消滅スヘキニ依リ免訴後公民タルノ權ハ復活ス下雖町制長ノ職務ハ復活スヘキニアラサルヲ以テ町制長ハ免訴後雖其盡スヘキ職務ノ手續ヲ盡サハカラス然ルニ小城町會ハ原告ノ訊問中解職ノ手續ヲ盡サスシテ免訴後ニ至リタチ奇貨トシ解職スヘキモノニアラスト議決シタルハ法律ニ背キタル不當ノ議決ナリ又勾引ト拘留トノ差違ノ如キハ本件ニ付之ヲ論スルノ必要ナキモノトス何トナレハ町制第九條第二項ニ訊問中云々トアリテ原告ノ如ク一旦訊問ヲ受ケタルトキハ其時間町制長ノ職務ヲ行フコト能ハサルカ故ニ同條末項ニ依リ解職スヘキモノナレハナリ右ノ外原告ノ陳述スル所ハ本訴ノ争點ニ關係ナキヲ以テ答辯セス又原告カ監督官廳ニ向テ解職ノ如何ヲ尋子タルニ其義ニ及ハサル旨ヲ指示セリト云フノ事實ハ被告ニ於テ之ヲ認メス以上ノ理由ニ依リ小城町會ノ議決ハ法律ニ背反セル不當ノ議決ニシテ之カ取消ヲ命シタル郡參事會ノ議決ハ取消スヘキモノニアラスト被告ニ於テ裁決シタルハ其當ヲ得タルモノナレハ原告ノ請求ハ排斥アリタシト云フニ在リ

依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ハ町制第九條ノ末項ハ其第一項第二項ト文意ヲ異ニシ町制長ノ解職ハ之ヲ選舉スルノ權能アル町制會ニ於テ議決セサルヘカラス果シテ然ラハ町制會カ之ヲ議決スルニ當リ其解職スヘキモノナリヤ否ノ事實ヲ調査シ若シ解職スヘキモノニアラスト議決シタルトキハ其議決ハ有效ナリト云フト雖同條末項ノ規定ハ町制公民タル者ニ限リテ任スヘキ職務ニ在ル者裁判上ノ訊問若クハ拘留中ナルトキハ町制會ニ於テ其職務ヲ解クヘシト命シタルモノニシテ町制會ニ於テ解職スヘキモノナリヤ否ノ事實ヲ調査シ其調査ノ結果ニ依リ解職セサルコトヲ得トスルモノニアラスト又原告ハ豫審廷ノ訊問ヲ受ケタルノミチ以テハ同條第二項ニ記セル裁判上ノ訊問若クハ拘留ニ相當スルモノニアラスト云フ下雖豫審判事カ重罪被告事件ニ付被告人ヲ訊問スルハ即チ刑事訴訟ノ手續ニ於ケル裁判上ノ訊問ニシテ單ニ公判ニ付シタル場合ニ限リ裁判上ノ訊問ナリト云フコトヲ得ス又原告ハ同條第二項ニ訊問若クハ拘留中トアリテ一旦訊問若クハ拘留ヲ受タルモノトノ意ニアラサレハ免訴後既ニ復權シタル後ニ於テハ解職スヘキノ理由ナシト云フト雖原告ノ如キハ明治二十五年二月十八日ニ豫審判事ノ勾引狀ヲ受ケ五月十三日ニ免訴トナリタルハ其數月ニ涉レル訊問中公民權ヲ停止セラレハニ依リ町會ニ於テ其間ニ解職ノ手續ヲ爲スヘキニ之ヲ爲サザリシカ爲メニ監督官廳ニ於テ其職務ヲ解キタルハ不當ナリト云フコトヲ得ス又原告ハ勾引ト拘留トハ公民權ヲ停止スルト否トニ付其結果ヲ異ニス

訊問拘留

確定名簿

五十八

云フト雖原告ハ現ニ裁判上ノ訊問ヲ受ケタルモノナレハ本件ニ關シ敢テ拘引ト拘留トノ差別ヲ論スルノ要ナク又原告ハ町村制第九條第二項ノ公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪云々トアルハ其結果ヨリ推シテ現ニ重輕罪ヲ犯シタル場合ノミナ云フモノニシテ原告ノ如ク免訴トナリタル場合ヲ指シタルモノニアラスト云フト雖同條第二項ハ其有罪トナルト無罪ナルトノ結果知何ヲ願ルコトナク總テ重輕罪ノ訴アリタルカ爲メ裁判上ノ訊問若クハ拘留ヲ受ケタル場合ヲ指シテ言フモノナレハ假令後ニ免訴トナルモ訊問中ノ者ハ其公民權ヲ停止シ從テ又其職務ヲ解カサルヘカラサルモノトス前項ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ原告ノ請求相立タヌ訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

第三類 選舉人名簿ノ正否并等級ノ當否

◎確定名簿

○市會議員選舉ニ關スル件 (十九)

問 無資格者にして選舉人名簿に登錄せられ確定したるときは選舉權を行ふことを得るや。
無資格者は選舉人名簿に登錄せられたりとして資格を得るものに非ざれば矢張選舉權を有せず。

〔判決例二十五年第五十四號〕
原告 東京市淺草區永住町 高村 武成
被告 東京府知事 富田鐵之助

右原告訴訟代理人高梨哲四郎三浦大五郎ヨリ東京府知事富田鐵之助ニ掛ル選舉ニ關スル訴訟審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ明治二十五年五月三十日淺草區役所ニ於テ執行シタル市會議員選舉ノ際第二級選舉ノ結果ハ辰巳小次郎六十一點今井喜八六十點大谷雄二五十二點安井治兵衛一點ノ得票者アリタレ

トモ其投票者中佐藤伊八ハ無資格ニシテ梅木忠藏ハ二級選舉ヲ爲シ得可キ資格ヲ有セス且兩人ノ投票ハ全ク辰巳小次郎ヲ選舉シタル事實ナレハ之ヲ取除キ殘票數ヲ以テ第二點者ト爲サ、ル可カラス故ニ原告ハ選舉ノ効力ニ關シ東京市會ニ訴願シ市會ハ該選舉ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行フヘキコトヲ裁決シメリ然ルニ辰巳小次郎ハ之レニ服セス東京府知事ニ訴願シ知事ハ原告ニ於テ選舉權ノ有無及選舉等級ノ當否ニ關シ異議アラハ市制第十八條ノ期限内ニ申立サル可カテス其期限經過後ニ至リテハ訴願ノ効ヲ失ヒタルモノト爲シ五月三十日ノ二級選舉ハ取消ス可キモノニアラスト裁決ヲ爲シタレトモ市制第十八條ヲ汎博無限ノ意義ニ解釋シ去リテ名簿確定ノ效果ハ死者ヲモ活カシ無權利者ヲモ有權者ヲラシムルコト恰カモ神ノ如キモノトスレハ同制第二十八條ニ選舉ノ効力ニ關シ訴願ノ手續ヲ定メタルハ謂レナキニアラスト同條及第三十五條ハ選舉以後ニ關セリ其選舉以後ニ於テ訴願スルコトヲ得ルハ第十八條カ左マテ汎博ニ意義ヲ有スルモノニアラサル確證ニシテ第二十九條ニ至リ第十八條ノ意義顯確日ヲ視ルカ如シ且被告ノ告知書ニ依レハ東京市會議員辰巳小次郎ヨリ提出シタル訴願ヲ市制第三十五條ニ依リ受理シタルモノナレトモ同條ハ訴願者其者ト市長ニ就テノミ上訴權ヲ與ヘタルモノナレハ之ヲ受理ス可キモノニアラスト元來團體ナル市會議員タルモノハ一個獨立シテ其資格ナキハ論テ竣タス且裁決ニ依リ資格ノ喪失シタルニ拘ラス殊ニ同條第四項ノ如キハ遠ク拋擲シテ市會ノ裁決執行ヲ停止シ其資格ノ應用ヲ許シ之レヲ審判シタルモノナリ又暫ラク辰巳小次郎ハ公民權ヨリ訴願シタルモノト爲サンカ當初ノ訴願者ニアラスト殊ニ第二級選舉ニ無關係ノ第三級選舉者カ突然他人ノ訴願ニ對シ其結果自家一身ノ上ニ利害ノ干係アリト云フヲ以テ自テ進テ訴願ヲ爲シタルモノナルヲ被告ハ汎博ノ意義ニ解釋シ之ヲ採納シ東京市會ノ議決ヲ破却シテ願慮セサルハ決シテ適法ノ處置ニアラサレハ速カニ被告ノ爲シタル裁決ヲ取消シ更ラニ原告カ主張スル所即チ東京市會議決ノ如ク裁判アランコトヲ請フト云フニ在リ

確定名簿

五十九

行政裁判判決問答

被告答辯ノ要旨ハ明治二十五年五月三十日市會議員選舉ノ際梅木忠藏ハ二級選舉人タルノ資格ナク
 佐藤伊八ハ市制第七條ノ要件ヲ有セサルモノニシテ共ニ其選舉名簿ニ登錄セラレタルハ事實ナルモ
 該名簿ハ制第十八條ニ依リ四月二十五日ヨリ七日間關係者ノ縦覽ニ供シ五月十九日ヲ以テ確定シ之
 レニ依テ選舉ヲ執行シ辰己小次郎ハ有效投票ノ多數ヲ得テ當選シ該選舉ハ毫モ選舉ノ定規ニ違背シ
 タルモノニアラス元來原告所爭ノ主要ハ選舉權ノ有無及選舉等級ノ當否ニ在リ若シ此等ノ點ニ對シ
 異議アラハ縦覽期限内ニ申立ヲ爲サ、ル可カラス然ルチ期限經過後ニ至リ訴願セシハ其效ヲ失ヒタ
 ルモノナリ抑市制第十八條ニ依リ選舉人ノ資格等級ノ當否等ニ付關係者ノ訴願ナクシテ名簿確定シ
 之レニ登錄セラレタル者ハ何人ト雖モ選舉ニ關スルコトヲ得ルハ同條第二項ノ法文ニ照ラシテ明カ
 ナリ故ニ原告カ主張スル選舉權ノ有無等級ノ當否ノ如キハ正ニ制第十八條ノ期限内ニ爭フヘキ事件
 ナリ以テ第二十八條ノ選舉ノ定規ニ比附援引シ選舉ヲ無効ニ歸セントスルノ一原因ト爲スニ至リテハ
 至リ筋違ヒナリ又原告ハ市制第三十五條市會議員選舉ノ效力ニ關スル訴願ニ付テハ當初ノ訴願者及
 市長ノ外ハ訴願權ヲ有セサルモノナルニ辰己小次郎ノ訴願ヲ受理シ之ヲ審判シタルハ違法ナリト言
 モ同條第二項ノ不服アル者トハ獨リ當初ノ訴願者ノミニ限リタル明文ナキ以上ハ選舉ノ效力ニ關シ
 利害ノ關係ヲ有スルモノハ總テ包含シタルモノナリ又其第四項ヲ拋擲シタリト言フモ該項ハ第一項
 ノ事件ヲ停止セストノ意味ナリ故ニ辰己小次郎ハ市會議員タルノ資格ヲ保有シ又同條ニ依リ訴願ス
 ルコトヲ得ルモノナレハ原告ノ請求ハ排斥アリタシト云フニ在リ

依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

被告ニ於テ明治二十五年五月三十日市會議員選舉ノ際梅木忠藏ハ二級選舉人タルノ資格ナク佐藤伊
 八ハ市制第七條ノ要件ヲ有セサルモノニシテ共ニ其選舉名簿ニ登錄セラレタルハ事實ナルモ該名簿
 ハ制第十八條ニ依リ四月二十五日ヨリ七日間關係者ノ縦覽ニ供シ五月十九日ヲ以テ確定シタル名簿

行政裁判判決問答

ニ依テ選舉ヲ執行シ辰己小次郎ハ有效投票ノ多數ヲ得テ當選シタルモノナルハ該選舉ハ毫モ選舉ノ
 規定ニ違背セシコトナシ元來原告所爭ノ主要ハ選舉權ノ有無及選舉等級ノ當否ニ在リ若シ是等ノ點
 ニ對シ異議アラハ縦覽期限内ニ申立ヲ爲サ、ル可カラス然ルチ期限經過後ニ至リ訴願セシハ其效ヲ
 失ヒタルモノナリト云フト雖市制第十八條ハ確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ何人トモ選舉ニ關
 スルコトヲ得ス又此確定名簿ハ當選ヲ辭シ若シハ選舉ノ無効トナリタル場合ニ於テ更ニ選舉ヲ爲ス
 トキモ亦之ヲ適用ス可キ規定ニ過キス而シテ同制第七條ニ市公民タルノ資格ヲ定メ第八條及第十二
 條ニ公民タル者ハ選舉權ヲ有スル原則ヲ規定シタルモノナレハ該資格ナキ者ハ即チ選舉權ナキモノ
 ナリトス故ニ無資格者ニシテ選舉名簿ニ登錄セラレハコトアリシトスルモ名簿確定ノ效力ニ因リテ
 有資格者ト爲ルコトヲ得ス然ルニ本件ノ二級選舉ニ於テ梅木忠藏佐藤伊八カ爲シタル投票ハ無資格
 者ノ投票ニシテ且投票ハ何人ノ得票ニ歸シタルヤ之ヲ知ルニ由ナキモノナレハ該二級選舉ハ有效ニ
 當選ノ效果ヲ生ス可キ理由ナキモノトス其他雙方ノ辯論アリト雖必要ナキニ由リ説明ヲ付セス
 右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ明治二十五年五月三十日淺草區役所ニ於テ執行シタル淺
 草區選出市會議員ノ二級選舉ハ之レヲ無効トス訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

○選舉人名簿訂正ノ件 (二十)

問 町村長は選舉人名簿の縦覽期限後誤謬あるものとを發見するときは之を訂正するよとを得るや。

答 法律に基キ訴願裁判の結果に依るにあらざれば濫りに加除訂正を爲すべからず。

判決例二十五年第八十三號

原告

和歌山縣那賀郡上岩出村笠
松兵左衛門外八十六名總代

笠松官三郎 外一名

被告

和歌山縣那賀郡上岩出村
村會議長岡村長

岩崎兵之右衛門

確定名簿

六十二

確定名簿

右原告笠松兵左衛門外八十六名總代笠松官三郎外一名ヨリ被告村長岩崎平之右衛門ニ係ル村會議員選舉會全部取消ノ訴訟審理ヲ遂クル處

原告總代人請求ノ要旨ハ明治二十五年三月和歌山縣那賀郡上岩出村ニ於テ執行シタル村會議員改選及補缺選舉會ハ甲第一號乃至甲第六號證ノ如ク長谷川快存外五名ノ公民權ヲ有セサル者カ投票ヲ爲シタルニ依リ其投票ハ無効ニ歸シ隨テ其選舉ノ結果ニ異同ヲ生シ重大ノ瑕瑾アルモノナリ又選舉名簿ハ町村制第十八條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ調製シ第二項ノ規定ニ依リ七日間關係者ノ縱覽ニ供シ若シ脱漏又ハ誤載アルトキハ關係者ハ書面ヲ以テ右縱覽期限內ニ町村長ニ申立テ町村長ハ同制第三十七條第一項ニ依リ町村會ヲ開キ其裁決ヲ經テ修正スヘキモノハ修正シ修正スヘカラサルモノハ修正セサルニ止マルモノナルニ被告村長ハ乙第八號證ノ如ク藤田總右衛門等ノ申立ノミニテ他ニ訴願者ナキニモ拘ハラズ縱覽期限滿了後ニ至リ其選舉人名簿ニ加除訂正ヲ爲シタルコトハ追甲第二三號證ノ如クニシテ被告カ職權ヲ濫用シタル違法ノ處置ナリ又原告カ曩ニ村會ニ訴願シタルトキハ笠松官三郎外四名ナリシニ依リ其五名ハ出訴權アルモ其他ハ本件ニ對シ訴權ヲ有セスト抗辯スルモ原告等ハ總代ヲ委任シ訴願シタルモノナレハ訴權ナシト謂フ可カラズ要スルニ以上ノ事實ニシテ明治二十五年三月上岩出村ニ於テ執行シタル選舉會ハ違法ナルヲ以テ町村制第二十九條ニ依リ其選舉會全部ノ取消ヲ乞フト云フニ在リ

被告訴訟代理人答辯ノ要旨ハ原告ニ於テ被告カ明治二十五年三月上岩出村ニ執行シタル村會議員ノ選舉會ハ公民權ヲ有セサル長谷川快存吉村幸左衛門岸本文助石橋藤左衛門石橋善吉谷澤虎市ノ六名カ投票ヲ爲シタル不法ノ選舉會ナリト云フト雖モ長谷川快存外五名ハ選舉人ノ資格ヲ有スルモノナルコトハ乙第一號乃至乙第七號證ヲ以テ明確ナリ又本訴原告等八十九名ノ内笠松官三郎久保定吉福田右平中井定四郎前田福松ノ五名ハ曩キニ本件ニ付村會及郡參事會ノ職務ヲ行フ郡長及縣參事會

ノ職務ヲ行フ縣知事ニ順次訴願ヲ提起シ其裁決ヲ經テ出訴シタルモノナルモ餘ノ八十四名ハ單ニ縣知事ニ訴願シタルノミニシテ町村制第三十七條ノ訴願手續ヲ履行セサル者ナレハ本訴ヲ提起シ得ヘキモノニアラス又選舉人名簿ノ縱覽期限後ニ至リ追甲第二三號證ノ如ク被告カ告示ヲ以テ該名簿中ノ人名ヲ加除訂正シタルハ違法ナリト云フモ抑選舉人名簿ハ町村制第十八條縱覽期限中ニ在テ關係者ヨリ異議ノ申立アレハ村會ノ裁決ニ依リ處分スヘキモ若シ其期限後ニ至リ被告村長カ誤謬ヲ發見セシトキ之ヲ訂正スルハ不可ナルコトナシ況ンヤ被告カ該告示ヲ以テ之ヲ訂正シタルハ村會議員選舉ノ期日迄十日ノ猶豫アルニ於テオヤ要スルニ本件ハ以上ノ事實ナルヲ以テ原告カ選舉會取消ノ請求ハ排斥アリト云フニ在リ

依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ
原告總代人ハ曩キニ本件ニ付村會及郡參事會ノ職務ヲ行フ郡長ニ訴願ヲナシタルトキハ原告等ノ總代委任ヲ以テ訴願ヲ經盡シタルニ依リ原告等總人員ハ出訴權アリト云フト雖今同立證トシテ提出セル甲第四號訴願書ニハ笠松官三郎久保定吉福田右平中井定四郎前田福松五人ノ署名ノミニシテ別ニ總代アリシ證據ナキニ依リ右五名ヲ除ク外原告八十四名ハ其訴願ヲ經盡シ出訴權アリト謂フ可カラズ又被告訴訟代理人ニ於テハ町村會議員ノ選舉人名簿ハ縱覽期限後ニ至ルモ若シ誤謬ヲ發見シタルトキハ之ヲ訂正スルヲ得ヘキモノナリト云フモ町村制第十八條ノ規定ハ其名簿縱覽中及期日後ニ至テハ法律ニ基キ訴願裁決ノ結果等ニ依ルニアラザレハ濫リニ加除訂正ヲ爲シ得ヘキモノニアラス然ルニ被告ハ選舉人名簿縱覽期日ニ至リ自己ノ見込ヲ以テ甲第二三號證ノ如ク加除訂正ヲ爲シ其名簿ニ依リ本件選舉ヲ執行シタルモノナレハ明治二十五年三月上岩出村ニ於テ開キタル村會議員選舉會ハ適法ニ成立シタルモノト謂フヘカラス其他雙方ニ於テ論辯スル所アルモ必要ナキヲ以テ説明ヲ與ヘズ

確定名簿

確定名簿

六十四

右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ
原告笠松官三郎久保定吉福田右平中井定四郎前田福松ヲ除ク外八十四名ニ對シテハ本訴ヲ棄却ス
明治二十五年三月上岩出村ニ於テ執行シタル村會議員ノ選舉ハ無効トス
訴訟費用ハ被告ノ負擔トス但笠松兵左衛門外八十三名ニ就キ生シタル費用ハ同人等ノ負擔トス

○村會議員選舉取消ノ件 (二十一)

問 選舉人名簿の私擅に變更し能はざるは前問答に依り了せしも此の名簿に據り行ひたる選舉は。違法の行為に原因したる選舉人名簿に據りて執行したる選舉をれば當然無効なりとす。

〔判決例二十五年第七十四號〕

右原告増田九平治ヨリ高志村長塚田吉藏ニ係ル選舉名簿縱覽期限違法ニ付該選舉會取消請求ノ訴訟
審理ヲ遂ツル處
原告請求ノ要旨ハ本村々會議員半數定期改選ニ際シ明治二十五年二月二十八日ヨリ三月五日マテ七日間ヲ選舉名簿縱覽期間ト定メシニ其終了期日ニ先タツコト僅カニ一日即チ三月四日ニ至リ被告ハ
二級選舉名簿中ニ登錄セシ樋口彌市樋口萬藏ノ兩名ヲ一級選舉名簿中ニ編入シ爲メニ兩名簿ノ變更
ヲ爲シ縱覽期日ハ之レカ爲メ延長スルコトナク三月五日ヲ以テ終了トナシ三月二十九日三十日ノ兩
日ヲ以テ選舉會ヲ執行シタルトモ七日ノ期間ハ關係者ノ縱覽ニ供シ之ヲ熟知セシムルノ期間ナレハ
此期間内ニ於テ變更アリタルトキハ更ラニ七日間ヲ經サル可ラス然ラサレハ其變更ハ關係者ニ於テ
之ヲ知ルコトヲ得サルニ至ルモノナリ如此違法ノ名簿ニ原因スル選舉會ナレハ是亦不當ノ選舉會ナ
ルニエ之レヲ取消シ更ラニ正當ノ選舉會ヲ開ク可キ様裁判アラントテ請フト言フニ在リ

原告請求ノ要旨ハ本村々會議員半數定期改選ニ際シ明治二十五年二月二十八日ヨリ三月五日マテ七日間ヲ選舉名簿縱覽期間ト定メシニ其終了期日ニ先タツコト僅カニ一日即チ三月四日ニ至リ被告ハ
二級選舉名簿中ニ登錄セシ樋口彌市樋口萬藏ノ兩名ヲ一級選舉名簿中ニ編入シ爲メニ兩名簿ノ變更
ヲ爲シ縱覽期日ハ之レカ爲メ延長スルコトナク三月五日ヲ以テ終了トナシ三月二十九日三十日ノ兩
日ヲ以テ選舉會ヲ執行シタルトモ七日ノ期間ハ關係者ノ縱覽ニ供シ之ヲ熟知セシムルノ期間ナレハ
此期間内ニ於テ變更アリタルトキハ更ラニ七日間ヲ經サル可ラス然ラサレハ其變更ハ關係者ニ於テ
之ヲ知ルコトヲ得サルニ至ルモノナリ如此違法ノ名簿ニ原因スル選舉會ナレハ是亦不當ノ選舉會ナ
ルニエ之レヲ取消シ更ラニ正當ノ選舉會ヲ開ク可キ様裁判アラントテ請フト言フニ在リ

確定名簿

六十五

被告答辯ノ要旨ハ村會議員半數改選ニ付名簿縱覽ノ期日等ハ原告ノ陳述相違ナキモ原告ハ縱覽期限
内ニ何等ノ申立ヲ爲サズ名簿確定シ選舉會終了後本年四月四日ヲ以テ該選舉取消ノ訴願ヲ村會ニ提
起シタルトモ縱覽期限經過後ナルニ因リ訴願相立タズ郡參事會縣參事會ニ於テモ亦之レモ却下セラ
レタルノ事實ニシテ被告カ執行シタル名簿縱覽及ヒ議員選舉ハ何レモ其手續了シ聊カ違法ナク假
令違法ノ所爲アリトスルモ已ニ其違法申立ノ期限ヲ經過セシモノナレハ縣參事會ノ裁決ハ至當ナル
ニ因リ原告ノ請求ハ排斥アリタシト言フニ在リ

依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
本件選舉會ニ對シ原告ニ於テハ被告カ選舉名簿縱覽期限滿了ニ先タツコト一日明治二十五年三月四
日ニ至リ二級選舉名簿中ニ登錄セシ樋口彌市外一名ヲ一級選舉名簿中ニ編入シ爲メニ兩名簿ノ變更
ヲ爲シタルニ縱覽期限ヲ延長セシテ選舉會ヲ執行シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ縱覽期限ハ
法律上ノ規定ニ係ルモノナレハ選舉名簿ヲ變更シタルコトアルカ爲メニ縱覽期限ヲ延長スルコトヲ
得ス然レトモ選舉人名簿ハ訴願訴訟ノ結果ニ依リ修正ヲ加フル外私擅ニ變更ヲ爲ス可キモノニアラ
ス然ルニ被告ハ村會議員ノ手續ヲ經テ獨斷ヲ以テ二級選舉人ヲ一級ニ繰上ケ變更シ能ハサル名簿ヲ
變更シ其告知ヲモ爲サ、ルハ不當ナル旨原告ノ陳述ニ對シ被告ハ何等ノ抗辯ヲ爲サ、ルニ依リテ之
ヲ觀レハ被告ハ違法ニ名簿ノ修正ヲ爲シタルモノト認メサルヲ得サルニ依リ本件選舉會ハ被告カ違
法ノ行為ニ原因シタル選舉人名簿ニ據リテ選舉會ヲ執行シタルモノニシテ適法ニ成立シタル選舉會ナ
リト謂フヘカラス
右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ被告村長カ明治二十五年三月二十九日三十日ノ兩日ヲ以
テ執行シタル高志村村會議員選舉會ハ之ヲ無効トス訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

確定名簿

○選舉効力ニ關スル違法裁決取消ノ件 (二十二)

六十六

問

水利組合費水利土功費は市町村税として公民資格に計算すべしや。
水利費は市町村内局部の負擔に過ぎざればは市町村税として公民の資格に算入すべからず。

(判決例 二十六年第五十四號 同年七月十日 宣告)

原告 青森縣北津輕郡梅澤村 鈴木松太郎 外一名
被告 青森縣北津輕郡參事會 對馬貞太郎
北津輕郡長

右原告鈴木松太郎外一名ヨリ被告北津輕郡長對馬貞太郎ニ對シ提起シタル選舉効力ニ關スル違法裁決取消ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ第一町村制第十八條第一項ニ選舉人名簿ハ七日間町村役場ニ於テ關係者ノ縱覽ニ供ス若シ關係者ニ於テ訴願セントスルコトアルトキハ同期限内之ヲ町村長ニ申立ツ可シトノ制限アルヲ以テ若シ此期限内ニ訴權ヲ拋擲シ確定名簿トナリタル上ハ假令其中ニ無資格者アリト雖モ法律上選舉權ヲ有スル者ト見做サ、ル可ラス然ルニ被告ニ於テ名簿確定ノ後町村制第三十七條ニ依リ全選舉ヲ無効トシテ取消シタルハ全ク法律ヲ誤解シタルモノナリ何ントナレハ縱覽期限内ニ何等ノ訴願ヲ爲サスシテ期限ヲ經過シタル者ハ何人ト雖モ最早法律ノ保護ヲ受クルコト能ハサルモノナレハナリ第二學校費ノ如キハ別ニ區會ノ設ケアルカ故ニ名ハ異ナレトモ賦課徵收ニ至リテハ全ク町村長ノ事務ニ屬シ町村全般ニ涉ルモノナレハ其實ハ村税タルコト明カナリ第三明治二十二年法律第十一號ノ規定ニ依レハ水利土功費及學事ニ關スル町村聯合ハ町村制施行後ト雖トモ之ヲ存續スルコトヲ得トアリ故ニ學校費及水利土功費ヲ以テ村税トシ選舉人資格ニ合算シタルハ當然ノコトナリトス且假令被告ノ言フカ如ク水利土功費ハ別箇法律ノ下ニ別箇ノ名義ヲ以テ賦課徵收スル者ニシテ資格計算ノ範圍外ニ屬スルモノトスルモ何ソ全選舉ヲ取消スノ理アラナヤ第四水利土功費ハ明治二十三

確定名簿

六十七

年法律第四十六號水利組合條例第一條ノ規定ニ依ルトキハ町村ニ屬セス各個人ノ利害ヨリ成立シタルモノナルコト明カナレトモ其組合ノ組織ハ明治二十四年六月二十二日青森縣告示第五十五號ニ依リ始メテ之レヲ定メタルモノナレハ其以前ニ於ケル水利土功費ハ存續會ニ於テ議決スヘキモノニシテ明治二十五年ノ村會議員選舉人資格計算上之ヲ村税トシテ調査スルハ法理上勿論ノコトナリトス以上ノ理由ニ依リ郡參事會並ニ縣參事會ノ裁決ハ違法ナルニ付之ヲ取消シ本選舉ハ有效ナリトノ判決ヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ第一町村制第十八條ハ名簿調製ニ係ル規定ニシテ選舉ニ屬スル手續即選舉會ノ準備ヲ定メタルニ過キス若シ確定名簿ノ故ヲ以テ無資格者モ亦選舉權ヲ有スルモノトセハ町村制第八條第十二條及第十三條等ノ規定ハ之ヲ解スルヲ得ス且資格ノ有無選舉効力ノ如何ハ悉ク確定名簿ノ下ニ羈束セラレ他日之ニ對シテ異議ヲ挾ムコト能ハストセンカ町村制第二十九條及第三十條ニ依リ法律ノ許シタル權利ハ何レノ場合ニカ之ヲ適用スルヲ得ン要スルニ原告ハ町村制第十八條及第三十七條ノ解釋ヲ誤マルモノト云ハサルヲ得ス第二學校費ハ町村全般ニ涉ル村税ト云フ可カラス何ントナレハ學區會ハ明治二十二年法律第十一號ノ規定ニ基キタル存續聯合村會ニシテ各區其經濟ヲ別ニシ獨立ノ機關ヲ設ケ其議員ノ組織等ニ至ルマテ全ク町村ト其性質ヲ異ニシ町村會ニハ毫モ關係ヲ有スルモノニアラス且費用ノ賦課額モ每區區々ニシテ其率等シカラス町村制第九十條ノ所謂均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徵收スルモノニアラス如斯一局部ニ屬スル費用ヲ以テ選舉人資格計算ノ一要素トシ之レカ爲メ選舉權利ニ消長ヲ生セシメタルハ町村税ノ名稱ニ拘泥シ法律ノ適用ヲ誤マリタルモノト云ハサルヲ得ス第三水利土功費即小阿彌堰水利土功費タル第三號證ノ如ク南北津輕郡舊十九箇村ニ跨リ直接ニ利益ヲ享クル處ノ關係者ヨリ組織シタル一種特別ノ事業費ニシテ町村ニ屬スルモノニアラス殊ニ町村長ニ於テ同年度同種類ナル柏木堰水利費ハ其全額ヲ除キタルニ拘ハラズ小阿

確定名簿

六十八

彌堰ハ第四號證ノ如ク夫役現品代ヲモ加ヘ第五號證及ヒ第六號證ノ如ク町村制第十二條第二項ノ選舉權アラサル佐々木喜太郎ニ選舉ヲ爲サシメ且二級選舉ヲ行フヘキモノニ一級選舉ヲ行ハシメタルハ蔽テ可ラサルノ事實ナレハ選舉全部ニ瑕疵アルモノト云ハサルヲ得ス第四明治二十二年法律第一一號ノ存續會ハ第七號證及第八號證ノ如ク水利組合ノ成立ト共ニ消滅シ其事業ハ水利組合條例第五十七號ニ依リ新ニ組織シタル組合ニ於テ繼續シタルモノナレハ其結果トシテ明治二十四年度ノ水利功費ハ同年六月ヨリ水利組合費トナリ其性質ヲ變シタルモノニシテ其存續會ニ屬スル水利功費ニアラサルハ第九號證ノ如ク其精算報告ノ水利組合會ニ於テ認定セラレタルノ事實ニ徴シテ明瞭ナリトス又假リニ水利功費ナリトスルモ該費ハ特ニ其利益ヲ享ケル各個人ヨリ成立シ一局部ニ係ル負擔ニシテ選舉人資格計算上村稅トシテ合算スヘキモノニアラス右四箇ノ理由ニ依リ本選舉ハ全部ノ效力ニ瑕疵アルモノナレハ郡參事會並ニ縣參事會ノ處分ハ違法ニアラスト云フニ在リ

依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ハ町村制第十八條第一項ニ於ケル名簿總覽期限ヲ經過シ確定名簿トナリタル上ハ假令其中ニ無資格者アリト雖モ法律上選舉權アル者ト見做サ、ルヘカラスト云フト雖モ右第一項ハ選舉ヲ行フノ準備即名簿ノ調製ニ係ル規定ニ過キスシテ之ニ依リ選舉權アルコトヲ確定スルモノニアラス之ヲ換言スレハ選舉ハ名簿ニ登錄セラレタル者ノミニ之ヲ許シ具之ニ登錄セラレサル者ニハ假令選舉權アルモ選舉ニ與カルヲ得セシメサルノミ次ニ學校費ハ原告ノ言フカ如ク町村一般ニ涉ルノ費用ナルヲ以テ村稅ト認ムルヲ得ヘキモノニ反シテ小阿彌堰水利功費ノ如キハ事實町村ノ全部ニ係ルモノニアラスシテ其水利關係者ヨリ成立シ町村内一局部ノ負擔ニ關スルモノナレハ素ヨリ村稅トシテ資格ニ合算スヘキモノニ非ス又原告ハ水利組合費ハ青森縣告示第五十七號ニ依リ始メテ其組合ヲ組織シタルモノナレハ其以前ニ於ケル水利功費ハ資格計算上村稅トシテ合算スヘキモノナリト云フト雖

確定名簿

六十九

モ水利功費ト云ヒ水利組合費ト云ヒ其性質ニ於テ更ニ異ナルトコロナク全ク異名同質ノモノナレハ是亦資格ノ計算ニ加フヘキモノニアラス依テ郡參事會並ニ縣參事會ニ於テ全選舉取消ノ裁決ヲ爲シタルハ違法ナルモノト云フヲ得ス

右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

○選舉人名簿更正請求ノ件 (二十三)

問 不均一の教育費を市町村税と爲したるにより名簿等級に異動を生ずるも不當にあらざるや。

答 教育費は行政事務に属すれば市町村税として徴収するため異動を生ずるは當然ありとす。

(判決例 二十六年第三十號 同年六月二十七日宣旨)

原告 鹿兒島縣鹿兒島市仲町 堀之内 藤三次
被告 鹿兒島縣鹿兒島市長 上村 慶吉

右原告堀之内藤三次ヨリ被告鹿兒島市長上村慶吉ニ係ル市會議員半數改選ニ關スル選舉人名簿ノ更正請求ノ訴訟審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ明治二十二年四月市制施行ノ際鹿兒島市ニ在テハ舊町村共有財産處分方ニ付縣知事ノ訓令ニ遵ヒ各聯合町村ニ於テ其所有ノ權利及義務トモ新市ニ移サス舊ニ依リ分有繼續致度旨ヲ具狀シ同年六月十一日縣令第七十六號ヲ以テ同年法律第十一號ニ依リ舊會ヲ存續シ其會及經費ノ名稱方ヲ示シ同年十一月一日小學校設置區域ヲ改定シ更ニ市内ヲ五區ニ分チ其一區ハ市村ノ一部ヲ聯合區ト爲シタレトモ從前ノ區域ヲ變更セシニアラス其後七月十一日ニ至リ縣知事ハ曩キノ具狀ヲ認可シ爾來舊聯合町村會ニ於テ議決シタル教育費ノ如キハ區費ニシテ市稅トシテ徴收セラレシコトアラサリシニ被告市長ハ突然之ヲ尋常市稅ニ併算シ市會議員選舉人名簿ヲ調製シタル爲メ市稅ノ納額ニ變更ヲ來タシ其等級ヲ進ムルノ結果ヲ生スルニ至レリ元來法律第十一號ニ於テ舊聯合町村會ヲ存續

スルコトヲ許シ實際之ヲ存續シテ各區限リ經濟ヲ異ニシ不均一ノ教育費ヲ分擔シ來リタルモノナレハ其議決スル所ノ教育費カ市稅ニ化シ得キ理由ナキノミナラス之ヲ市稅トシテ徵收スルハ市稅第九十條ノ原則ニ違反スルノ疑ヒアリ然ルニ被告ハ不均一ナル稅率ヲ以テ之ヲ市稅トシテ徵收シタル爲メ新ニ得タル資格者ヲ選舉人名簿ニ登載シタルハ實ニ不當ノ甚シキモノト言フヘシ以上ノ理由アルヲ以テ市長ニ其更正ヲ求メタルモ訴旨貫達シ能ハサリシニ依リ縣參事會ニ訴願シタルニ其手續ニ適法ナラサル所アリトシテ棄却セラレタレトモ決シテ手續ヲ誤リタルコトナキモノナレハ議員半數改選ニ關スル選舉人名簿ノ更正ヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ本件ノ教育費ハ法律第十一號及縣令第七十六號ニ因テ賦課セラレタルモノニシテ通常市稅ニアラスト主張スレトモ該縣令ハ法律第十一號ノ精神ニ從ヒ學區ノ組織ヲ維持シタルニ過キサレハ教育ヲ擔任ス可キ區畫上ニ何等ノ規定ヲ爲シタルニアラスシテ同時ニ發布セラレタル縣令第七十五號ハ教育費ノ性質ヲ定メ其市稅タルコトヲ明カニシタルモノナリ又原告ハ市制第九十條ヲ拔ギ市稅ハ均一ノ稅率ニ因リ市ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トストアルニ依リ各人ノ負擔均一ナラサルモノアルヲ以テ市稅ノ性質ヲ有セサルモノナリト論難スレトモ同條ハ普通ノ場合ヲ想定シタルモノニシテ之ニ特例ヲ設ケ其賦課ニ差等ヲ立ルハ毫モ禁ムル所ニアラス抑教育ノ事タル明治十八年第二十三號布告教育令同二十三年法律第八十九號地方學事通則等ニ因リ市ノ事業トシテ之ヲ管理セサル可カラサルコトハ明カナリ從テ之ニ因テ生スル所ノ費用ハ市ヨリ徵收セサル可カラス是レ原告モ認ムル如ク假令學區ノ位置ニ因リ賦課ノ率ニ多少ノ差違アルモ市ノ各部一トシテ教育費ノ負擔ヲ免カル、所之アラサル所以ナリ本市ニ於テ教育費ヲ賦課スルノ方法ニ平等賦課ヲ適用セサリシ所以ノモノハ畢竟舊來ノ學區會ヲ存續シタル結果ニシテ既ニ之ヲ處理スルノ方法ニ於テ各學區相異ナル所アル上ハ平等賦課ノ法ハ各部ノ利益ト相伴フヲ得テ公平ヲ缺クノ恐アルカ故其賦課ヲ各

區ニ分別シタルモノニシテ其賦課法ヲ異ニシタル爲メ稅質ニ變更ヲ生スルノ理由アラサルハ言ヲ俟タサル所ナリト信ス依テ原告ノ請求ハ棄却アリタシト云フニ在リ

依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

原告ニ於テ明治二十二年法律第十一號ニ依リ舊聯合町村會ヲ存續シ各區限リ經濟ヲ異ニシ不均一ノ教育費ヲ分擔シ來リタルモノナレハ其議決スル所ノ教育費カ市稅ニ化シ得キ理由ナキノミナラス之ヲ市稅トシテ徵收スルハ市制第九十條ニ違反スルノ疑ヒアリ然ルニ被告ハ不均一ナル稅率ヲ以テ市稅トシテ徵收シタル爲メ新ニ得タル資格者ヲ選舉人名簿ニ登載シタルハ實ニ不當ノ甚シキモノナリト云フト雖市町村ノ教育ハ明治二十三年法律第八十九號同年勅令第二百十五號ニ依リ其行政事務ニ屬ス可キモノナレハ之ニ要スル費用モ亦市稅町村稅トシテ徵收スヘキハ當然ナリトス而シテ本件各學區ニ於テ要スル費用即チ市稅ノ徵收金額均一ニ爲シ得カラサルハ市内ヲ數區ニ分チ或ハ市ノ一部ト村トヲ聯合シ其經濟ヲ異ニスルニ由テ生スル結果ナレハ之ヲ徵收スルニ方リ稅率ニ異ナルコトアルモ市制町制第九十條法意ニ背クモノニアラス依テ被告カ教育費ノ納付者ヲ市ノ納稅者トシテ市會議員選舉人名簿ニ登載シタルハ當然ノ行爲ナレハ該名簿ハ更正ス可キモノニアラス前項ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ原告ノ請求相立タズ訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

○村會議員選舉効力ニ關スル件 (二十四)

問 甲村に權利義務を有し私に乙村の別宅に住居する場合は甲村の名簿に登録するを至當あるか。

答 然り、住居の移轉は戸籍に關する規定に従ひ公式の手續を行ふに非ざれば移住の効なきなり。

(判決例二十五年第六十九號)
二十六年三月二十九日宣告

原告 熊本縣菊池郡戸崎村々長 猿渡 素平
被告 熊本縣山鹿山本菊池合志郡長 小橋 元雄

確定名簿

右原告戸崎村々長猿渡素平ヨリ被告山鹿山本菊池合志郡長小橋元雄ニ係ル村會議員選舉効力ニ關スル訴訟審理ヲ遂ルル處

原告請求ノ要旨ハ明治二十五年五月一日戸崎村々會議員半數改選ノ際内田岩八ハ本村ニ隣接スル合志郡泗水村ノ住民ナルユヘ本村ニ於テ公民タルノ權利ナキヲ選舉人名簿ニ登載シ以テ議員選舉ノ投票ヲ爲サシメタルハ違法ナルニ因リ再選舉アリタシト有權者百三十名ノ總代倉原市藏外四人ノ訴願ニ對シ村會ハ再選舉ヲ爲スノ限リニアラストノ裁決ヲ爲シタリ同人等ハ之ニ服セス郡參事會ニ訴願シ郡參事會ハ内田岩八ハ合志郡泗水村ニ現住スルモノナレハ戸崎村ニ於テハ公民タルノ權利ナキニ由リ五月一日執行シタル戸崎村々會議員ノ二級選舉ハ無効トストノ裁決ヲ爲シタルユヘ之ニ服シ難ク其裁決取消ヲ縣參事會ニ訴願シタルニ縣參事會ハ之ヲ取消スヘキ限リニアラスト裁決シタレトモ内田岩八ハ從來戸籍ヲ本村即チ菊池郡戸崎村大字森北九百二十一番地ニ定メ戸別割稅ヲ始メ本村ノ負擔ヲ分任シ且明治二十三年二月本村消防組編制以來三番組消防夫ニ選舉セラレ明治二十五年改選ノ際モ其選ニ當リ今尙ホ勤績シ其他總テ戸崎村住民ノ權利義務ヲ行ヒ來リシノミナラス同居ノ實父内田彌三ハ町村制實施前ヨリ森北丙組ノ衛生組長ニ選任セラレ今ニ勤績セリ而シテ岩八住居地ハ一小里道ヲ隔テ合志郡泗水村大字住吉ニ接シ且其地内ニモ宅地ヲ有スルユヘ一時便利ノ爲メ家屋ノ構造ヲ爲シ家族ノ一部ヲ居住セシメタル瑕瑾アルモ固ヨリ轉籍シタルニアラサルナリ又菊池郡郡會議員選舉ノ際選舉掛ハ岩八ノ投票ヲ取消シタルコトアルモ岩八ノ之ヲ出訴セサリシハ泣竊入ニ屬シタルニ過キス然ルニ被告ハ岩八ヲ泗水村ノ住民ニシテ戸崎村ニ住居セサルモノ、如ク誤認シ同人ハ戸崎村村會議員ニ級選舉ノ際投票シタルニ依リ該選舉ヲ無効ナリト裁決セシハ不當ナルユヘ之ヲ破毀シ該選舉ヲ有效ナラシメンコトヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ戸崎村公民武藤一忠外九名ヨリ郡參事會ニ訴願ヲ爲シタル其要領ハ明治二十五年

五月一日戸崎村村會議員半數改選ノ際二級選舉人ノ内内田岩八ハ選舉人ノ資格ヲ有セサル者ナルニ投票ヲ行ヒタルハ違法ノ選舉ナルユヘ該投票ヲ無効ト爲ササル可ラス殊ニ其一票ハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生ス可キモノナレハ村會ニ於テ再選舉ヲ爲スノ限リニアラスト爲シタル裁決ノ破毀ヲ求ムト云フニ在レハ郡參事會ハ之ヲ受理審査スルニ内田岩八ハ從來菊池郡戸崎村ノ戸籍ニ編入セラレ且二年以來同村ノ負擔ヲ分任スル者ニシテ利害ノ關係或ハ戸崎村ト相伴フ如キ情狀アルニモセヨ明治十八年三月前ノ住家ハ取毀チシカ賣却セシカ調査セサレトモ其後ノ現住地ハ全ク隣郡隣村ナル合志郡泗水村大字住吉二百四十二番地ニ相違ナク殊ニ明治二十三年十月三十日菊池郡聯合町村會議員選舉ノ時ニ於テモ岩八ヲ泗水村ノ住民ト認メ同人ノ投票ヲ無効トナシタル例アルモノナレハ從來戸崎村ノ住民トシテ權利義務ヲ行ヒタルハ全ク誤謬ニ歸スヘキモノニシテ同村ニ於テ選舉權ヲ有スルノ理由ナキハ敢テ論ヲ俟タサルニ因リ町村制第七條ノ一要件ヲ缺キタル者ナルニモ拘ハラス其選舉權ヲ行ハシムル如キハ固ヨリ不當ノ處置ナリトス故ニ被告カ武藤一忠等ノ訴願ニ對シ與ヘタル裁決ハ正當ニシテ取消ス可キ理由ナキモノト信認スルヲ以テ原告ノ請求ハ排斥セラレタシト云フニ在リ

右雙方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

被告ニ於テ内田岩八ハ合志郡泗水村大字住吉二百四十二番地ニ居住シナカラ菊池郡戸崎村ニ於テ住民タルノ權利ヲ行ヒタルハ全ク誤謬ニ歸スヘキモノニシテ既ニ戸崎村ニ住居セサル以上ハ同村ノ公民タル可キ要件ノ一ヲ缺キタルカ故ニ同村ニ於テ選舉權ヲ有スルノ理由ナシト云フト雖明治二十五年五月一日ヲ以テ行ヒタル戸崎村村會議員半數改選ノ際内田岩八ハ既ニ戸崎村ノ住居ヲ廢シ泗水村ニ住居ヲ占メタルモノナリトノ事實ヲ確ムルニ足ル可キ證據ナシ而シテ住居ノ移轉ハ戸籍ニ關スル規定ニ從ヒ公式ノ手續ヲ行フニ由リ始メテ公認セラル可キモノナルニ内田岩八ニ於テハ未ダ嘗テ住居移轉ニ關スル公式ノ手續ヲ爲シタルコト無キノミナラス現ニ戸崎村ノ負擔ヲ分任シ尙ホ且明治二

確定名簿

七十四

十三年二月同村消防組編制以來三番組消防夫ニ選舉セラレ明治二十五年改選ノ際ニモ其選ニ當リ現ニ勤績中ニ在ル等ノ事實ニ依リテ之ヲ觀レハ内田岩八カ戸崎村ノ住民トシテ權利義務ヲ行ヒタルハ一里道ヲ隔ル隣村ニ家屋アルノ一事ヲ以テ全ク誤謬ニ歸スヘキモノト爲スヲ得ス從テ内田岩八カ選權ヲ行ヒタル故ヲ以テ該村々會議員ノ半數改選ハ無効ナリト爲ス可キモノニアラス
前項ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ明治二十五年五月一日菊池郡戸崎村ニ於テ執行シタル村會議員半數改選ノ選舉ハ有效トス訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

○村會議員選舉會取消ノ件 (二十五)

問 十二名の定數を十八名に増員選舉し結了の後再び十二名とちり更に選舉を行ふときの選舉人名簿は新舊何れに據るや。
答 一旦結了せし選舉名簿は新に調製したる選舉人名簿に據り選舉を行ふべきものとす。

〔判決例二十三年第三十號〕

原告 埼玉縣高麗郡高麗川村 駒井 勇吉 外十名
被告 埼玉縣高麗郡高麗川村 神田 竹次郎

右原告駒井勇吉外十名ヨリ被告村長神田竹次郎ニ係ル村會議員選舉會取消請求ノ訴訟遂審理處
原告陳述ノ要旨ハ明治二十三年六月二十八日埼玉縣高麗郡高麗川村ニ於テ執行シタル選舉ハ法律ニ違背シタルヲ以テ無効ナリ其故ハ明治二十二年初メテ町村制實施ノ際本村人口ニ照セハ町村制第一條第二ニ依リ議員十二名ヲ選舉スヘキニ村長ハ之ヲ増員シテ十八名ト爲シ監督官廳ノ許可ヲ請ヒタルニ官廳ハ許可ヲ與ヘサルヲ以テ其選舉ハ自然無効ニ歸シ隨テ明治二十三年ニ至リ再度選舉會ヲ開カサル可カラザルニ至リシモノナレバ溯リテ最初確定シタル名簿ニ依リ再選舉ヲ執行セサル可カラサルハ勿論ナルニ被告村長カ不法ニモ最初確定シタル名簿ヲ放棄シ新ニ調製シタル名簿ニ依リ選

確定名簿

七十五

舉ヲ爲サシメタルハ不當ノ處置タルヲ免レス元來本村人口ハ千五百以上五千未満ナルヲ以テ町村制第十一條第二ニ依リ議員十二名ニ止マルヘキモノナレハ明治二十二年初メテ該制實施ニ際シ議員增加ヲ要スルノ事由アラハ先ツ其許可ヲ得而後増員ヲ爲スハ格別未ダ其許可ヲ得サル間ハ該制ノ規定ニ從ヒ十二名ノ議員ヲ選舉スルニ非サレハ其選舉ハ無効ナルコト論ヲ俟マス極論スレハ良シヤ幸ニ増員ノ請願ハ他日監督官廳ノ許可スル所トナルモ未ダ許可セラレサルノ前ニ於テ制度ノ定數外ナル議員ヲ選舉シタルハ違法ニシテ且無効ナルハ同制第十一條並第百二十五條ニ照シテ明瞭ナリトス既ニ最初ノ選舉ハ町村制ニ背キ且監督官廳ノ許可セラレサル無効ノ選舉ナリトセハ初メヨリ選舉會ヲ開キ議員ヲ選舉シタルコトナキト同一一般ナルハ論ヲ俟タス果シテ然レハ明治二十二年度ニ一旦確定シタル選舉人名簿ハ徒ラニ確定シタルニ止マリ未ダ曾テ一回モ使用セラレサルモノナリ依テ原告ハ明治二十三年六月二十八日ニ執行シタル選舉ヲ取消シ明治二十二年ノ確定名簿ニ依リテ更ニ議員十二名ノ選舉ヲ執行セシメラレシコトヲ請求スト云フニ在リ
被告代官人答辯ノ要旨ハ本件ハ明治二十二年初メテ町村制實施ニ際シ本村會議員ノ定數ハ十二名ナルモ制第十一條及第百三十一條ニ依リ入間高麗郡長ノ命ヲ受ケタル元鹿山聯合戶長ニ於テ六名ヲ增加シ十八名ノ議員ヲ明治二十二年四月ニ選舉シ其後村會ヲ開キ村條例ヲ議定シ隨テ議員増加ノ件ヲモ其條例中ニ加ヘ内務大臣ノ許可ヲ稟請シタルニ大臣ハ該條例ニ對シ許可ヲ與ヘラレザリ依之被
告村長ハ更ニ議員ヲ改選セサルヲ得サル場合ニ立至リタルヲ以テ第十八條第一項及第二項ニ依リ明治二十三年六月二十八日改選ヲ執行シタルニ原告ハ之ニ對シ第十八條末項ヲ適用セザリシハ不法ナリト云フヨリ起リタルモノニシテ原告ハ議員増加ヲ要スルノ事由アラハ先ツ其許可ヲ得而後増員ヲ爲スハ格別未ダ其許可ヲ得サル間ハ該制ノ規定ニ從ヒ十二名ノ議員ヲ選舉スルニ非サレハ其選舉ハ無効ナルコト論ヲ俟マスト論スレトモ其不當ナルコトハ左ノ二點ニ依リ明ナリ第一戶長ノ爲シタル

確定名簿

七十六

議員増加ノ處置ハ適法ナリ抑町村制第十一條ノ規定ニ依レハ町村會議員ヲ特ニ増減スルノコトハ町村條例ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ト雖其第三百三十一條ヲ見レハ此法律ニ依リ初メテ議員ヲ選舉スルニ付町村長及町村會ノ職務並町村條例ヲ以テ定ムヘキ事項ハ郡長又ハ其任命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シトアリ而シテ元鹿山村聯合戶長ハ郡長ノ任命シタル官吏ノ資格ヲ以テ制第三百三十一條カ與ヘタル職權ヲ施行シタルニ過キサレハ議員ヲ増加シテ選舉シタルノ處置ハ決シテ此法律ニ違背セルモノト云フ可カラス果シテ然ラハ原告等ノ主張スル如ク該選舉其物ノ無効ニアラサルコト亦明ナルヘシ第二內務大臣ノ不許可ハ單ニ村條例ニ對スルモノニシテ遠ク選舉迄ヲ無効ニ歸セシメス抑議員ノ選舉ハ既ニ相當ノ手續ヲ經テ結了シタルヲ以テ更ニ相當ノ手續ヲ履ミ議員ヲ増加スル等ノ村條例ヲ議決シテ內務大臣ノ許可ヲ請ヒタルニ其條例ハ許可ヲ得サリシモノナルカ故ニ此不許可ノ効力ハ遠ク既往ニ溯リテ郡長ノ指名ヲ受ケタル戶長カ十八名ノ議員ヲ選舉セシメタル處置ニマテ及ボスヘキモノニアラス何トナレハ內務大臣ハ制第二百五條ニアル如ク村會ニ於テ議決シタルニ付條例ニ對シテ許可ヲ與ヘサリシニ止マルモノニシテ決シテ郡長ノ任命ヲ受ケタル官吏ノ處置ニ向テ爲シタルモノニアラサレハナリ隨テ本件ノ場合ニ於テハ戶長ノ爲シタル適法處置ハ村條例ノ不許可トナリシ當時迄ハ依然繼續シタルモ其不許可ト同時ニ唯將來ノ執行力ヲ有セサルニ至リシノミ換言スレハ最初ノ選舉其物ハ無効トナリタルニアラスシテ村條例ノ許可ナキ結果トシテ改選セサル可カラサルニ至リシノミト謂フ可シ況ヤ制第十八條末項ノ所謂無効トナリタル場合トハ選舉ノ際既ニ必要條件ヲ缺キ居リシヲ知ラスシテ後ニ至リテ始メテ之ヲ發見シ爲メニ當初ヨリシテ全ク無効ニ歸スル場合ヲ指シタルモノニシテ本件ノ如ク初メ適法ノ手續ヲ經タル場合ヲ指シタルモノニアラサルニ於テオヤ最初ノ選舉既ニ適法ナリシ以上ハ明治二十二年調製ノ確定名簿ハ既ニ一旦使用シタルモノナルカ故ニ假令村條例ノ不許可ノ爲メ更ニ議員ヲ再選スルニ至ルモ原告等ノ主張スル如ク制第十八條ニ依

會社法人

○村會議員選舉人名簿登錄請求ノ件 (二十六)

問

株式會社あり縣知事ノ認可を受け設立す此會社町村納税ノ義務を負擔せば法人と見做し得るや。

會社法人

七十七

リテ再ヒ使用ス可カラサルヤ明ナリ依テ明治二十三年六月二十八日被告村長カ爲サシメタル再選舉ハ毫モ取消スヘキモノニアラスト云フニ在リ
依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
原告陳述ノ要點ハ明治二十二年四月中ノ初度ノ選舉ハ無効ナルヲ以テ町村制第十八條末項ニ從ヒ當時ノ選舉人名簿ニ依リテ再選舉ヲ爲スヘシト謂フト雖元來制第十八條末項ノ主意ハ町村會議員選舉ノ當時當選ヲ辭シ若クハ選舉ノ定規ニ違背シタルコトアルカ爲メ選舉無効トナリ改選ヲ爲スヘキ場合ヲ規定シタルモノニシテ其選舉ノ事業全ク結了シタル後ニマテ及フヘキニアラス而シテ其一旦結了シタル後ニ至リ改選若クハ臨時補缺選舉ヲ爲ス場合ニハ毎回必ス新ニ選舉人名簿ヲ調製スヘキコトハ同條第一項ニ町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ云々トアルニ依リ明瞭ナリトス故ニ明治二十三年六月中ノ選舉ニ方リテハ制第十八條末項ニ依リ舊名簿ヲ用フヘキニアラスシテ同條第一項ニ依リ更ニ名簿ヲ調製スヘキモノトス又原告ハ明治二十二年町村制施行ノ當初議員十二名ナルヘキヲ十八名トシテ選舉セシメタルハ不當ト謂フト雖制第三百三十一條ニ初メテ議員ヲ選舉スルニ付町村條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ郡長ノ任命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シトアルニ依リ舊戶長ノ爲シタル處置ハ之ヲ不當ト謂フチ得ス依テ被告村長カ明治二十三年六月二十八日ニ爲シタル選舉ハ取消スヘキ限ニアラス右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ原告ノ請求相立タズ訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

會社法人

答

納稅義務を負擔するも法律に據り組織したるものにあらざれば法人としての選舉權なし。

七十八

〔判決例二十五年第六十四號〕
同年十一月廿一日宣告

原告 新潟縣中頸城郡里五十公野村 宮崎 芳謙
新瀨縣中頸城郡里五十公野村 宮崎 社々長
被告 新瀨縣中頸城郡里五十公野村 渡部 直三郎

右原告宮崎社長宮崎芳謙ヨリ被告村長渡部直三郎ニ係ル村會議員選舉人名簿登錄請求ノ訴訟審理處原告ノ請求ノ要旨ハ宮崎社ハ株式組織ニシテ社則及規約ハ明治二十年八月新潟縣知事ノ認可ヲ得テ法律上有効ニ成立シタル會社ナレハ獨立シテ萬般ノ行爲ヲ履行シ既ニ村役場ニ於テモ町村制實施後ハ法人ト認メ納稅ノ義務ヲ負ハシメ及選舉權ヲ有セシメタリ然ルニ村長ハ本年ニ至リ宮崎社ヲ村會議員ノ選舉人名簿ニ登錄セサルニ由リ其登錄ヲ村會ニ訴願シタルニ村會ハ之ヲ採用セス次テ郡參事會及縣參事會ニ訴願シタルモ縣參事會ニ於テ宮崎社ハ選舉權ナシトノ不當ノ裁決ヲ與ヘタリ然トモ宮崎社ハ既ニ法人ト認メラレ納稅ノ義務ヲ負擔シアレハ權利ノ隨伴スルハ當然ナリ若シ選舉ノ權利ナシトスレハ納稅ノ義務モ亦無キモノト謂ハサルヲ得ヌ又町村制第十二條ノ末項ニ法律ニ從テ設立シタル會社トアルハ今日ニ在テハ知事ノ認可ヲ得テ成立タル宮崎社ノ如キ會社ナリト解釋セサル可カラス縣參事會ノ裁決ニ依レハ宮崎社ハ同制第十二條ノ末項ニ該當セル會社ニアラストセリ是レ正當ノ解釋ニアラス故ニ宮崎社ハ法人トシテ村會議員ノ選舉權ヲ有スヘキモノナリトノ裁判ヲ受ケ度ト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告宮崎社ハ村會議員選舉人名簿ニ登錄ヲ受ク可キモノナリト主張スルモ宮崎社ナルモノハ社員相互ノ契約ニ由リ成立タル私立會社ニシテ本縣知事ハ該社設立願ニ對シ人民相互ノ營業ニ任セ云々ノ指令ヲ與ヘタルモノナレハ之ヲ以テ未タ法律ニ依リ設立シタル會社ナリト爲スヲ得ヌ原告ハ納稅義務ニ隨伴シテ議員選舉ノ權利アルハ當然ナリトノ申立ハ誤解ノ甚クシキモノナリ

地所々有

問

大地主名簿調製前に土地を買得したるも未だ登記を経ざるものあり名簿に登錄すべきや。
然り登錄すべきものとす。

地所々有

七十九

若シ納稅義務アルヲ以テ議員選舉ノ權利アリトセハ町村制第七條ノ要件ヲ具備セサル者ト雖悉ク其選舉ニ參與スルノ權利アリト謂ハサル可カラズ宮崎社ニ納稅ノ義務アルハ村内一般ノ住民ト同ク其所有スル土地其他營業ノ所得ニ付キ負擔スヘキ義務ヲ負擔シタルニ在リテ其資格ノ如何ニ由テ負擔シタルニアラス又本縣知事カ宮崎社設立願ニ對シ人民相互ノ營業ニ任セ云々其開廢業ハ届出ツ可シトノ指令ヲ與ヘタルハ未タ會社法ヲ制定セラレサル當時ニ在テ地方廳ノ監督上止ムヲ得サルモノニシテ之ヲ以テ法律ニ從テ設立シタル會社ナリト認メタルモノニアラス依テ原告カ選舉人名簿ニ登錄ヲ受ク可キトノ要求ハ排斥アリ度シト云フニ在リ

依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ審閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ
原告ニ於テ宮崎社ハ縣知事ノ認可ヲ經テ設立シタル會社ナレハ町村制第十二條ノ末項ニ規定セル法人トシテ村會議員ノ選舉權ヲ有スヘキモノナリト云フト雖モ宮崎社ハ人民相互ノ契約ニ由リ組織シタルニ在テ法律ニ據リ組織シタルモノニアラス故ニ被告カ宮崎社ヲ以テ一ノ會社トシ納稅ノ義務ヲ負擔セシメタルコトアルモ之ヲ以テ法人タルノ資格ヲ有シ村會議員ノ選舉人名簿ニ登錄スヘキモノナリト謂フヲ得ス
右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ原告ノ請求相立ヌス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

○大地主名簿登錄ノ件 (二十七)

地所々有

八十

〔判決例二十五年第二十一號〕

原告 愛知縣東春日井郡玉川村 吉田留三郎 外四名
被告 同縣同郡長 野村 賀真

右原告吉田留三郎外四人ヨリ被告東春日井郡長野村賀真ニ掛ル大地主名簿登錄ノ訴訟書面ニ就キ審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ被告東春日井郡長ハ郡制施行ニ付明治二十四年四月二日第十四號ヲ以テ郡制第九條ニ依リ地價總計一萬圓以上ヲ有スルモノハ四月十五日マテニ届出ス可キ旨ヲ告示シタリ茲ニ於テ原告等ハ同年二月二日以來各自買受ケタル地所ニ付四月十四日マテニ所有權ノ登記ヲ出願シ翌十五日從來所有ノ地價ニ合算シ郡内ニ於テ村税ノ賦課ヲ受クル地價一萬圓以上ヲ所有シ大地主ノ資格アルコトヲ届出テ被告モ亦之ヲ調査證認シテ大地主名簿ヲ製シ四月十六日第十五號ヲ以テ其人各名ヲ告示シタルニモ拘ラス同年八月十一日ニ至リ第二十號ヲ以テ大地主名簿ヨリ原告等ノ氏名ヲ削除ストノ裁決ヲ爲シタル旨告示シタリ而シテ其理由トスル所ハ賣買讓與ヲ問ハス登記完結ノ上土地臺帳ニ所有名義登錄後ニアラサレハ郡制第九條ノ大地主ノ資格ヲ具備セスト云フニ在レ郡制ニ於テ大地主ト稱スルモノハ其第九條ニ規定スル地所ニシテ其地價壹萬圓以上ヲ第十五條規定ノ名簿調製以前ニ於テ所有シ其名分ヲ存スルモノハ公法上第九條ノ大地主タル資格ヲ有スルハ勿論ナリ抑々所有權ノ移轉ハ登記簿記入ニ依リテ移轉スルニアラスシテ賣買讓與ニ依リテ成立スルモノナレハ地價總計壹萬圓以上ヲ所有スル事實明確ナル以上ハ登記請求ノ如何ニ拘ハラス大地主タル資格ヲ有スルハ當然ナリ況ンヤ民法上ノ權利ヲ明確ナラシメンカ爲メ既ニ登記ヲ請求シタル事實アルニ於テヤ假リニ數歩ヲ讓ルモ登記請求即チ登記書類受領ノ一事ハ登記事務ノ開始ニシテ其受付ト記入トハ齊シク登記事務ノ部分ナレハ所謂法律上不可分の性質ヲ有ス故ニ登記官吏ニ於テ審査結了シ登記料ヲ納メシメ其書類ノ受領證ヲ付與シタル以上ハ記入ト同一ノ效力ヲ有スルハ勿論ナリ依テ被告ハ原告

地所々有

八十一

等ヲ郡制規定ノ大地主名簿ニ登錄スヘク且訴訟費用ハ被告ノ負擔ナリトノ判決ヲ乞フト云フニ在リ被告答辯ノ要旨ハ明治二十四年四月二日第十四號四月十六日第十五號告示ノ事實ハ相違ナキモ當時名簿關係者タル江崎均外三名ヨリ原告等ニ對スル異議ノ申立アリタルニ依リ之レニ對シ大地主名簿ヲ削除ス可キ旨ノ裁決ヲ與ヘ同時ニ第二十號ヲ以テ其由ヲ告示セシニ原告等ハ此裁決ニ服セス終ニ本案ヲ提起シタレトモ大地主トシテ名簿ニ記入ス可キモノハ郡制第九條ニ規定スル如ク郡内ニ於テ町村税ノ賦課ヲ受クル所有地ニシテ地價壹萬圓以上ヲ有シ同第十一條ノ選舉權ノ要件ニ欠缺ナキモノナラサル可カラス而シテ此ニ大地主ト稱スルハ或ハ財産的優者ヲ待ツニ特ニ公權行使ノ權能ヲ付與シタル法意ナル可キモ其資格ニ就キテハ法律以外ニ出テ不法ニ優先ナル權利ヲ付與シタル精神ニアラス故ニ地價壹萬圓以上ノ地所ヲ所有スルニ方リ買受讓受ケ得テ新タニ取得セシモノアラハ郡制上何等除外例ノ設ケナキヲ以テ宜ク普通一般ノ法規手續ニ從ヒ登記簿ニ記入ラサル可カラズ登記法ハ公示ノ方式ニシテ公法上ノ權利ニモ適用ス可キモノナリ又登記ノ請求ヲ爲セシノミニテハ登記簿ノ效力ナキコト明白ナリ故ニ原告等カ登記ヲ請求シタリト稱スルモ名簿調製告示ノ當日マテニ未タ登記簿ニ登記シ了ラザリシニ由リ被告ノ之レヲ排除シ大地主名簿ヨリ削除シタルハ相當ニシテ原告ノ訴求ニ應シ得タル可キニアラサルヲ以テ其請求相立タル様判決アリメク訴訟費用ハ原告ヨリ償却ヲ受ケヌシト云フニ在リ

依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
被告ニ於テ郡制第九條ニ大地主ト稱スルハ或ハ其財産的優者ヲ待ツニ特ニ公權行使ノ權能ヲ付與シタル法意ナル可キモ其資格ニ就キテハ法律以外ニ出テ不法ニ優先ナル權能ヲ付與シタル精神ニアラス故ニ地價壹萬圓以上ノ地所ヲ所有スルニ方リ買受讓受ケ得テ新タニ取得セシモノアラハ同制上何等ノ除外ノ設ケナキヲ以テ普通一般ノ法規手續ニ從ヒ登記簿ニ記入ラサル可カラズト言フト雖

土地家屋等賣買讓與ノ如キハ雙方ノ合意ニ由テ成立ス可キハ勿論ニシテ其登記ハ該物件ニ關係チ有
 スル第三者ニ對シ之レカ效果ノ有無ヲ規定シタルニ過キサルモノナレハ公權ニ關スルノ規定ニアラ
 ス故ニ大地主ノ資格ニ關シ名簿調製前ニ於テ地所ノ所有權ヲ適法ニ取得シタルモノアルトキハ之ヲ
 名簿ニ記載シ所有權ノ取得者ヲシテ其資格ニ由リ選舉權ヲ行フコトヲ得セシム可キハ當然ニシテ其
 資格ハ法律以外ニ出テ不法ニ得タル權能ナリト言フ可カラス依テ被告カ明治二十四年八月十一日告
 示第二十號ヲ以テ原告ノ氏名ヲ大地主名簿ヨリ削除シタルハ其當ヲ失スルモノトス其他登記法ニ就
 キ辯論スル所アルモ説明スルノ限ニアラス
 右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ
 被告ニ於テ原告等ノ氏名ヲ大地主名簿ニ記載シ明治二十四年四月十六日第十五號ヲ以テ之ヲ告示シ
 タル事項ハ取消ス可キモノニアラス訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

○水害豫防組合會議員選舉投票權ノ件 (二十八)

問 地所を買得し未だ登記の手續を結了せざるも地所買得者は組合員たるの權利を行ふを得るや。
 答 所有權の移轉は當事者間の合意に由て直ちに成立するものあれば投票權を有するものとす。

〔判決例 二十五年第四百二十二號〕
 原告 石川縣石川郡大野村 西村太三郎外六名
 被告 犀川水害豫防組合管理者 國枝逸燮
 石川縣石川郡長
 右原告西村太三郎外六名ヨリ被告石川郡長國枝逸燮ニ對スル水害豫防組合會議員選舉投票不當決定
 ニ對スル訴審理ヲ遂クル處
 原告訴求ノ要旨ハ犀川水害豫防組合ハ明治二十四年八月月中成法上ノ手續ヲ遵守シ之ヲ組織セラレ共

組合會議員選舉ノ區域ハ之ヲ七區ニ分チ而シテ其管理者タル被告石川郡長ハ同年告示第五十號ヲ以
 テ右組合會議員選舉ノ期日ヲ同年九月十四日ト定メ且其選舉投票受理ノ時間ハ同日正午十二時ニ
 限定スル旨ヲ公示シ第六區選舉區ノ選舉會ハ其日石川郡戸板字二日小學校ニ於テ開設セラレ原告西
 村太三郎外四百九十七名ハ其前戸板村ニ於テ耕納喜平次ヨリ土地ヲ買得シ同區ニ於テ選舉權ヲ有ス
 ルカ故ニ同日午前十一時二十分頃各投票ヲ提出シ管理者ハ直ニ之ヲ選舉有權者ノ人名簿ニ照合シ右
 投票ハ所定ノ時間内ニ正ニ故障ナク受理セラレタリ然ルニ右投票ノ效力ニ關シ異議ヲ唱フルモノア
 リトノ故ヲ以テ同日ノ選舉會ハ終ニ停止セラレ同月十八日ニ至リ被告管理者ハ右西村太三郎外四百
 九十七名ト耕納喜平次トノ間ニ於ケル土地賣買ノ登記結了セルハ選舉期日正午十二時ノ後ナリシ旨
 金澤區裁判所金石出張所ヨリ回答アリタリト理由ヲ以テ右投票ハ總テ無効ナリト決定シタリ此ニ
 於テ原告等ハ右ノ決定ヲ不當トシ異議ノ申立ヲ爲シタルニ組合會ハ更ニ調査委員ヲ設ケ審議討論ノ
 末原告等ノ異議ヲ採用シ右投票ハ有效ナリト議決セシニモ關セス吉本八左衛門外二名ノ訴願ニ依リ
 石川縣參事會ハ昨年十月十八日付裁決ヲ以テ再ヒ被告管理者カ與ヘタル無効決定ヲ維持シタルハ原
 告等ノ服スル能ハサル所ナリ抑モ西村太三郎外四百九十七名ノ投票ハ選舉人名簿ニ照合セラレ管理
 者ニ於テ之ヲ受理シタルノ事實ハ選舉錄ニ微シテ明瞭ナリ果シテ然ラハ其投票ハ有效ニ提出セラレ
 タルモノト謂ハサルヘカラス金澤區裁判所金石出張所ハ管理者ニ對シ耕納喜平次ト西村太三郎外四
 百九十七名トノ間ニ於ケル土地賣買ノ登記済トナリタルハ選舉期日正午十二時ノ後ナリシトノ回答
 ナ與ヘタリトスルモ金石出張所カ示ス時計ノ時間ハ決シテ確實ノモノニアラスシテ本件選舉人カ投
 票ヲ爲シタル時間ヲ定ムルニ付何等ノ關係チ有スルモノニアラス加之登記ハ民法上第三者ニ對シ所
 有權ノ移轉ヲ公正ニ證スルノ手續ニシテ選舉資格ト相關スヘキモノニアラス又西村太三郎外四百九
 十七名ノ投票ハ所轄村長ト管理者トノ間ニ適法ニ調製授受セラレタル選舉人名簿ニ照合シ規定ノ時

行政裁判判決問答

間内ニ於テ正當ニ受理セラレタルコトハ所轄村長カ組合會調査委員ニ發シタル回答書並ニ選舉録ノ明カニ證明スル所ナレハ其投票ノ有效タル毫モ欠ク所ナシト謂フ可シ依テ縣參事會ノ判決ヲ取消シ更ニ選舉人西村太三郎外四百九十七名ノ投票ハ有效ナリトノ判決ヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ犀川水害豫防組合會議員選舉ノ當日即チ明治二十四年九月十四日午前第九時頃大野村長太田與兵衛ヨリ同村西村太三郎外四百九十七名ハ新ニ選舉權ヲ有セシ旨選舉會場ヘ報告セシヲ以テ管理者ハ正當ノ手續ヲ經タルモノト認メ之ヲ受理シ同時ニ選舉投票ヲモ受理シタルニ選舉人中ヨリ異議ヲ申立ツルモノアリシニ因リ翌十五日管理者ヨリ金石出張所ヘ問合セタルニ西村太三郎外四百九十七名カ買得地所ノ登記ハ選舉當日ノ午後ニ結了ストノ回答アリシニ依リ右事實明瞭ナリ而シテ投票ハ土地所有權移轉前ニ執行シタルモノナレハ悉皆之ヲ無効ト決定セリ然レトモ原告ハ右ノ決定ニ服セス異議ノ申立ヲ爲シ續テ組合會ハ金石出張所ノ證明ヲ漠然ナリトシ却テ右投票ヲ有效ト議決セシニ戸板村吉本八左衛門外二名ヨリ石川縣參事會ニ訴願シ縣參事會ハ組合會ノ議決ヲ取消シ當初管理者カ爲シタル決定ヲ是認シタリ然ルニ今般原告等カ更ニ縣參事會ノ議決ヲ不當ナリト爲スハ固ヨリ理由ナキ申立ナリトス抑原告等ハ投票ノ正當ナルコト選舉録ニ徵シテ明ナリト云フモ選舉録ニハ賣買地所ノ登記カ午前ニ未済ナルヲ以テ選舉權ヲ執行スルヲ得サルヘシトアルニアラスヤ又金石出張所ノ時計ノ時間ハ投票ノ時間ヲ定ムルニ何等ノ關係ナシト云フモ投票權ハ土地所有權移轉ノ公認ヲ得テ完備スルモノナルカ故ニ金石出張所ノ時間ハ原告等投票ノ正否ニ最モ大關係ヲ有スルニアラスヤ又原告ハ登記ハ民法上第三者ニ對シ所有權ノ移轉ヲ公證スルノ手續タルニ過キスト云フモ選舉ノ際ニ於テ該公證ヲ得ルニアラサレハ選舉權ヲ執行スルヲ得サルハ當然ノ理ナリトス又原告等投票ノ正當ナルコトハ所轄村長カ組合會調査委員ニ發シタル回答書並ニ選舉録ニ明ナリト云フモ調査委員ト村長太田與兵衛トノ往復ハ十一月十三日ノコトニシテ選舉期日ヨリ六十餘日ノ後ニ

行政裁判判決問答

アルモノナレハ以テ事實ヲ證スルノ價值ナシ反之金石出張所ノ證明書並ニ選舉録ニヨリ事實ヲ對照セハ原告等ノ投票ハ登記結了前ニアリシコト一點ノ疑ナキモノナレハ其投票ハ定時限内ニ正當ニ提出セラレタルモノト云フヲ得ス依テ石川縣參事會カ土地所有權ハ登記ヲ經タル上ニアラサレハ確實ト言フヘカラス隨テ西村太三郎外四百九十七名ノ投票無効ナリト議決シタルハ正當ニ付原告ノ請求相立タストノ裁判ヲ請フト云フニ在リ

依テ雙方ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ

被告ハ西村太三郎外四百九十七名ノ投票ハ登記結了前ニ爲シタルノ事實ハ金石出張所ノ回答ニ照ラシテ明ナリ而シテ投票權ハ登記ノ手續ヲ結了シ所有權移轉ノ完備シタル上ニアラサレハ之ヲ執行スルヲ得サルモノナレハ西村太三郎等ノ投票ハ固ヨリ無効タルヘシト云フト雖所有權ノ移轉ハ當事者間ノ合意ニ由テ直チニ成立スルモノニシテ登記ハ其物件ニ關スル第三者ニ對シテ效力ヲ生スルモノタルニ過キス即チ本件西村太三郎等カ戸板村耕納喜平次ヨリ土地ヲ買得シ新ニ選舉權ヲ有スル旨所轄村長ヨリ公然管理者ニ報告セシ以上ハ土地所有權ノ移轉ハ既ニ完備シ隨テ彼等ハ選舉權ヲ獲得シタルモノナレハ其登記時間ノ如何ヲ以テ彼等カ投票ヲ無効ナリト謂フヲ得ス其他雙方ノ論争スル所アレトモ本案判決ニ必要ナラサルヲ以テ之ヲ説明セス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スル左ノ如シ明治二十四年九月十四日石川縣石川郡戸板村字二口小學校内ニテ開設セラレタル犀川水害豫防組合會議員選舉會ニ於テ西村太三郎外四百九十七名カ爲シタル投票ハ有效ノモノナリトス訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

任期計算

○那會議員任期計算ノ件 (二十九)

任期計算

任期計算

八十六

問

郡會議員の任期は郡會通常會の度數により計算すへしと論ずるものあり果して然るや。

特別の規定あり以上は自から曆年に依り計算すへきものなり。

（判決例二十六年第九十四號）

原告 山形縣東置賜郡會議長 山宮成一

被告 山形縣東置賜郡長 山宮成一

右原告東置賜郡會議長山宮成一ヨリ被告同郡長山宮成一ニ對スル郡會議員任期計算ニ關スル訴文書ニ就キ審査スルニ

原告訴求ノ要旨ハ明治二十四年七月八日郡會議員上任同月下旬郡參事會員選舉ノ爲メ初メテ郡會ヲ開キ同年八月ニ至リ八月ヨリ翌年三月マテノ郡經費議決ノ爲メ開會同年十二月ニ至リ二十五年度ノ通常會ヲ開キ二十六年一月ニ至リ二十六年七月十七日臨時郡會ヲ召集シ半數解任ノ抽籤ヲナス旨ヲ告ケタリ原告ハ任期未タ三年ニ滿タサルノ今日抽籤ノ必要ナシト認メ付屬書第一號ノ如ク未タ抽籤ヲ行フ時ニアラスト議決シタリ然ルニ被告ハ同年八月六日監督官廳ノ指揮ナリトテ再ヒ臨時郡會ヲ召集シ再議ニ付シタリ依テ原告ハ付屬書第二號ノ如ク審議ノ未前議ヲ更ムヘキ理由ナシト決定シタリ今其理由ヲ陳述センニ第一郡制第十三條ニ依レハ町村ニ於テ選舉シタル議員ノ任期ハ六年トシ毎三年其半數ヲ改選ス云々又大地主ニ於テ選舉シタル議員ノ任期ハ三年トシ毎三年其全數ヲ改選スト在テ別ニ計算方ニ付規定スル所ナシ凡年月日ノ計算ハ法律ニ特例アラサル以上八年ハ曆年ヲ以テ計算スヘキハ一般ノ法規ナリ原告カ代表スル郡會議員ハ明治二十四年七月八日以後五日間ニ於テ始メテ上任シタルモノナレハ未タ法律ノ三ヶ年ヲ經過シタルモノニアラス隨テ今日ニ於テ半數ノ解任ヲ爲スヘキ理由ナシ大地主議員ニ於テモ任期ノ終了スヘキ理由ナシ然ルニ被告ハ議員一週年度間ノ職務ハ專ラ通常會ニ於テ行フニ依リ其會議ノ數ニ依リ年數ヲ計算スヘシト云フ實ニ不當ノ解釋ト謂ハサルヘカラス郡制第十三條ハ議員在任ノ期限ヲ示シタルモ

任期計算

八十七

ノニシテ職務ノ程度ヲ積算スルモノニアラス故ニ通常會三度又ハ四度ヲ經過スルモ其在任中ニ發生シタル事件ナラシニハ敢テ之ヲ議スルヲ妨ケサルヘシ又通常會ノ度數ニ減スルモ之カ爲メ法律上定リタル年限ニ影響ヲ及ボスヘキ理由ナシト信ス第二假リニ一歩ヲ讓リ被告ノ解釋正鵠ヲ得タリトスルモ原告ノ代表スル郡會議員ノ任期ハ決シテ今日ニ於テ經過シタルモノニアラス尙此上通常會一度ヲ經過セサレハ滿限ニ至ラサルナリ被告ハ明治二十四年八月ノ郡會ヲ以テ通常會ノ二度ニ算スト雖通常會ナルモノハ郡制第六十五條ニ依レハ郡長ハ毎年其翌年度ニ係ル歳入出豫算ヲ調製ス云々トアリ其他本制ヲ通觀スルモ翌一週年度ノ經費ヲ議スルハ其骨髓タルコト疑テ容レサルヘシ然ルニ明治二十四年八月ノ郡會ハ其年度ノ半ニ於テ之ヲ開キ且同年八月以後ノ經費ヲ議決シタルニ過キサレモノナレハ之ヲ通常會ニ算入スヘカラス若シ之ヲシテ通常會ナリトセハ一月ヨリ三月マテ三ヶ月間ノ經費ヲ議スルモ又三月一ヶ月間ノ經費ヲ議スルモ尙之ヲ通常會ナリト云ハサルヘカラス二十四年八月ノ郡會ハ臨時郡會ノ性質ニシテ通常會ニ算入スヘキモノニアラスト確信ス右ノ理由ナルヲ以テ被告并ニ縣知事ノ斷定ハ何レノ點ヨリ論スルモ不當ノ臆斷ナレハ明治二十六年八月七日山形縣知事カ爲シタル裁決ヲ取消シ更ニ正當ノ裁判アラントテ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ山形縣知事カ爲シタル裁決ハ正當ナルヲ以テ原告ノ請求ヲ排斥セラレタシ其理由ハ第一原告ハ郡制第十三條ニ町村ニ於テ選舉シタル議員ノ任期ハ六年トシ毎三年其半數ヲ改選ス又大地主ニ於テ選舉シタル議員ノ任期ハ三年トス云々トアリテ原告郡會議員ハ未タ法律ノ三ヶ年ヲ經過シタルモノニアラサレハ今日ニ於テ半數ノ解任ヲ爲スヘキ理由ナシト云フト雖凡ソ法律ノ解釋ハ文字其モノニ拘泥センヨリ寧ロ法意ノ存スル所ヲ探究スルヲ要ス郡制第十三條ノ任期三年トハ會議數ノ如何ニ拘ハラス單ニ曆法ニ從ヒタル滿年ノ法意ナルヤ若シ然リトセハ現在ノ議員ハ日數ヲ以テ之ヲ算スルトキハ滿三年ナルヘキモ其實四箇年ノ職務ヲ勤ムルモノトナラサルヘカラス何トナレハ

現任議員ハ來ル明治二十七年六月マテ在任者トナリ隨テ自然前三ケ年度豫算其他ノ事件ノ外尙二十年
七年度ノ豫算其他ノ事件等ヲモ議定セサルヘカラス名ハ三ケ年在任スヘキ議員ニシテ實ハ四ケ年分
ノ職務ニ從事スルモノナリ世豈斯ノ如キ不當ノ事由アラシヤ第二原告ハ假リニ被告カ解釋正鵠ヲ得
タリトスルモ原告郡會議員ノ任期ハ此上尙通常會一回ヲ經過セサレハ滿限ニ至ラサルナリト云フト
雖其理由トスル所ハ明治二十四年八月ノ郡會ハ其年度ノ半ニ於テ之ヲ開キ同八月以後ノ經費ヲ議決
シタルニ過キサレハ臨時會ノ性質ニシテ之ヲ通常會數ニ算入スヘカラスト云フニ過キス然レトモ同
年八月ノ通常郡會ハ同年度ニ屬スル郡費歲入出豫算其他郡會ノ議スヘキ事件ハ悉ク議決シタリ抑臨
時會ナルモノハ通常會ノ外特ニ必要アルトキ之ヲ開クヘキモノニシテ一ケ年度全般ノ事件ヲ包括シ
テ之ヲ議定セシムヘキモノニアラス而シテ明治二十四年七月開會シタル郡會ノ決議ハ甲二號證ノ通
實ニ同年度全般ニ關スル事件ヲ包括シタルモノニシテ臨時特別ノ事件ニ限リシモノニアラサルコト
明瞭ナリト云フニ在リ

依テ雙方ノ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ
被告ニ於テ郡會議員ノ任期ハ曆法ニ從ヒ計算スヘキモノトスルトキハ現任議員ハ日數ニ於テ滿三年
ナルモ其實四ケ年ノ職務ヲ務ムルモノトナラサルヘカラス何トナレハ現任議員ハ來ル明治二十七年六
月マテ在任者トナリ既ニ前三箇年度ノ豫算等ヲ議シタル上尙二十七年七月豫算ヲモ議定セサルヘカ
ラスト云フト雖郡制第十三條ニ依レハ町村ニ於テ選舉シタル議員ノ任期ハ六年トシ毎三年其半數ヲ
改選ス云々トアリテ任期ノ計算方ニ付別ニ規定スル所アラサレハ普通ノ場合ニ於ケルカ如ク曆年ニ
依リ計算スヘキモノナリ議員ノ行フタル職務ノ程度如何ニ依リ任期年限ニ増減ヲ來スヘキモノニア
ラス而シテ本件東置賜郡會議員ハ明治二十四年七月初メテ上任シタルモノナレハ本年七月ニ於テ三
年ノ任期ヲ終了シタルモノニアラス隨テ其半數改選ノ時ニ達セサルモノトス故ニ明治二十六年八月

問答

七日山形縣知事カ爲シタル裁決ハ正當ナリト云フヲ得ス其他通常會臨時會ノ性質ニ付雙方爭フ所ア
ルモ本件ノ判決ニ必要ナキヲ以テ之ヲ説明セズ
右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ被告ハ明治二十六年七月十七日山形縣東置賜郡會ノ爲シタ
ル議決ヲ執行スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

○不當命令取消ノ件 (三十一)

府縣會議長及副議長ノ任期ハ二ケ年ありと論ずるものあり如何。
其任期は議員の任期に從ふとあれば引續き議員の任を帶る場合には其任期は四ケ年なりとす。

〔判決例〕 二十六年第百二十三號
二十七年三月二十二日宣告

原告 石川縣會議長 横地 正果
被告 石川縣知事 三間 正弘

右原告縣會議長横地正果ヨリ被告縣知事三間正弘ニ係ル不當命令取消ノ訴原告ノ答辯ヲ聽キ證據ヲ
閱シ審理ヲ遂クル處
原告陳述ノ要旨ハ府縣制第十九條ニ府縣會ハ改選後ノ初會ニ於テ議長及副議長各一名ヲ互選スヘシ
其任期ハ議員ノ任期ニ從フトアリ而シテ改選後ノ初會トハ如何ナル時期ナリヤト云フニ知事ハ半數
改選後ノ初會及解散後總選舉ノ初會ナリト云フモ解散後ノ初會ハ更ニ府縣制ニ依テ生シタル議會ナ
レハ府縣制全體ノ支配ヲ受クヘキモノナリ同制第十九條ハ平常ノ措置ヲ示シタルモノニシテ解散ノ
如キ非常ノ場合ヲ云フニ非ラサルハ之ヲ同制全體ニ徵シテ明カナルニモ拘ハラズ知事ハ議長タリシ
議員ハ抽籤留任者ナリシヲ以テ四年間議長ノ職務ヲ繼續スヘキモノトシ退任議員タリシ副議長ノ互
選ノミヲ縣會ニ達シタリ此ニ於テ本會ハ議長モ亦同シク改選後ノ初會ニ於テ互選スヘキモノナルヲ
以テ明治二十六年十一月十七日議長改選ノ議決ヲ爲シタルニ知事ハ同年十一月二十一日ヲ以テ府縣

任期計算

九十

制第十九條第一項ニ違背シタルモノトシ同制第八十四條第二項ニ依リ其議決ヲ取消シテ而シテ原告カ之ニ不服ナル理由ハ府縣制第五條ニ府縣會議員ハ每二年其半數ヲ改選ストアリ又同制第十九條段ニ改選後ノ初會ニ於テ議長及副議長各一名ヲ互選スヘシト命シタル以上ハ議長及副議長ノ任期ハ二年ナルヤ明カナリ同條後段ニ其任期ハ議員ノ任期ニ從フトアルヨリ議長及副議長ノ任期ヲ四年ナリト論スルモノアリト雖法律ハ全文ヲ通シテ之ヲ解釋セサルヘカラス然ルニ同條前段ニ於テ改選後ノ初會ト云ヒ又第五條ニ每二年其半數ヲ改選ストアルヲ以テ之ヲ觀レハ其任期タル議員全體ヲ一ト見做シタルモノニシテ而シテ每二年半數ヲ改選スルノ制ナレハ設令一己議員ニ於テハ其任期四年ナルモ議員全體ノ任期ハ議員全體ノ動カサル期間即二箇年ナリト論定セサル可カラス若シ議長副議長ノ任期ヲシテ單一己議員ノ任期間繼續スヘキモノトセハ甲ノ半數改選ニ依リ選出サレタル一議員ハ正副議長選被選ノ權アルモ乙ノ半數改選ニ選出サレタル半數議員ハ議長副議長選被選ノ權ナ有スル能ハサルナリ豈斯ノ如キ不公平ナル法律アラシヤ加之ナラス之ヲ市制ニ町村制ニ郡制ニ比スルモ又第二ノ法律トモ云フヘキ舊來ノ慣習ニ依ルモ半數改選後ノ初會ニ於テ議長及副議長ヲ改選セサル議長換言スレハ半數議員ノ職ヲ欲セサル議長ヲモ之ヲ改選スヘカラスカ如キコトアラン況ヤ立憲政體ニ於テ最モ重セサルヘカラスナル輿論即議會ノ輿論ヲ以テ半數改選後ノ初會ニ於テ議長副議長ヲ互選スヘシト議決シタルニ於テオヤ然ルニ知事ハ斯ノ如キ明瞭ナル法律ノアルノミナラス之ヲ道理ニ訴フルモ之ヲ舊慣ニ徵スルモ動カスヘカラスナルニモ拘ハラズ同制第十九條後段ノ字句ニノミ拘泥シ強テ本會ノ議決ヲ取消シタリ是レ原告カ本訴ヲ提出スル所以ナリト云フニ在リ被告答辯ノ要旨ハ本縣ニ於テハ明治二十四年十月一日ヨリ縣制ヲ施行セシニ付同年同月十五日始メテ縣會議員ヲ選舉セシメタルニ依リ府縣制第五條ノ規定ニ從ヒ本年九月三十日其半數ヲ改選セシメ

依テ理由ヲ説明スル左ノ如シ

而シテ十一月十六日ヲ以テ半數改選後初度ノ縣會ヲ召集セリ然ルニ同月十七日ニ於テ縣會ハ府縣制第十九條ニ府縣會ハ改選後ノ初會ニ於テ議長及副議長各一名ヲ互選ストアルニ依リ今回ノ會議ニ於テ議長ヲ改選スヘシトノ議決ヲ爲セリ依テ被告ハ右議決ハ府縣制第十九條ノ法文ヲ誤解セル違法ノ議決ト認メ同制第八十四條第二項ニ依リ之ヲ取消シタリ其理由ハ府縣制第十九條第一項ノ前段ニ於テ府縣會ハ改選後ノ初會ニ於テ議長及副議長ヲ互選スヘシトアルヲ以テ單一己議員ニ依ルトキハ今回ノ縣會即半數改選後初度ノ會議ニ於テ議長ヲ改選スヘシトノ論議ノ生スルハ其故ナキニアラサルヲ認ムト雖同條同項ノ後段ニ於テ其任期ハ議員ノ任期ニ從フトアリ又同制第五條ニ於テ府縣會ノ任期ハ四年トストアリ法律ハ全文ヲ通シテ解釋スヘキハ論ナキ所ナルヲ以テ本件ノ如キ現任議長カ引續キ議員ノ職ヲ帶フル場合ニ於テ之レカ改選ヲ爲スヘキモノニアラサルハ明白ナリ原告ハ牽強シテ一己議員ニ於テハ其任期四箇年ナルモ議員全體ノ任期ハ其議員全體ノ動カサル期間即二箇年ナリト云フト雖議員全體ノ任期ナルモノハ法律ノ認ムル所ニアラス府縣會議員ノ任期ニ就テハ府縣制第五條ニ於テ一己議員ニ就キ其任期ヲ規定セラレタルノミナルヲ以テ獨リ同制第十九條第一項ニ於ケル議員ノ任期トアルノミヲ以テ議員全體ノ任期ナリト解釋スヘキ理由ナキモノトスト云フニ在リ

原告ハ府縣制第五條ニ府縣會議員ハ每二年其半數ヲ改選ストアリ又同制第十九條前段ニ改選後ノ初會ニ於テ議長及副議長各一名ヲ互選スヘシト命シタル以上ハ議長及副議長ノ任期ハ二年ナルヤ明カナリ且同條前段ニ於テ改選後ノ初會ト云ヒ又第五條ニ每二年其半數ヲ改選ストアルヲ以テ之ヲ觀レハ其任期タル議員全體ヲ一個ト見做シタルモノニシテ而シテ每二年其半數ヲ改選スルノ制ナレハ設令一己議員ニ於テハ其任期四箇年ナルモ議員全體ノ任期ハ議員ノ動カサル期間即二箇年ナリト論定セサルヘカラスト云フト雖府縣制第十九條後段ニ其任期ハ議員ノ任期ニ從フトアリ而シテ第五條

任期計算

九十一

ニ於テ府縣會議員ノ任期ハ四年トスト規定シアル以上ハ議長及副議長ニシテ引續キ議員ノ任ヲ帶フ
ル場合ニ於テハ其任期ハ四年ナリト解釋セサルヲ得ス又原告ハ一已議員ニ在テハ其任期四箇年ナル
モ議員全體ノ任期ハ二箇年ナリト云フト雖法律上議員全體ノ任期ナルモノ之レナキニ依リ第十九條
第一項ノ任期ヲ以テ議員全體ノ任期即二箇年ナリト云フヲ得ス其他原告ニ於テ陳辯スル所アルモ本
件裁判ニ必要ナキニ依リ説明ヲ與ヘス
右理由ニ依リ判決スル左ノ如シ原告ノ請求相立タヌ訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

第四類 當選者資格要件ノ有無

◎資格有無

○公民ノ資格失權ノ件 (三十一)

問 市町村公民ノ資格を失ふたるときは府縣會議員たるの職をも失ふや否や。
答 府縣會議員は市町村の公民たる者に限りて任す可き職務を失ふものとはす。

〔判決例二十五年第七號〕
同年十二月九日宣告

原告 石川縣珠洲郡直村字野々江 橋元 勗
被告 石川縣知事 鈴木 大亮

右原告橋元勗ヨリ被告石川縣知事鈴木大亮ニ係ル指令並告示取消ノ訴文書ニ就キ審理ヲ遂クル處
原告請求ノ要旨ハ被告石川縣知事ハ縣會議員タル原告カ官吏侮辱議員侮辱ノ被告事件ニ付議員ノ職
務ヲ解ク旨ノ指令ヲ與ヘ明治二十四年十二月十二日ヲ以テ其補缺選舉ヲ管内ニ告示シタルハ蓋シ町
村制第九條第二項ニ裁判所ノ訊問中其公民權ヲ停止ス云々及其末項ニ町村ノ公民タル者ニ限リテ任
ス可キ職務ニ在ル者ハ云々其職務ヲ解ク可キモノトストアルニ該當スルモノト認メ而シテ府縣制第

依テ證據ヲ審閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ

原告ハ被告石川縣知事カ縣會議員タル原告ノ官吏侮辱議員侮辱ノ被告事件ニ付町村制第九條第二項
ノ公民權ノ停止第四項ノ在職者解職ノ規定ヲ適用シ原告ヲ以テ府縣制第十二條ノ失職者ナリト認メ

資格有無

十二條ニ依リ當選後資格ノ要件ヲ失フタルモノト爲シタルニ職由スルナラン然レトモ町村制第九條
ノ規定ハ專ラ町村制ニ限ラレタル職務ノ上ニ止マリ府縣制ニ關係ナク又町村制第七條ニ規定セル公
民權ノ要件ヲ失ハサル限りハ假令原告カ公民權ノ停止ニ遭フモ停止ハ唯停止ノミニシテ消滅ニアラ
ス即チ公民權仍ホ存スルモノナレハ被告カ町村制第九條第四項及府縣制第十二條ノ末項ニ依リ原告
ヲシテ縣會議員タルノ職務ヲ解カシメタルハ違法ノ處置ナルヲ以テ原告ニ與ヘタル指令並補缺選舉
ノ告示中原告ニ關スル分ノ取消ヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ石川縣珠洲郡選出ノ縣會議員ナリシカ明治二十四年十二月官吏侮辱議員侮
辱罪ノ被告トシテ金澤地方裁判所ニ於テ公判ノ訊問ヲ受ケタルニ依リ町村制第九條第二項ニ從ヒ其
公民タルノ權ヲ停止シ及第四項ニ從ヒ縣會議員ノ職務ヲ解クヘキモノナリ原告ハ町村制第九條ノ規
定ハ府縣制ニ關係セスト主張スルモ町村制ハ公民ノ要件ヲ規定セル原則ニシテ郡制府縣制ニ相ヒ通
用スヘキモノナルハ論ヲ竣タス且府縣會議員ナル者ハ町村ノ公民タル者ニ限リテ任ス可キ職務ニシ
テ町村會議員ノ任務ヨリ重キモノナレハ町村會議員カ解職セラルヘキ場合ニ於テ府縣會議員獨リ其
職ヲ解クヲ要セスト云フカ如キ法理ノアルヘキ筈ナシ又被告カ原告ニ對シ與ヘタル指令ハ第一號及
第二號ノ如ク原告カ何書ニ對シ與ヘタルモノニシテ原告ハ當時既ニ其職務ヲ解否チ自ラ決スヘキ事
件アルニ依リ其何書ヲ提出セリ決シテ被告カ該指令ヲ爲シタルカ爲メ職務ヲ失ハシメタルモノニア
ラス其告示モ亦原告カ法律ニ基キ失職シタル結果ヲ公告シタルニ過キサルナリ其事實ハ第一二號書
類ヲ以テ之ヲ證明スト云フニ在リ

資格有無

九十四

指令及告示ヲ爲シタルハ違法ナリト云フト雖縣會議員ハ市町村ノ公民タル者ニ限リテ任ス可キ職務ナルコトハ府縣制第四條ニ於テ市町村ノ公民中云々トアルニ依リ明白ニシテ本訴原告ハ右第四條ニ基キ村ノ公民ナルヲ以テ選出セラレタル議員ナレハ現ニ刑事ノ被告トナリ裁判所ノ訊問ヲ受クルニ當リ被告カ町村制第九條ノ第二項第四項ノ規定ニ從ヒ議員ノ職務ヲ失ヒタルモノト認メタルハ當然ニ依テ被告カ原告ノ伺ニ對シ指令ヲ與ヘ尋テ補缺選舉ヲ告示シタルハ毫モ違法ノ廉ナキヲ以テ之ヲ取消スヘキモノニ非ス

○縣會議員選舉取消ノ件 (三十二)

問 郡制第二十四條の議決云々とするは其議決を以て直ちに無資格者を確定するを得るか且議決せられたる者は選舉を執行するも効力を有せざるや。

答 否、郡會は議決を郡長に通知するに止まる郡參事會を経過せざれば確定せざるものあり故に其選舉も無資格の確定せざる以前なれば有效なりとす。

(判決例二十六年第四百二十二號)

原告 秋田縣南秋田郡太平村郡會議員 嵯峨 重良外三名
被告 秋田縣南秋田郡長 土方 和親

右原告嵯峨重良外三名ヨリ被告南秋田郡長土方和親ニ對スル縣會議員選舉取消ノ訴審理ヲ遂クル處原告陳述ノ要旨ハ南秋田郡會ハ明治二十六年五月十五日ニ於テ議員町田長秀カ其議員ノ資格ヲ失フタルモノナルコトヲ發見シ無資格者タルノ議決ヲ爲シ郡制第二十四條ニ依リ之ヲ南秋田郡長ニ通知セリ又同年六月十三日ニ至リ同議員藤原龜之助ノ無資格ナルコトヲ發見シ議員ノ資格ナキモノト議

資格有無

九十五

決シ前同様之ヲ郡長ニ通知セリ然ル上ハ郡長ハ適法ノ行政處分ヲ施行スルハ當然ナルニモ拘ラス在再其處分ヲ爲サス同年六月十四日縣會議員ノ選舉ニ無資格議員タル町田長秀藤原龜之助ヲ參與セシメテ投票ヲ行ハシメタリ而シテ其結果太田政光十三票北島孫吉十二票目黒貞拾嵯峨重良各十一票ノ得點者トナレリ抑縣會議員ノ選舉ハ府縣制第三條ノ命スル所ニ依リ郡長ハ郡制第三十二條及第五十一條ヲ適用シテ郡會參事會ヲ招集シテ會同會ヲ組織スヘキモノナレハ真正ノ會員ヲ招集シテ選舉會ヲ開クヘキハ當然ナリ然ルニ郡長ハ郡會カ郡制第二十四條ニ依リ無資格ト議決シタル町田長秀藤原龜之助ノ兩人ヲ選舉會ニ參與セシメタリ是レ果シテ當然ノ處置ト云フヘキカ要スルニ本件ノ問題ハ郡會カ無資格者ナリト議決シテ郡長ニ通知シタルニ郡長ハ之ヲ郡參事會ノ議決ニ付シタルハ正當ナルヤ否又其無資格ノ議員カ參與シテ爲シタル選舉ハ有效ナルヤ否ニアリ而シテ郡制第二十四條ハ郡會ニ議員ノ資格ヲ審査決定スルノ權ヲ與ヘタルモノナルコトハ其議決ニ一任シタルヲ以テ明瞭ナリ又其議決ニ對シ訴願ヲ許シタル規定ナキヲ以テ之ヲ觀レハ其議決ハ確定シテ動カスヘテサルモノナリ然ルニ郡長ハ其議決ヲ更ニ郡參事會ノ議ニ付シタルハ何等ノ規定ニ依リタルモノナルヤ被告ハ郡制第二十四條ト第二十五條ト相牽連スルト云フモ第二十五條ハ主トシテ選舉當時ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ本件ノ如キ選舉後資格審査ノ場合ニ適用スヘキモノニアラス又第二十四條ヲ以テ原告ノ主張スル如ク資格審査ノミニ限ルモノトセハ本條ハ全ク無用ノ條項ナリト謂ハサルヘカラス既ニ第二十四條ノ規定アル以上ハ之ヲ有效ニ解釋シ同條ニ依レル郡會ノ議決ヲ以テ確定ノモノトスルハ當然ナリ而シテ無資格者ト決定セラレタル長秀及龜之助兩人ノ參與シテ行フタル選舉ハ無効ノ選舉ナルコト明白ナリトス然ルニ秋田縣參事會ニ明治二十六年十月十二日ヲ以テ南秋田郡選出縣會議員二名ノ選舉取消訴願ニ對シ選舉ハ取消スヘキモノニアラスト裁決シタルハ不當ナルニ付其裁決ヲ取シ更ニ本件ノ選舉ヲ取消スヘキ様判決アランコトヲ請フト云フニ在リ

資格有無

九十六

被告陳述ノ要旨ハ郡會議員被選權ノ有無ハ郡制第二十五條ニ依リ必ス郡參事會ノ裁決ヲ要セサルヘカラス故ニ郡會ニ於テ町田長秀藤原龜之助ニ對シ爲シタル無資格ノ議決ハ即チ郡會議員被選權ノ有無ニ關スルモノナルヲ以テ郡長ニ於テ之ヲ郡參事會ノ裁決ニ付シタルハ適法ノ所爲ナリト信ス然ニ原告ハ郡制第二十四條ニ依レル郡會ノ議決ハ直チニ效力ヲ生スルモノナレハ更ニ郡參事會ノ裁決ヲ要スヘキ者ニアラスト云フモ第二十四條ノ議決ハ資格審査ノ議決ニ過キサレハ郡制第二十二條ニ於ケル選舉人ノ選舉効力ニ關スル訴願ト同シク郡會カ郡會議員ノ被選資格ニ關スル異議ニシテ前訴願ト同一ノ性質ヲ有スル者ナリ郡會議決ノミヲ以テ右兩名ヲ失職ナリト速斷スルヲ得ス蓋郡制ノ草案ヲ觀ルニ其第三十條ニ於テ議員資格ノ審査決定ハ郡會ニ一任シアリタレトモ確定法即現今ノ郡制ハ其第二十五條ニ於テ選舉効力ノ裁決權ト資格有無ノ裁決權トヲ合セテ郡參事會ニ一任セリ若原告主張ノ如ク郡會ノ議決ニ一任スルモノトセハ選舉人ハ全ク訴權ナキ者ト謂ハサルヘカラス是豈法律ノ精神ナランヤ郡制第二十二條ニ於テ選舉ノ効力ニ關スル訴願ノ手續ヲ規定シ第二十四條ニ於テ資格審査ノコトヲ定メ而シテ第二十五條ハ右兩條ニ對スル裁決權ヲ定メタル者ニシテ各條相牽連スルコトハ彼是對照シテ之ヲ知ルヲ得ヘシ特ニ一旦議員ニ當選シテ第二十條ニ依リ當選證書ヲ得タル以上ハ其取消アラサル間ハ依然議員タルノ資格ヲ有スルモノタルコト明カナリ本件ノ兩名ハ郡會ニ於テ其無資格ナルコトヲ議決シテ之ヲ郡長ニ通知シタルマテニシテ未タ郡參事會ノ裁決ヲ經サルモノナレハ依然有資格者ナリ隨テ右兩名ノ參與シテ行フタル選舉ハ有効ノ選舉ナレハ之ヲ取消スヘキ理由ナキモノトス依テ原告ノ請求ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 原告ニ於テ郡制第二十四條ハ郡會議員資格ノ確定ヲ郡會ノ議決ニ一任シタルヲ以テ郡會カ町田長秀藤原龜之助ノ無資格者ナルコトヲ議決シ之ヲ郡長ニ通知シタル以上ハ郡長ハ之レカ行政上ノ處分ヲ

納稅資格

○縣會議員選舉不當取消請求ノ件 (三十三)

爲スヘキハ當然ナルニモ拘ハラズ郡會ノ議決ヲ更ニ郡參事會ノ裁決ニ付シタルハ不當ナリ又郡會ニ於テ無資格者ト決定シタル右兩人ヲ縣會議員ノ選舉ニ參與セシメタルハ無効ノ選舉ナリト云フト雖郡制第二十五條ニ郡會議員ハ被選權ノ有無云々郡參事會之ヲ裁決ストアレハ第二十四條議員ノ資格如何ヲ裁決スルノ權ハ郡參事會ニ存スルモノナレハ同制第二十四條ノ議決ヲ以テ無資格者ナルコトヲ確定シ得ヘキモノニアラスト然ラハ本件ノ場合ニ於テ郡長カ右兩人ノ資格ニ關スル郡會ノ議決ヲ執行セシメテ郡參事會ノ裁決ニ付シタルハ不當ナリト謂フヲ得ス隨テ未タ無資格者ト決セサル右兩人ノ參與シテ行フタル縣會議員ノ選舉ハ無効ナリト云フヲ得ス故ニ明治二十六年十月十二日附秋田縣參事會ノ裁決ハ取消スヘキモノニアラスト

府縣制第四條に一年以來とあるは租額拾圓以上の土地を所有してより一年以上に及ぶときは納稅は一年に及ばざるも被選權を與ふる意あるや。

直接國稅を一年以來納むるものにわらざれば被選權を有せず。

原告 青森縣上北郡三本木村 藤島源作
 被告 青森縣上北郡長 井上跳蛙

右原告藤島源作ヨリ被告上北郡長井上跳蛙ニ對スル縣會議員選舉不當取消請求ノ訴訟遂審理處原告請求ノ要旨ハ明治二十四年八月二十日ノ縣會議員選舉會ニ於テ被告ハ當選者ヲ査定スルニ方リ

納稅資格

九十七

納稅資格

九十八

原告ノ納稅額ニ不足アリテ被選人ノ資格ナキモノト爲シ權利ヲ剝奪セシハ不當ナリ抑原告ハ居村ニ於テ金參圓五拾六錢藤坂村ニ於テ金五拾貳錢四厘ノ地租ヲ納メ來リ尙明治二十三年七月三十日地租六圓八厘ノ土地ヲ買受テ其公証登記モ濟ミタレハ合計金拾圓九錢貳厘ヲ納租ス可キ義務ヲ負擔シ縣會ノ被選人タル權利ヲ完備シタルモノナリ而シテ藤坂村納租額ノ内二十三年第一期分畑租金壹圓六拾四錢四厘ハ其徵稅傳令書到來セサルニ因リ該納租期末八月三十一日舊地主佐倉長助ニ問合セタルニニアラス畢竟原告ハ右地所買得後本會開設マテ一箇年以來地租拾圓九錢貳厘ノ地所ヲ所有スルコト明瞭ニシテ且藤坂村納稅簿ハ舊地主名義ニテ明治二十三年二月二十八日日本縣知事ノ訓示ニ背キタルヲ未ダ訂正セサル錯誤アルニモ拘ラス被告ハ該村長ヲ責メテ却テ右事實ヲ口實トシ強テ原告ノ資格ヲ損害セントスルハ不當ナルニ因リ縣知事ニ訴願セシニ縣知事ハ原告住居村長ノ證明書ニ依ラスシテ單ニ藤坂村長ノ證明書ノミニ依リ該村ニ於ケル地租納額壹圓六拾四錢四厘ハ明治二十三年九月一日以降納租シタルモノナルニヨリ之ヲ扣除スルトモ一年以來ノ納額八圓四拾四錢八厘ナルヲ以テ縣會ノ被選權ナキモノナリト裁決シタルハ不服ナルニ由リ八月二十日ヲ以テ施行シタル縣會議員選舉ノ取消アランコトヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ニ於テ明治二十三年七月並ニ八月二十日ヨリ明治二十四年八月二十日マテ一年以來本郡三本木村及藤坂村ニ於テ完納セシ直接國稅即チ合地租八圓四拾四錢八厘ニ過キサルヲ右兩村長ノ證明書ニ照スモ明カナリ之レヲ直接國稅拾圓ニ對比スレハ尙壹圓五拾五錢貳厘ノ不足アリ故ニ被告ハ府縣制第三條二ノ三ニ依リ之ヲ無効投票ト定メタルハ適法ノ處理ニシテ被告ノ爲ス可キ法律上當然ノ職務ナレハ原告ノ權利ヲ剝奪シタルモノト言フ可カラズ不當ノ處置ト言フ可カラズ若シ夫レ被告會長ノ處理ヲ不當トセンカ會員ハ意見ヲ述ヘ宜シク其不當ヲ正サンハ會員ノ職務ナリ

父子兄弟

○不當裁決取消ノ件 (三十四)

當時原告ハ自供ノ如ク會場ニ列席シ在リナカラ會テ一言ノ故障ヲ申立タルコトナク他ノ會員モ亦然リ又原告ハ地所拾圓以上ノ土地ヲ一箇年以上所有シ居レハ其地租ヲ納ムル義務アルニ依リ縣會ノ被選權ヲ失ヒタルカ如ク主張スレトモ該地租拾圓以上ノ内明治二十三年第一期分ハ舊地主ノ名義ニテ舊地主之ヲ完納シタリ故ニ原告ニ於テ一年以來納稅シタルハ八圓四拾四錢四厘ニシテ拾圓ニ充サルニ依リ縣會ノ被選權ナキ者ナリ素ト其被選權ナキ者ハ之ヲ失フノ道理ナキハ明カナリト云フニアリ右雙方ノ陳述及證據書類ニ依リ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ニ於テ明治二十三年七月三十日地所ヲ買受ケ他ノ所有地ト合計シ金拾圓以上ヲ納租ス可キ義務ヲ負擔シ即チ縣會ノ被選人タル權利ヲ完備シタルモノナリト主張スト雖府縣制第四條府縣内市町村ノ公民中選舉權ヲ有シ其府縣ニ於テ二年以來直接國稅拾圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會ノ被選權ヲ有ストアレハ假令地所ノ所有權ヲ得タルヨリ議員選舉ノ當日マテ一年以上ニ及フモ直接國稅十圓以上ヲ一年以來納ムル者ニアラサレハ被選權ヲ有スル者ト言フ可カラズ然ルニ原告ハ地所ヲ買受ケタル當時ニ在テ其納租期內自己ノ名義ヲ以テ納租シタルニアラス故ニ明治二十四年八月三十日開キタル縣會議員選舉會ニ於テハ未ダ被選人タル資格ヲ有セサルモノナリ依テ該選舉會ハ原告ニ對シ不當ノ處分ナキヲ以テ之ヲ取消ス可キ理由ナシトス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ原告ノ請求相立タズ訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

問

町村制に父子兄弟の縁故とあるは當選者某は助役某の妻の兄たるの類も包含するや。

父子兄弟

九十九

父子兄弟

〔判決例二十五年第百五號〕

同年十二月三日宣告

原告 福島縣南會津郡檜澤村 大竹 久 太外一名
被告 同縣同郡同村々會議長 兒山 貴一

右原告大竹久太渡邊幸平ヨリ被告村會議長兒山貴一ニ對スル村會議員選舉ノ効力ニ關スル不當裁決取消ノ訴訟文書ニ就キ審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ明治二十五年六月十一日南會津郡檜澤村ニ於テ執行シタル村會議員選舉ノ際現在助役室井大治ノ妻ノ兄ナル芳賀沼源吾當選シ之ニ就職セシメタル被告ノ處置ハ町村制第十五條ノ規定ニ背クモノナルユヘ其當選取消ヲ請求ス抑同條ニ單ニ父子兄弟ト言ハスシテ父子兄弟タルノ縁故アル者ト言フハ其含意血統ノ聯結スル血族ニ止マラサルコト明カナリ既ニ血族ニ止マラス姻族ニ及フトセハ縁故ノ範圍ニ取除ノ規定ナキヲ以テ現行刑法第十四條第三項第八項ニ掲クル親屬例ニテ姉妹ノ夫及ヒ妻ノ兄弟ハ兄弟タルノ縁故アル者ト爲ス可キハ當然ナリ然ルチ本村會及ヒ郡長縣知事ハ共ニ該選舉ハ取消ス可キモノニアラストノ裁決ヲ爲シタルトモ其裁決ハ不當ナルユヘ之レヲ取消シアリマシト言フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告カ理由ノ要點ハ現行刑法親屬例第百十四條第三項及ヒ第八項ニ掲クル親屬ハ兄弟タルノ縁故アルモノナレハ被告及ヒ郡長縣知事ノ爲シタル裁決ハ何ツレモ不當ナリト言フト雖モ本來町村制第十五條ニ所謂父子兄弟タルノ縁故トハ其父子兄弟タルノ續キアルモノト言フニ外ナラス縁故ノ二字ヲ以テ他ノ親屬ニマテ及ボスヲ得サルハ論ヲ待タズシテ明カナリ尙ホ刑法親屬例ニ據テ見ルモ兄弟ト稱スルモノハ第百十五條ニ明瞭ナリ原告カ主張スル第百十四條第三項第八項ハ親屬ノ名稱タルニ過キスシテ兄弟ノ名稱アルニ非ラサレハ町村制第十五條第六項兄弟ノ名稱ニ該當スヘキ理由アラサルナリ故ニ室井大治ハ芳賀沼源吾ニ對シ兄弟タルノ縁故ナキニ因リ原告ノ請求ハ排

斥アリマシト言フニ在リ

依テ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ニ於テ町村制第十五條ニ父子兄弟タルノ縁故アル者ト言フハ刑法第百十四條第三項第八項ニ掲クル者ヲ言フモノナリトノ旨趣ヲ主張スト雖刑法第百十四條ハ親屬例ヲ示メスモノニシテ配偶者ノ兄弟ヲ以テ兄弟ノ縁故ト爲シタルモノニアラス而シテ町村制第十五條ノ父子兄弟タルノ縁故アル者トハ養實ノ父子兄弟タルノ關係アル者ヲ言フモノニシテ妻ノ兄弟又ハ姉妹ノ夫ノ如キハ該縁故アル者ト言フ可カラス依テ芳賀沼源吾ハ室井大治ノ妻ノ兄ナル關係アリト雖モ之レヲ以テ父子兄弟タルノ縁故アル者ト爲スヲ得ス

◎諸宗教師

○郡會議員當選無効決定取消ノ件 (三三五)

問 郡會議員當選前に教師の退職を自願し未だ解職の命令なきも當選承諾の届出を爲すを得ずや。

答 當選の際既に意を決して辭表を呈し置きたるものあれば當選承諾の届出を爲すは妨げなし。

原告 山形縣東村山郡相摸村 齋藤 秀善
被告 山形縣東村山郡長 岩田 孫四郎

右原告齋藤秀善ヨリ被告山形縣東村山郡長岩田孫四郎ニ係ル郡會議員當選無効決定取消ノ訴訟審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ明治二十四年五月十八日東村山郡ニ於テ郡會議員選舉ヲ行ヒタリ其前原告ハ教師

諸宗教師

ノ職ニアルヲ以テ同年四月二十日即チ選舉會日ヨリ殆ント一箇月前ニアツテ神道教師ニ向ヒテ教師
 辭職願ヲ呈シ置キタリ其出願ノ日ヨリ辭職開屆ノ指令アル迄數十日ヲ經過スルコトハ從來ノ慣例ナ
 ルカ管長田中賴庸カ當テ部内ニ達シタル神道ノ内規ニ據ルトキハ辭表ヲ呈セシヨリ二十日間ヲ經過
 シ開屆ノ指令アラサルトキハ其辭職ハ開屆アリタルモノト看做ストアリ然ルニ其二十日ヲ經過シタ
 ル五月十八日ノ選舉會當日ニ至ルモ何等ノ指令モナク原告ハ其日多數ヲ以テ當選シタルニヨリ同
 九日承諾届ヲ差出シ當選後六日ニ至リテ當選證書ヲ交付セラレタリ然ルニ被告ハ同年八月三日ニ至リテ
 原告ノ教師職ハ當選證書下付ノ際ハ未ダ解除セラレサルニ付郡制第十條第三項ニ抵觸スルモノトシ原
 告ノ承諾ヲ無効トナシタルハ不當ナリ又制第二十五條ノ明文アルニ拘ハラズ原告ノ訴願ヲ排斥シタ
 ルハ是亦不當ナルヲ以テ被告ノ決定取消ヲ請求スト云フニ在リ
 被告答辯ノ要旨ハ原告ハ明治二十四年五月十八日東村山郡會議員選舉ノ爲メ同郡相摸村及大會根村
 會同シテ開キタル村會ニ於テ有効投票ノ多數ヲ得タルニヨリ同日中其當選ノ通知ヲナシタルニ翌十
 九日付ヲ以テ其承諾届ヲ差出セリ依テ同月二十五日ニ至リ當選證書ヲ交付シタルトモ其後原告ハ當
 選承諾ノ當時郡制第十條第三項ノ三ニ該當スル教師ノ職ニアリ尙制第十九條承諾ノ期限内ニ其職ヲ
 去ラサリシモノナルコト發覺セシヲ以テ同年八月三日ニ至リ當選無効ノ決定ヲナシタルモノナリ之
 ニ對シ原告ハ郡制第二十五條ニ準據シ漸次官廳ノ等次ヲ逐フテ訴願ヲナセリ然ルニ本訴願ノ要點ハ
 町村公民トシテ郡會ノ被選權ヲ有シ有効投票ノ多數ヲ以テ有効ニ當選シタルモ其當選承諾ニ瑕瑾ア
 ルヲ以テ當選無効ノ決定ヲナシタルモノナリ如何トナレハ制第十九條ニ當選承諾ノ期限ヲ五日トナ
 シタルヲ以テ若シ原告ニ於テ完全ニ議員タルノ權利ヲ取得セント欲セハ法律ニ抵觸スル事項ハ悉ク
 之ヲ脱却シテ完全ナル承諾ヲナサハル可カラサレハナリ又原告ハ神宮教管長田中賴庸カ教導職轉屬

ノ場合ニ關シ明治十九年十月六日乙第八十六號ヲ以テ各本部ニ通達シタル規定ヲ比附援引シテ全ク
 教職ヲ去ルノ場合ニモ適用スヘキモノ、如ク主張スト雖トモ該規定ハ單ニ轉屬ノ場合ニノミ適用ス
 ベキモノニシテ本件ノ如キ辭職ノ場合ヲ含蓄スヘキモノニ非ラス現ニ田中管長カ原告ノ辭職願ニ對
 シ三十日餘ノ時日ヲ經過シタルノ後ニ至リ辭職許可ノ令狀ヲ與ヘタルニ依テ之ヲ視ルモ被告ノ見解
 ハ其當ヲ得タルモノト思考ス元來本件ハ郡制中訴願ヲ認許セサル事件ナルニ付却下ノ裁判アラシ
 トヲ請求スト云フニ在リ
 依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ證據書類ヲ檢閲シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 被告ハ本件ハ郡制中訴願ヲ認許セサル事件ナルニ付却下ノ裁判ヲ請求スト云フト雖當選承諾ノ當否
 ハ自ラ選舉ノ結果ニ影響ヲ及ボスヲ以テ制第二十五條選舉ノ効力云々ノ明文ニ照依シテ訴願及訴訟
 ナ爲シ得ルハ勿論ナリトス又被告ハ原告ニ於テ有効投票ノ多數ニ依リ有効ニ當選シタルモ其當選承
 諾ノ届出ハ教師解職ノ前ニ在ルヲ以テ其承諾ハ瑕瑾アルモノナレハ其當選ヲ無効ト決定シタリト云
 フト雖モ郡制第十條ノ精神ハ議員トナリテ其職務ヲ行フ者ハ教導職ヲ兼帶シ得スト謂フニ在リテ原
 告ハ當選ノ際既ニ其意ヲ決シ辭表ヲ呈シ置キタルモノナレハ假令ヒ未ダ解職ノ指令ヲ受ケサルモ當
 選承諾ノ届出ヲ爲スハ法律上妨ケナキノミナラス客年五月二十五日神宮本院ヨリ解職許可ノ通知ヲ
 受ケタルニ被告ニ於テ同年八月三日ニ至リ原告ノ當選ヲ無効ト決定シタルハ其當ヲ得サルモノトス
 右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ
 原告カ明治二十四年五月十八日ノ選舉會ニ於テ受ケタル當選ハ有効トス訴訟費用ハ被告ノ負擔ト
 ス

選舉會成立

第五類 選舉ノ効力

○選舉會成立

○縣會議員選舉取消請求ノ件 (三十六)

問 府縣制第三條に郡會及郡參事會々同し云々とあるは郡會議員及郡參事會員の會同を意味するや又は郡會と郡參事會の會同を意味するや

答 郡會郡參事會の兩會相會同するの意あり故に兩會各決議を爲し得べき定數をければ選舉會を開くことを得ざるものなり。

〔判決例 二十四年第八十八號 二十五年三月三十一日宣告〕

原告 石川縣羽咋郡南大海村 早川 政行外十一名
被告 石川縣羽咋郡長 安達 正輝

右原告早川政行外十一名ヨリ被告羽咋郡長安達正輝ニ對スル縣會議員選舉取消請求ノ訴遂審理處原告陳述ノ要旨ハ明治二十四年十月十五日石川縣羽咋郡役所ニ於テ執行シタル縣會議員選舉ハ法律ニ違背シタルモノナリ何トナレハ府縣制第三條ニ府縣會議員選舉ハ郡會及郡參事會々同シ云々トアリ既ニ郡會ト云ヒ郡參事會ト云ヒ共ニ其團體タル上ヨリ指稱シタルモノニシテ其團體ヲ組織スル各分子ヲ指スニアラス又郡制第三十三條ニ郡會ハ議員半數以上出席スルニ非レハ會議ヲ開キ議決ヲナスヲ得ストアリ然レハ則チ郡會ナル團體ハ議員半數以上集合スルニアラサレハ成立セサルハ明ナリ然ルニ羽咋郡々會議員總數二十六人ノ内僅カ四人出席セルヲ以テ郡會ヲ組織シタリト謂フヘカラス從テ府縣制第三條ニ所謂郡會ニ當ラサルヤ明ナリ而シテ縣參事會ノ裁決ハ此事實ヲ認メナカラフ府縣制第三條ト郡制第三十三條トハ其意ヲ異ニスストノ理由ヲ以テ郡長ノ處置ヲ正當トナシタルハ抑モ法

行政裁判例問答

行政裁判例問答

選舉會成立

文解釋ヲ誤ルモノナリ又郡長カ發シタル選舉會開設ノ通知書ニハ羽咋郡役所トアリテ郡役所内ノ何レノ室ナルヤチ明示セス且當日郡役所ニ參集シ届出チナシタル原告等ニ對シ定刻ヲ過ルモ尙其何レノ室ナルヤチ指示セスシテ缺席者ト同視シ棄權者ト見做シタルハ專擅ノ處置ナリ又通知書ニハ午前第九時會場ニ參集スヘシトアリテ閉會ノ時限ヲ明示セス而テ原告等カ正午少シリ過クル頃ニ於テ投票ヲ行ハント請求シタルモ郡長カ之ヲ拒絕シタルハ投票權ヲ妨害シタルモノト謂フヘシ然ルニ被告ニ於テハ議會ヲ開始スルヤ先ツ議員ニ其通知ヲ爲スノ慣習ナルニ依リ郡長ハ鑿拆チ以テ通知シ尙郡書記ヲ遣ハシタリト謂フト雖是レ固ヨリ附會ノ言タリ此等ノ事雙方トモ確證ナキヲ以テ畢竟無證據ノ爭論ナルノミナラス當日參集員二十六名ノ中僅カニ六名ノミ右ノ通知ヲ知り得テ多數ノ二十名之ヲ知ラサルノ道理ナシ又縣參事會ノ裁決ハ原告等ノ申立チ以テ事實ニ相違スト斷定シタルハ採證ノ理ヲ誤ルモノナリトス依テ石川縣參事會石川縣知事岩山敬義カ與ヘタル縣裁第十九號ノ裁決ヲ廢毀シ併セテ明治二十四年十月十五日石川縣羽咋郡役所ニ於テ開設シタル石川縣會議員選舉ヲ取消シ更ニ至當ノ處分ヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ府縣制第三條ニ郡會郡參事會々同トアルハ兩團體其物ノ選舉權ヲ規定シタルニアラス郡會議員郡參事會員其人ノ會同ヲ以テ選舉スルノ規定ニシテ決シテ郡會郡參事會ノ議決ノ手續ヲ以テ選舉スルノ法意ニアラサレハ其出席員數ノ多寡ハ固ヨリ同制ノ間フ所ニアラス故ニ郡制第三十三條及第五十三條ニ規定シタル定數ニ充タサルモノヲシテ選舉ヲ執行スルモ府縣制第三條ニ抵觸セサルナリ又原告ハ開會ノ場所ヲ明示セスト云フト雖己ニ召集狀ニ郡役所ヲ以テ選舉會場ニ充ツト記載シタルハ是則チ其場所ヲ明示シタルモノナリ況ンヤ當日郡役所門戶ニハ石川縣會議員選舉會ナル木標ヲ掲ケ楯上ニハ受付會場及議員扣席ナル見札ヲ粘付シ置キタルニ於テチヤ加之議員扣席ハ會場ニ相接シ雙方互ニ相見渡シ得ル程ノ所ナルニモ拘ハラヌ原告等カ會場ハ何レノ室ナルヤチ知ラサ

選舉會成立

リシトハ謂レナキノ陳述ナリ又原告ハ通知書ニ開會閉會ノ時間ヲ明示セス而シテ選舉會長カ相當時間中ニ投票函ヲ閉鎖シテ投票ヲ拒ミタルハ原告等ノ投票權ヲ妨害シタルモノナリト云フモ選舉會ノ開閉ハ偏ニ選舉會長ノ職權ニ屬シ法律上何等ノ制規アルヲ見ス原告山本精一カ投票ヲ行ハント請求シタル時ハ己ニ會長カ投票函ヲ開キ選舉ノ結果ヲ報道シタル後ナルヲ以テ選舉會長之ヲ拒絕シタルモノニシテ毫モ投票權ヲ妨害シタルニアラス又原告ハ選舉會開會ノ告知ヲ受ケスト云フハ是亦事實ヲ枉クルノ甚シキモノナリ何トナレハ開會告知ノ手續ハ府縣制ニ之ヲ規定セス偏ニ選舉會長ノ職權ニ屬セリ故ニ選舉會長ハ最初郡書記前田直好ヲ以テ擧テ以テ開會ヲ報セシメ此時温井重次郎外五名ハ出場シ他ハ尙扣席ニ在リシカ尙他ノ書記ヲ以テ再三通報ストモ更ニ出場スルモノ一人モナシ依テ會長ハ此等ノ人ヲ棄權者ト見做シ現ニ出場セシ六名ヲ以テ開會ノ手續ヲナシ投票ノ執行ヲ了シタリ原告早川政行外九名カ此際投票ヲ行ハサリシハ自ラ好シテ投票權ヲ放棄セシモノニアラサレハ自己ノ不注意若クハ怠慢ニ依リ投票時期ヲ失シタルモノナリト謂フ可シ依テ明治二十四年十月十五日羽昨郡役所ニ於テ執行シタル石川縣會議員選舉ハ法律上有効ノモノニシテ毫モ取消スヘキ理由ナシト云フニ在リ

依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ理由ヲ説明スル左ノ如シ

被告ハ府縣制第三條ニ郡會郡參事會々同云々トアルハ郡會議會郡參事會員其人ノ會同ヲ以テ選舉スルノ規定ニシテ其出席員數ノ多寡ハ固ヨリ同制ノ問フ所ニアラス故ニ羽昨郡役所ニ於テ開設シタル選舉ハ有効ノモノナリト云フト雖抑モ府縣制第三條ニ郡會郡參事會々同トアルハ該會カ會同トシテ府縣會議員選舉會ヲ開クノ規定ナレハ郡制第三十三條及第五十三條ニ準據シテ決議ヲ爲シ得ヘキ定數ノ出席者アルニ非サレハ其會同會ヲ開キ及其選舉ヲ執行スルヲ得サルモノナリ依テ本件ノ如ク僅ニ六名ノ出席員ヲ以テ郡會郡參事會ノ會同會ヲ開キ縣會議員ヲ選舉シタルハ適法ノ處置ニアラサル

モノナレハ其選舉ヲ有効ナリト謂フヲ得サルモノトス其他被告カ陳述スル所數點ニ涉ルト雖本案ニ必要ナキヲ以テ之ヲ説明セス
右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ
明治二十四年十月十五日石川縣羽昨郡役所ニ於テ執行シタル石川縣會議員選舉ハ之ヲ取消スヘキ訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

○縣會議員選舉取消請求ノ件 (三十七)

問 縣會議員選舉の場合に於て郡會議員にして郡參事會員を兼ねる者を各會員として之れを二ケに計算するを得るや。

答 二箇として計算するを得ず。

(判決例 二十五年第四百二十六號 同年七月二十七日宣告)

原告 石川縣羽昨郡南邑知村郡會議員 吉野 勘十郎外六名
被告 石川縣羽昨郡長 安達 正輝

右原告吉野勘十郎外六名ヨリ被告石川縣羽昨郡長安達正輝ニ對スル縣會議員選舉取消請求ノ訴文書ニ就キ審理ヲ遂クル處

原告訴求ノ要旨ハ明治二十五年七月二十七日執行シタル縣會議員選舉會ニ郡參事會員ハ郡制第四十六條第二項後段ニヨリ選任セラレタル葛城理吉及ヒ郡會議員ヨリ互選ニ係ル温井重次郎ノ兩名郡會議員ハ雄谷朔平雄谷助次郎村田勇太郎大家七郎左衛門岡島賢雄畑中寛政葛城忠寸計植村利隆谷内久平森本賢之丞金田平五郎前井彦三郎ノ十二名ニシテ定數二十六名ニ比シ半數ニ滿タサルモノナリ然ルヲ選舉會長ハ温井重次郎ハ郡參事會員及ヒ郡會議員ナリトシ郡會議員ノ數ニ加ヘ郡參事會員ノ數

選舉會成立

選舉會成立

ニモ入レ二方ニ算入シテ選舉ヲ行ハシメタルハ不當ニ付該選舉ノ取消ヲ石川縣參事會へ訴願シタルニ取消スヘキモノニアラスト裁決セリト雖モ其裁決ニハ服從スル能ハス其理由ハ府縣制第三條ニ郡會郡參事會々同トアルハ兩會カ會同シテ府縣會議員ノ選舉ヲ行フノ規定ナレハ郡制第三十三條及ヒテ執行スルコト能ハサルモノナリ郡會ト云ヒ郡參事會ト云ヒ共ニ其團體上ヨリ指稱シタルモノナレハ各團體トモ定數即チ半數以上ノ出席者アリテ然ル後兩會會同トナルモノナルコトハ最モ容易キノ道理ナリ然ラハ郡會議員十二名郡參事員二名ノ出席者ニテ乙ハ定數ニ達シタルモ甲ハ一名ヲ缺クタル場合ニ當リ郡參事會員二名中ノ一名ハ郡會議員ヲ兼子居ル者ナリトスルモ其一團體ノ出席數ニ屬シタル以上ハ他ノ團體ノ出席數ニ複算スルコト能ハサルナリ若シ郡會議員ニシテ郡參事會員ヲ兼子居ル者ハ二様ノ資格ヲ要スルモノナルヲ以テ兩會ノ出席數ニ計算スルモ妨ナシトスルトキハ二様ノ資格ニ依リ投票モ各一個即チ都合二個ヲナシ得ルニ至ラン世間豈斯カル理アラシヤ依テ本件縣會議員選舉ノ取消ヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ羽昨郡會議員ノ定數ハ二十六名郡參事會員ノ定數ハ四名ニシテ選舉當日出席セシハ郡會議員十三名内一名ハ郡會ノ互選ヲ以テ郡參事會員タリシ者知事ニテ選任シタル郡參事會員一名トニシテ郡會ニ於テモ半數ニ達シ郡參事會員ニ於テモ半數ニ達シタルヲ以テ府縣制第三條ノ規定ニ依リ縣會議員選舉ヲ行ハシメタルナリ然ルニ原告カ之ヲ不當トスル要點ハ出席郡會議員八十二名ニシテ定數二十六名ニ比シ半數ニ滿タサルモノナリ然ルニ選舉會長ハ溫井重次郎ハ郡參事會員及ヒ郡會議員ナリトシ郡會議員ノ數ニ加ヘ郡參事會員ノ數ニモ入レ二方ニ算入シテ選舉ヲ行ハシメタルハ不當ナリト云フト雖モ溫井重次郎ハ郡會議員ニシテ郡會ノ互選ニヨリ郡參事會員ト爲リタル者ナレハ郡會ニ在テハ郡會議員ノ資格ヲ有シ郡參事會員ニ在テハ郡參事會員ノ資格ヲ有スルハ勿論ナリ故

ニ郡參事會員ノ數ニ加ヘ又郡會議員ノ數ニ加ヘ選舉ヲ執行セリ原告ハ郡參事會員二名中ノ一名ハ郡會議員ヲ兼子居ル者ナリトスルモ其一團體ノ出席數ニ屬シタル以上他ノ團體ノ出席數ニ複算スル能ハサルナリト云フト雖モ原告ハ申供シタル事實ノ項ニ於テ郡會議員ヲ兼子居ル郡參事會員ノ數ヲモ定數ニ加ヘ則チ二十六名ニ比シ半數ニ滿タサルモノナリト云ヒシハ郡參事會員ヲモ郡會議員ノ數ニ複算セシモノニアラストヤ然ラハ原告ノ申供ハ定數ヲ算スルニハ複算シナカラ出席數ヲ算スルニハ之ヲ除却セントスルモノニテ自家撞著ノ議論ト言ハサルヲ得ス假リニ原告ノ云フカ如ク二方ニ算入スヘカヲサルモノト爲ストキハ兩會會同ノ場合ニ於テ郡會議員ノ定數ハ郡參事會員ヲ兼子居ル三名ヲ除キ二十三名ヲ以テ郡會議員ノ定數トセサルヲ得ス然ラハ現在出席ノ郡會議員ハ二十三名ニ對スル十二名即チ過半數ニシテ府縣制第三條郡制第三十三條及ヒ第五十三條ノ規定ニ抵觸スルモノニアラスト又原告ハ兩會ノ出席數ニ計算スルモ妨ケナキモノトスルトキハ二様ノ資格ニ依リ投票モ各一個即チ都合二個ヲナシ得ルニ至ラント云フト雖モ縣會議員ノ選舉ハ府縣制第三條ニ依リ郡制第三十三條第五十三條ノ定數ヲ備ヘタル會同員ニ於テ投票ヲ爲スヘキモノニテ一人ニテ二個ノ投票ヲ行フヘキ理ナシ然レトモ若シ郡會郡參事會各別ニ選舉ヲ爲スヘキモノナランニハ郡會議員ヨリ互選セラレタル郡參事會員ハ郡參事會ノ職務ヲ行フニ當リ郡會議員タルノ職務ヲ停止スヘキコトヲ法律ニ定メザルニ限リハ二個ノ投票ヲ爲スモ敢テ妨クルトコロニアラスト故ニ本件縣會議員選舉ハ毫モ法律規定ニ違背シタル違法ノ選舉ニアラストハ取消スヘキモノニアラスト云フニ在リ

依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ
被告ハ溫井重次郎ハ郡會議員ニシテ郡會ノ互選ニ依リ郡參事會員ト爲リタル者ナレハ郡會ニ在テハ郡會議員ノ資格ヲ有シ郡參事會員ニ在テハ郡參事會員ノ資格ヲ有スルハ勿論ナリ故ニ溫井重次郎ヲ郡參事會員ノ數ニ加ヘ又郡會議員ノ數ニ加ヘ選舉ヲ行フタルハ違法ニアラスト云フト雖縣會議員ノ選舉

選舉會成立

選舉會成立

ハ府縣制第三條ニ依リ郡ニ在テハ郡會及ヒ郡參事會々同シテ之ヲ行フモノナレハ郡制第三十三條及ヒ第五十三條ニ準據シテ兩會各會議ヲ開キ議決ヲ爲シ得ヘキ定數即チ半數以上ニ達セザレハ兩會々同シタルモノト謂フヲ得ス而シテ此定數ハ出席者ノ人員ヲ以テ定ムヘキモノニシテ郡會議員ニシテ郡參事會員ノ資格ヲ兼有スルモノヲ各會員トシテ之ヲ二個ニ計算スルヲ得サルニ依リ本件温井重次郎ノ一人ヲ以テ郡會議員及ヒ郡參事會員ノ定數ニ複算シタルハ其當ヲ得タルモノニアラス右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ明治二十五年七月二十七日石川縣羽咋郡役所内ニ於テ執行シタル石川縣會議員選舉ハ之ヲ取消スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

○縣會議員選舉取消ノ件 (三十八)

問 縣會議員選舉會に於て郡會議員及郡參事會員中に無資格者ありしものと後日發覺するも其選舉は効力を有するや。

答 郡會及郡參事會が議決を爲すへき定足數の會同にて執行したる選舉會あるときは當時に遡りて選舉の効力を左右すへきものにあらず。

〔判決例二十六年第七十六號〕

原告 秋田縣山本郡鹿渡村 齊藤常太郎
被告 秋田縣知事 平山靖彦

右原告齊藤常太郎外二名ヨリ被告秋田縣知事平山靖彦ニ對スル縣會議員選舉取消ノ訴訟審理處原告等訴求ノ要旨ハ明治二十六年五月十日秋田縣山本郡會及參事會ニ於テ秋田縣會議員二名ノ改選ヲ施行シタルニ選舉人中無資格者タル龜田甚作ノ投票一票平田榮ト記載シタルモノ一票アリ而シテ選舉會長ハ右二票中平田榮ト記載シタルハ一票ヲ無効トシテ龜田甚作ノ投票ヲ不問ニ付シタルモ當

選舉會成立

選者川村養助吉田秀各十三票ニシテ原田榮ハ十一票ノ投票ヲ得而シテ原田榮ハ右兩名ヨリ年長者タルヲ以テ右二投票ノ效力ノ有無ニ依リ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルモノナレハ同年同月十九日秋田縣參事會ニ選舉不服ノ訴願ヲ爲シタルニ同年六月六日處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由セザルハ訴願法第二條ニ違背スルモノナリトノ理由ヲ以テ却下セラレタリ然ルニ訴願法第二條ニハ訴願ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ直接上級行政廳ニ提起スヘシトアレドモ其第一條ニ於テ訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外云々トアルヲ見レハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノハ其法律勅令ニ依ルヘクシテ訴願法ニ依ルヘキモノニアラス府縣制第十一條ハ即チ訴願法ニ所謂法律ノ特別規定ニシテ選舉ノ效力ニ關シテ訴願セントスルトキハ同條ニ依ルヘキモノナルニ縣參事會ニ於テ訴願法ヲ適用シ行政廳ヲ經由セザルノ理由ヲ以テ訴願ヲ却下シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル不當ノ裁決ナリ又龜田甚作ハ明治二十四年四月七日ニ於テ其住村八森ニ居住ヲ占メ山本郡會議員ニ當選シタルハ明治二十六年三月十日ニシテ其間一箇年十一箇月ト二日ナルヲ以テ町村制第七條二年以來云々ノ要素ヲ缺キ其居村ニ於テ公民權ノ無キ者ナリ依テ右甚作ノ選舉ニ關シ選舉人須藤三四郎外一名ヨリ明治二十六年三月中山本郡參事會ニ訴願シ同參事會ニ於テ甚作ノ無資格タルコトヲ裁決シタルモノナレハ縣會議員選舉會ニ參與セシムヘカラサルナリ然ルニ選舉會長ハ事茲ニ出テスシテ却テ其爲シタル投票ヲ有效メラシメタルハ不當ナリ又原田榮ナル者ハ府縣制第四條ノ府縣會議員タル資格ヲ有シ本縣内ニ於テ未ダ曾テ同一ノ氏名アラサル所ナリ然ルニ選舉會長ハ平田榮ト書シタル投票ヲ無効ト爲シタルモ投票ノ有効無効ヲ判別スルハ府縣制第三條ニ依リ其氏名ノ何人ヲ指スマヤチ知り得ルヲ以テ足レトスヘク本縣内ニ於テ他ニ平田榮ナル者アラサル以上ハ其平田榮ト書シタルハ即チ原田榮ヲ指シタルコト明瞭ニシテ疑ヲ容ルヘキニアラス況ンヤ草書ヲ以テ原ナル文字ヲ書スルトキハ其字體或ハ平ト類スルトコト往々アル所ニシテ拙筆ヲ以テスルトキハ殊ニ其間分別シ難キモノアリ故ニ明治

選舉會成立

百十二

二十六年五月十日ニ執行シタル秋田縣會議員選舉ハ選舉ノ規定ニ違背シタルモノナレハ之ヲ取消ス
 へキ様判決アランコトヲ請求スト云フニ在リ
 被告答辯ノ要旨ハ原告等ハ府縣制第十一條ニ依ル訴願ハ所謂訴願法第一條ノ法律勅令ニ別段ノ規定
 アルモノナレハ同法第二條ノ手續ヲ履行スルヲ要セサルモノナリト主張スルモ訴願法第一條ハ唯訴
 願スルヲ得ヘキ事項ヲ列記シタルニ過キスシテ其事件ノ處分ヲ爲タル行政廳ヲ經由スルト否トノ手
 續ヲ規定シタル條項ニアラサレハ單ニ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外云々トアルヲ以テ府
 縣制ニ依ル訴願ハ訴願法第二條ノ手續ヲ要セサルモノナリト云フハ不當ノ解釋ナリトス訴願法第十
 七條ニ曰ク訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノハ各其規定ニ依ルト左レハ他ノ法
 律勅令中訴願ノ手續ヲ規定セサルモノハ總テ訴願法ノ規定ニ依ラサルヘカラスヤ明カナリ而シテ
 府縣制第十一條ニ依ルトキハ選舉人選舉ノ效力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日
 以內ニ之ヲ府縣知事ニ申立ルコトヲ得トアリテ唯其訴願期限ト之ヲ受クヘキ當務者ト示シタルマ
 テニシテ之ヲ提出ノ手續方法等ニ至テハ一モ之ヲ規定スルモノナキヲ以テ訴願法第十七條ヲ適用シ
 總テ同法ノ手續ニ依ラサルヘカラスヤ論ヲ待タサル所ナリ加之訴願法第十一條ニ依リ郡會及郡參
 事會同ノ選舉會長タル郡長ヲシテ辯明書等ヲ提出セシムルノ必要アルヲ以テ其第二條ニ依リ處分
 ヲ爲シタル行政廳ヲ經由セサルヘカラスヤ明瞭ノ事ナレハ原告等ノ訴願ヲ却下シタルハ法律ノ適
 用ヲ誤リタル不當ノ判決ニアラス又明治二十六年四月二十八日山本郡參事會ニ於テ訴願ニ依リ龜田
 甚作ニ對シ無資格者タルノ判決ヲ與ヘタルコトハ原告等カ陳述スル如クナレトモ龜田甚作ハ之ニ服
 セシメテ右ノ判決ヲ不當トシ同年五月九日之カ取消ヲ縣參事會ニ訴願シタルヲ以テ其結果トシテ訴
 願法第十二條ノ規定ニ依リ龜田甚作カ郡會議員タル既得ノ資格ハ停止セラルヘキモノニアラサルニ
 付同年同月十日郡會及郡參事會同シテ縣會議員ヲ選舉スルニ際シ之ニ參與シ投票ヲ行フヨルハ固

答問決判例裁政行

答問決判例裁政行

ヨリ當然ノ行爲ニシテ違法タルヲ見サルモノナレハ隨テ其投票ヲ有効ト爲シタル選舉會長ノ處分ハ
 之ヲ違法ト云フヲ得ヌ又原告等ハ草書ヲ用井テ平田榮ト記シタル投票一票ハ原田榮ヲ指シタルモノ
 ナリト爲シ選舉會長カ之ヲ無効ト決シタルハ不當ナリト云フモ選舉會長ハ選舉會ノ意見ヲ問ヒ設置
 シタル選舉立會人一致ノ意見ヲ採リ被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノトシテ之ヲ無効ト決シ
 ルノ事實ハ選舉録ノ示ス所ニシテ當時ノ事情ニ照シテ之ヲ不當ト認メ難シ尤モ其認定ノ當否ノ如キ
 ハ現實ノ投票ヲ査閱シ當時ノ選舉會長タル郡長ノ辯明ヲ得テ之ヲ審査シタル上ニアラサレハ正確ノ
 判斷ヲ下スニ由ナキモノナルニ依リ暫ク原告等ノ言ノ如ク之ヲ有効ノ投票ト假定スルモ龜田甚作カ
 行フタル投票ハ法律上之ヲ無効ト爲スヲ得サルモノナルニ付平田榮ナル一票ヲ原田榮ノ得票ニ加フ
 ルモ當選者ノ得票十三票ニ對シ原田榮ハ十二票ヲ得ルニ過キサルヲ以テ未ダ選舉ノ結果ニ異動ヲ及
 ホスニ至ラサルモノナレハ選舉ヲ取消スノ原由ナキモノトス故ニ秋田縣參事會カ明治二十六年五月
 十九日原告等ヨリ提起シタル訴願ハ訴願法第二條ニ依リ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由セサルニ付之
 ヲ却下シタルハ不當ノ處置ニアラサルノミナラス原告等訴求ノ要點タル選舉ノ効力ニ關スル點ニ付
 テモ選舉ヲ取消スヘキ理由ナキヲ以テ原告等ノ申立相立タストノ判決アランコトヲ請求スト云フニ
 在リ
 依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ
 原告等ニ於テ縣會議員選舉ノ際龜田甚作ハ郡參事會ノ裁決ニ依リ既ニ郡會議員タルノ資格ヲ失ヒタ
 ル者ナレハ其選舉ニ參與セシムヘカラス隨テ其爲シタル投票ハ無効ナリト云フト雖府縣制第三條ニ
 府縣會議員ノ選舉ハ郡ニ在テハ郡會及郡參事會同シ郡長ヲ會長トシ之ヲ行フヘシトアルヲ以テ之
 ナ見レハ府縣會議員ノ選舉ハ市町村會議員ノ選舉ト其方法ヲ異ニシ即チ郡會ト郡參事會ノ會同ニ於
 テ執行スヘキモノナレハ郡會及郡參事會カ議決ヲ爲スニ必要ナル定足數ノ會同ヲ以テ執行シタル選

選舉會成立

百十三

選舉會成立

舉タル以上後日ニ至リ其會同員中ニ無資格者アルコト發覺スルモ其當時ニ遡リ選舉ノ効力ヲ左右スルヲ得ス故ニ本訴ノ如キ龜田正作カ郡會議員タルノ資格ヲ以テ當時縣會議員ノ選舉ニ加ハリタルモ其選舉ハ取消スヘキノ理由ナキモノトス其他原被告ニ於テ辯論スル所アルモ此裁判ニ必要ナキヲ以テ之カ説明ヲ與ヘス

右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ原告等ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告等ノ負擔トス

○郡會議員選舉取消請求ノ件 (三十九)

問 數町村會々同して郡會議員を選舉する場合選舉會は各町村會各定數の出席人員ありて初めて成立すべきものなるや。

答 出席人員の定數は郡制中に規定なきを以て町村制第四十三條議員三分二以上出席云々とあるに準據すべきものとす。

問 前問答の如くは郡會議員選舉の場合にも招集再回に至るときは出席人員の多少に拘はらず選舉を行ひうべきや。

答 然り。

(判決例二十五年第二十五號) 同年七月一日宣告

原告 長野縣東筑摩郡朝日村村會議員 齋藤 六衛 外十一名
被告 長野縣東筑摩郡山形村朝日村 永田 久吉
村會々同選舉長
代理人 關席ノ儘之ヲ審理スルニ

選舉會成立

原告代理人訴求ノ要旨ハ明治二十四年四月二十九日山形村朝日村會々同して郡會議員選舉會ヲ開クヘキ筈ナリシモ議員定數ニ充タサリシヲ以テ開會セズ故ニ同年五月七日再ヒ該選舉會ヲ開キタルニ議員ハ定數ニ充テ開會シタルモ豫定ノ時刻經過シタル爲朝日村議員ハ議長ニ斷リ退場セリ依テ議事ヲ爲スニ必要ナル定員ヲ欠クニ至リシモ尙選舉ヲ行ヒ之ヲ結了シテ閉會セリ然ルニ郡長ハ右ノ聯合村會ヲ無効トシ更ニ五月十八日ヲ以テ選舉會ヲ開ク旨ヲ告示シタルニ山形村々會議員堤嶽一外十一名ヨリ此處分ヲ不當トシテ郡參事會ニ訴願シ然ルニ郡參事會ハ訴願ノ理由ナキモノト裁決シテ下シタル爲メ堤嶽一外十一名ハ更ニ長野縣參事會ニ訴願シ縣參事會ハ右ノ聯合村會ヲ以テ町村制第四十三條但書ニ該當スルモノトシ有効ニシテ取消スヘカラサルモノト裁決シ然レトモ五月七日開會シタル朝日山形兩村會聯合選舉會ニ於テハ朝日村々會議員ハ欠席シタルヲ以テ朝日村々會ハ完全ニ組織セラレサルモノナリ又町村制第四十三條但書ノ規定ハ通常規則ニ從フトキハ開會スル能ハサル場合ニ該當スルモノニシテ本件選舉會ノ如キ一旦定員以上ノ議員カ出席シタル以上ハ最早右ノ例外規定ヲ適用スヘキモノニアラス又被告ハ開會ハ午前八時ニ始マリ午後五時ニ終ルヘキモノトシ既ニ招集狀ニ於テ明カニ之ヲ告示シタル以上ハ其豫定ノ時期ヲ過キタルトキハ尙相當ノ手續ヲ以テ招集ヲ爲サ、ルニ於テハ當然該會ハ結了シタルモノト言ハサルヘカラス是ヲ以テ朝日村々會議員カ退場シタルハ素ヨリ至當ノ事ナリ故ニ長野縣參事會ニ於テ選舉ハ法律上有效ニシテ取消スヘキモノニ非スト裁決シタルハ不當ナルニ依リ之ヲ無効ナリト判決アラントテ請求スト云フニ在リ

被告代理人答辯ノ要旨ハ五月七日ノ聯合選舉會ハ議員定數ニ充タタルヲ以テ開會シタルニ原告等ハ猥リニ中途ヨリ退場シテ其權利ヲ拋棄シタルニ依リ議員ノ定數ヲ欠キタリ然レトモ該選舉會ハ再回ノ招集ニ係ルヲ以テ町村制第四十三條ノ但書ヲ適用シ且ツ郡長ノ訓示モアリシニ依リ選舉ヲ執行結了シタルモノニシテ該選舉會ハ固ヨリ正當ニ成立シタルモノナリ然ルニ原告ハ町村制第四十三條但

選舉會成立

書ノ規定ハ本件ノ如キ一旦出席議員定數ニ充テタル場合ニハ之ヲ適用スヘキモノニアラスト言フモ再回以上ノ開會ニ於テハ如何ナル場合ト雖右規定ヲ適用シ得ヘキハ勿論ナリ又議長ハ議事ヲ整理スル職權ヲ有スル者ナレハ議事整理上必要ナルトキハ開會時間ノ伸縮ヲ爲スハ是レ即チ職權ノ命スル處ニシテ被告カ開會時間ヲ延長シテ選舉ヲ執行シタルハ實ニ相當ノ處分ナリ故ニ長野縣參事會ノ裁決ハ正當ニシテ取消スヘキモノニ非スト云フニ在リ

依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ
原告代理人今井壯太陳述ノ要旨ハ明治二十四年五月七日ヲ以テ再開シタル郡會議員選舉會ニハ初メ朝日山形兩村ノ村會議員出席シ定數ノ議員ニ充テタルモ朝日村々會議員ハ開會豫定ノ時間ヲ過キタルノ故ヲ以テ中途ヨリ議場ヲ退キ爲メニ聯合會成立セサルモノナレハ本件ノ如キハ町制第四十三條但書ノ場合ニ該當スルモノニアラスト云フト雖本件郡會議員ノ選舉ハ第二回ノ選舉會ヲ開キ之ヲ結了シタルモノナレハ出席議員當初ヨリ議員定數ニ充テサルト中途ニシテ退場シタル者アルカ爲メ其定數ヲ闕キタルト否トニ拘ラス是等シク招集再回ニ至ルモ議員定數ニ充テサル場合ナルヲ以テ被告カ町制第四十三條但書ノ規定ヲ準用シテ選舉ヲ執行シタルハ違法ノ處分ナリト云フヲ得ス而シテ朝日山形ノ二村會ハ既ニ第二回ノ選舉會ニ於テ正當ニ會同シタルモノナレハ假令後チニ退場ノ爲メ朝日村々會議員ノ列席者ナキニ至リシモ之ヲ以テ二村會ノ會同成立セサルモノト爲スヲ得ス又開會豫定時間ノ伸長ノ如キハ選舉ノ事ヲ總理スル職權ヲ有スルトコロノ選舉會長ニ於テ議事録記載ノ如ク出席議員ニ告知シタル後之ヲ爲シタルモノナレハ被告ノ所爲ハ不當ナリト言フヘカラス右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ原告ノ請求相立マス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

〔判例〕二十五年第八十六號
同年十二月十九日宣告

原告 長野縣諏訪郡富士見村 丸山龜三郎外七名
被告 長野縣諏訪郡長 阪本俊秀

選舉會成立

右原告村會議員丸山龜三郎外七名ヨリ被告郡長阪本俊秀ニ對スル郡會議員補缺選舉取消裁決ニ對スル異議ノ訴訟審理ヲ遂ケル處
原告訴求ノ要旨ハ諏訪郡會議員補缺選舉會長丸山龜三郎ハ富士見金澤兩村會同シテ行フ諏訪郡會議員補缺選舉會ヲ明治二十五年三月三十日富士見村尋常小學校内ニ於テ行ヒタルニ金澤村會議員等前キニ選舉會長ヨリ選舉會開會ノ通知ヲ受ケナカラ同日亥刻ニ至ルモ參集セサルヲ以テ同日更ニ再招集ヲ爲シタルモ猶又參集セサルヲ以テ遂ニ町制第四十三條第二項ヲ適用シ出席員ノミヲ以テ選舉會ヲ結了シタル然ルニ金澤村會議員等ハ之ニ對シ異議ヲ唱ヘ同村會議員ハ本年三月二十八日兩日ニ於テ改選ヲ行ヒ議員ノ交代アリタルニ拘ハラズ選舉會長ハ舊議員ニ對シ開會ノ通知ヲ爲シ新議員ニ對シテ何等通知ヲ爲サザリシヲ以テ新議員ハ之ヲ知ルニ途ナク爲メニ出席スルコトヲ得ザリシモノナルニ直チニ町制第四十三條第二項ヲ適用シ選舉ヲ結了シタルハ不法ナリト主張シ其取消ヲ郡參事會ニ訴願シタルニ同會ハ之ニ對シ右選舉會ハ郡制第六條ニ違背シタル無効ノ選舉ナリト裁決シタリ依テ原告等ハ縣參事會ノ裁決ヲ請ヒタルニ同シク選舉無効ノ裁決ヲ與ヘラレタリ抑モ金澤村會議員ハ明治二十五年四月十七日ヲ以テ議員職ニ就キタルモノナレハ之カ改選ハ本年四月十七日以前四月一日以後ニ於テ行フヘキ等ナルニ金澤村會ハ本年三月中旬チ舊議員ノ任期中ニ於テ改選シタルハ不法ノ選舉ナルニ依リ選舉會長ハ舊議員ニ對シテ開會ノ通知ヲ爲シ新議員ニ通知セザルハ不當ニアラスト判決セラレタルハ原告ノ服從スルヲ得サル所ナリ又縣參事會ハ郡制第六條ニ所謂各町村會ノ會同ハ町制第三十九條第四十二條ニ從ヒ各町村會長ノ招集ニヨリ成立シタルモノハ會同ナラサルヘカラサルニ選舉會長ノ直ニ選舉會ヲ召集シタルハ不法ナリト云フト雖郡制第七條ニ依レハ二町村共同シテ同一事務ヲ處分スヘキ場合ニ於テハ之ヲ以テ一町村ト同視スルヲ得ルノ規定ヲ設ケアレハ富士見金澤兩村會合同シテ一議員ヲ選出スヘキ場合ニ於テモ敢テ各町村會長ヲ召集ニヨリ

選舉會成立

成立シタルモノ、會同ナルヲ要セス選舉會長ヨリ直ニ召集シタルモノナルモ決シテ不可ナルコトナシ依テ明治二十五年三月三十日富士見尋常小學校ニ於テ行フタル選舉ハ有効ニシテ取消スヘキモノニアラストノ裁決ヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ本訴ハ明治二十五年三月三十日富士見村尋常小學校内ニ於テ行ヒタル郡會議員補缺選舉會ハ郡制第六條後段ニ依リ兩村會同シテ行フヘキモノナルニ金澤村會議員一名モ出會セズ富士見村會議員ノミニテ行ヒタル選舉ナルカ故ニ本參事會カ之ヲ無効ナリト裁決シタルニ起因ス抑モ郡制第六條後段ニ數町村ニ於テ一名若クハ二名以上ノ議員ヲ選舉スルニハ其各町村會同シテ之ヲ行フヘシトアレハ金澤村會富士見村會各定數ノ出席人員アリテ成立スヘキモノナルニ本訴ノ選舉會ニ於テハ金澤村會議員全員缺席シテ金澤村會ノ會同ナキヲ以テ當然選舉會ハ成立セサルモノナリ然ルニ原告ハ該法條アルニモ拘ハラズ一村會議員ノミニテ選舉ヲ爲シタルハ郡制第六條ニ違背シタルモノナリトス故ニ他ニ何等ノ理由事情アルトモ此一要件ヲ闕キタルヲ以テ其選舉ハ無効ナルコト明カナリ依テ原告ノ訴旨其理由ナキヲ以テ之ヲ排斥セラレシト云フニ在リ

依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ

被告ハ郡制第六條後段ニ數町村ニ於テ一名若クハ二名以上ノ議員ヲ選舉スルニハ其各町村會々同シテ之ヲ行フヘシトアレハ本訴ノ選舉會ハ金澤村會富士見村會各定數ノ出席人員アリテ成立スヘキモノナリ然ルニ金澤村會議員全員缺席シテ富士見村會議員ノミニテ選舉ヲ爲シタルハ該法條ニ違背シタルモノナリト云フト雖郡制第六條ハ單ニ各町村會々同シテ選舉ヲ行フコトヲ規定スルニ止マリ其出席人員ノ定數ハ郡制中之ヲ規定スルノ法條ナク即チ町村制第四十三條議員三分ノ二以上出席云々トアルニ準據スヘキモノトス而シテ其但書ニ召集再回ニ至ルモ議員猶三分ノ二ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラストアルヲ以テ見レハ郡會議員ヲ選舉スル場合ニ於テモ召集再回ニ至ルトキハ出席人員ノ

選舉掛選任

○不法郡會議員選舉取消ノ件 (四十)

多少ニ拘ハラズシテ選舉ヲ行フヲ得ルモノトス故ニ本訴選舉會ハ郡制第六條ニ違背シタルモノナリト謂フヲ得ス其他原告ノ論點ニ就キテハ被告ノ答辯ナキニ依リ別ニ説明セス

右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ明治二十五年三月三十日富士見村尋常小學校内ニ行フタル諏訪郡々會議員補缺選舉會ハ取消スヘキ理由ナキモノトス訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

問

數町村會々同シテ郡會議員を選舉する場合には選舉掛を要せざるや。

答

制第四十六條中明文なきに依り町村會の選舉する郡會議員選舉會には選舉掛を要せず。

(判決例二十五年第六十六號 同年十一月十四日宣告)

原告 山梨縣北巨摩郡上手村 八代 丈 八外四名
 被告 山梨縣北巨摩郡朝神村長上 矢崎 親 吉
 手朝神村會々同選舉會長

右原告八代丈八外四名ヨリ被告矢崎親吉ニ對スル不法郡會議員選舉取消ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ明治二十四年八月十六日上手村朝神村々會々同北巨摩郡郡會議員選舉會ヲ開クニ當リ被告ハ擬ニ朝神村助役清水辰三郎上手村々會議員三井彌吉ヲ選舉掛ニ選定シアルニモ拘ハラズ開會前突然之ヲ取消シ兩村會議員ニ其理由モ報告セス又本會ハ兩村會々同選舉會マレハ各議員三番席ヲ與ヘ自ラ會長ノ席ニ就キ開會ノ趣意ヲ述ヘ各員ニ意見アラハ其發議ヲ許シ正式ニ投票ヲ爲サシムヘキハ當然ナルニ之ヲ爲サス剩ヘ之ヲ開票スルニ當リ投票ノ効無効ヲ決定セサリシハ不當ノ處置ナリ而シテ其不當ノ處置ヲ釀成セル原因ハ被告ハ選舉掛ヲ設クルニ及ハス又町村制第四十六條ニ依ル兩村會同選舉會ニハ同條ノ末文ニアル第二十二條第二十三條第二十四條第一項ヲ適用スルニ及ハ

選舉掛選任

選舉掛選任

スト斷定シタルニ依レリ郡制第十七條ニ町村ニ於テ行フ選舉ハ町村制第四十六條ノ規定ニ從フヘシトアリ其町村制第四十六條ノ末文ニ第二十二條第二十三條第二十四條一項ヲ適用ストアルニ依ルモ選舉會長ハ選舉掛ヲ選任シ置投票及選舉ノ當否ニ關シ異論ヲ唱フル者アルトキハ第二十三條末文ノ如クセサルヲ得サルニ選舉掛ヲ置カサル爲メ之ヲ履行スル能ハサルナリ又被告ハ選舉掛ヲ設ケサルモ各議員ニ番號ヲ定メ順席ヲ與ヘサルハ違法ニ非ラスト云フモ町村制第二十二條選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立掛長ハ選舉人名簿ニ照シ之ヲ受ケ云々トアリテ選舉人カ投票ヲ掛長ニ差出ス等ノ手續ノ如キハ何ニ依リテ之ヲ爲スカ又第二十三條ノ如キハ選舉上最必要ノ法條ニシテ之レヲ履行スルニ當リテハ即チ選舉掛ヲ設ケサル可カラサル所以ナリ況ンヤ郡制第十八條第二ニ選舉掛ヲ設ケルノ必要ヲ規定セリ町村ヨリ選出スル選舉ニ於テモ大地主ヨリ選出スル選舉トナリト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ郡制第十七條ニ町村ニ於テ行フ選舉會ハ町村制第四十六條ニ從フヘシトアリ而シテ町村制第四十六條ニハ第二十二條第二十三條第二十四條第一項ヲ適用ストアルヲ以テ郡會議員ヲ選舉スルニハ町村制第二十三條末項ニ依リ選舉掛ヲ設ケサルヘカラスト云フト雖モ抑郡制第十三條第二十四條第一項ヲ適用ストアルノミニシテ選舉掛選任ニ關スル町村制第二十條ヲ適用スト云フモ是ハ出席議員一同ハ席番ヲ立ツルコトヲ示セシモ各議員ノ意見ニ依リテ略シタルナリ且開票スル時ニ當リ投票ニ汚染シテ難讀モノアリト雖モ普通人ナラハ讀メヌコトナキモ故無効トスルニ及ハス將テ訴願者カ投票閱覽ヲ許サ、ルヲ不當ノ處置ト云フモ本選舉會ハ正當ノ手續ニ依リ正當

ノ手續ヲ以テ町村制第四十九條ヲ履行シテ一同退散シタリ然ル後數日ヲ經過シテ上手村々會議員八代丈八外一人投票閱覽ヲ願出ルモ閉會後數日ヲ經過シ閱覽ヲ許スヘキ必要ナシ然レトモ職務上必要ナル時ハ閱覽ヲ許スコトアルヘシト其當時答ヘタリ以上ノ如ク本會終結シタルニ付同會書記ヲシテ選舉錄ニ調印ヲ求メタル處各議員速ニ調印シ無事退散セリ然ルニ同會議員ノ職ニ在リ自ラ正當ノ選舉會ヲ結了シタルヲ確認シ選舉錄ヘ調印セシニモ拘ハラヌ本訴ヲ提起シタルハ其當ヲ得サルナリト云フニ在リ

依テ雙方ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ說明スル左ノ如シ

原告ハ明治二十四年八月十六日上手村朝神村々會々同北巨摩郡會議員選舉會ヲ開クニ當リ被告カ選舉掛ヲ設ケス又各議員ニ番席ヲ與ヘス之ヲ開票スルニ當リ汚染シテ文字ノ讀ミ難キモノアルニ拘ハラヌ選舉ヲ了シタルハ違法ナリト云フト雖モ郡制第十七條第二項ニ町村ニ於テ行フ選舉ハ町村制第四十六條ノ規定ニ從フヘシトアリ而シテ町村制第四十六條ニハ第二十二條第二十三條第二十四條第一項ヲ適用ストアリテ同制第二十條選舉掛選任ノ件ハ右第四十六條中ニ明記ナキニ依リ町村會ノ選舉スル郡會議員選舉會ニハ選舉掛ヲ設ケヘキニアラス既ニ之ヲ設クヘキニアラストストキハ第二十二條中選舉掛長ノ職務第二十三條中選舉掛ノ職務ニ關スル事項ノ如キハ自然ニ第四十六條ノ適用以外ニ在ルモノナレハ本件選舉掛ヲ設ケサルハ法ニ違フ所ナキモノトス又被告カ各議員ニ番席ヲ與ヘサルハ當時出席議員ノ異議アルヲ見ス亦郡會議員選舉法ニ違フモノニアラス又投票中汚染シテ文字ノ讀ミ難キモノアリト云フハ投票紙ニ就テ之ヲ閱スルニ墨汁ノ文字外ニ浸出シタルマテニシテ讀ミ難キニアラサレハ以上ノ事實ニ依リ該選舉會ヲ取消スヲ得サルモノトス

右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ原告ノ請求相立ヌス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

選舉掛選任

○村會議員選舉効力ノ件 (四十一)

選舉掛長及選舉掛三名にて結了せし選舉は効力を有するや。

制に二名若くは四名とある規定に反す故に無効ありとす。

〔判決例二十六年第八十九號〕

原告 高知縣長岡郡天坪村長 杉本 太郎
被告 高知縣長岡郡長 吳 服 絹

右原告村長杉本太郎ヨリ被告郡長吳服絹ニ對スル村會議員選舉効力ニ關スル訴審理ヲ遂クル處
原告訴求ノ要旨ハ明治二十五年四月二十日高知縣長岡郡天坪村々會議員定期半數改選ニ付同村役場
ニ選舉場ヲ開設シ且制規ニ基キ門脇恒實前田重利小松重弘岡林唯彌ノ四名ヲ選舉掛ニ選任シ同日午
前七時迄ニ出頭スヘキ旨ヲ達シ置キタルニ前田重利ノ外出頭無之午前九時即チ開會時限ニ至リ不得
止選舉掛長及選舉掛前田重利著席シ直ニ補缺トシテ選舉場別室ニ居リタル助役岡田尙武ヲ臨時選舉
掛ニ選任シ選舉事務ヲ取扱ハシメタル處午前十一時頃ニ至リ選舉掛小松重弘出席シ其他ハ終ニ出席
ナク午後四時三十分多數得票者西岡一二小松重弘鈞井利吉ノ三人ヲ當選者ト定メ選舉録ヲ調製朗讀
シ閉會ヲ告ケタリ然ルニ同月二十一日選舉人小笠原辨三郎一條鑑明ノ兩人ヨリ違法ノ選舉取消シノ
訴願ヲ村會ニ提起シ村會ハ同年六月八日町村制ニ基キ取消スヘキモノニアラスト裁決ヲ與ヘタルニ
同人等ハ此裁決ニ服セス同月十八日更ニ郡參事會ニ訴願ヲ提出セリ郡參事會ハ同年十一月八日選舉
掛ハ町村制第二十條ニ依リ二名若クハ四名ヲ選任スヘキモノナルニ始メ一名ニテ選舉會ヲ開キ後三
名ノ選舉掛ヲ置キシハ同條ノ規定ニ違背セシヲ以テ取消ス可キモノト裁決セラレタリ依テ當時選舉
長ヨリ先任村長ハ此裁決ヲ不當トシ同月二十日縣參事會ニ訴願セシニ明治二十六年六月二十七日
ニ至リ郡參事會ノ裁決ハ取消スヘキ限ニ在ラストノ言渡ヲ受ケタリ而シテ郡參事會及縣參事會ノ裁

決ニ依ルニ始メ選舉掛一名ニテ選舉ニ着手シタルハ町村制第二十條ノ規定ニ違背シタルモノト云フ
ニ在レトモ其一名ナリシヤ二名ナリシヤハ事實上ノ事柄ニシテ單ニ一條鑑明前田重利岡田尙武ノ陳
述ニ依リ決スヘキモノニアラスト町村制案スルニ其第二十七條ニ曰ク選舉掛ハ選舉録ヲ製シテ選舉
ノ顛末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ云々署名スヘシトアリ則チ如此事實上ノ爭ハ後日誤認
シ易キ不完全ナル心思ノ記憶ニ一任セス選舉録ヲ以テ証スヘキカ爲如此規定セラレタルモノナリ今
選舉録ヲ閱スルニ本村會議員半數改選ニ當リ本月二十日當村役場ニ於テ第二級選舉會ヲ開キ村長ハ
門脇恒實前田重利小松重弘岡林唯彌ノ四名ヲ選舉掛ニ選任シ開會日午前七時ニ出頭スヘキ旨通知シ
有之モ開會日ニ至リ前田重利ノ外出頭セス既ニ午前九時即チ開會時限ニ至リ選舉人出頭スルヲ以テ
止ムヲ得ス村長及前田重利著席開會シ直ニ岡田尙武ヲ臨時選舉掛ニ選任シ選舉事務ヲ取扱云々トア
ルヲ以テ前田重利ノ外出頭尙武ヲ臨時選舉掛ニ選任シ選舉掛二名ニテ總テ選舉事務ヲ取扱ヒタルコ
ト明瞭ニシテ毫モ違法ニアラスト又郡參事會及縣參事會ノ裁決ハ後ニ選舉掛三名トナリタル故町村制
第二十條ニ抵觸シタル違法ノ選舉會ナリト云フニ在レトモ町村制第二十條ニ依レハ單ニ二名若クハ
四名トアリテ二名以上四名迄ヲ意味セラレ必スシモ偶數ニ限リタルモノニアラサルコトハ御廳ノ判
例モ之アリ而シテ本件ハ當日不都合ナキ模様メ四名ノ選舉掛ヲ命シ置キタルニ開會時退ニ至ルモ唯
一人ノ外出頭セス不得止臨時ニ一名ノ選舉掛ヲ命シテ二名トナシ選舉事務取扱中兼テ選任シ置キタ
ル選舉掛出頭セシ故其儘補助ヲ受ケ他ノ選舉掛ノ出頭ヲ待チタルニ遂ニ無届缺席シ事情不得止ヨリ
三名トナリタルモノニシテ最初ヨリ三名ノ選舉掛ヲ命シタルニアラスト且之カ爲實際ニ於テ少シモ不
都合ヲ來シタルコトナキヲ以テ選舉會全體ヲ無効トスヘキモノニアラサレハ第二級選舉會ハ選舉ノ
定規ニ違背セス依テ取消スヘキ限リニ在ラストノ判決アランコトヲ請求スト云フニ在リ
被告答辯ノ要旨ハ明治二十五年四月二十日高知縣長岡郡天坪村役場ニ於テ同村々會議員半數改選ヲ

選舉掛選任

行フニ當リ選舉掛長永野昇鹿ハ豫テ選任シタル選舉掛四名ノ内前田重利一人出頭シ他三名ノ未タ出頭セサルニモ拘ラス午前九時選舉會ヲ開キ既ニ數十人投票ヲ爲シタル後即チ午前十時三十分選舉人一條鑑明ヨリ選舉掛一名ニテ開會スルハ不都合ナリトノ異議ノ申立アルニ付岡村助役岡田尙武ヲ選舉掛ニ選任シ其後豫テ選任シタル選舉掛小松重弘出頭セシテ以テ選舉掛三名ニテ選舉ノ事ヲ終ヘタリ然ルニ岡村制ハ選舉事務ノ關係重大ナルヲ認メ極メテ細密ニ之ヲ規定シ殊ニ第二十條ヲ以テ選舉掛ハ集議體ニ組織シ選舉ノ公平確實ナルコトヲ期セリ故ニ苟モ其規定ニ違背スルトキハ第二十九條第三項ノ制裁ヲ受クヘキハ當然ナリトス本件天坪村々會議員選舉會ハ當初選舉掛一名ヲ以テ開會シ最後ニ三名ヲ以テ之ヲ終了セシハ第二十條ノ規定ニ違背セシモノナリ而シテ原告ハ其一名ナリシヤ將々二名ナリシヤノ點ニ付選舉錄ニ依テ之ヲ證明セントスルモ元來選舉錄ハ集議體ナル選舉掛ニ於テ之ヲ編製シ其公正ナルヲ證スルカ爲各自署名スヘキモノナルニ拘ラス選舉掛長ノ獨斷ヲ以テ之ヲ製シタルハ全ク違法ニシテ殊ニ本選舉錄ハ則チ本訴ノ係争物ナレハ此係争物ヲ以テ直ニ證據ニ供スルヲ得ス况ンヤ其不完全ナルコトハ掛長ニ於テモ亦自認スル所ナリ就中投票中卷封ノ上ニ入札又ハ投票ト書シタル投票ヲ無効トセシモノ十六票ノ多キニ及ヒシ事實アルモ公正ニ選舉掛ノ意見ヲ聞キシコトナク其投票ハ法ノ所謂他事記入トハ認ムヘカラサルモノナルコトハ貴廳ノ判決例ニ照スモ明瞭ニシテ争フヘカラサル事ナリ然ニ此等總テ選舉長ノ獨斷ヲ以テ無効投票トナシ尙且此選舉事務中重大ナル無効排斥ノ顛末ヲモ一切選舉錄ニ記載セス故ニ本郡參事會ハ本選舉錄ニハ全然信ヲ置ク能ハサルナリ又選舉掛ノ一名ナリシコトハ選舉人一條鑑明カ選舉會場ニ於テ選舉掛一人ニテハ違法ニ付更ニ選舉掛ヲ選任センコトヲ請求セシコトハ當時選舉掛ナリシ前田重利並選舉人數名ノ證明ヲ選舉會ハ午前九時ニ開始シ村役場モ午前九時ノ開場ナルニ岡田尙武ハ岡村助役トシテ別室ニ在テ村役場事務ヲ取扱ヒ居タルコト等ニ於テ之ヲ知ルヲ得ヘシ又原告ハ選舉掛ハ二名以上四名迄ヲ意味セ

選舉掛選任

マレ必ズシモ偶數ニ限リタルモノニアラス且之カ爲實際ニ於テ害ナキ以上ハ選舉會全體ヲ無効トスヘキモノニアラスト云フト雖町村制第二十條ハ明カニ二名若クハ四名ト規定シ二名乃至四名ト規定シタルニアラス且原告ハ實際ニ害ナシトノ事ヲ以テ之カ規定ニ違背セサルコトヲ確メントスレドモ原告自ラモ認ムル如ク法律カ選舉ノ手續ヲ規定シタル所以ノモノハ選舉ニ關スル弊害ヲ防キ又其疑念ヲ受クルコトナカラシメシ爲ナレハ敢テ害ナシト云フヲ以テ一旦定マリタル規定ハ苟モ之ヲ枉ゲルコト能ハサルモノトス故ニ原告ノ申立ハ不當ナルヲ以テ排斥セラレンコトヲ請求スト云フニ在リ依テ原告ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

本訴所争ノ要點ハ村長ニ於テ選任シタル四名ノ選舉掛中選舉當日三名ノ缺席者アリタルモ開會時限ニ至リタルヲ以テ掛長及選舉掛一名ニテ開會シタル後臨時補闕トシテ更ニ一名ヲ選任シ二名トナシタルニ缺席者中ノ一名出席シタルニ依リ掛長及三名ノ選舉掛ヲ以テ行フタル村會議員選舉ハ選舉ノ定規ニ違背スル無効ノ選舉ナルヤ否ニ在リ而シテ岡村制第二十條ノ選舉掛二名若クハ四名ノ偶數ヲ選任スルノ規定ハ同制第二十三條ノ規定ニ依リ議決ノ場合ニ於テ掛長ヲ合セ奇數ヲ要スルカ爲ナリ然ルニ原告ハ町村制第二十條ニ依レハ單ニ二名若クハ四名トアリテ二名以上四名迄ヲ意味セラレ必ズシモ偶數ニ限リタルモノニアラスト云ヒ又原告提出ノ第一號選舉錄ニ投票總數ノ内有效投票五百二十一票云々トアリ又投票ノ受理並效力ニ關スル調査ヲ遂ケ云々トアルヲ以テ之ヲ觀レハ村會議員定期改選ニ依リ選舉會ハ各投票ノ當否ヲ議決スルニ當リ掛長ヲ合セ偶數ノ儘之ヲ議決シタルモノニシテ該條ノ規定ニ違背シタルモノト謂ハサルヲ得ス隨テ其選舉ハ全然之ヲ取消スヘキモノトス依テ開會當初ノ選舉人員ニ付テハ説明ヲ要セス

右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ原告ノ請求相立ヌス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

問

○村會議員選舉取消命令不當ノ件 (四十二)
選舉掛長及選舉係三名にて議決せたるを上級應は選舉の全部を取消すよとを得るや。
違法の選舉なるを以て取消す可きものとす。

〔判決例二十六年第十六號〕
同年十一月十六日宣告

原告 鳥取縣氣多郡鹿野村々長 松本實造
關員代理同村助役
被告 同縣高草氣多郡長 宮川武行

右原告松本實造ヨリ被告鳥取縣高草氣多郡長宮川武行ニ對スル村會議員選舉取消命令不當ノ訴審理
ヲ遂ル處

原告代理人訴求ノ要旨ハ鳥取縣因幡國氣多郡鹿野村々會議員二級補欠選舉會ハ明治二十五年十月十
五日ニ於テ之ヲ執行シ又同村會一級議員定期選舉會ハ同年同月十六日ニ於テ之ヲ執行シタルモノニ
シテ而シテ二級議員ノ補闕選舉會ノ選舉掛ニハ村長飯田秀仲ニ於テ前田峯造原田直次郎加藤清太郎
徳重平九郎ノ四名ヲ選任シ置キタルトコロ其開會ノ當日前田峯造ハ病氣ノ爲メニ缺席シ村長代理助
役ナル原告選舉掛長トナリ原田直次郎加藤清太郎徳重平九郎ノ三名ヲ立會ハシメタル上該選舉會ヲ
開閉シタリ二級議員定期選舉會ノ立會人ハ村長飯田秀仲ニ於テ安富律藏大森經藏高田彦八大前亦四
郎ノ四名ヲ選舉掛ニ選任シタルトコロ其選舉會開會ノ當日大前亦四郎病氣ノ故ヲ以テ缺席シタルニ
ヨリ村長秀仲選舉掛長トナリ安富律藏大森經藏高田彦八三名ヲ立會ハシメテ該選舉會ヲ開閉シタリ
而シテ又同一級議員定期選舉會ノ選舉掛ニハ村長飯田秀仲ニ於テ安富律藏大森經藏高田彦八大前亦
四郎ノ四名ヲ選任シ置キタル所口其開會當日大前亦四郎ハ病氣ノ故ヲ以テ缺席セリ依テ選舉掛長ナ
ル村長飯田秀仲ハ安富律藏大森經藏高田彦八ノ三名ヲ立會ハシメタル上該選舉會ヲ開閉シタルモノ
ナリ前述ノ如ク選舉掛三名ノ立會ヲ以テ開閉シタル各選舉會ハ町村制第二十條ノ規定ニ背ケルモノ

トシテ被告ハ明治二十五年十一月八日第二號證ノ如ク右選舉ノ取消ヲ命令シタリ然レトモ町村制第
二十條ヲ按ズルニ選舉掛ハ名譽職トシテ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ
町村長若クハ其代理者ハ其掛長トナリ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ストアルノミニシテ選舉掛
ハ必シモ二名若クハ四名ヲ選舉シ以テ選舉會ニ立會ハシムヘシトノ命令詞ナク隨テ選舉會ハ選舉掛
二名若クハ四名ヲ立會ハシムニアラサレハ之ヲ開閉スヘカラストノ禁止文モアラサルナリ故ニ本條
ノ精神ハ選舉掛二名若クハ四名ヲ選任スヘシトノ規定ニ外ナラスシテ選舉會ニハ必スシモ選舉掛二
名若クハ四名ヲ立會ハシムヘク若シ此規定ニ背クトキハ其選舉ハ無効ニ歸スヘキノ規定ト爲スヲ得
ス是レ即本制中已ニ選任セラレタル選舉掛缺席ノ場合ニ處スル規定ノ設アラサル次第ナリトス夫レ
然ル然ラハ則チ村長飯田秀仲ニ於テ一旦選舉掛四名ヲ選任セシ以上ハ假令該選舉會ノ當日ニ至リ其
選舉掛中事故アリテ其選舉掛ニ立會ハサリシモノ一名コレアリシニモセヨ之レガ爲メ其選舉會ヲ無
效トナスノ理由ナキヤ明カナリ加之ナラス其初ニ當リ選舉掛并ニ掛長共ニ若シ説ノ合ハサルトキハ
一名ハ退會セヨト云フコトヲ豫メ約束シ置キタリ夫レハ縣參事會ヘノ訴願書ニ依テ見レハ明白ナリ
而シテ選舉掛カ三名ナリトテ其結果ニハ毫モ異同アルコトナシ其理由ハ曾テ選舉掛三名并ニ掛長ト
モ總テ同意ヲ以テ處置セシモノナレハ假令四名立會ヒ其内一人ハ不同意ナリトスルモ其他ノ三名ハ
同意見ニテ多數ナレハ外ニ不公平ノ事實ナキ以上ハ法律上并ニ事實上ニ於テモ無効トスヘキノニ
アラスト思考ス依テ明治二十五年十月十五日ニ於テ執行シタル鳥取縣氣多郡鹿野村々會議員補
欠選舉會二級議員定期選舉會及同年同月十六日ニ於テ執行シタル同村會一級議員定期選舉會ハ共ニ
有效ナリ故ニ被告カ其選舉取消ノ處分ヲ爲シタルハ不當ニ付其處分ヲ取消スヘシトノ判決アラランコ
トヲ請フト云フニ在リ

選舉掛選任

百二十七

被告答辯ノ要旨ハ抑選舉會ニ於テハ選舉人代理者ノ許否投票ノ效力等直チニ之レヲ裁決セサルヲ得

選舉掛選任

ス斯ノ如キハ選舉事務中最モ重大ナルモノナルヲ以テ之レチ一個ノ吏員ニ委任スルコトヲ得サルヲ以テ特ニ選舉掛ヲ置キ集議體ニ編制シタルモノニシテ其選舉係チ二四ノ偶數ト規定シタルハ決議上ノ必要ニ因ルモノナリ若シ之レチ形式上ノ規定ニ過キストモハ殊ニ人員ヲ定ムルノ必要ナク一名乃至四名若クハ二名以上四名以下ト規定スルモ亦可ナリ何ソ必シモ二四ノ偶數ヲ須ユルコトヲ要センヤ將タ又立會ハシムヘシトノ命令ナキノ故ヲ以テ必シモ立會ヲ要セス二名若クハ四名ノ選舉掛ヲ選任シ置キタル場合ニ於テ選舉會ノ當日一名ノ外出席セサルカ又ハ一名ノ出席者ナキモ其闕ヲ補ハスシテ村長若クハ其代理者ニ於テ選舉掛長トナリテ選舉會ヲ開閉シ得ヘシトノ論結チ生スヘシ果シテ然ラハ選舉事務ヲ舉ケテ一個ノ吏員ニ委任スルト同一ニシテ選舉掛ヲ特ニ集議體ニ編制シタルノ實用安レカ在ル素ヨリ選舉掛ハ他ノ職務ト大ニ其趣ヲ異ニシ町村長ニ於テ選任シタルト同時ニ選舉掛ノ資格チ有スヘキモノニアラス選舉會ニ立會テ初メテ選舉掛タルノ資格チ生スヘキナリ故ニ選舉會ニ立會ハサル以上ハ縱令選任シタリト雖該選舉會ニ對シモ責任アルコトナク隨テ選舉掛トナスチ得ス夫レ然リ然ラハ則チ初メヨリ選舉掛ナキト何ソ異ナラン選舉掛ナキノ選舉會豈ニ規定ニ背クニアラスシテ何ソヤ又選舉會ハ選舉掛二名若クハ四名チ立會ハシムルニアラサレハ之チ開閉スヘカラストノ禁止文ナシトスルモ町村制第二十條ハ選舉會現場ノ手續ヲ規定シタルモノニシテ會場ヘ出頭シタル選舉人中ヨリ臨時選任スヘキモノナルヲ以テ決シテ缺席者アルヘキ管ナシ依之推之トキハ選任ノ文字中テハ立會ノ意味ヲ含蓄スルコト火ヲ賭ルヨリモ尙ホ易シ然ラハ則チ二名若クハ四名ノ選舉掛立會ハカレハ選舉會ヲ開閉スヘカラスト然ラハ當然ノ理勢ニシテ敢テ喋々チ要セサルナリ斯ク辯シ來ラハ鹿野村會議員選舉會ノ其規定ニ違背シタルコト明々白々ニシテ監督者タル被告カ監督上該選舉會ヲ無効トナシタルハ至當ノ處分ナルコト甚タ明ケシ然ルチ原告カ不法ノ處分トナシテ本訴ヲ提起シタルハ

却テ町村制第二十條ノ精神ヲ誤解シタルモノト謂ハサルチ得ス是レ被告カ該選舉會ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行フヘキ旨ヲ訓示シタル理由ニシテ訓示ノ當時原告ニ於テハ被告カ選舉取消ヲ命令セシコトヲ直チニ告示セシニ權利ノ消長ニ直接ノ關係アル當選議員ヌラモ其處分チ甘受シ敢テ效力ノ有無ヲ争フモノナシ依之觀之モ其處置ノ至當ナルヲ證スルニ尙ホ餘リアリト云ツヘシ故ニ本訴各選舉會ハ其ニ無効ニシテ被告カ其選舉取消ヲ命令セシハ至當ノ處分ナリト云フニ在リ

依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ
 本訴所争ノ要點ハ村長ニ於テ選任シタル四名ノ選舉係中選舉當日一名ノ缺席者アリタル場合ニ際シ選舉掛長及三名ノ選舉掛ヲ以テ行フタル村會議員選舉會ハ選舉ノ定規ニ違背スル無効ノ選舉ナルヤ否ニ在リ而シテ町村制第二十條ノ選舉掛二名若クハ四名ノ偶數ヲ選任スルノ規定ハ同第二十三條ノ規定ニ依リ議決ノ場合ニ於テ掛長チ併セ奇數ヲ要スルニアリ然ルニ本件甲第一號證一三三ノ選舉錄ニ依レハ二級議員補闕選舉會同定期選舉會及一級議員定期選舉會ハ各投票ノ當否チ議決スルニ方リ選舉掛一名缺席シ偶數ノ儘之ヲ議決シタルモノニシテ該條ノ規定ニ違背シタルモノナリトス隨テ被告カ町村制第二十九條末項ノ規定ニ基キ選舉取消ヲ命シタルハ違法ノ處分ナリト謂フチ得ス右ノ理由ナルニヨリ判決スル左ノ如シ原告ノ請求相立タヌ訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

○村會議員違法選舉會取消ノ件 (四十三)

問

二級の選舉に一級の選舉人より選舉掛を選任するも違法にあらざるや。
 選舉人中より選任すヘキ規定にして毎級の區別あらざれば違法にあらず。

〔判決例 二十六年第百十四號〕
 同年十二月二十六日宣告

選舉掛選任

原告 長野縣小縣郡泉田村 松井 伍作 外二名
 被告 同 村長 上野 角治

選舉掛選任

右原告松井伍作外二名ヨリ被告泉田村々長上野角治ニ對スル村會議員違法選舉會取消ノ訴訟審理處原告訴求ノ要旨ハ明治二十六年五月八日長野縣小縣郡泉田村二級選出村會議員補闕選舉會ニ於テ一級選舉權ヲ有スル川村梅吉清水兵右衛門ノ兩名ヲ選舉掛ニ選任セシハ町村制第二十條ニ背戾セルモノナルカ故ニ村會及郡參事會ニ訴願セシニ原告ノ請求相立タス進テ縣參事會ニ訴願セシモ是亦法ノ解釋ヲ誤リタル裁決ヲ下シタリ今原告不服ノ理由ヲ述フニ町村會議員選舉會ノ成立ニ兩様アリ一級二級兩級ヲ通シテ一ノ選舉會ヲ開クトキハ一級二級ノ選舉ハ其選舉會中ノ内譯ニ過キス此場合ニ於テハ兩級ノ選舉人ハ同一ニ其選舉會中ノ選舉人ナリト云フヲ得ヘシ然レトモ補闕議員選舉ノ如キハ單ニ或ル一級ノ選舉人ノミヲ以テ獨立シテ選舉會ヲ開設スルモノナリ如此己ニ選舉會ノ成立ニ二様ノ區別アラハ其要素タル選舉人ニモ自カラ區別ヲ生スルヤ必然ナリ抑モ町村會議員選舉人ハ選舉會ニ要スル毎ニ之ヲ確定スルノ手續ハ町村制第三十七條ノ定ムル所ニシテ選舉ノ發動ヲ俟テ始メテ其働ヲナス者ナリ故ニ固有ノ選舉權者カ其權利ヲ行使シ得ル時ニ於テ始メテ選舉人ト云フヲ得ヘシ選舉權行使ノ働ヲ名ケテ投票ヲ行フト云フヘシ即チ選舉人ハ選舉權ヲ完全ニ行使シ得ヘキ投票人ヲ指シタルモノニシテ町村制第十八條ノ所謂選舉人名簿ハ選舉會ニ於テ選舉權ヲ行フ投票人ヲ定ムル者ナリ故ニ本件ノ如キ或ル一級ノ選舉人ヲ以テ成立セル選舉會ニ於テハ其會ノ投票人ヲ以テ選舉人ナリト謂ハサルヲ得ス且夫法文ノ解釋上ヨリ之ヲ見ルモ選舉人ナル文字ハ獨リ町村制第二十條ノミニアラス同制第二十一條第二十二條第二十四條第二十九條ノ法文ニモ存在シ其指ス所皆同一義ニシテ各々其選舉會ニ於テ投票權ヲ有スル者ヲ指スニ止マリ同制第十八條ニヨリ確定セシ名簿ノ選舉權者ヲ指シタルモノニアラサル事辯ヲ俟タスシテ明ナリ依テ本件二級選出村會議員補闕選舉會ニ於テ一級ノ選舉權アル者ヲ以テ選舉掛ニ選任セシハ町村制第二十條ニ背戾セシモノナルカ故ニ該選舉會ノ取消ヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ選舉會ノ成立ニ二様ノ區別アリ若シ兩級ヲ通シテ開會スル場合ニハ兩級ノ選舉人ハ同一ニ其會ノ選舉人ト謂フヘキモ或ル一級ノ選舉會ヲ獨立シテ開ク場合ニハ他級ノ選舉人ハ之ニ與カルヲ得ス隨テ其選舉掛ハ他級ノ選舉人中ヨリ選任スルヲ得スト云フモ之レ法律ヲ解釋スル偏狹ニ失スルノ弊ニシテ法ノ真意ヲ得タルモノニ非ス抑モ町村制第十三條ニ於テ町村稅ノ納額ニ隨テ其選舉人ヲ兩級ニ分チタル所以ノモノハ町村ニ對スル責任ト權利ノ衡平ヲ保チ多數細民ノ少數者ヲ壓凌スルノ弊ヲ防クニ外ナラス而シテ同制第二十條ニ至リテハ前段ノ理由ニ基キ選舉掛選任ノ方法ヲ規定シ其主旨タルヤ確定名簿ニ登錄シアル選舉人ト他ノ人民トノ區別ヲ顯ハシタルニ外ナラス然ルニ更ニ進ンテ選舉掛ノ選任ニ至ルマテ各箇各級ニ限ルトスルハ強テ前段ノ法理ヲ狹局ニ適用セント欲スルノ弊ナリトス依テ原告請求ノ旨趣ハ不當ナルニ付棄却セラレン事ヲ希フト云フニ在リ

依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ理由ヲ說明スル左ノ如シ
 原告ハ明治二十六年五月八日長野縣小縣郡泉田村二級選出村會議員補闕選舉會ニ於テ一級選舉人ナル川村梅吉清水兵右衛門ヲ以テ選舉掛ニ選任セシハ町村制第二十條ノ規定ニ背戾セリ即チ本件二級選舉會ノ選舉掛ニハ必ス同級ノ選舉人中ヨリ選任セサルヘカラスト云フト雖同制第二十條ハ單ニ選舉人中ヨリ選舉掛ヲ選任スヘキコトヲ規定シタルモノナレハ每級其級ノ選舉人ヲ選舉掛ニ選任スヘキモノト謂フヲ得ス隨テ本件二級選舉會ノ選舉掛ニ一級選舉人ヲ選任セシモ違法ノ選舉會ニアラサルモノトス
 右ノ理ニ依リ判決スル左ノ如シ原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

○村會議員選舉取消請求ノ件 (四十四)

選舉掛選任

問答

選舉掛選任

百三十二

代人投票の際委任状の眞否に關する疑議は選舉掛長の専決権内に屬するや。

投票の受理に關する事項に包含すれば選舉掛假之を決し可否同數なれば掛長之を決すべし。

〔判決例二十六年第六十號〕
同年十月九日宣旨

原告 青森縣北津輕郡榮村大字湊 平山彌九郎外三名
被告 青森縣北津輕郡榮村長 葛西利助

右原告平山彌九郎外三名ヨリ被告村長葛西利助ニ對スル村會議員選舉取消請求ノ訴訟審理處
原告等請求ノ要旨ハ第一明治二十五年九月十七日村會議員半數改選一級選舉會開設ニ際シ岩淵平司
ナル者町制第十二條ニ依リ一級選舉權ヲ有スル平山助六ノ委任ヲ受ケ委任狀携帶ノ上入場シ町村
制第二十四條ニ依リ委任狀ヲ選舉掛ニ示シテ選舉ヲ行ハントセシニ被告之ヲ拒ミ一級ノ二字ヲ委任
狀ニ記入セサレハ投票セシムル能ハストノ命ニ依リ代人岩淵平司ハ平山助六カ一級選舉人ヌルハ選
舉人名簿ニ照シテ明カナル旨申立テシモ猶投票ヲ許サ、ルニ由リ止ムナク委任者ノ宅ヘ立歸リ二字
記入再ヒ委任狀ヲ差出セシ際ハ未タ選舉時間内ニシテ且被告ノ命ノ如ク訂正ヲ加ヘタル上ナレハ當
然投票セシムヘキ筈ナルニ又拒ンテ乙第一號證選舉錄ニ顯ハセシ如ク平山助六カ選舉權ノ證憑ヲ表
センカ爲ニ印鑑證明書ヲ持參スヘシトノ嚴重ナル被告ノ命ニ由リ代人之ヲ辯解シテ平山助六カ選舉
權ノ證憑ハ選舉人名簿ニ照シテ明カナルコトニテ其印鑑證明書ヲ持參スルノ理由ナキヲ說キシモ被
告ハ掛長ノ權利ナリ意見ナリトテ強ヒテ受理セサルヲ以テ再ヒ退場シテ證明書携帶入場ノ際ハ選舉
時間三十分經過ノ時ニ當レルカ故監督郡吏ノ選舉ヲ行ハシムヘキ勸告アリシニモ拘ラス遂ニ平山助
六ノ選舉權ヲ拋棄セシメタリ是レ權利ヲ濫用シ不法ノ要求ヲ爲シ故意ニ選舉權ヲ拋棄セシメタル不
當ノ選舉會ニシテ其無効タル明カナリ被告カ平山助六ノ印形ヲ不判然ナリトシテ疑ヲ容レタルハ畢
竟同人カ當時當縣南津輕郡藏館村温泉場ニ於テ療養シタル爲ナラン然ルニ同人ハ家事多端ナルヲ以
テ湯治中ト雖屢々歸宅シ選舉ノ日モ居室ニ歸リ居タルモノナリ第二被告カ印鑑證明書ヲ持參セヨト

命シタルハ越權ノ甚シキモノナリ凡ソ公法上ハ法律カ特ニ權限ヲ與ヘタルトキノ外知能的判斷的ヲ
以テ如斯命令ヲ下スコト能ハサルハ一般ノ原則ナリ而シテ町村制第二十四條ニハ委任狀ヲ示シテ云
カスヘシトアリテ本訴ノ如キハ形式的ニ係ル場合ナルニ被告カ判斷力ヲ以テ斯ル命令ヲ下シタルハ
不當ナリ第三町村制第二十三條ニ依レハ投票ノ受理並効力ニ關スル事項ハ選舉掛假リニ之ヲ議決セ
サルヘカラス決シテ掛長ノ專斷スヘキモノニアラス然レハ岩淵平司カ平山助六ノ委任ヲ受ケ投票セ
シトスルニ當リ其受理ニ關スル第一理由ノ如キハ元ヨリ選舉掛ニ議決セシメサルヲ得サルモノナル
ニ被告一個ノ意見ヲ以テ再度マテ投票セシメス委任狀ヲ拒否シテ時間經過後初メテ選舉掛ニ議決セ
シメタルハ前後ノ處置ヲ誤リタルモノニシテ法律ニ戻リタル不當ノ選舉會タル亦明カナリ上陳ノ如
クナルヲ以テ原告ハ甲第一號證願書ヲ差出シ村會ノ裁決ヲ請ヒシニ村會ハ訴願ノ理由ナキヲ以テ
採用セサル旨裁決セリ依テ原告等ハ之ニ服セス更ニ甲第三號證願書ヲ郡參事會ヘ提出セシニ郡參
事會ハ原告等申立ノ通不當ノ選舉會ナルヲ以テ取消スヘキモノト裁決セラレタリ然ルニ被告ハ之ニ
不服ヲ唱ヒ甲第五號證願書ヲ縣參事會ヘ提出セシニ縣參事會ニ於テ郡參事會ノ裁決ハ取消スヘキ
モノト裁決セラレタルモ該選舉會ハ法律ニ戻リタル不當ノモノナルヲ以テ之ヲ取消シ更ニ正當ノ選
舉會ヲ開クヘキ様判決アラシコトヲ請求スト云フニ在リ
被告答辯ノ要旨ハ第一原告等ハ岩淵平司カ平山助六ノ委任ヲ受ケ委任狀携帶ノ上入場シ委任狀ヲ選
舉掛ニ示シテ選舉ヲ行ハシトセシニ被告之ニ一級ノ二字ヲ委任狀ニ記入セシメタルコト及委任狀ノ
印鑑證明ヲ取リタルコト又郡吏ノ勸告アリシニモ拘ラス選舉時間經過後ナリトテ選舉セシメサルコ
トハ故意ニ選舉權ヲ拋棄セシメタル不當ノ選舉會ナリト云フニ在リト雖抑モ市町村制第二十四條ニ
於テ代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示スヘキコトヲ規定シアルハ其委任ノ眞正ナルコト及委任條件ノ確實
ナルコトヲ明示シ承認ヲ得ルノ手續ニシテ代人投票ニ在リテハ此手續タル實ニ重要ノモノナリトス

選舉掛選任

百三十三

選舉掛選任

然レハ代人示ス所ノ委任狀中條件ノ明確ナラサルモノ又ハ其眞偽ノ間ニ疑點ヲ存スヘキ狀況アル場
 合ニ於テハ其條件ヲ明確ナラシメ又其眞偽ノ疑點ヲ晴然ナラシムヘキ事爲ヲ代人タル者ニ促スヘキ
 ハ固ヨリ當然ノコトナリト信ス故ニ岩淵平司カ携帶セル平山助六ノ委任狀中何級選舉ノ委任ナルヤ
 其記入ナキヲ以テ之ヲ岩淵平司ニ注意シタル處平司ニ於テ之ヲ甘受シ一級選舉ノ代理タルヲ明確ナ
 ラシメ再ヒ選舉場ニ入り委任狀ヲ提出セルニ其際有權者ナル本人助六ハ他行不在ナリト訴フル者ア
 ルノミナラス現ニ委任狀ノ印影模糊トシテ曖昧ナルヨリ確認シ難ク由テ其確認シ得ヘキ證明ヲ促シ
 タルモノナリ是皆委任狀ノ明確ナラサルヲ明瞭ナラシムル手續ニ於テ要用ノ事柄ニシテ爾後之レチ
 取調アルニ豈ニ圖ラン有權者ナル平山助六カ別紙第一號第二號證ノ如ク果シテ十里以上ヲ隔テタル
 當縣南津輕郡藏館村温泉客舎ニ止宿シテ入湯治療中ナルコト判明セリ斯ル十里以上ヲ隔テタル
 時間内外ニ往復シテ委任狀訂正スルトハ實際出來得ヘキヤ否決シテ能ハサルモノナリ若シ當時茲ニ
 注意セシテ其委任狀ヲ行使セシメナハ大ニ人民權利ノ消長ニハ原告等証言ノ太シキモノト云ハサ
 ルヲ得ス又投票ノ時間後ニ選舉セシメサリシハ縱令郡吏ノ勸告アルニモセヨ法ノ許サハル所ナルノ
 ヲナラス選舉掛ノ決議ニ於テ受理セスト決定セシモノナレハ適法ノ所置ニシテ原告ノ非難ヲ受クヘ
 キモノニアラサルナリ第二原告等ハ凡ソ公法上ハ法律カ特ニ權限ヲ與ヘタル外知の判斷的ヲ以テ命
 令ヲ下スコト能ハサルハ一般ノ原則ナリ而シテ町村制第二十四條ニハ委任狀ヲ示シテ云々スヘシト
 アリテ本訴ノ如キハ形式的ニ係ル場合ナルニ被告カ判斷力ヲ以テ印鑑證明書ヲ持參セヨトノ命令ヲ
 下シタルハ不當ナリト云フモ市町村制第二十四條末項ニ委任狀ヲ選舉掛ニ示シ云々トアルハ當ニ形
 式的ニ止マルニアラス其委任狀ノ眞否及代人ノ資格ノ如何ヲ調査スルハ法律カ選舉掛ニ兼テ兼テ兼テ
 限ナリ果シテ然ラハ委任狀ヲ被告ニ於テ確メタルハ決シテ不法ノ取扱ニヤラス第三原告訴狀ノ第二
 ニ曰ク投票ノ受理並其效力ニ關スル事項ハ選舉掛假リニ之ヲ議決セサルヘカラス云々第二理由ノ如

選舉掛選任

キハ元ヨリ選舉掛ニ議決セシメサルヲ得サルモノナルニ云々トアレトモ箇ハ町村制第二十三條ノ誤
 解ニ出タル不當ノ論辯ナラン何トナレハ第二十三條ニハ投票ノ受理並其效力ニ關スル事項トアリテ未
 マ投票權ヲ有セサル者カ其代理權ヲ證明シ確認ヲ得ントスル際ニ於テ其代理權ノ發生スヘキ委任狀
 ヲ明確ナラシムル注意ヲ受テ之ヲ甘諾セル事項ノ如キ決シテ投票其物ノ受理及效力ニ關スル事項
 ト云フヘキモノニアラサレハナリ故ニ別箇ノ事柄ニシテ毫モ該條ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラサル
 ナリ前陳ノ次第ニ付本訴原告等ノ請求不相立樣判決アラントトテ請求スト云フニ在リ
 依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ
 本訴原告カ所爭ノ要點ハ代人投票ノ場合ニ於テ委任狀ノ眞否ニ付疑議ヲ生シタルトキハ選舉掛之
 ヲ議決スヘキヤ否ニ在リ而シテ被告ニ於テ町村制第二十三條ニハ投票ノ受理並其效力ニ關スル事項
 トアリテ未マ投票權ヲ有セサル者カ其代理權ヲ證明シ確認ヲ得ントスル際ニ於テ其代理權ノ發生ス
 ヘキ委任狀ヲ明確ナラシムル注意ヲ受テ之ヲ甘諾セル事項ノ如キ決シテ投票其物ノ受理及效力ニ關
 スル事項ト云フヘキモノニアラスト云フト雖代人投票ノ場合ニ於テ委任狀ノ眞否ハ投票ノ受理不受
 リ然ラハ則チ委任狀ニ關スル疑義ハ直ニ以テ投票其物ニ關スル疑義ト云フヲ得サルモ町村制第二
 十三條末項投票ノ受理ニ關スル事項中ニ包含スヘキモノナリト云ハサルヲ得ス故ニ本訴委任狀ニ關
 スル疑義ヲ掛長ニ於テ專決シ選舉掛ニ議決セシメサリシハ同制第二十三條末項ノ定規ニ違背シ其選
 舉ハ同制第二十九條末項ニ該當スルモノニシテ代人ノ甘諾如何ハ之ヲ問フノ必要ナキモノトス
 右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ
 明治二十五年九月十七日榮村ニ於テ行フタル村會議員半數改選一級選舉ハ法律ニ違背シタルモノナ
 ルヲ以テ之ヲ取消スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

選舉掛選任

百三十四

然レハ代人示ス所ノ委任狀中條件ノ明確ナラサルモノ又ハ其眞偽ノ間ニ疑點ヲ存スヘキ狀況アル場
 合ニ於テハ其條件ヲ明確ナラシメ又其眞偽ノ疑點ヲ晴然ナラシムヘキ事爲チ代人タル者ニ促スヘキ
 ハ固ヨリ當然ノコトナリト信ス故ニ岩淵平司カ携帶セル平山助六ノ委任狀中何級選舉ノ委任ナルヤ
 其記入ナキヲ以テ之ヲ岩淵平司ニ注意シタル處平司ニ於テ之ヲ甘受シ一級選舉ノ代理タルヲ明確ナ
 ラシメ再ヒ選舉場ニ入り委任狀ヲ提出セルニ其際有權者ナル本人助六ハ他行不在ナリト訴フル者ア
 ルノミナラス現ニ委任狀ノ印影模糊トシテ曖昧ナルヨリ確認シ難ク由テ其確認シ得ヘキ證明ヲ促シ
 タルモノナリ是皆委任狀ノ明確ナラサルヲ明確ナラシムル手續ニ於テ要用ノ事柄ニシテ爾後之レヲ
 取調フルニ豈ニ圖ラン有權者ナル平山助六カ別紙第一號第二號證ノ如ク果シテ十里以上ヲ隔テタル
 當縣南津輕郡藏館村温泉客舎ニ止宿シテ入湯治療中ナルコト判明セリ斯ル十里以上ノ陸路ヲ僅ニ一
 時間内外ニ往復シテ委任狀訂正スルトハ實際出來得ヘキヤ否決シテ能ハサルモノナリ若シ當時茲ニ
 注意セスシテ其委任狀ヲ行使セシメナハ大ニ人民權利ノ消長ニハ原告等証言ノ太シキモノト云ハサ
 ルヲ得ス又投票ノ時間後ニ選舉セシメサリシハ縱令郡吏ノ勸告アルニモセヨ法ノ許サハル所ナルノ
 ミナラス選舉掛ノ決議ニ於テ受理セスト決定セシモノナレハ適法ノ所置ニシテ原告ノ非難ヲ受クヘ
 キモノニアラサルナリ第二原告等ハ凡ソ公法上ハ法律カ特ニ權限ヲ與ヘタル外知の判斷的ヲ以テ命
 令ヲ下スコト能ハサルハ一般ノ原則ナリ而シテ町村制第二十四條ニハ委任狀ヲ示シテ云々スヘシト
 アリテ本訴ノ如キハ形式的ニ係ル場合ナルニ被告カ判斷力ヲ以テ印鑑證明書ヲ持參セヨトノ命令ヲ
 下シタルハ不當ナリト云フモ市町村制第二十四條末項ニ委任狀ヲ選舉掛ニ示シ云々トアルハ當ニ形
 式的ニ止マルニアラス其委任狀ノ眞否及代人ノ資格ノ如何ヲ調査スルハ法律カ選舉掛ニ兼子タル權
 限ナリ果シテ然ラハ委任狀ヲ被告ニ於テ確メタルハ決シテ不法ノ取扱ニヤラス第三原告訴狀ノ第二
 ニ曰ク投票ノ受理並其效力ニ關スル事項ハ選舉掛假リニ之ヲ議決セサルヘカラス云々第一理由ノ如

選舉掛選任

百三十五

キハ元ヨリ選舉掛ニ議決セシメサルヲ得サルモノナルニ云々トアレトモ箇ハ町村制第二十三條ノ誤
 解ニ出タル不當ノ論辯ナラン何トナレハ第二十三條ニハ投票ノ受理並其效力ニ關スル事項トアリテ未
 マ投票權ヲ有セサル者カ其代理權ヲ證明シ確認ヲ得ントスル際ニ於テ其代理權ノ發生スヘキ委任狀
 ヲ明確ナラシムル注意ヲ受ケテ之ヲ甘諾セル事項ノ如キ決シテ投票其物ノ受理及效力ニ關スル事項
 ト云フヘキモノニアラサレハナリ故ニ別箇ノ事柄ニシテ毫モ該條ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラサル
 ナリ前陳ノ次第ニ付本訴原告等ノ請求不相立樣判決アラントトテ請求スト云フニ在リ
 依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ
 本訴原告カ所争ノ要點ハ代人投票ノ場合ニ於テ委任狀ノ眞否ニ付疑議ヲ生シタルトキハ選舉掛之
 ヲ議決スヘキヤ否ニ在リ而シテ被告ニ於テ町村制第二十三條ニハ投票ノ受理並其效力ニ關スル事項
 トアリテ未ダ投票權ヲ有セサル者カ其代理權ヲ證明シ確認ヲ得ントスル際ニ於テ其代理權ノ發生ス
 ヘキ委任狀ヲ明確ナラシムル注意ヲ受ケテ之ヲ甘諾セル事項ノ如キ決シテ投票其物ノ受理及效力ニ關
 スル事項ト云フヘキモノニアラスト云フト雖代人投票ノ場合ニ於テ委任狀ノ眞否ハ投票ノ受理不受
 理ヲ決定スルノ要件ニシテ眞實ナラサル委任狀ヲ所持スル代人ノ投票ハ受理スヘキモノニアラサル
 ナリ然ラハ則チ委任狀ニ關スル疑義ハ直ニ以テ投票其物ニ關スル疑義ト云フヲ得サルモ町村制第二
 十三條末項投票ノ受理ニ關スル事項中ニ包含スヘキモノナリト云ハサルヲ得ス故ニ本訴委任狀ニ關
 スル疑義ヲ掛長ニ於テ專決シ選舉掛ニ議決セシメサリシハ同制第二十三條末項ノ定規ニ違背シ其選
 舉ハ同制第二十九條末項ニ該當スルモノニシテ代人ノ甘諾如何ハ之ヲ問フノ必要ナキモノトス
 右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ
 明治二十五年九月十七日榮村ニ於テ行フタル村會議員半數改選一級選舉ハ法律ニ違背シタルモノナ
 ルヲ以テ之ヲ取消スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

選舉會事務

○選舉會事務

○村會議員選舉効力ノ件 (四十五)

問 選舉は正式に結了せしも選舉録調製手續に違ひし選舉は効力を有せざるや。
答 選舉録調製の手續に違ふの一事を以て選舉の規定に違背したるものと爲すを得ず故に有効也。

〔判決例二十六年第八十八號〕
同年十一月二十九日宣告

原告 高知縣長岡郡天坪村々長 杉本太郎
被告 高知縣長岡郡長 吳服 絹

原告村長ヨリ被告郡長ニ係ル村會議員選舉効力ノ訴審理ヲ遂クル處

原告代理人陳述ノ要旨ハ天坪村會議員半數改選ニ付明治二十五年四月二十一日同村役場ニ於テ第一級選舉ヲ執行セリ同日午前九時開會選舉掛長永野昇鹿選舉掛前田重利岡田尙武着席投票ヲ受領シ午後二時投票函閉鎖同二十時十分ヨリ開票ヲ初メ選舉人ノ面前ニ於テ選舉長之ヲ讀上ケ終リ選舉長ハ選舉掛ト共ニ投票ヲ査閱シタル處小笠原岩四郎小笠原庄五郎岡田武市當選ト確定ス此時選舉掛兩名ハ本日降雨甚シク川支ヘ計リ難シトテ退席ヲ告グルヲ以テ掛長ハ選舉録ヲ朗讀シ署名捺印ヲ要スルヲ以テ暫時之ヲ止メントスルモ強テ退場セリ掛長ハ己ムヲ得ヌ制第二十七條ニ遵ヒ選舉録ヲ朗讀シ一件書類ヲ合綴シ之ニ署名捺印シテ閉會ヲ宣告セリ然ルニ本村公民西岡久吉岡林勝太郎福富金次等此選舉ヲ違法トシテ訴願ヲ爲シ結局縣參事會ニ於テモ郡參事會裁決ノ主意ヲ容レ此選舉ヲ取消スヘキモノト裁決シタリ而シテ郡參事會裁決ハ町村制第二十七條ノ手續ヲ了セサルノ前及同第二十条ノ規定ニ依リ選舉掛長其開閉ヲ掌ル者ナルニ係長ニ於テ閉會ヲ宣告セサル前ニ於テ選舉掛退散セルコト若シ閉會前選舉掛ニ職員ヲ生シタル場合ハ臨時補闕ヲ爲スヘキニ之ヲ爲サハリシコト選舉掛退散後ニ於テ掛長其職務ヲ執行セルモ合議體ノ掛長タル資格ナキモノナレハ職務ヲ執行セリト謂フヘカラ

行政裁判例問答

行政裁判例問答

サルコト等ヲ理由トセリ然レトモ選舉掛ノ退散セシハ投票員數等調査既ニ結了シ當選人確定ノ後ナレハ最早補闕選舉掛ヲ選任スヘキ必要ナキノミナラス町村制ヲ按スルモ選舉掛欠員ヲ生シタル場合之ヲ補充セサレハ効力ナキノ明文ナシ加之選舉上ノ事務已ニ結了シ唯選舉録調製ノ場合ニ臨ミ其缺員ヲ補ハントスルモ選舉會經過上ノ事實ニ就テハ選舉録ニ署名スヘキ責任ヲ負フコト能ハサルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ本選舉會ハ違法トナスヲ得スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ明治二十五年四月二十一日高知縣長岡郡天坪村々會議員一級選舉會ヲ同村役場ニ於テ執行スルニ方リ村長永野昇鹿ハ選舉掛長トナリ岡田尙武前田重利ヲ選舉掛ニ選任シ其選舉ノ事務執行中選舉掛ノ退場シタルニ拘ハラス掛長其儘獨リ選舉録ヲ調製シ事後ニ至リ前田重利岡田尙武ニ署名捺印ヲ求メタルニ右二名ハ其事實ニ違背スル點アルヲ以テ之ヲ拒ミタルモ掛長タリシ永野昇鹿ハ之ヲ願ミスシテ岡田尙武前田重利ノ氏名ヲ記入シ以テ選舉ノ事ヲ畢ヘタリトセリ本來町村制第二十條ニ選舉掛ヲ合議體ニ組織シ選舉ノ公平確實ナルヲ期セル所以ノモノハ選舉事務ノ關係最モ重大ナルヲ認メタルニ由ラスシハアラス故ニ苟モ其規定ニ違背シタルモノアルトキハ同制第二十九條第三項ノ制裁ヲ免ル、コト能ハサルハ寔ニ當然ナリ即チ本案天坪村會議員一級選舉會ハ其開會中ニ於テ選舉掛ニ缺員ヲ生シタルモノナレハ之カ掛長タルモノハ更ニ選舉掛ヲ選任シ合議ノ上選舉録ヲ調製シ朗讀ノ後閉會スヘキモノナルニ其之ヲ爲サスシテ掛長單獨ニ選舉録ヲ調製シ閉會シタルハ明カニ町村制第二十條及第二十七條ニ違背シタルモノナリ而シテ選舉會ノ事後ニ於テ其選舉ノ効力ヲ判別スルハ一ニ選舉録ニ依ルヘキモノナリト雖如何セン本選舉録ニハ其末尾ニ(正當ヲ記シ茲ニ署名捺印ス)ト記載アルモ這ハ唯選舉掛長カ獨斷ヲ以テ調製シタル隨意ノ記事ニシテ選舉掛ノ自署捺印モナク尙且ツ往々事實ニ違背シ適法ナラサルモノアリ是ニ依リ之ヲ觀レハ該選舉録ナルモノハ公正ノ記録トシテ本訴ノ證據ニ供スルヲ得サルハ勿論隨テ該選舉ノ全體ニ於テモ適法ニ執行シ

選舉會事務

タルモノトハ認ムルヲ得スト云フニ在リ
依テ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

行政裁判決問答

被告ハ天坪村々會議員一級選舉會ハ既ニ投票ヲ終ヘ當選人定マリタル後選舉掛ニ缺員ヲ生シタルモ
ノナルモ適法ノ選舉録調製マテハ選舉會ハ未タ開會中ニ屬スルヲ以テ之カ掛長タルモノハ更ニ選舉
掛ヲ選任シ合議ノ上選舉録ヲ調製シ朗讀ノ後閉會スヘキモノナルニ其之ヲ爲サスシテ掛長單獨ニ選
舉録ヲ調製シ閉會シタルガ故ニ明カニ町村制第二十條及第二十七條ニ違背シタルモノナリ依テ同制
第二十九條第三項ノ制裁ヲ免カル、コト能ハスト云フト雖凡ソ選舉ハ別ニ規定ナキ以上ハ投票ヲ終
ヘ當選人定マリタル時期ニ於テ終ルモノニシテ其選舉録ヲ調製スルコトノ如キハ只其選舉力如何
ル狀況ニ於テ終リシカチ他日ニ證スルカ爲メナルニ過キサレハ選舉録ノ調製方式ニ違フノ一事ヲ以
テ選舉ノ効力ニ影響及ボスヘキモノニアラス而シテ本件選舉會ハ投票ヲ終ヘ當選人ノ定マリタル
ノ時期マテハ適法ニ成立シタルコトハ被告ニ於テモ更ニ争フ所ナキノミナラス選舉終了ノ時期ニ付
キ町村制中別段ノ規定ナキカ故ニ選舉ハ適法ニ終リタルモノト謂ハサルヘカラス選舉ニシテ既ニ適
法ニ成立シタル以上ハ選舉録ニ違式ノコトアルモ之ヲ以テ選舉ノ定規ニ違背シタルモノトナスヲ得
ス從テ町村制第二十九條第三項ノ規定ヲ適用スヘキモノニアラス其他原被双方ニ於テ陳辯スル所ア
ルモ必要ナキニ依リ説明ヲ與ヘス
右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ
高知縣長岡郡天坪村々會議員一級選舉會ハ有效ノモノトス訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

○町會議員選舉會取消ノ件 (四十六)

問 投票受理の際選舉人名簿に附點せし數と投票の實數と差異あるときは該選舉は無効あるや。

答 假令ひ附點の數と實際の投票數と差異あるも別に其不正の證據なき以上は有効なりとす。

(判決例 二十五年第五十六號 同年十二月二十日宣告)

原告 佐賀縣杵島郡武雄町 中野 平次兵衛 外四名
被告 佐賀縣杵島郡武雄町々長 木村 保太郎

行政裁判決問答

原告請求ノ要旨ハ明治二十五年四月十三日ニ於テ武雄町々會議員半數改選ヲ執行シタルニ其會ノ選
舉掛長タル被告町長ハ選舉人ト選舉人名簿トヲ照合シテ受理シタル投票ハ實ニ百二票ナリシモ其開
函調査ノ際ニ當リ百三票ノ投票入函アルヲ發見ス即チ一票ハ選舉人ナキモノナルニモ拘ハラズ該一
票ヲモ併セテ有効ト決定シタルノ事實ハ選舉録ニ明記スル所ナルニ依リ該選舉會全部ヲ取消シ更ニ
選舉會開設ノ義ヲ町會ニ訴願セシニ町會ハ彼ノ不正投票ヲモ有効ト見做スノ裁決ヲ與ヘタルニ依リ
尙又郡參事會縣參事會ニ訴願セシモ孰レモ同上ノ旨趣ヲ以テ原告ノ訴願ヲ斥ケタリ抑モ被告町長カ
當選者ヲ決定シタル理由ハ一票ハ人名簿附點ノ誤ト看做シ百三票ヲ正當ト認ムルニ在レドモ元來附
點云々ノ說タル毫モ選舉人ニ於テ與リ知ル所ニアラス選舉掛長カ町村制第二百二十二條第二項ノ明文
ノ如ク投票ノ際選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受理サヘナセハ選舉人ハ掛長ノ職ニ容喙スルノ限リニアラ
ス又右規定ニ從ヒ選舉ヲ行ヒシモノナレハ決シテ斯ル不都合ヲ生スルコトアラサルヘシ然ルニ被告
ノ說ノ如ク之ヲモ正當ナリ法律ノ精神ニ適シタル選舉會ナリト謂ハ、第二十二條ノ規定ハ不要ニ歸
ス貴重ナル選舉會豈斯ノ如キノ道理アラシヤ故ニ本訴不正投票ノ如キ必ス之ヲ棄却セサルヘカラス
又被告カ選舉ヲ終リタル後直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知セシ三日間モ遅延セシハ町村制第二十八
條ニ違背スルヲ免レヌ又選舉録ニ掛長ハ當選者ヲ定メ難ク只其得點ヲ記載シ其筋ヘ裁決ヲ請フト云
フハ町村制第二十三條投票ノ受理並ニ効力ニ關スル事項ハ選舉掛長假リニ之ヲ議決ス云々トアル明

行政裁判例問答

文ニ違背シタルモノトス依テ前記不正投票ヲ棄却シ併セテ選舉會全部ヲ取消スヘキ様裁判ヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ本年四月十三日午前九時ニ於テ武雄町々會議員半數改選々舉會ヲ開始スルヤ幾多ノ選舉人ハ遽ニ選舉掛長ノ面前ニ來集シ投票ノ先後ヲ爭ヒ非常ノ混雜ナリシヲ掛長ハ漸ク之ヲ鎮定シテ直ニ選舉人ノ面前ニ於テ投票函ノ空虛ナルヲ示シ町村制第二十二條ニ依リ選舉人自己ノ氏名及ヒ住所ヲ申立ツレハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ名簿ニハ投票濟ノ人名ヲ知り得ル爲メ氏名ノ下ニ附點ヲナシ封緘ノ儘直ニ函ニ投入シ該函ハ始終閉鎖シ而シテ午後一時ニ至リ立會人一同開函ニ著手セシニ名簿總員百二十二名ノ内附點ノ在ルモノ百二名ナリシモ開函結了投票數ヲ計算セシニ百三名ニシテ其間一票ノ差ヲ生シタルモ右ハ附點ノ誤ニシテ百三票ハ眞正ナルモノト爲シ其ノ結果ヲ告ケ當日選舉會ノ終局ヲ爲セリ抑モ選舉掛長ハ町村制第二十二條ノ規定ヲ踐行シテ受理シタル投票ナレハ函中ニ不正投票ノ存スヘキ道理ナシ然ルニ若シ之レアリトセハ原告ハ其不正投票ヲ爲シタルモノヲ證明セサルヘカラス然ルニ事茲ニ出テスシテ不正ナリト云フハ所謂無證ノ妄斷ナリ尤モ原告ハ選舉中現在投票セシモノ百二名トアルヲ以テ一票ハ不正ナリト主張スト雖被告ニ於テ認諾スル能ハサルナリ如何トナレハ元來選舉錄ニ現在投票セシモノ百二名ナリト記載シタルハ現在投票數ニ依ラズシテ單ニ名簿ノ附點ニ因リタルモノニシテ別ニ理由アルニアラス現在數ト附點數ト一票ノ差アルヲ以テ選舉錄第二項ノ通り當選者ヲ定メ難ク只得點ヲ記載シ置キ其筋ヘ伺ノ上更ニ當選者ヲ決定スル旨ヲ記載セシト雖實際其筋ノ經伺ヲ爲サス即チ原告第二號證決定書ノ如ク選舉掛ニ於テ更ニ開會討議ノ末一票ノ差異アルモノハ附點ノ誤謬ト判定シ其當選者ヲ決定シタルモノナリ其故ハ名簿ノ附點ハ選舉掛ノ記憶ノ爲メニスルモノニシテ規定ノ強ユル所ニアラサレハナリ又假ニ原告ノ言フ如ク一票ノ不正投票アリトシテ得點者ヨリ各一票ヲ除去スルモ當選ノ効力ニ差異ヲ生スルコトナケレハ

行政裁判例問答

無論本會ヲ取消スヘキ理由ナキ者ナリ依テ原告ノ請求相立タサル旨裁判ヲ仰クト云フニアリ

依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ハ武雄町々會議員半數改選ノ際選舉人名簿ニ附點シテ受理シタル投票ハ百二票ヲ數ヘタルモ開函調査ニ當リ百三票人函アルヲ發見シ即チ選舉人ナキ一票ノ存スルニモ拘ハラズ被告選舉掛長カ該一票ヲ併セテ有効ト決定シタルハ町村制第二十二條ニ違背スルモノナリト云フト雖選舉人名簿ノ附點ハ町村制ノ命スル所ニアラス單ニ掛長ノ記憶ノ爲メニセシモノナレハ假令該附點ノ數ト實際投票トノ間ニ一票ノ差異アルモ別ニ其不正ナルノ證據ナキ以上ハ之ヲ以テ無効ノ投票ナリト謂フヲ得ヌ又原告ハ被告カ四月十三日選舉ヲ終リタル後直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知セス三日間モ通延セシハ町村制第二十八條ニ違背スト云ヘトモ當選者未タ定マラサルノ間ハ之ヲ告知スルノ道ナク同月十五日當選者ヲ決定シ然ル後之ヲ告知セシモノナレハ之ヲ以テ該條ニ違背スト謂フヲ得ヌ又原告ハ被告カ選舉掛ニ掛長當選者ヲ定メ難ク只得點數ヲ記載シ其筋ヘ伺ヒ裁決ヲ乞フト云フハ町村制第二十三條ニ投票ノ受理並ニ効力ニ關スル事項ハ選舉掛假リニ之ヲ議決ストアル明文ニ違背スト云フト雖選舉掛ノ記事ハ當日ノ議定ヲ記載スルニ過キス而シテ實際其筋ヘ何等ノ伺ヒヲモ爲セシコト無ク同月十五日ニ至リ選舉掛更ニ開會討議シテ當選者ヲ決定セシモノナレハ町村制第二十三條ニ違背スト謂フヲ得ヌ

右ノ理由ナルニ依リ判決スルコト左ノ如シ原告ノ請求相立タズ訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

○村會議員選舉取消不服ノ件 (四十七)

問 一名の補欠選舉に一封中二票現存するときは何れを有効とするや。

答 常選者を判別するに由なければ二票ともに無効とす。

〔判決例〕二十四年第四十三號
二十五六月二十三日宣告

原告 千葉縣武射郡陸岡村横田 槍木徳太郎 外七名
被告 千葉縣武射郡陸岡村會議長 富谷 啓藏

右原告槍木徳太郎外七人ヨリ被告陸岡村會議長富谷啓藏ニ對スル村會議員選舉取消不服ノ訴訟審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ明治二十四年三月十三日陸岡村村會議員ノ補闕及増員選舉ヲ執行シ花壇文藏鈴木信夫槍木徳太郎ノ三名當選シタルニ其當選及ヒ選舉手續ニ違法アリト爲シ鈴木日總外七名ヨリ本村會ニ訴願シ其裁決ニ服セス郡參事會ニ訴願シ原告ハ其裁決ニ服セス縣參事會ニ訴願シ又其裁決ニ服セス本訴ヲ提起スルニ至レリ抑日總等訴願ノ主意ハ選舉掛鈴木健藏鈴木祥英ハ半途ニシテ選舉場ヲ退席シタルコト小川與次左衛門卯木五郎左衛門カ代人ヲ以テ投票ヲ爲シタルコト補闕選舉投票ニ封中ヨリ二票現出シタルヲ選舉掛ニ於テ一票噴ミ裂キ一票ヲ有効ト爲シタルコト又選舉人二百五十九名ニ對シ一票過剩アリタルコト増員選舉ニ於テモ三票ノ過剩アリシニ其減却方ヲ議決ニ付セス執行シタルコトアリシニ因リ其選舉ヲ取消シ更ニ選舉アリタシト云フニアレトモ固ヨリ違法ノ點ナキ選舉會ナルヲ原告等ノ訴願ニ對シ縣參事會ハ既ニ選舉掛四名ト定メタル上ハ之ニ退席者アレハ直チニ補闕スヘキニ其補闕ヲ爲サスシテ選舉ヲ執行シタルハ適法ノ處置ニアラス代人投票アリシハ同第二十四條ニ背クモノナリ補闕選舉ニ於テ當選者花壇文藏ノ得票數ヨリ一封中ヨリ出テタル二票ハ内一及代人投票ニ係ル二票ヲ扣除シ次點者吉井傳十郎ノ得票數ニ加フルトキハ即チ選舉ノ結果ニ異動ヲ生シ又増員選舉ニ於テ其投票ヲ誤リタル二票ト代人投票ノ二票トヲ無効トシ之ヲ當選者鈴木信夫ノ得票數百二十六槍木徳太郎ノ得票數百二十五票ヨリ扣除スレハ次點者矢部芳太郎關大吉ノ得票數百二十三ヨリハ一點乃至二點ノ少數ナルヲ以テ選舉ノ結果ニ異動ヲ生シ又矢部芳太郎ハ本村區長代理者ニ選任ノ際町村制第七條ニ依リ特免セラレ公民權ヲ有ストノ理由ヲ以テ本選舉ハ全部取消ス可

キモノトストノ裁決ヲ爲シダレトモ第一選舉掛鈴木健藏鈴木祥英ノ兩名退席シタルトノ認定アレトモ現ニ選舉録ヲ調製シ投票ヲ封緘スルマテ其席ニ在リタルハ選舉人ノ多數カ投票ノ結果ヲ閱覽セシト出席シ居リテ之ヲ目撃シ且選舉録ニ記載ナク若シ之レアリセハ町村制第八條ニ則リ村會ノ決議ニ付ス可キナリ第二代人投票ノ事實アラザリシハ選舉録ニ徵シ明白ナルノミナラス同村内ノ住民ニシテ何シモ而識ノ者ナレハ斯ル違法ノ事實ハ決シテ爲シ得可カラス又爲サシメサルハ當然ナリ第三補闕選舉第四増員選舉ニ於テ其ニ其當選者ノ得票數ヨリ無効投票ヲ扣除シ却テ之ヲ次點者ノ得票數ニ加フルトキハ投票ノ結果ニ異動ヲ生スト爲シタルハ解シ得サル所ナリ又矢部芳太郎ハ本村會ノ決議ヲ以テ町村制第七條公民權ノ制限ヲ特免シタルモノニアラサルニ由リ千葉縣參事會カ爲シタル裁決ヲ取消シ本會ハ有効ナリトノ判決アランコトヲ請フト云フニ在リ

被告代理人答辯ノ要旨ハ明治二十四年三月十三日陸岡村村會議員補闕一名増員二名ノ選舉會ヲ開キタルニ同村公民鈴木日總外八名ヨリ該會ニ違法アリト爲シ本村會ニ訴願シ村會ハ特ニ會議ヲ開キ該訴願ヲ否決シ當時村長病氣ニ付助役富谷啓藏即チ被告ニ於テ決議ヲ執行シタルニ日總等ハ此議決ヲ不當ト爲シ郡參事會ニ訴願シ同會ハ議決ヲ取消シタルニ因リ原告之ヲ縣參事會ニ訴願シ同會モ亦少シノ理由ヲ殊ニセシモ該選舉ヲ取消ス可シトノ裁決ヲ爲シタルモノニシテ第一選舉ノ當時當選者ヲ揭示セントスルニ際シ選舉掛鈴木健藏鈴木祥英高知尾竹三郎ノ三名ハ卒然病氣ナリト唱ヘ退席シタルヲ以テ殘ル一名ノ伊藤峰吉ヲシテ選舉録ヲ調製セシメ且高點者ヲ揭示セシメタリ竹三郎ハ其翌日出頭シテ選舉録ニ調印シ追認シタルトモ今熟テ當時ノ所爲ヲ考フルニ選舉掛ノ已定數ヲ缺キタルマ、選舉行為ヲ退行シタルハ失當ナリ第二小川與次左衛門卯木五郎左衛門カ代人ヲ以テ選舉シタル事實ハ當日兩人共ニ居村ニ不在ナリシコト明カナルヲ原告等選舉録ニ此記載ナキ主張スレトモ事ノ發露前後ニ因リテ然ルノミ豈其記載ナキ一事ヲ以テ代人投票アリタル事實ヲ蔽フ可ケン

選舉會事務

百四十四

ヤ且補闕選舉中一封ヨリ二票ノ出テタルヲ選舉掛伊藤峰吉ニ於テ其一票ヲ無効ナリト云ヒツ、嘴ミ裂キ殘ル一票ハ有効ナリト決シテ選舉ヲ了リ縣參事會モ亦此一票ハ有効ト爲シタレトモ其一票ヲ嘴ミ裂キタル所爲ハ非難ヲ免レサルモノニシテ殘ル一票モ亦無効ナリト思量ス原告等ハ縣參事會ノ裁決ニ選舉ノ結果ニ異動ヲ生ストアルヲ非難スレトモ苟クモ其投票ニ異論アリテ選舉ノ結果ヲ動スニ足ルヲ恐レアル以上ハ之レヲ取消コソ至當ナリ況ンヤ花壇文藏ノ得票中三票ノ無効アレハ年長者ノ吉井傳十郎アリテ文藏ノ當選ト云フ能ハサルニ於テオヤ第三増員投票ハ總數二百六十票ナル可キ故ニ最多數ノ當選者得票中ヨリ其二票ヲ減ス可キハ無論ナリ且他人ノ名ヲ以テ投票シタル分ニ票アルコト明白ナレハ此四票ヲ扣除スルハ當然ノ事ノミ然ルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルコトアルヲ以テ高點次點ノ當選者ハ二票共ニ之ヲ無効ト爲ス可キハ當然ナリト信ス第五原告ハ矢部芳太郎ノ公民權資格ニ就キテ論スル所アレトモ同人ハ疑キニ區長代理者ニ選任セラレタルトキハ町村制第七條ニ依リ村會ヨリ特免セラレタル者ナレハ本選舉ニ於テモ尙ホ其効ハ存スルモノナリ故ニ原告ノ所論ハ失當ナリ以上ノ理由ニシテ結局縣參事會郡參事會裁決ノ如ク本選舉ハ無効タル可キ筋合存スルヲ以テ全部取消アラント企望スト云フニ在リ

依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

第一被告ニ於テ選舉掛已定ノ四名中三名ハ卒然病氣ト唱へ退席シタルヲ以テ殘ル一名ヲシテ選舉掛ヲ調製セシメ且高點者ヲ揭示セシメタルハ失當ナリト云フト雖町村制第二十條ハ村長ニ於テ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シテ選舉掛リト爲ス可キコトヲ規定シタルニ止リ其闕席ヲ生シタル場合ニ臨ミ之ヲ補充セサレハ效力ナシトノ規定ニアラサルヲ以テ町村制規定ノ二名ヲ下ラサル間ハ失當ト言フ可カラズ明治二十四年四月十一日被告ヨリ郡長松崎省吾ニ答申シタル書中鈴木健藏ハ補闕

問

二級の投票を終ひ一級の投票を行ひ而して二級の投票函を開きたるは違法にあらざるや。

選舉を行ふは當選者を定むる爲めあるに當選者未定中投票の順序を變更したるは違法あり。

選舉會事務

百四十五

投票點檢中退席シ鈴木祥英ハ此點檢ヲ了リ退席シ高知尾竹三郎ハ補缺増員ノ兩選舉投票點檢ノ上當選者ヲ定メ投票ヲ封入シタル後選舉掛ヲ調製シ午後七時過退席シ翌日選舉掛ニ調印セシモノナルハ其自陳スル所ニシテ伊藤峯吉及掛長ト三名共ニ之ヲ處理シ當選者確定後ニ退席シ該選舉ノ時二名ノ選舉掛ハ尙ホ現在スルヲ知ルニ足レリ第二被告ニ於テ小川與次左衛門卯木五郎左衛門ハ代人ヲ以テ投票ヲ爲サシメタル事實アリト云フト雖選舉會ニ於テ掛長及選舉掛立會シ異議ナクシテ選舉ヲ終了シタルモノナレハ事後ニ至リ投票者自ラ代人ヲ以テ投票シタルト云フモ其陳述ノミヲ以テ事實アリト認ムルニ足ラス第三補闕選舉ノ際一封中ニ二票ノ投票アリタルハ當選者ヲ判別スルニ由ナキモノナレハ二票共ニ無効ト爲ス可キモノナリ又増員選舉ノ際二票ノ錯誤投票アリシコトヲ明白ナル以上ハ是亦無効ノ投票ナリ故ニ兩選舉共ニ其無効ノ票數ハ被選者各自ノ得票數ヨリ之ヲ除去シ殘ル正當ノ投票ヲ以テ投票數ヲ定ム可キモノトス依テ高點者ノ得票數ヨリ無効トシテ減シタル票數ヲ以テ次點者ノ得票數ニ加ヘ異動ヲ生セシムル如キハ其當ヲ失スルモノト謂フ可シ其他原告被告ニ於テ陳述スル所アリト雖本案ニ必要ナキヲ以テ説明ヲ付セス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ

明治二十四年三月十三日千葉縣上總國武射郡陸岡村ニ於テ開會シタル補闕選舉及増員選舉ハ共ニ取消ス可キモノニアラス訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

○村會議員半數改選々取消ノ件 (四十八)

選舉會事務

百四十六

〔判決例〕二十五年第九十號
二十六年二月二十三日宣告

原告 千葉縣東葛飾郡塚田村 佐久間清藏 外十八名
被告 同 村長 藤井 三郎

右原告佐久間清藏外十八名ヨリ塚田村長藤井三郎ニ係ル村會議員半數改選々舉會取消ノ訴遂審理處原告請求ノ要旨ハ明治二十五年四月十一日塚田村ニ於テ開キタル村會議員半數改選々舉會ハ第一二級選舉ノ際一票ノ代人投票アリテ之ヲ棄却セントスルトキ他ノ有效投票一票ハ一定ノ用紙ヲ用井サルモノナリトテ無効ト爲シ共ニ火鉢ニ投シ燒棄シタルハ選舉ノ效力ニ關スル違法ナリ第二ハ二級選舉ノ投票チテ其當選者ヲ査定セス閉函ノマ、一級選舉ノ投票チ始メ之チ了シタル後二級選舉ノ投票チ開キテ其當選者ヲ點檢シ續テ一級選舉ノ當選者ヲ點檢シタリ是レ全ク町村制第十九條ノ規定ニ違背シタルモノナレハ同制第二十九條ニ從ヒ該選舉ヲ取消シ更ニ開會アラコトヲ請求ス又被告ニ於テ原告ノ内佐久間清藏等外十一名ニ對シ今ニ及シテ異議アレトモ當初村會ヘ訴願セシトキ之主張セサリシハ被告カ己ニ黙諾シタルモノナリト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告陳述ノ第一ハ投票チ燒棄シタリト云フモ斯ル事實ナク現票存在セリ但本村助役飯塚福藏力東葛飾郡長ニ無効投票ハ現在セサル旨上申シタルハ村長代理ノ資格ニアラサルニ事實ヲ誤リタルモノニシテ其燒棄セサルハ現票提出チ以テ明カナリ第二ハ二級選舉會云々ハ假令其事實アリトスルモ町村制第十九條ニ違背セス該條第一項ハ選舉準備チ村長ノ權内ニ委任シ第二項ハ選舉ノ順序チ示シタルモノナレハ村長ハ第一項ノ權内ニ於テ施行スルコトヲ得可シ故ニ被告陳述ノ誤アリト云フ可カラス且原告ノ内佐久間清藏ハ當時選舉掛ニシテ被告ニ屬ス可キモノナレハ本選舉會ニ付テハ訴訟チ提起スルコトヲ得サルモノナリ秋山友右衛門ハ當初訴願ノ際他ノ連名ノ者ニ名義ヲ冒サレタルモノニシテ訴願者ニアラス高橋源右衛門高橋源左衛門ハ選舉名簿ニ記載ナキモノナレハ選舉權チ有セス金子伊兵衛金子源吉金子勇吉森田要藏高橋源助高橋勝次郎田中治郎左衛門ハ投票

行政府裁判所

行政府裁判所

權ヲ拋棄シタルモノナレハ右十一名ハ共ニ訴權チキモノナリ依テ原告等ノ請求ハ排斥アリタシト云フニ在リ

右雙方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ
原告ニ於テ被告ハ原告ノ内十一票ニ對シ異議チ主張スレトモ當初訴願ノ際之ヲ黙諾シタルモノナリト云フト雖高橋源右衛門高橋源左衛門ノ二票ハ選舉人名簿ニ記載ナキモノナレハ訴願掛チ提起スルコトヲ得ス又被告ニ於テハ原告ノ内十一名ハ訴權チ有シト云フト雖佐久間清藏ハ選舉掛チサシ者ナルモ選舉掛ハ該選舉ニ付訴願訴訟チ許サレルノ規定ナリ秋山友右衛門ハ訴願書ニ養子某ノ實印ヲ捺捺シタルモ自己ノ氏名ヲ連署シタルモノニシテ之ヲ冒サレタルニアラズ金子伊兵衛金子源吉金子勇吉森田要藏高橋源助高橋勝次郎田中治郎左衛門ハ選舉當日投票權チ拋棄シタルコトヲ示シタルモ公民權チ有スル者ナレハ共ニ選舉ノ效力ニ關シ訴權チ有シト云フヲ得ズ本案原告ニ於テ被告ハ有效投票ノ一票ヲ燒棄シタルハ選舉ノ効力ニ異動チ生シタリト云フト雖雙方陳述スル投票ノ數ニ適合スル現票ノ存在スルニ依レハ之ヲ燒棄シタル事實アリト認メ難ク隨テ選舉効力ニ異動チ生スルノ理由ナキモノトス又被告ニ於テ二級一級選舉ノ事實ハ假令原告陳述ノ如クナルモ町村制第十九條ニ違背セス村長ノ職權チ以テ施行シタルモノナレハ過誤ニアラスト云フト雖町村制第十九條ニ先ツ二級ノ選舉チ行ヒ次ニ一級ノ選舉チ行フノ規定ニシテ其選舉チ行フハ當選者チ定ムルニ外ナラサルモノナレハ未タ其當選者ノ定マラサル前ニ於テ選舉チ完了シタルモノト云フ可カラス依テ村長ハ職權内トシテ該順序チ變更スルコトヲ得サルモノナレハ右事實ハ選舉ノ規定ニ違背シタルモノナリトス

前項ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ
原告高橋源右衛門高橋源左衛門ニ對シテ本訴チ棄却ス明治二十五年四月十一日塚田村ニ於テ執行

選舉會事務

百四十七

シタル村會議員半數改選ノ選舉ハ之ヲ取消ス訴訟費用ハ被告ノ負擔トス但高橋源右工門高橋源左工門ニ係ル費用ハ同人等ノ負擔トス

○區會議員選舉取消ノ件 (四十九)

問 二級の選舉に違法の事實ありとて一級の選舉まで併せて無効となるべきや。

答 一級二級とも各別に選舉會を開きたるものあれば全部無効とすべからず。

〔判決例二十三年第一號〕

原告 茨城縣東茨城郡澤山村 德 宿 壽 吉 外 一 名
被告 村 長 所 寅 之 助

右原告德宿壽吉外一名ヨリ被告村長所寅之助ニ對スル區會議員選舉取消ノ訴訟審理處

原告代理人陳述ノ要旨ハ本案ハ明治二十三年三月十六日茨城縣東茨城郡澤山村大字阿波山ニ於テ開キタル區會議員選舉會ハ一級二級共同ノ場所ニ於テ同日ニ執行シタルコトハ甲第九號證第一乃至第四ヲ以テ證明スル如クニシテ且其選舉會ハ不法ノ基シキモノナリ即チ和田時藏カ小松由之助ノ被選舉者ヲ指名セサル投票代書ノ依頼ニ應シタルカ如キ萩谷仙之助カ倉橋久米次郎及高島初五郎ヨリ前同一ノ依頼ヲ受ケ代書ヲ爲シタルカ如キ又山崎寅吉ノ如キハ選舉人ノ資格ナクシテ選舉會場ニ立入タルニモ拘ラス選舉人高橋喜八堀邊榮藏外數名ノ指名セサル被選舉人ヲ擅ニ代書シタルカ如キ且同選舉會ニ於テ協議勸誘セシ者アリシコトハ掩フヘカラサル事實ナレハ町村制第二十一條第二十四條ニ違背シタルモノト確信ス依テ原告人ハ該選舉會ヲ無効トシ甲第一號證乃至甲第六號證ノ如ク之ヲ取消ヲ訴願シタルニ茨城縣知事安田定則ハ甲第十號證ノ如ク裁決シタルヲ以テ之ニ服從シ難ク本訴ヲ提起シ區會議員選舉ノ取消ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ヨリ本訴ノ請求ヲ受クルノ義務ナシ其事實ハ一級ノ選舉ト二級ノ選舉ト同日

同場所ニ於テ執行シタルコトハ相違ナシト雖其時間ニ至テハ固ヨリ同一時ニアラサルナリ即チ二級選舉ハ午前八時ニ始マリ同十一時四十五分ニ終リ一級選舉ハ午後一時ニ始マリ同四時三十分ニ終リタル事實ハ乙第一號第二號證本會選舉錄ニ依テ明瞭ナリ故ニ二級選舉ニ對シテハ瑕瑾アルモ全部無効ヲ來スノ謂レナシト確信スルヲ以テ原告人カ請求ハ其正鵠ヲ誤リタルモノナリト云フニ在リ

依テ各證據ヲ閱シ説明スルコト左ノ如シ

本案ハ區會二級選舉會ニ於テ町村制第二十一條及第二十四條ノ定規ニ違背シタル事實アルヲ以テ一級選舉ヲモ併セテ其取消ヲ請求スルニ在リト雖モ抑町村制第十九條ニ據レハ選舉人ヲ二級ニ分チ一級ニ分チトモ各別ニ選舉會ヲ開キ各其選舉ヲ行フタルモノナレハ其二級選舉ノ不法ヲ理由トシ其瑕瑾ナキ一級選舉ニ及ホシ之ヲ取消スヘキ筋ナキヲ以テ原告カ其全部ノ選舉ヲ取消サントスルノ請求ハ其當ヲ得サルモノトス

右ノ理由ナルニ因リ原告ノ請求不相立モノトス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

○村會議員補缺選舉ノ效力ニ關スル郡長ノ處分取消ノ件 (五十)

問 不正投票數點あるを發見し當選者の得点より控除するも當選の結果に異動なければ有效か。

答 異動を生ぜざれば選舉を取消へべきものに非らず。

〔判決例二十六年第八號〕

原告 島根縣邑智郡澤谷村長 福間 鐵 十 郎
被告 島根縣邑智郡長 田 中 高 德

右原告澤谷村長福間鐵十郎ヨリ邑智郡長田中高德ニ對スル村會議員補缺選舉ノ效力ニ關スル郡長ノ處分取消ノ訴文書ニ就キ審理ヲ遂グル處

原告請求ノ要旨ハ明治二十五年十月二十二日開設シタル島根縣邑智郡澤谷村會議員補缺第二級選舉

選舉會事務

ニ於テ選舉有權者百二十三名ノ内十六名ハ棄權シタルハ全ク投票セシ者百七名ナリ然レハ投票數百七票ナルヘキ筈ナルニ現在數百十三票アリタリ則チ六票過剩アリテ此過剩投票ハ不正物タル明ナリ凡ソ投票ヲ以テ選舉ヲ行フニハ其投票ハ真正ナラサルヘカテサルモノニシテ若シ一票ニテモ不正物アリトセハ之ヲ除去スヘキハ論ヲ俟タサル所ナリ然レトモ本選舉ノ如キ何レノ投票ノ不正ナルヤヲ認知スル能ハサルモノニ於テハ固ヨリ何レノ投票ヲモ除去スルヲ得サルナリ如此場合ニ於テハ其選舉ヲ取消シ更ニ真正ナル選舉ヲ行フヘキモノトス然ルニ邑智郡長ハ明治二十五年十一月五日單ニ過剩投票ヲ無効ト處分シタルニ止マリテ選舉ヲ取消サレサリシハ其處分不當ナリト認メタルヲ以テ該處分ノ取消ヲ訴願シタルニ鳥根縣知事ハ明治二十五年十二月二十七日投票者ノ數ニ超過スル過剩アリタルトキハ之ヲ無効トシ被選者各自ノ得票數ヨリ除去シ殘ル正當ノ投票ヲ以テ投票數ヲ定ムヘキモノナレハ邑智郡長カ過剩投票ヲ無効トセシニ止マリ選舉ヲ取消サ、リシハ當チ得タルモノトス依テ邑智郡長ノ處分ハ取消スヘキモノニアラスト裁決セラレタルハ不服トスル所ナリ何トナレハ何レノ投票カ不正ナリト云フヲ識認スル能ハサル以上ハ之ヲ被選者各自ノ得票數ヨリ除去スヘキノ理アルヘカラス且ツ夫レ斯ノ如クニセハ不正投票ノ爲メニ人ノ權利ヲ殺シヤモ知ルヘカテサルノ恐アレハナリ又邑智郡長カ不正投票ハ效力ヲ有セサルモノトノミ處分シテ選舉ヲ取消サ、リシハ思フニ同郡長ハ當選者中最少得票者ノ得票數五十七票ナルモ選舉掛ニ於テ他事記入ノ故チ以テ無効投票ト爲シタルニ票ヲ有效トナシテ之ヲ當選者ノ得票數ニ加フレハ當選者中ノ最少得票者ノ得票數五十九點トナルヲ以テ之ヲ落選者中最多得票者ノ得票數五十二點ニ比シテ七點ノ高點ナレハ該六票ノ不正投票カ各當選者ノ得票ニ歸シタリト假定シテ之ヲ各當選者ノ得票數ヨリ除去スルモ其最少得票當選者ノ得點五十三點ニシテ最多得票ノ落選者ニ比シテ尙一點高點ナリト云フヲ以テ單ニ不正投票ハ效力ヲ有セサルモノトノミ處分シタルニ止マリテ選舉ヲ取消サ、リシモノナラン而シテ該六點カ不正

選舉會事務

物ナルコトハ明瞭ナルニ邑智郡長ハ該六點ノ無効ナリト云フコトノミヲ示シテ選舉ヲ取消サス推測ヲ以テ差引勘定ヲ爲シ該選舉ヲ有效タラシメタル處分ハ失當ノ甚シキモノトス何トナレハ假リニ一點ニテモ不正投票ノ混入シアリシコトノ明瞭ニシテ然シテ其不正投票ノ何人ノ得票ニ歸シタルヤチ知ル能ハサルモノニ於テハ管ニ一票カ不正物ナリト云フニ止マルヲ得ス其選舉ヲ不正トシテ之ヲ無効ト爲サ、ルヲ得サレハナリ良シヤ一步ヲ讓リ邑智郡長ノ處分ノ如ク推測ヲ以テ不正投票カ當選者ノ得票ニ歸シタリト假定シテ差引勘定ヲ爲シ得ヘキモノトスルカ其差引勘定ノ爲メ當選者ノ得票數カ落選者ヨリモ低數トナリタル場合ニ於テハ之ヲ如何ニスヘキヤ抑モ原告村長ハ主トシテ選舉ノ正否ヲ論スルモノナレトモ彼ノ他事記入ノ故チ以テ無効ト決シタルニ票ヲ有效ト爲サレタル邑智郡長ノ處分ニ就テモ亦不服ナルモノニシテ該二票ハ被選人姓名ノ外ニ村會議員ニ選舉ス云々及ヒ年月日ヲ記載アリシカ町制第二十三條第四ヲ按スルニ姓名ノ外他事ヲ記載シタル投票ハ無効トストアリテ其選舉ヲ確ムル等ノ文字ヲ記載スルハ妨ナシト云フコトアルヲ見ス此ニ依テ之ヲ觀レハ姓名ノ外ハ假令選舉ヲ確ムルノ文字タリトモ一切記載スルヲ得サルナリ然レハ該二票ノ如キ姓名ノ外ニ數文字ヲ記載シタルハ町制ノ規定ニ違背シタル投票ニシテ效力ヲ有セサルヤ論ヲ俟タスシテ明カナリ該二票カ効力ヲ有セサル以上ハ之ヲ各當選者ノ得票數ニ加フルコトヲ得サルヤ又明カナリ然レハ當選者最少得票者ノ得票數ハ五十七點ニシテ落選者最多得票者ノ得票數五十二點ナレハ兩者ノ差五點ニテ而シテ彼ノ不正投票ハ六票ナレハ之ヲ各當選者得票數ヨリ除去スヘキモノトセハ當選者中最少得票者ノ得點數ハ最多得票落選者ノ得點ヨリモ一點ノ低點トナルニ至ルナリ斯ノ如キ場合ニ於テハ選舉ノ効力ニ於テ如何ニスヘキヤチ了解スル能ハサルナリ前述ノ理由アルニ依リ被選郡長カ如何様ニ辯駁スルモ該選舉ハ効力ヲ有セサルモノト信ス而シテ該選舉カ効力ヲ有セサル以上ハ第一該選舉ヲモ併セテ取消サ、ルヘカテサルモノトス何トナレハ一二兩級選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ二級

選舉會事務

選舉ヲ先ニスヘキモノナルニ其ニ級選舉カ不正トシテ効力ヲ有セサル以上ハ當時ノ選舉ハ不成立ナリ其己ニ不成立ナリトセハ兩級共改選セサルヲ得サルハ明ナリトス然リ而シテ若シ一級選舉ヲ取消サレハ二級選舉ヲ改選スルニ方テ知識薄弱ナルニ級選舉人カ適當ノ被選人ヲ得ルニ困難ナレハナリ右ノ理由ニ據リ一二兩級選舉共速ニ取消サレンコトヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ被告カ明治二十五年十月二十二日ニ行ヒタル島根縣邑智郡澤谷村會議員補闕選舉ニ當リ第二級選舉ニ關シ處分ヲ爲シタルハ町村制第二十九條第二項ニ依リ選舉ノ効力ニ關スルニアリ而シテ假令不正投票六票カ當選者タル三名ノ投票得點中ニ混入セルモノトシ之ヲ除去スルモ仍ホ其得點ハ次點者ノ得點ニ超テ當選ニ異動ナキハ既ニ原告カ提出セル證據書類中ニモ明カナリトス故ニ其過剩投票六票ハ効力ヲ有セサルモノト處分セルニ過キサルナリ然ルニ原告カ云フカ如キハ苟モ其不正投票ヲ總投票中ヨリ除去スルヲ得サレハ他ノ投票モ其不正ノモノト云フニ等シキカ如シ如何トナレハ不正投票六票ノ爲メニ投票ノ全數ヲモ無効マラシメント欲スレハナリ決シテ他ノ投票ヲモ共ニ合セテ不正ナリト云フヲ得サルハ勿論又其不正投票六票ヲ當選者ノ得點中ニ混セルモノトシ之ヲ除去スルモ仍ホ其投票ノ數多ク得タル場合ニ於テ復タ其當選力不正ト云フヲ得ヘキ乎豈如此ノ理アラシヤ是ヲシモ漫ニ不正投票ハ全投票中何レノ投票ナルヤヲ識別スルヲ得スト云フテ選舉ノ全體ヲ不正トナサントスルカ如キハ迷誤モ亦甚シキモノト云ハザルヲ得ス又投票ニ被選舉人氏名ノ外他事記載ノコトニ關シテハ該件處分書ニモ明記セシ儀ニテ今更茲ニ再應スルノ要之レナク又一ニ級選舉共ニ取消ノ廉ハ素ヨリ該選舉ハ取消サルヘキモノニアラスト信スルヲ以テ是亦茲ニ再應スルノ要之レナシ故ニ原告ノ訴ハ背理ノモノト確信スト云フニ在リ

依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ハ村會議員補闕ニ級選舉ニ於テ現ニ投票セシ選舉人ノ員數ニ超ユル六箇ノ過剩投票ハ不正物ニ

選舉會事務

シテ若シ一票ニテモ不正物アラハ之ヲ除去スヘキハ勿論ナレトモ本訴ノ場合ノ如キ何レノ投票ノ不正ナルヤヲ認知スル能ハサルニ於テハ何レノ投票ヲモ除去スルコトヲ得サレハ其選舉ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行フヘキモノタリ良シ一步ヲ讓リテ該不正投票カ當選者ノ得點ニ歸シタリト假定シテ差引勘定ヲ爲シ得ヘシトスルモ其差引勘定ノ爲メ當選者ノ得點數カ落選者ヨリモ少數トナル場合ニ於テハ如何ニスヘキヤ被告郡長ハ被選舉人氏名ノ外ニ村會議員ニ選舉ス云々及年月日ヲ記載セル二箇ノ投票ヲ有效ノモノトシテ計算ヲ爲シ該六箇ノ過剩投票カ各當選者ノ得點ニ歸シタリト假定シテ之ヲ各當選者ノ得點數ヨリ除去スルモ其最少得票當選者ノ得點數ハ最多得票ノ落選者ニ比シテ尙ホ多數ナレハ選舉ヲ取消スヘキニアラストスルモ町村制第二十三條第二項ノ四ニハ被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入シタル投票ハ無効トストアリ是ニ由テ之ヲ觀レハ氏名ノ外ハ一切何事ヲモ記載スルヲ得サルモノニシテ該二票ハ氏名ノ外ニ數文字ヲ記載シタルハ無効トセサルヲ得ス之ヲ無効トシテ六箇ノ過剩投票ヲ各當選者ノ得點數ヨリ除去スルトキハ當選者中最少得票者ノ得點數ハ最多得票ノ落選者ヨリモ少數トナルニ至ルカ故ニ該選舉ヲ取消サレテ得ス隨テ又一級選舉ヲモ取消サレテ得スト云フト雖現ニ投票セシ選舉人ノ員數ニ超ユル過剩投票アル場合ニ於テモ其過剩投票ノ數ヲ當選者ノ得點數ヨリ扣除スルカ爲メ當選ノ結果ニ異動ヲ生スルニ至ルコトナキトキハ其選舉ヲ取消スヘキモノニアラス而シテ又被選舉人氏名ノ外ニ選舉書及右三名選舉仕候也若クハ右ノ三人選舉仕候ノ文字並ニ年月日ヲ記載シタル二箇ノ投票ハ投票タルノ性質ヲ明確ナラシムル爲メノ記入アルニ過キサルモノニシテ選舉ニ必要ナキ雜事若クハ選舉ニ害アル事ヲ記入シタルモノニアラサレハ町村制第二十三條第二項ノ四ニ該當スト云フヘカラス此二票ヲ有効トシテ當選者ノ得點數ニ加フルトキハ假令過剩投票ノ數ヲ當選者ノ得點數ヨリ扣除スルモ當選ノ結果ニ異動ヲ生スルニ至ルコトアラサレハ該選舉ハ一級ニ級共ニ取消スヘキモノニアラス

右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ原告ノ請求相立タヌ訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

○執行選舉ノ訴願ニ對スル裁決不服ノ件 (五十一)

問 選舉人名簿確定の後變更したる名簿により行ひたる選舉は有效なるか。
變更せし名簿に據り行ひたる選舉は無効あり。

〔判決例〕二十五年第百一號
二十六年十月廿六日宣告

原告 青森縣中津輕郡裾野村 野呂利江次郎 外六名
被告 青森縣中津輕郡裾野村長 花田 俊藏
參加人 青森縣中津輕郡裾野村 工藤 武雄

右原告野呂利江次郎外六名ヨリ被告裾野村長花田俊藏ニ係ル執行選舉ノ訴願ニ對スル青森縣參事會ノ裁決不服ノ訴訟遂審理處

原告陳述ノ要旨ハ明治二十五年五月八日九日執行シタル青森縣中津輕郡裾野村會議員選舉ニ關スル訴願ニ對シ青森縣參事會カ爲シタル裁決ハ不當ニシテ初メ縣參事會ニ申出テタル訴願者カ裾野村會ニ訴願ヲ提起シタル際村會ハ村會ノ議決ニ依リ右訴願ニ對シ審査委員ヲ選定取調タルニ確定名簿一級二級ノ間金額ニ聊カノ差ヲ來シアルモ名簿確定後之レニ數名ヲ登錄シタルモノヲ見認メス現ニ本訴訟者ノ内一名ハ其當時審査委員ニ選定セラレタルヲ以テ親ク議場ニ於テ村長ニ向ヒ確定名簿ニ登錄シタルヤ否ヤヲ問フニ當リ村長ニ曾テ確定名簿ニ登錄セサルノミナラス關係者ヨリ請求ノ書面ナキヲ以テ視レハ其實際ヲ證明スルニ足レリト答辯ヲ爲シタルハ傍聽シタル處ナルニ縣參事會ヘノ訴願者カ裾野村會ノ與ヘタル裁決ヲ不當ナリトシ中津輕郡々參事會ニ訴願スルニ當リ村長トハ同派ノ中ナルヲ以テ之レト謀リ確定名簿ニ數名ヲ登錄シタル旨ノ書面ヲ得之ヲ證據トシテ提起シタルニ中津輕郡參事會ハ其書面ヲ信シ町村制第十八條ノ規定ニ違背スルモノナリ然レトモ其無効トスヘキ投票

票ヲ假リニ當選者ノ得點ヨリ扣除スルモ投票ノ結果ニ異動ヲ生スルコトナシトシ其他名簿ノ正否ハ名簿縱覽期限内ニ申立ヲ爲スヘキモノナレハ裾野村會議員半數改選ノ選舉會ハ取消スヘキ限リニアラスト裁決シタルヲ以テ訴願者之ヲ不當トシ縣參事會ニ訴願シタルニ縣參事會ハ該選舉會ヲ取消スヘキモノナリト判定ヲ與ヘタルハ不當ト言ハサルヲ得ス何ントナレハ村長ハ初メ村會ニ答フルニ確定名簿ニ登錄シタルコトナシト答辯シタルノミナラス一級二級ノ名簿ハ金額ノ記載ニ至リ多寡アル迄ニ過キサレハ此等ノ正否ハ縱覽期限内ニ申立ヘキハ當然ニシテ確定名簿トナリタル後ハ效力ヲ有セサルモノナリ然ルニ村長カ自派ノ爲メニ數名ヲ登錄シタル旨ノ書面ヲ通シテ選舉ヲ害セントスルカ如キハ不幸ノ結果ヲ選舉者ニ與フルノ甚シキモノナリ然ルニ縣參事會ハ訴願者ノ意ヲ採用シ郡參事會ノ裁決ヲモ取消シ選舉會ヲ無効トシタルハ不當ニ付本件選舉會ハ有效ナリトノ判決ヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ去ル明治二十五年五月裾野村々會議員ノ選舉ヲ行フニ當リ豫メ選舉人名簿ヲ製シ四月一日ヨリ規定ノ日數間是ヲ關係者ノ縱覽ニ供セシニ何等ノ異議ナク確定スルニ至リタリ然ルニ其後五月七日ニ至リ須藤七郎左衛門ナルモノ、申立ヲ聞キ第二級名簿ヘハ丸岡尾司外五名第一級名簿ヘハ佐藤庄太郎外三名ヲ追加登錄シ五月八九兩日右追加選舉人名簿ニ依リ選舉ヲ執行セシニ其選舉ハ違法ナリトテ工藤武雄外數名ヨリ訴願ヲ提起セラレ村會及郡參事會ヲ經テ縣參事會ノ裁決ヲ仰クニ至リ縣參事會ニ於テハ明治二十五年五月八日九日執行裾野村々會議員選舉會ハ町村制第十八條ニ違背スルヲ以テ取消スヘキモノトストノ裁決アリ爾來被告ハ右裁決ニ服従スルモノニ有之要スルニ縣參事會ノ裁決ハ至當ト信スルニヨリ本件原告ノ請求ハ棄却セラレンコトヲ請求スト云フニ在リ被告參加人陳述ノ要旨ハ被告裾野村々長ハ明治二十五年五月裾野村々會議員ノ選舉ヲ行フニ當リ選舉人名簿ヲ同年四月一日ヨリ成規ノ日數間關係人ノ縱覽ニ供シ何等ノ異議ナク確定シタルニ拘ハラ

選舉會事務

百五十六

五月七日ニ至リ須藤七郎左衛門ナルモノ、申立ヲ聞キ第二級名簿ヘハ九岡尾司外五名第一級名簿ヘハ佐藤庄太郎外三名ヲ追加登錄シ該追加名簿ニヨリ選舉ヲ執行セシモノニシテ固ヨリ町村制第十八條ニ違反セル不法選舉タルヲ免レス故ニ縣參事會ニ於テ明治二十五年五月八日九日ニ於テ執行シタル裾野村會議員選舉會ハ不法ナルニヨリ取消スヘシト裁決シタルハ至當ナルニヨリ本件原告ノ請求ハ速ニ排斥セラレコンコトヲ請求スト云フニ在リ

依テ原告被告及被告參加人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
被告及被告參加人ニ於テ本件裾野村々會議員ノ選舉ハ選舉人名簿總覽期限後被告ニ於テ須藤七郎左衛門ナルモノ、申立ヲ聞キ第一級第二級名簿ニ數名ヲ追加登錄シタルモノニ依リ選舉ヲ執行セシモノナレハ該選舉ハ違法ナリト云フト雖抑法律上ノ手續ヲ經テ確定シタル選舉人名簿ハ動かス可カラサルモノナレハ確實ナル反對ノ證據アルニアラサレハ確定後ニ變更セラレタルモノトスルヲ得ス然ルニ本件須藤七郎左衛門ノ申立ヲ聞キ確定後ニ追加登錄ヲ爲シタリトノ事ニ付一モ信認スルニ足ルヘキ證據ナキヲ以テ其選舉ハ無効ナリト謂フヲ得ス
右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ

明治二十五年五月八日九日ヲ以テ執行シタル本件裾野村會議員選舉會ノ選舉ハ選舉ノ効力ヲ有スルモノトス訴訟費用ハ被告及參加人ノ負擔トス

町會議員選舉効力ノ件 (五十二)

問 選舉人名簿の正否に關し訴願あり町村會の裁決を爲すに至らずして選舉期日に達したるときは裁決を待たず選舉を執行するも有効あるや

答 然り。

(判決例二十七年第二十號) 同年六月廿日宣告

原告 長野縣上伊那郡高野町長 海野 幸 續
被告 長野縣參事會々長長野縣知事 淺田 德 則

右原告海野幸續ヨリ被告長野縣知事淺田德則ニ對スル町會議員選舉効力ニ關スル訴審理ヲ遂クル處原告訴求ノ要旨ハ明治二十五年四月十三日高遠町會議員選舉ニ際シ選舉人名簿總覽中同簿中選舉有權者ノ除名アリトテ同期限内下島菊尾外二名ヨリ公民權有無ニ關スル訴願ヲ提起シタリ時ノ町長中村郡治ハ訴願者カ理由トシテ申立ル共有地ノ納租義務ヨリ生スル公民權有無ニ附テハ自己及ヒ議員中二名ハ關係ヲ有スル者ト認メ右除名ノ爲メ議員ノ定數ヲ得サルヲ以テ制第四十五條ノ命スル處ニ從ヒ郡參事會カ代リテ議決センコトヲ要求シタリ郡參事會ハ之レヲ受納シ四月十三日ヲ以テ書面ヲ還付セリ然レトモ訴願提起以降右往復ノ爲メ自然日子ヲ經過シ選舉期日ニ達シタルヲ以テ該訴願ノ爲メ荏苒日ヲ曠フスルヲ得サルヲ以テ制第三十七條末項ニ從ヒ選舉ヲ施行セリ恰モ其選舉期日中郡參事會ノ書面還付ニ接シタルモノナリ故ニ之ヲ中止スヘキモノニ非サレハ選舉終結後同年五月四日ヲ以テ高遠町會ハ該訴願ニ對シ選舉人名簿ニ除名シタルハ不當ニ非ストノ裁決ヲ與ヘタリ依テ訴願人等ハ之ニ服セス同年五月十一日上伊那郡參事會ニ訴願ヲ提起シタルモ同參事會ハ訴願法第九條第一項ニ依リ之レヲ却下シタルモノナリ然リ而シテ同年四月十七日吉田寄林森下藤七八曩ニ公民權有無ニ對シ名簿總覽期限内訴願ヲ提起シタル者有ルニモ拘ハス町會ノ裁決ヲ經スシテ選舉ヲ執行シタルハ制第十八條ノ定規ニ違背セルヲ以テ選舉ノ全部ヲ取消サレコンコトヲ訴願セリ依高遠町會ハ同年六月十九日ヲ以テ下島菊尾外二名カ訴願ヲ提起シタルモ選舉會ヲ執行シタルハ町會裁決ノ進路中ニアルモノニシテ選舉十日前之ヲ修正スルヤ否ヲ議決スルノ場合ニ到ラサルモノ也故町長ニ於テ制第三十七條末項ノ規定ニ從ヒ執行シタルハ素ヨリ至當ノ事ニシテ訴願ノ理由ナキモノト裁決セリ然

選舉會事務

百五十七

選舉會事務

百五十八

ルニ訴願人ハ該裁決ニ服セシテ上伊那郡參事會ニ訴願セリ同參事會ニ於テハ本訴願人ハ固ヨリ公民權ヲ有シ當テ其權利ヲ侵害セラレタル事ナキヲ以テ全他人ノ權利ニ屬スル前願ヲ提起シタルモノトシ訴願不受理ノ裁決ヲ與ヘラレタリ訴願人ハ尙ホ之レニ服セシテ長野縣參事會ニ訴願シタルニ同參事會ハ町村制第十八條二項ノ規定ニ依リ一定ノ期限内選舉人名簿ノ正否ニ關シテ訴願ノ申立ヲ爲スモノアルトキハ町村長ハ町村會ノ裁決ニ依リ選舉十日ヲ限リテ之ヲ修正スルカ若クハ修正セシテ確定名簿ト爲スノ順序ナルニ高遠町長ニ於テ其順序ヲ履マサル以上ハ其名簿ハ之レヲ以テ確定名簿ト爲スコトヲ得ス從テ法律上未確定ノ名簿ニ據リ施行シタル該選舉ハ全部ニ涉リテ其効力ヲ存セサルモノト決定スルノ至當ナルノミナラス云々ト裁決セリ是レ不當ノ裁決ニシテ原告ノ服從スル能ハサル所ナリ其理由ハ抑町村會議員ノ選舉ハ町村制第十八條第一項ニ依リ選舉原簿ハ選舉前六十日ヲ限リ調製スヘキモノニシテ該期限ヲ伸縮スルハ法ノ許サ、ル處トス故ニ名簿終結ノ時ニ行ヒタル裁決ハ之ヲ施行スヘシト雖本事件ノ如キ町會及郡參事會ノ往復且相互審査中自然日子ヲ經過シ選舉期日ニ達シタル場合ニ於テハ固ヨリ制第三十七條ノ末項ヲ適用シ選舉ヲ施行シタルハ當然ナリ又形式上ニ於テモ本案上訴ハ成立セサルモノナルヲ以テ却下セサルヘカラス何トナレハ名簿上ニ對スル訴願ハ明治二十五年六月二日ノ上伊那郡參事會ノ裁決ニ依リ其訴願ヲ却下セラレ此裁決ハ既ニ確定セシモノニシテ而シテ本案ノ町會議員選舉無効ノ訴願モ亦專ラ名簿ノ當否ニ關スルモノナルニ既ニ町村制第十八條第二項ノ期間ヲ經過セシ以後ノ提起ニ係レハ一ハ確定ノ裁決ニ對シ異議ヲ云フモノニシテ一ハ期日失期ノ提起ニ係レハ此點ニ於テ既ニ本案ハ成立スヘカラスモノナルハナリ然ルニ縣參事會ハ之レヲ採用セラレシヲ以テ是レ亦原告ノ不服ト爲ス所ナリ依テ長野縣參事會ノ裁決全部ヲ破棄シ明治二十五年四月執行シタル高遠町會議員選舉ハ取消スヘキモノニ非ストノ判決ヲ請フト云フニ在リ

選舉會事務

百五十九

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ被告ノ裁決ニ不服ノ理由トシテ町村會議員ノ選舉ニ關シ町村制第十八條第一項ニ規定シタル選舉原簿ハ選舉前六十日ヲ限リ調製スヘキモノニシテ該期限ヲ伸縮スルハ法ノ許サ、ル所ナリ故ニ名簿終結ノ時ニ行ヒタル裁決ハ之レヲ施行スヘシト雖本事件ノ如キ町會及郡參事會ノ往復且相互審査中自然日子ヲ經過シ選舉期日ニ達シタル場合ニ於テハ固ヨリ制第三十七條末項ヲ適用シ選舉ヲ施行スルハ當然ニシテ毫モ間然スヘキモノニ非スト云フト雖モ被告カ裁決ノ理由トシテ說明シタル處ハ該選舉人名簿ノ縱覽期限中既ニ名簿ノ正否ニ關シテ訴願スル者アルニモ關ハラズ同町長ニ於テ同制第十八條第二項ノ規定ニ依テ之ヲ執行スルノ手續ヲ取ラス同制第三十七條末項ノ規定ニ依テ執行シタル該選舉ハ初ヨリ其効力ヲ有セサルモノト決定セラルヘキハ當然ノ事ナリト云フニ在リ之ヲ法理ニ徵スルモ選舉ノ効力ヲシテ完全ナラシムル爲メニハ其執行前相當ノ時期ニ於テ確定名簿ノ存在スヘキコトハ法律上必要ノ一條件タルハ勿論同制第三十七條末項ニハ訴願ノ爲メ其執行ヲ停止スルコトヲ得ストノ規定アルモ其之レアルニ依テ制第十八條第二項ノ規定ニ關セズ未確定ノ名簿ヲ以テ進行シ選舉ヲ行フコトハ決シテ爲スヘキモノニアラス故被告カ森下藤七外一名ノ選舉ニ對シ該選舉ハ無効トシテ取消スヘキモノナリトノ裁決ヲ與ヘタルハ當然ナリトス又原告ハ被告カ訴願受理ニ不服ノ理由トシテ名簿上ニ對スル訴願ハ明治二十五年六月二日付郡參事會ノ裁決ニ據リテ却下セラル其裁決ハ既ニ確定シタルノミナラス本案選舉無効ノ訴願モ專ラ名簿ノ當否ニ關スルモノニシテ町村制第十八條第二項ノ期間ヲ經過シタル以後ノ提起ニ係ルモノナレハ一ハ確定ノ裁決ニ對シ異議ヲ云フモノニシテ一ハ期間失期ノ提起ニ係ルモノナリ故此ノ點ニ於テ本案形式上既ニ成立スヘカラスモノナルニ被告カ之ヲ受理シタル不當ナリト云フト雖モ森下藤七外一名カ最初町會ニ提起シタルハ訴願ハ明治二十五年四月十七日ナルヲ以テ其訴願ハ同年六月二日付郡參事會ノ裁決ニ對シ提出シタルモノニアラスハ勿論其訴旨トスル所ハ選舉人名簿縱覽期限中同簿ニ選舉有權

者ノ除名アルヲ發見シ其期限内ニ訴願ヲ爲シタル者アルニモ關セス町長ニ於テ町會ノ裁決ヲ取り其名簿ヲ確定簿ト爲サスシテ其選舉ヲ執行シタルハ違法ナルニ附キ之レカ取消ヲ要求スト云フニ在リテ全ク選舉効力ニ關スル訴願ナルノミナラス其訴願ニ對スル同年六月十九日付町會ノ裁決ニ服セスシテ郡參事會ニ訴願シ及郡參事會ノ與ヘタル同年七月十五日付裁決ニ服セスシテ被告ニ提起シタル訴願モ總テ此ノ訴旨ニ外ナラスサルヲ以其期限ハ町村制第十八條第二項ノ期限ニ依ルヘキモノニアラス隨テ原告カ主張スル如ク確定ノ裁決ニ對シテ異議ヲ申立及期限失期ノ提起ニ係ルモノト云フコトヲ得サルハ勿論被告カ同制第三十七條ニ依テ之ヲ受理シタルハ當然ナリトス依テ本訴願原告ノ請求ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ
 被告ハ選舉人名簿ノ縱覽期限中既ニ名簿ノ正否ニ關シテ訴願スル者アルニモ係ハラズ町長ニ於テ町村制第十八條第二項ノ規定ニ依テ之レヲ確定スルノ手續ヲ取ラス同制第三十七條末項ノ規定ニ依テ執行シタル本件町會議員選舉ハ初ヨリ其効力ヲ有セサルモノナリト云フト雖町村制第十八條第二項ノ末段ノ規定ハ關係者ニ於テ選舉人名簿ニ異議アリテ之レニ對シテ町村會ノ裁決アリタル場合ニ際シ初メテ爲スヘキ手續ヲ定メタルモノニシテ本件町長ニ於テ町村制第四十五條ノ場合ニ該當スルモノト認メ郡參事會ノ裁決ヲ請ヒタルモ其請求書ノ還付ヲ受ケタル等ノ爲メ遂ニ選舉期日ニ達シタルヲ以テ未タ何等ノ裁決ヲ爲スニ至ラスシテ選舉ヲ執行シタルモノ、如キハ町村制第十八條第二項ノ規定ニ背反スル行爲ナリト言フヲ得ス
 右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ明治二十五年四月執行シタル高遠町會議員選舉ハ取消スヘキモノニアラス訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

○選舉會場

○村會議員選舉取消請求ノ件 (五十三)

問 選舉當日に至リ選舉會場を同一地内の他の建物に移したり町村制第十九條の規定に違背するものあるや。

答 同一地内にあるものなれば選舉の場所を變更したりと云を得ず。

(判決例二十五年第五百三十九號)
 二十六年五月八日宣告

原告 熊本縣合志郡平眞城村 大野 德行
 被告 熊本縣合志郡平眞城村長 宇野熊三郎

右原告大野德行ヨリ被告宇野熊三郎ニ對スル村會議員選舉取消請求ノ訴審理ヲ遂ル處

原告代理人訴求ノ要旨ハ本件選舉會ハ明治二十五年五月一日ニシテ被告ハ平眞城村役場ヲ會場ト爲ス旨町村制第十九條ノ規定ニ從ヒ七日前ニ之ヲ公告シタリ然ルニ當日ニ至リ俄然會場ヲ巡查駐在所ニ變更シタルハ町村制第十九條ノ規定ニ違背スルモノナリ被告ハ選舉ノ當日ハ強風雨ナリシト言フモ決シテ否ラス同日午前ハ降雨ナリシモ午後一時頃ニハ止ミタリ故ニ村役場ハ巡查駐在所ト同番地ニ在ルコトハ相違ナキモ會場變更ノ爲メ數十名ノ棄權者ヲ生シタルヲ以テ選舉ノ無効ナルハ勿論ナリトス又町村會議員ノ選舉ハ秘密選舉ノ法ヲ採リタルモノナレハ選舉人隨意ニ投票ヲ作り得ヘキモノナルニ法律ノ精神ニ照ラシテ明カナルニ被告ハ特ニ役場ノ印章ヲ押捺シタル投票用紙ヲ調製シ選舉場内ニ於テ選舉人ニ配付シ此投票用紙ノ外一切用ユルヲ許サ、リシハ是レ法律ノ許ササルコトヲ爲シタルノミナラス選舉ノ自由ヲ妨ケ又實ニ秘密選舉ノ主意ニ背クモノナリ又本件議員選舉錄ニ依ルニ選舉人ヨリ選任シタル選舉掛四名ノ外選舉人名簿照合者及ヒ選舉掛助手ナル者ヲ設ケ村役場屬吏中之レニ充テ選舉會ノ役員ヲ組織シタリ是レ明カニ町村制第二十條ノ規定ニ違背シタルモノニ非スヤ或

此等三名ハ唯選舉掛長及ヒ選舉掛ノ職務ヲ補助スルモノナレハ事ニ害ナシト謂ハンカ是レ大ニ然ラス抑選舉掛ナル者ハ投票ノ受理並ニ其效力ニ關スル事項及ヒ選舉人代理者ノ許否等ヲ裁決スヘキモノナレハ漫ニ屬吏等ニ委スヘキモノニ非ス又安リニ人員ヲ増減スヘキモノニ非サルナリ又單ニ補助ト云フモ既ニ職務ノ補助ト云フ以上ハ其職務ノ一部ヲ行フモノナレハ均シク法律ノ許ストコロニ非ス且ツ夫レ選舉會ハ選舉人ニ取テハ公會ナリト雖モ是レ唯選舉人ニ止マルモノニジテ餘人ハ之レ臨ムヲ得ス是レ町村制第二十一條ノ明定スルトコロナリ然ルニ被告ハ合志俊平外二名ヲ以テ選舉會ノ役員ニ列セシメ選舉事務ニ參與セシメタルモノナレハ本件選舉會ノ組織ハ不法ナルコト明瞭ナリ又被告ハ合志俊平ハ帳簿ノ繰出シ方ヲ補助シタルモノナリト云フト雖選舉會ノ事實ヲ證明スルハ選舉錄ニシテ其選舉錄ノ末尾ニ選舉人名簿照合者ト記載シアリテ補助者ノ事記載シアラサルヲ以テ見ルモ合志俊平カ主トシテ照合ヲ爲シタルコト明カナリ要スルニ本件選舉ハ町村制第二十條及ヒ第二十一條ノ規定ニ違背シタル無効ノ選舉ナリ又被告ハ役場書記二名ヲ以テ選舉掛ノ助手ト爲シ選舉掛ノ面前ニ於テ選舉人ノ投票ヲ代書セシメ以テ選舉ヲ行フタルハ町村制第二十二條ノ規定ニ違背シタル無効ノ投票ナリ其理由ハ同條ニ依レハ村會議員ノ選舉ハ全ク匿名投票ノ法ヲ用ヒ選舉掛ハ勿論其他何人ニテモ投票者ニ於テ何人ヲ選舉セシトスルカヲ知ラシメサルノ趣意ニシテ假令其代書ハ選舉人ノ指名ニ從カヒタリト假定スルモ本人ノ意ヲ任ケテ指名シタルモノナルヤモ知ル可ラス否ナ既ニ法律カ選舉ノ自由ヲ妨ルノ弊ヲ防カンカ爲メニ設ケタル法規ニ違反スレハナリ又投票函閉鎖時限ヲ延長スルノ代トシテ午前十時ヲ經過シタル時計ノ指針ヲ引戻シテ九時トナシ事實上選舉ノ時間ヲ延長シタルハ被告ノ不當ノ所爲ナリ又選舉會ノ當日選舉錄ヲ調製シタルコトナク選舉會終了後三十餘日ヲ經過シ選舉錄ヲ調製シ選舉掛矢野武ニ調印ヲ乞フマレトモ同人ハ記載ノ事項大ニ事實ト相反スルヲ以テ調印ヲ拒絕シ選舉掛三池常八ハ今日迄會テ選舉錄ナルモノヲ一覽セサリシコトヲ以テ

選舉錄ハ後ニ調製シタルコト明カナルノミナラス被告ハ亦選舉錄ヲ朗讀セサリシハ町村制第二十七條ノ規定ニ違背シタルモノナリ又訴願書寫ノ一二級トアルハ誤ナレトモ一二級ヲ包含シタルモノナレトハ相違ナシ是レ選舉全體ヲ言ヒタルコトハ全文中ニ明カナレハ末文ノ「ミ」ヲ採ルヘキモノニテラサレハナリ又裁決モ全體ノ裁決ニ相成リ居ルナリ以上陳述セシ如ク本件合志郡平眞城村々會議員選舉會ハ法律規定ニ違背スル者ナルヲ以テ該選舉ヲ取消シ更ニ選舉會ヲ開カンコトヲ請求スト云フニ在リ

被告代理人答辯ノ要旨ハ本件選舉ノ當日會場ヲ變更シタルハ相違ナシ其會場ヲ變更シタル所以ハ當日ハ稀ナル暴風雨ニシテ村役場ニ於テハ選舉ヲ執行スルコト能ハサルニ依リ巡查駐在所ヲ選舉場ニ先テタル譯ニテ被告提出別紙圖面ノ如ク村役場ト巡查駐在所トハ其名義ハ異ナルモ同番地内ニ在ルモノナレハ町村制第十九條ノ規定ニ違背シタルモノト謂フヘカラス又投票用紙ヲ選舉人ニ配付シタルハ自宅ヨリ持參セサル者アル故役場ニ之ヲ備ヘ置キタルモノニシテ其用紙ヲ用ユルト用ヒサルトノ事ハ各自ノ望ニ任セタルモノニシテ是レ亦町村制ニ違背シタルモノニ非ス又人名簿照合掛ヲ置キタルハ合志俊平ハ役場吏員ニシテ委シキ故選舉掛長ノ傍ラニ在リ掛長ハ自カラ投票ヲ受取リ帳簿ニ照合スル爲メ同人ヲ以テ其帳簿ノ繰リ出シ方ヲ補助サセタルモノナリ又役場書記古庄虎八外二名ヲ選舉掛助手ト爲サシメシハ違法ナリト云フモ平眞城村ハ山間ニシテ無筆者アルヲ以テ駐在所即選舉會場ノ入口ニ置キタルマテニシテ代書サスルト否トハ其望ニ任セタルモノナリ又時計ノ針ヲ逆戻シタルノ事實ハ更ニ無シ又原告ニ於テ選舉錄ハ當日調製セサル旨申立レトモ矢野武一三池常八ノ兩人ハ選舉終ルヤ否其場ヲ退散シタルヲ以テ右兩名ノ調印ハナキモ他ハ式ノ如ク調印シテ即日成立シタルハ論テ俟マサルナリ又原告ハ被告カ選舉錄ヲ朗讀セサリシト云フモ事實之ヲ朗讀シタルコトハ相違ナシ又原告ハ一級二級ノ選舉ノ取消ヲ要求スレトモ被告ニ提出シタル訴願ニハ唯二級ノ分ノミ

對取消ヲ求ムルモノナレハ一級選舉ノ取消ヲ要ムル事ハ未ダ訴願ヲ經サルヲ以テ之ニ對スル原告ノ請求ハ不當ナリ原告提出ノ訴願書寫ニハ一ニ選舉取消云々トアレトモ其一ニ二級トアルハ間違ナルコトハ乙第十號證ヲ以テ明カナリ要スルニ被告カ爲シタル村會議員選舉ハ町村制ノ規定ニ違背シタルモノニ非ス依テ本訴原告ノ請求ハ排斥セラレヌト云フニ在リ

依テ雙方ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ
原告ハ被告ニ於テ平眞城村役場ヲ本件選舉會場ト爲ス旨町村制ノ規定ニ從ヒ七日前ニ之ヲ公告シタリ然ルニ當日ニ至リ俄然會場ヲ巡查駐在所ニ變更シタルハ町村制第十九條ノ規定ニ違背スルモノナリト云フト雖選舉會場ヲ巡查駐在所ト改メタルハ選舉當日雨天ニ付選舉掛協議ノ上定メタルモノニシテ且該巡查駐在所ハ初メ會場ト定メタル平眞城村々役場ト同地内ニ在ルコトハ乙第九號證選舉錄ニ徴シテ明カナリ故ニ村役場ト巡查駐在所トハ其建物入口等ヲ異ニスルモ等シク皆同一ノ地内ニアルモノナレハ之ヲ以テ選舉ノ場所ヲ變更シタルモノト爲ス可カラス隨テ町村制第十九條ニ從ヒ更ニ場所公告ノ手續ヲ爲スヘキモノト謂フヲ得ヌ又原告ハ被告ニ於テ役場ノ印章ヲ押捺シタル投票用紙ヲ選舉人ニ配付シタルハ違法ナリト云フト雖一定ノ投票用紙ヲ設ケ選舉人ノ望ニ任セ其使用ニ供スルハ毫モ法律ニ違背スル廉ナシ又原告ハ被告ニ於テ選舉掛ノ外ニ名簿照合者及ヒ選舉掛助手ナル者ヲ設ケ村役場屬吏ヲ以テ之ニ充テ選舉會ノ役員ヲ組織シタルハ町村制第二十條ニ違背スルモノナリ且選舉會ニハ選舉人ノ外餘人ハ之レニ臨ムコトヲ得サルモノナレハ名簿照合者及ヒ助手二名ヲ選舉會ノ役員ニ列セシメタルハ町村制第二十一條ニ違背スト云フト雖町村制第二十條ノ規定ハ選舉掛長及ヒ選舉掛ニ關スル規定ニ止マリ選舉掛ノ職務ノ補助ヲ爲サシムル者ヲ設定ヲ禁スルノ規定ニアラサルヲ以テ名簿照合者及ヒ助手ヲ設ケタルハ同條ノ規定ニ違背シタルモノト謂フヘカラス然ルニ原告告ハ選舉錄ノ末尾ニ選舉人名簿照合者合志俊平ト記載シアルノ一事ヲ以テ同人カ主トシテ名簿照合

事務ヲ執リタルモノナリト主張スト雖單ニ右ノ一事ヲ以テ原告ノ主張スル如キ事實ナリト確認スルヲ得ヌ故ニ合志俊平ハ選舉掛長ノ名簿照合ノ事務ヲ補助シタルモノト認メサルヲ得ヌ又町村制第二十一條ノ規定ハ選舉事務整理ノ爲メ必要ト認メ入場セシムルモノニ至ルマテ之ヲ制限スル規定ニ非サルヲ以テ被告ニ於テ其必要ヲ認メテ役場吏員ヲ名簿照合者及ヒ助手トシテ選舉會場ニ入場セシメタルハ違法ナリト言フヲ得ヌ又原告ハ選舉掛助手ヲシテ選舉掛ノ面前ニ於テ選舉人ノ投票ヲ代書セシメ以テ選舉ヲ行フタルハ町村制第二十二條ニ違背シタル無効ノ選舉ナリト云フト雖選舉掛助手ニ於テ毫モ選舉ノ自由ヲ妨クルノ行爲アリタルモノト認ムル能ハサルヲ以テ選舉人ノ指名ニ從ヒ代書ヲ爲シタル如キハ町村制第二十二條ノ規定ニ違反シタルモノト謂フヘカラス又原告ハ時計ノ指針ヲ引戻シテ選舉時間ヲ延長シタリト云ヒ選舉錄ハ選舉會ノ當日調製シタルモノニ非ス又之カ朗讀ヲ爲サ、リシト云フト雖モ是レ皆原告無證ノ陳述ニ止マルヲ以テ其實アリタルモノト認ムルヲ得ヌ其他選舉取消ノ訴願書ノ解釋ニ關シ原告被告ノ申立各異ナルトコロアルモ本案判決上必要ナキヲ以テ別ニ其説明ヲ與ヘス

投票時間

○縣會議員違法選舉取消ノ件 (五十四)

問 縣會議員選舉會の開閉時間を告示し未だ閉會時刻前にして一名の不参者あるにも拘はらず選舉會成立し投票終了せしを以て閉會せり有効の選舉あるや。

投票時間